





浦、唐津町電一六
近藤順一郎
父 千八郎
妻 菊野

近藤正一
妻 かつ
女 美江子

近藤正二
妻 美江子
女 美江子

近藤正三
妻 かつ
女 美江子

近藤正四
妻 かつ
女 美江子

近藤正五
妻 かつ
女 美江子

近藤正六
妻 かつ
女 美江子

近藤正七
妻 かつ
女 美江子

近藤正八
妻 かつ
女 美江子

近藤正九
妻 かつ
女 美江子

近藤正十
妻 かつ
女 美江子

近藤正十一
妻 かつ
女 美江子

近藤正十二
妻 かつ
女 美江子

近藤正十三
妻 かつ
女 美江子

近藤正十四
妻 かつ
女 美江子

近藤正十五
妻 かつ
女 美江子

近藤正平
妻 かつ
女 美江子

近藤正七
妻 かつ
女 美江子

近藤正八
妻 かつ
女 美江子

近藤正九
妻 かつ
女 美江子

近藤正十
妻 かつ
女 美江子

近藤正十一
妻 かつ
女 美江子

近藤正十二
妻 かつ
女 美江子

近藤正十三
妻 かつ
女 美江子

近藤正十四
妻 かつ
女 美江子

近藤正十五
妻 かつ
女 美江子

近藤正十六
妻 かつ
女 美江子

近藤正十七
妻 かつ
女 美江子

近藤正十八
妻 かつ
女 美江子

近藤正十九
妻 かつ
女 美江子

近藤正二十
妻 かつ
女 美江子

近藤正二十一
妻 かつ
女 美江子

近藤昇一
妻 かつ
女 美江子

近藤昇二
妻 かつ
女 美江子

近藤昇三
妻 かつ
女 美江子

近藤昇四
妻 かつ
女 美江子

近藤昇五
妻 かつ
女 美江子

近藤昇六
妻 かつ
女 美江子

近藤昇七
妻 かつ
女 美江子

近藤昇八
妻 かつ
女 美江子

近藤昇九
妻 かつ
女 美江子

近藤昇十
妻 かつ
女 美江子

近藤昇十一
妻 かつ
女 美江子

近藤昇十二
妻 かつ
女 美江子

近藤昇十三
妻 かつ
女 美江子

近藤昇十四
妻 かつ
女 美江子

近藤昇十五
妻 かつ
女 美江子

近藤昇十六
妻 かつ
女 美江子

近藤新助
妻 かつ
女 美江子

近藤新三
妻 かつ
女 美江子

近藤新四
妻 かつ
女 美江子

近藤新五
妻 かつ
女 美江子

近藤新六
妻 かつ
女 美江子

近藤新七
妻 かつ
女 美江子

近藤新八
妻 かつ
女 美江子

近藤新九
妻 かつ
女 美江子

近藤新十
妻 かつ
女 美江子

近藤新十一
妻 かつ
女 美江子

近藤新十二
妻 かつ
女 美江子

近藤新十三
妻 かつ
女 美江子

近藤新十四
妻 かつ
女 美江子

近藤新十五
妻 かつ
女 美江子

近藤新十六
妻 かつ
女 美江子

近藤新十七
妻 かつ
女 美江子

近藤清治
妻 かつ
女 美江子

近藤清二
妻 かつ
女 美江子

近藤清三
妻 かつ
女 美江子

近藤清四
妻 かつ
女 美江子

近藤清五
妻 かつ
女 美江子

近藤清六
妻 かつ
女 美江子

近藤清七
妻 かつ
女 美江子

近藤清八
妻 かつ
女 美江子

近藤清九
妻 かつ
女 美江子

近藤清十
妻 かつ
女 美江子

近藤清十一
妻 かつ
女 美江子

近藤清十二
妻 かつ
女 美江子

近藤清十三
妻 かつ
女 美江子

近藤清十四
妻 かつ
女 美江子

近藤清十五
妻 かつ
女 美江子

近藤清十六
妻 かつ
女 美江子

近藤清一
妻 かつ
女 美江子

近藤清二
妻 かつ
女 美江子

近藤清三
妻 かつ
女 美江子

近藤清四
妻 かつ
女 美江子

近藤清五
妻 かつ
女 美江子

近藤清六
妻 かつ
女 美江子

近藤清七
妻 かつ
女 美江子

近藤清八
妻 かつ
女 美江子

近藤清九
妻 かつ
女 美江子

近藤清十
妻 かつ
女 美江子

近藤清十一
妻 かつ
女 美江子

近藤清十二
妻 かつ
女 美江子

近藤清十三
妻 かつ
女 美江子

近藤清十四
妻 かつ
女 美江子

近藤清十五
妻 かつ
女 美江子

近藤清十六
妻 かつ
女 美江子







近藤友右衛門

愛知縣多額納税者、信友、製絲業

妻 明六、六生、愛知、野口七兵衛妹
男 明三、二生、信友商店庶務取締役
男 明四、八生、二男洋二妻、東京
男 明三、三生、聖心女子學院出身
男 明三、三生、三男米三妻、千

近藤直一

日本製鋼所取締役

妻 サト 明二五、七生、福島、吉田信徳三女
妻 明三、九生、長女エイト、福島
妻 明三、九生、長女エイト、福島
妻 明三、九生、長女エイト、福島

近藤兵三郎

正四位勳三等功五級、豫備陸軍中

妻 シカ 明二五、五生、鹿兒島、前田正五
妻 明二五、五生、鹿兒島、前田正五
妻 明二五、五生、鹿兒島、前田正五

近藤直一

正四位勳三等功五級、豫備陸軍中

妻 シカ 明二五、五生、鹿兒島、前田正五
妻 明二五、五生、鹿兒島、前田正五
妻 明二五、五生、鹿兒島、前田正五

近藤博夫

正六位、大阪市理事、港灣部長

妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助

近藤寛

大坂商船船務課海務監督

妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助

近藤復

大坂商船船務課海務監督

妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助

近藤雅樹

大坂商船船務課海務監督

妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助

近藤文太郎

近藤土木會社代表社員、土木建築請

妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助

近藤平三郎

正四位勳二等、陸軍少佐、醫學

妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助

近藤利兵衛

東京府多額納税者、近藤利兵衛商

妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助

近藤由太郎

京都府多額納税者、京都米穀商

妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助

近藤棟一

正八位、陸軍砲兵少尉、近藤病院

妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助

近藤宗治郎

京都府多額納税者、近藤與商店

妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助

近藤利兵衛

東京府多額納税者、近藤利兵衛商

妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助
妻 明二五、一、生、鹿兒島、有馬牛助











月を以て生れ大正三年兄敏二郎の後を承け家督を相續す...

佐伯音次郎

加西合同銀行取組、佐伯酒造取組、兵庫縣在籍...

佐伯國彦

山口銀行監査役、安政四、八生、東京、天野勝能四...

佐伯叔作

日清生命保險監督任監査役、名古屋信託監査役...

佐伯茂雄

佐伯製粉工業代表取締役、大阪府在籍、明三、八生、大阪、和田宗親長...

佐伯四郎次

高砂商會事務取締役、熱帯殖産取組、大阪府在籍...

佐伯美津留

從四位勳四等、日本無線電信技師、山形縣在籍...

佐伯常慶

正五位、東京女子高等師範學校教授、島根縣在籍...

佐伯與之吉

大府多額納税者、佐伯組代表取締役、土木建築請負業...

九生、同四女、同純吉(同一四、二生、同四男)及妹花子...

佐伯庄治

永守銀行取締役、越中鐵道監査役、富山縣在籍...

佐伯信太郎

臺北製糖取締役、富山縣在籍、明三、一、富山、荒井善胤妹...

佐伯新太郎

神奈川縣在籍、明一、一、一、愛知、松永元右衛門二女...

佐伯峯治郎

愛媛縣多額納税者、農業、愛媛縣在籍、明三、四、二生、岡山、高戸榮三郎...

佐伯有吉

佐賀縣多額納税者、相和商事取締役、佐賀縣在籍...

佐伯與之吉

大府多額納税者、佐伯組代表取締役、土木建築請負業...

佐伯與之吉

大府多額納税者、佐伯組代表取締役、土木建築請負業...

佐伯與之吉

大府多額納税者、佐伯組代表取締役、土木建築請負業...

サ之部 佐(伯)

サ之部 佐(伯)

サ



を以て生れ大正十年兄萬吉方より分れて一家を創立す...

佐伯芳馬 三井鐵山、太平洋炭礦各務監査役...

佐伯義男 京都府土族、醫師...

佐伯理一郎 京都府土族、醫師...

佐伯利吉 正五位勳六等、北海道帝國大學附...

佐伯理一郎 佐伯病院、京都府立各務監査、京...

佐賀清太郎 大漢電燈社長、大漢水電、第五...

佐上信一 從四位勳三等、京都府知事...

佐川恒七 日露實業取締役、貿易商...

佐川秀造 但馬合同銀行常務取締役、但馬貯...

佐川榮次郎 正六位、三井鐵山鐵務一部長...

佐川恒太郎 兵庫縣多額納稅者、但馬合同銀行...

佐久間兼信 醫學博士、東京助産女學校長、東...

佐川榮次郎 正六位、三井鐵山鐵務一部長...

佐川恒太郎 兵庫縣多額納稅者、但馬合同銀行...

佐久間兼信 醫學博士、東京助産女學校長、東...











サ之部 佐(佐)

二九四〇(宮城、遠田、田尻町電四六)

參照宮川敬三の項

佐々木家壽治

正八位、志田村長、宮城縣會議長、日東度量衡監査役、浦石村農會副會長、志田郡農會會長、宮城縣農會副會長、宮城、佐々木吉四郎二女

佐々木嘉吉

大日本特許肥料採取總役、關西西部長、東京府土族、現戸主、慶應三、一、二、三、小山田嘉平長女、芳枝、明三、七、七、東京、伊澤順吉妹、光、大、一、五、八、八

佐々木嘉太郎

青森縣多額納稅者、弘前電燈總取、青森銀行、青森貯蓄銀行、等五十九、津輕倉庫、津輕鐵道各總取、青森、元治元、六、生、祖父嘉太郎長女、明三、三、三、生、靜岡、田中文藏叔、明三、五、二、生、長男彰造妻、青森、渡邊佐助長女、明三、七、六、生

サ之部 佐(佐)

參照佐々木吉の項

佐々木金久

從五位勳五等、高知縣女子師範學校長、縣立高知第二高等女子學校校長、高知縣在籍、嘉永五、二、生、安政五、一、生、高知、板原龜彌太、明三、九、四、生、高知、山下榮治長女、高知縣立高知女出身、明三、五、一、二、生、法學士、兵庫縣、房、義、屬、明三、五、一、二、生、高知第一高知女、中子、學、大、三、一、〇、生、高知第一高知女、高知縣人佐々木繁馬の長男にして明治七年九月を以て生れ、石川縣立金澤第二中學校高知高等師範學校卒業、東京市早稲田中學校校長、岡田縣師範學校校長、新潟縣高田市川縣師範學校校長、各師範學校長を経て現時高知縣女子師範學校校長、高知第二高等女子師範學校長、高知女子師範學校長、高知第一高知女出身、(高知市市川女子師範學校校長公含)

佐々木金久

從五位勳五等、高知縣女子師範學校長、縣立高知第二高等女子學校校長、高知縣在籍、嘉永五、二、生、安政五、一、生、高知、板原龜彌太、明三、九、四、生、高知、山下榮治長女、高知縣立高知女出身、明三、五、一、二、生、法學士、兵庫縣、房、義、屬、明三、五、一、二、生、高知第一高知女、中子、學、大、三、一、〇、生、高知第一高知女、高知縣人佐々木繁馬の長男にして明治七年九月を以て生れ、石川縣立金澤第二中學校高知高等師範學校卒業、東京市早稲田中學校校長、岡田縣師範學校校長、新潟縣高田市川縣師範學校校長、各師範學校長を経て現時高知縣女子師範學校校長、高知第二高等女子師範學校長、高知女子師範學校長、高知第一高知女出身、(高知市市川女子師範學校校長公含)

佐々木紀綱

臺灣鳳梨製糖總社長、臺灣製糖、臺灣瓦各代表取締役、臺灣製糖、臺灣合同電氣各代表取締役、日本拓殖監査役、和歌山縣士族、喜美子、明三、七、八、生、長男正綱妻、和歌山、坂部確長女、明三、七、七、生

佐々木喜助

信濃銀行總取、長野縣在籍、明二、一、〇、生、長野、田中萬作、喜久治、明四、三、五、生、喜美、大、二、六、生

佐々木喜代治

秋田縣多額納稅者、植田銀行總取、秋田縣在籍、明三、〇、一、生、秋田、谷藤東治叔、明三、〇、一、生、秋田、谷藤東治叔、明三、〇、一、生、秋田、谷藤東治叔、明三、〇、一、生、秋田、谷藤東治叔

佐々木久彌

京都府多額納稅者、長谷川石油興業監査役、八新、料理業、京都府在籍、明六、九、生、京都、佐々木新六姉、明二、五、六、生、養母エイ長女、明二、二、二、生

佐々木清麿

東洋生命保險總取、朝鮮興業監査役、三重縣在籍、明九、三、生、男爵中村貫之養姉、男爵原田熊雄再從姉、明三、〇、四、生、正七位、法學士、東京帝國大學助教授、明三、四、四、生、二男道雄妻、東京、明三、三、七、生、經濟學士、第一銀行員

佐々木邦

慶應義塾大學教授、小説家、靜岡縣在籍、安政四、九、生、靜岡、千里久覺平、萬延元、二、生、靜岡、村山茂八二、明一、八、一、一、生、山形、服部正孫、明四、二、四、生、小、雪、明一、八、一、一、生、山形、服部正孫、明四、二、四、生、明一、八、一、一、生、山形、服部正孫、明四、二、四、生

佐々木國藏

上海日本商工會議所議員、内外綿採取總役、兵庫縣在籍、明四、〇、二、生、三男三郎妻、兵庫、近藤賢二、四、生、聖心女子學院出身、明三、六、六、生

佐々木計次郎

日本企業總取、よろづや、地主、大阪府在籍、明一、〇、一、〇、生、先々代義亮二女、明三、〇、二、生、同大瀧濟部出身、明三、〇、二、生、同大瀧濟部出身、明三、〇、二、生、同大瀧濟部出身、明三、〇、二、生、同大瀧濟部出身

佐々木謙一郎

從四位勳三等、專賣局販賣部長、東京府在籍、從四位勳三等、專賣局販賣部長、東京府在籍、從四位勳三等、專賣局販賣部長、東京府在籍、從四位勳三等、專賣局販賣部長、東京府在籍

サ之部 佐(佐)

サ之部 佐(佐)



君は東京府人佐々木勇之助の長男にして同修二郎同和... 三郎の兄同興一の従弟なり明治十五年二月を以て生...

君は高知縣人須藤直吉の四男にして明治二十六年五月... 以て生れ十四歳の春大坂に上り清水榮次郎商店に入...

佐々木玄吉

函館商工會議所議員、佐々木汽船... 佐々木倉庫各監査役、共同回漕... 代表社員、北海道在籍...

佐々木源六

徳島縣多額納税者、製材業... 徳島縣在籍... 安政三、一、一生、徳島、伊勢覺郎...

佐々木駒之助

山口銀行常務取締役、關西信託... 監査役、山口襄理事... 秋田縣在籍...

佐々木惟朝

大阪府門前院長、醫師... 大阪府在籍... 明三、一、一生、島根、江角公朝...

佐々木修二

第一銀行庶務課部長兼人事課長... 東京府在籍... 明二、七、一、一生、東京、小泉信三...

佐々木修三

從五位勲六等、靜岡高等學校生徒... 主事兼教授、靜岡縣在籍... 明三、一、一生、岡山、松岡重義...

佐々木重藏

從五位勲四等、海軍主計大佐、海... 軍省經理局第一課長兼海軍經理學... 校教官、宮城縣在籍...

佐々木重兵衛

東北實業貯金銀行取締役、佐々... 重、味醴醸造業、宮城縣在籍... 明三、四、一、一生、宮城、菱沼清吉...

佐々木孝一郎

從七位、西目村長、秋田縣會議員... 秋田縣在籍... 明三、〇、二、一生、秋田、鈴木利一郎...

佐々木志賀二

正六位勲四等、貴族院議員、岡山... 縣多額納税者、白菊酒造取締役... 岡山縣在籍...

佐々木成材

從五位勲六等、東京高等商船學校... 教授、東京府在籍... 明四、四、一、一生、東京、大六、六生...

製材業を営み縣下の多額納税者にして直接納税二千七... 百七十五圓を納む家族は尙孫哲也(大、一、一、一生、...

君は大阪府人佐々木爲助の三男にして明治十八年六月... 以て生れ大正三年分れて一家を創立す明治三十八年...

佐々木孝

三菱造船所造船所参事、造船... 部長、東京府在籍... 慶應元、七生、東京、土、石井誠...

佐々木孝一郎

從七位、西目村長、秋田縣會議員... 秋田縣在籍... 明三、〇、二、一生、秋田、鈴木利一郎...

佐々木志賀二

正六位勲四等、貴族院議員、岡山... 縣多額納税者、白菊酒造取締役... 岡山縣在籍...

佐々木成材

從五位勲六等、東京高等商船學校... 教授、東京府在籍... 明四、四、一、一生、東京、大六、六生...

佐々木修二

第一銀行庶務課部長兼人事課長... 東京府在籍... 明二、七、一、一生、東京、小泉信三...

佐々木修三

從五位勲六等、靜岡高等學校生徒... 主事兼教授、靜岡縣在籍... 明三、一、一生、岡山、松岡重義...

佐々木重藏

從五位勲四等、海軍主計大佐、海... 軍省經理局第一課長兼海軍經理學... 校教官、宮城縣在籍...

佐々木重兵衛

東北實業貯金銀行取締役、佐々... 重、味醴醸造業、宮城縣在籍... 明三、四、一、一生、宮城、菱沼清吉...

佐々木孝一郎

從七位、西目村長、秋田縣會議員... 秋田縣在籍... 明三、〇、二、一生、秋田、鈴木利一郎...

佐々木志賀二

正六位勲四等、貴族院議員、岡山... 縣多額納税者、白菊酒造取締役... 岡山縣在籍...

佐々木成材

從五位勲六等、東京高等商船學校... 教授、東京府在籍... 明四、四、一、一生、東京、大六、六生...

サ之部 佐(佐)

(※印は姻族關係)

サ一三



サ之部 佐(佐)

同十四年英米佛に航し昭和二年歸朝す現時前記の職に在り家族は尙二男研二(六一)、八生(長女信子)(同一三、九生)あり(静岡市東草深町三ノ二三)
參照 佐々木邦の項

佐々木正藏

正五位勳三等、明十銀行取締役
福岡縣土族
妻 ヒサノ 安政五、一、二生、養父謙吾長女
男 正太 明一〇、九生、從四位勳四等、法
學士、前朝鮮總督府勸任監察官、
明十銀行總務課長、
婦 幸能 明一、五生、長男正太妻、福岡
佐藤立木姉
男 茂枝 明一六、四生、正四位勳三等、法
學士、前製鐵所理事
婦 シナ 明二四、二生、二男茂枝妻、福岡
明三、三三、三三、長男正太三男
孫 敏雄 明四四、一、一生、長男正太五男
孫 菊丸 明四四、一、一生、長男正太五男
君は福岡縣人佐藤才吉の二男にして安政二年十月を以て生れ先代謙吾の養子となり明治十六年家督を相続す現時明十銀行取締役たり農商務省参事官山林局長となり又衆議院議員に擧げらるる家族は尙孫卯十雄(大四、一〇生、長男正太六男)同秋之助(同六、一〇生、同七男)同八郎(同一一、一一生、同八男)同秀(明四五、三三、二男茂枝長男)同康(二、二生、二生、同二男)同元子(同二、二生、同二女)曾孫正隆(明四、三三)孫敏雄長男あり三男高明(一九、四生、農學士、門司税關植物検査課長)福岡縣人河原嘉助に四男丈四郎(同二、一一生、法學士、東京控訴院檢察)は同縣人桐町正九郎養子五十吉に各養子となり長女アイ(同二五、四生)は同縣人國武喜次郎三男源作に養妹ナリ(慶應三、一一生)は同縣人佐藤立木の母ナリA一八五〇(福岡、三井、味坂村電小部九)

佐々木信次

從五位勳五等、廣島高等師範學校
生徒主事兼教授、香川縣在籍
妻 ヨシ 明二四、一、二生、香川、氣多知吉
男 英信 明四四、三三
女 佐保子 大元、八生
君は香川縣人佐々木米吉の四男にして明治十六年一月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す明治三十六年香川縣師範學校を出て同四十二年廣島高等師範學校を卒業し岡山市山下小學校訓導主任に爾來奈良女子高等師範學校訓導長、香川縣師範學校助教授兼香川縣總督府視學を経て廣島高等師範學校助教授兼香川縣總督府視學主任たり教授を兼任し今日に至る家族は尙二女園子(昭二、四生)あり(廣島市千田町八七七)

佐々木新助

岩ヶ崎町長、宮城縣多額納稅者、
栗原軌道、松島電車各社取締役、仙
臺信託、昭和土地各社取締役、金
藏業、宮城縣在籍
妻 とらよ 安政三、一〇生、祖父平兵衛長女
男 静 明三五、一、一生
女 丹治郎 明三六、四生、二男静妻、宮城、
明三四、七、三女とよ夫、宮城
男 孝 明三三、三、三女とよ夫、宮城
女 とよの 明三七、一〇生、養子丹治郎妻
女 英雄 明四〇、三三
女 や(子) 明四一、一〇生
女 みどり 明四四、一〇生
女 大五、二生
君は宮城縣人佐々木敏治の長男にして明治七年四月を

佐々木清吉

明治製糖取締役兼川崎工場長
東京府在籍
妻 松江 明二〇、九生、福岡、石田治三郎
長女
男 悟 明四五、四生
君は新潟縣人佐々木茂吉の長男にして明治十四年二月を以て生れ同十四年家督を相続す同十五年東京高等工業學校機械科を卒業し現時明治製糖社取締役兼川崎工場長たり家族は尙三男登(大三、九生)二女清江(同六、三三)あり長女治子(明四二、六生)は京都府人徳丸芳男に嫁せり(東京、麻布、築館町五四電赤坂八四)

佐々木清次

末廣商社、機械工具輸入商
大阪府在籍
女 道代 大二、九生
君は京都府人植田佐七の二男にして明治十七年一月を以て生れ先代佐助の養子となり二十年家督を相続す末廣商社と稱し機械工具輸入商を営む家族は尙二女千鶴子(六七、一〇生)ありA一三八二B四二〇(大阪、西、立賣堀北六ノ九電新町七六一)

佐々木清治

新潟縣多額納稅者、農業
新潟縣在籍
祖母 カヅ 伯慶 明二、八生、新潟、久保田一二
妻 マキ 明二八、七生、新潟、關與三兵衛
養子 三千代 大二、四生、新潟、野口清治姪
君は新潟縣人佐々木格の長男にして明治二十三年九月を以て生れ同四十年祖父故家議員松坪の後を承け家督を相続す農家を営み現に新潟縣多額納稅者にして直接國稅六千四百一圓を納め縣下の資産家として知らる妹ツナ(明二五、一一生)は分家せり(新潟、中浦原、龜田町)

佐々木静吾

正六位勳四等、總領事、アレキサ
ンドロフスタ在籍、東京府在籍
妻 しつ 明二七、七生、静岡、松下喜平三
男 静一 大一、七生
君は大阪府人佐々木傳九郎の五男にして明治十年六月を以て生れ同二十九年兄喜三次方より分れて一家を創立す同三十二年外務省となり外務書記官を経て大正五年副領事に任じ爾來領事公使館二等書記官大使館二等

佐々木高之助

大島弘義派大島義倫の項
參照 大島弘義派大島義倫の項
君は鳥取縣人佐々木惣三郎の長男にして明治十一年三月を以て生れ同十四年家督を相続す同三十六年京都帝國大學法科大學法律學科を卒業し同三十九年京都帝國大學法科大學助教授に任ぜられ同四十二年行政法研究の爲め獨逸英各國に留學し大正二年京都帝國大學法科大學教授となり同年法學博士の學位を授けらるる同十年以來同大學法學部長に擧げらるること二回同十二年官命に依り歐米に派遣せられ同十三年歸朝す現時京都帝國大學教授にして法學部勤務たり家族は尙二女淑子(六一、一一生)あり(京都、左京、下鴨泉川町一電上二五〇七)

サ之部 佐(佐)

(※印は姻族關係)

サ一四

以て生れ同二十九年祖父平兵衛の後を承け家督を相続す金融業を営み傍ら栗原軌道會社々長の外前記各會社の重役にして縣下の多額納稅者にして直接國稅八千五百圓を納め現に岩ヶ崎町長たり巖に宮城縣會議員同參事會員に擧げらるる家族は尙五男武夫(大二、五生)六男孝之(同七、一一生)六女壽子(同二、一〇生)七男章(昭二、八生)孫和子(同三、一一生)二男静長女(昭三、一〇生、同二女)あり長女さく(昭二、一〇生)は宮城縣人伊藤祐一に二女ナリ(同三三、一〇生)は同縣人菅原正に嫁し妹はな(同二、一〇生)は其子女を伴ひ叔父皆造(文久二女)も亦其子女を伴ひ各分家し妹いよ(明二七、一〇生)は宮城縣人瀨沼幸作男彌治郎の養子となり(宮城、栗原、岩ヶ崎町)

佐々木成二

正八位、後備陸軍歩兵少尉、廣島
縣多額納稅者、吳市農會長
廣島縣在籍
妻 フク 明五、四生、廣島、小田甲子郎妹
女 廣子 明三〇、六生、愛媛、矢野通保妹
當家は舊くより呉に住し農を業とせしも曾祖父仙左衛門に至り克く貨殖し且つ公共に盡し佐々木家今日の基礎を爲せり祖父高榮又村政に盡し市制布かるるや推され市會議長となり又代議士に選ばるる事三回後市民其の徳を欣慕し碑を立てて之を頌す父仙一實業に専心し佐々木同族よりなる吳商銀行頭取となり選ばれて衆議院議員となり君は其二男にして明治二十八年八月を以て生れ大正十年家督を相続す現に廣島縣多額納稅者にして農會會長にして廣島縣區區長に當り分團長として盡す處多し義に吳商銀行頭取たり姉タカ(明二、一五生)は熊本縣人荒尾文雄に同(同二三、三三)は大分縣人武藤一彦に同(同二四、一一生)は長野縣人小川脩平弟子郎に妹キキ(同三三、一一生)は廣島縣人佐々木整に同(同三七、八生)は兵庫縣人井上文介に嫁し叔父仙造(同二八、四生)は愛媛縣人村上吉子の夫となれりA六八〇〇(吳、本通八ノ三)

佐々木隆興

醫學博士、杏雲堂醫院長、醫師
東京府土族
妻 政吉 安政三、一、一生、現戸主
男 洋興 明一七、五生、故貴族院議員法學
博士渡邊康吉二女
女 京子 明四四、一〇生
女 落子 大五、一、一生
女 美都子 大五、一、一生
君は東京府人佐々木東漢の二男にして明治十一年五月を以て生れ同二十七年現戸主政吉の養子となる同三十五年東京帝國大學醫學科大學を卒業し獨逸に留學同四十五年醫學博士の學位を授けらるるに京都帝國大學醫學科大學教授たりし後之を辭して養父東漢の經營に係る杏雲堂醫院長として一般の診療に従事す(東京、神田、駿河臺北甲賀町一電神田四四二)

佐々木惣一

正四位勳二等、法學博士、京都帝
國大學教授、法學部勤務
鳥取縣在籍
妻 操 明二、一、四生、京都、大島弘義妹
君は鳥取縣人佐々木惣三郎の長男にして明治十一年三月を以て生れ同十四年家督を相続す同三十六年京都帝國大學法科大學法律學科を卒業し同三十九年京都帝國大學法科大學助教授に任ぜられ同四十二年行政法研究の爲め獨逸英各國に留學し大正二年京都帝國大學法科大學教授となり同年法學博士の學位を授けらるる同十年以來同大學法學部長に擧げらるること二回同十二年官命に依り歐米に派遣せられ同十三年歸朝す現時京都帝國大學教授にして法學部勤務たり家族は尙二女淑子(六一、一一生)あり(京都、左京、下鴨泉川町一電上二五〇七)

佐々木惣三

神戶商會常務議員、日華工業
原料專務取締役、海產物貿易商
兵庫縣在籍
妻 けい 明五、七生、三重、今津光馬妹
男 幸一 明四〇、九生
女 正 明二七、七生、長女ひで夫、和歌
山、荻野慶龍弟
女 節子 明三五、一〇生、養子正妻
女 幸治 明四二、八生

佐々木仙助

岩手縣在籍
妻 ミツ 明一四、八生、養父卯太郎三女
女 仙吉 明三〇、一、一生
男 四郎 明四三、一、一生
女 ハナ 明四一、一〇生
女 ユキ 明四三、一、一生
女 キキ 明四五、二生
女 ヤス 大四、四生
君は岩手縣人阿部重吉の三男にして佐々木卯太郎の養叔父なり慶應二年九月を以て生れ佐々木家の養子となり後分れて一家を創立す文明堂と稱し書籍商を営み傍ら第九十銀行取締役たり家族は尙六男正八(大八、一〇生)あり長女カツ(明二二、二生)は岩手縣人佐藤喜平の養子となり三女キキ(同三四、九生)は同縣人池野藤兵衛二男次郎に嫁せり(盛岡、東中野宇吳服町二〇電六二)

佐々木惣一

正四位勳二等、法學博士、京都帝
國大學教授、法學部勤務
鳥取縣在籍
妻 操 明二、一、四生、京都、大島弘義妹
君は鳥取縣人佐々木惣三郎の長男にして明治十一年三月を以て生れ同十四年家督を相続す同三十六年京都帝國大學法科大學法律學科を卒業し同三十九年京都帝國大學法科大學助教授に任ぜられ同四十二年行政法研究の爲め獨逸英各國に留學し大正二年京都帝國大學法科大學教授となり同年法學博士の學位を授けらるる同十年以來同大學法學部長に擧げらるること二回同十二年官命に依り歐米に派遣せられ同十三年歸朝す現時京都帝國大學教授にして法學部勤務たり家族は尙二女淑子(六一、一一生)あり(京都、左京、下鴨泉川町一電上二五〇七)

佐々木清次

末廣商社、機械工具輸入商
大阪府在籍
女 道代 大二、九生
君は京都府人植田佐七の二男にして明治十七年一月を以て生れ先代佐助の養子となり二十年家督を相続す末廣商社と稱し機械工具輸入商を営む家族は尙二女千鶴子(六七、一〇生)あり長女治子(明四二、六生)は京都府人徳丸芳男に嫁せり(東京、麻布、築館町五四電赤坂八四)

(※印は姻族關係)

サ一五



**幸** 三 明四四、一一生  
 君は京都府人伊藤喜兵衛の二男にして明治五年一月を以て生れ先代和郎の養子となり同二十六年家督を相続す海産物貿易商を営み傍ら前記會社の重役にして神戸商工會議所常議員たり家族は尙五男幸司(大二、一一生、六男幸吉(同七、七生)孫正一(同九、八生、養子正長男)同政子(同一、五生、同長女)同愛子(同一、一一生、同二女)同正治(同一五、六生、同二男)同泰子(同一三、八生、離縁養子保三二女)あり(神戸、榮町通五ノ五一、一電元町七四二)

**佐々木千秀** 廣島縣多額納稅者、吳銀行頭取  
 廣島縣在籍  
 長女 長女  
 妻 眞 長女 大二三、二生

君は廣島縣人佐々木仙太郎の三男にして明治十四年十月を以て生れ同二十四年分れて一家を創立す夙に實業界に入り現時吳銀行頭取にして縣下の多額納稅者たり兼に衆議院議員吳商業會議所特別議員たりことあり家族は尙長女易子(大六、九生)二女淑子(同一〇、二生)あり妹サト(明一八、六生)は廣島縣人佐々木英夫の家籍に入れり吳、清水通一ノ一三  
 參照 山坂井善兵衛の項

**佐々木忠右衛門**

從五位、朝鮮總督府警察官講習所教授、同所長  
 宮城縣在籍  
 母 三つ 明四、一一生、佐藤長作四女  
 妻 眞 明三七、五生、宮城、鈴木重兵衛  
 男 通 忠 大三四、九生

君は宮城縣人佐々木忠治郎の長男にして明治二十五年四月を以て生れ同四十一年家督を相続す大正七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試験に合格す島根縣屬となり後朝鮮總督府警察官講習所教授同府事務官に歴任し忠清南道財務部長兼海運部長全羅南道警察部長を經て昭和五年現職に轉ず家族は尙長女京子(大二三、一一生)三男正躬(昭四、八生)弟正輔(明二七、六二生)同妻(同三四、一一生)宮城三浦直治(二女)及妹なか(同三〇、三三)弟正吉(同三四、三三)同忠之助(同三六、四生)同忠七(同四〇、三三)あり

り(京城、大和町一丁目官舎五六號)  
 參照 鈴木重兵衛の項

**佐々木忠作**

岩手縣多額納稅者、膽江電力廠取  
 岩手縣在籍  
 妻 眞 明六、四生、東京、河原磯次郎妹  
 男 幸兵衛 明二九、一一生  
 婦 ヨシエ 明三四、九生、長男幸兵衛妻、岩手縣人先代忠作の二男にして明治三十年十月を以て生れ同三十四年家督を相続し前名徳治郎を改め襲名す砂糖商を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接國稅千四百二十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙五男隆平(大二三、八生)孫久代(昭二、一〇生、長男幸兵衛二女)同庄太郎(同四、四生、同長男)同貞次郎(同五、八生、同二男)あり二女サト(明二五、一一生)は同夫全治(同二二、一一生、岩手、近藤直三郎弟)及び其一子を伴ひ二男六兵衛(同三一、一〇生)同妻ツネ(同三八、一一生、岩手、多田隆之助二男)は其一子を伴ひ三男兵衛(同三三、一〇生)同妻サト(同四一、二生)岩手、安藤善之助三女、一〇生)を伴ひ弟喜兵衛(同一四、一一生)同妻リツ(同一六、八生、岩手、後藤良右衛門二女)は共に各分家し三女愛(同三五、一一生)は岩手縣人佐伯成一に四女トキ(同四一、五生)は同縣人安藤善之助二男善次郎に嫁し妹ヨネ(同一七、二生)は同縣人佐々木ミヨの養子となれり(岩手、江刺、岩谷堂町)

**佐々木忠次郎**

正三位勳二等、理學博士、帝國學  
 士院會員、東京帝國大學名譽教授  
 東京農學大學長、東京市市長  
 妻 眞 明三三、九生、男爵堤正之伯母  
 男 六郎 明三三、九生、正七位、工學士、東京帝國大學助教  
 女 八重子 明三三、九生、六男六郎妻、大阪府人  
 婦 道子 明四〇、二生

君は舊福井藩士佐々木長淳の長男にして安政四年八月を以て生れ明治二十七年家督を相続す同十四年東京帝國大學理學部を卒業し同二十三年及四十二年學術院研究の爲歐米各國に出張す其間駒場農學校教授第一高等學校教授兼東京農林學校教授帝國大學農科大學助教同教授等に歴任し同二十四年理學博士の學位を授け

**佐々木忠兵衛**

地家主  
 大阪府在籍  
 妻 眞 明一三、三三、養父忠兵衛二女  
 男 第一郎 明三八、二生、經濟學士  
 女 節子 明四一、三三、樺高女出身  
 男 三郎 明四二、一一生、七高在學  
 女 隆子 明四二、一一生、樺高女出身  
 君は奈良縣人中尾徳治郎の三男にして明治十年五月を以て生れ同三十六年先代きよの夫となり家督を相続し前名晴也を改め家主として知らる家族は尙四男晴彦(大二三、八生)三女悦子(同七、一一生)あり養子ちよ(明一八、七生)は工學博士天沼俊一に同トキエ(同二一、三三)は大坂府人八木新右衛門弟前島根縣知事林作に嫁せりA二三六七(大阪、東成、片江町七二四電天王寺一〇八四)  
 參照 天沼俊一の項

**佐々木長治**

愛媛縣多額納稅者、第二十九銀行  
 頭取、伊豫相互貯蓄銀行、土佐  
 銀行、南林業、東洋乾板、八幡  
 濱織布各廠取締役、愛媛縣在籍  
 妻 眞 明二、一一生、愛媛、宇都宮彌三  
 男 三郎 明三四、六生、愛媛、渡部七郎姉  
 女 大子 明三〇、三三

**佐々木徳太郎**

岩手縣多額納稅者、盛岡市參事會  
 員、盛岡商工會議所常議員、岩手  
 無盡、盛岡青物市場、盛岡コンク  
 土地建物移取役、盛岡合同運送  
 花巻温泉各廠監査役、果物商  
 妻 眞 明二、一一生、岩手、佐々木林之助  
 男 市郎 明二二、一一生  
 女 三女 明二二、一一生

二十七年二月を以て生れ大正三年家督を相続し前名徳を改め襲名す同五年東京高等商業學校を卒業し實業界に入り現時第二十九銀行頭取たる外前記銀行會社の重役を兼ね直接國稅四千二十四圓を納め縣下の多額納稅者たり同十三年衆議院議員に當選し昭和三年再選せらる又先代の遺業たる財團法人佐々木愛媛會及私立實踐農學校を經營し有英事業に盡す家族は尙長女チエ(大一一、九生)二男徹(同一五、三三)二女登美(昭四、五生)弟貞正(明三三、三三)早大政經科出身)同妻松子(同四〇、七生、愛媛、石丸濱治郎三女)及其一子弟五九雄(同四一、一一生)あり同隆孝(同二九、九生、大阪高工出身)は愛媛縣人佐々木勝太郎の養子となり姉チマツ(同二四、一一生)は同縣人山泉作太郎養子利重に妹光子(同四〇、一一生、大分高女出身)は同縣人白石裕一郎に嫁せり(愛媛、西字和、伊方村電三)  
 參照 山泉作太郎の項

**佐々木恒清**

從五位勳六等、大阪高等學校教授  
 奈良縣在籍  
 妻 眞 明二二、二生、熊本、土、森田邦  
 男 望 大五、二生  
 女 澤 大五、九生

君は奈良縣人佐々木恒光の三男にして同清雄同恒隆の弟なり明治十五年十一月を以て生れ佐々木東里の養子となり同二十二年家督を相続す同三十九年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し大阪府立北野中學校滋賀縣立膳所中學校各教諭に歴任し大正十三年大阪高等學校教授に任ぜられ現在に至る著書に南都と西京奈良の美術日本の彫刻等あり家族は尙二女瑞(大七、一〇生)二男淳(同一、二生)三女章子(同一三、一一生)あり(奈良市北袋町一)  
 參照 滋潤清雄、滋潤恒隆の項

**佐々木恒太郎**

相生瓦斯廠取締役社長、關東瓦斯  
 常務取締役、東亞印刷、埼玉瓦  
 斯各廠取締役、香川縣在籍  
 妻 眞 明一三、五生、香川、瀧尾嘉五郎  
 男 勳 明三八、九生、兵庫、淺見忠次四  
 女 桂子 大三、六生

**佐々木哲造**

五所川原町長、津輕商事、五榮各  
 種取締役、青森縣在籍  
 妻 眞 明二三、一一生、青森、加島長兵  
 男 衛二 明二三、一一生

**佐々木時造**

大泊商工會議所常議員、九茶佐々  
 木商店代表社員、樺太在籍  
 妻 眞 明二〇、九生、京都、北辰五郎  
 男 榮一郎 明四四、三三  
 君は京都府人佐々木和助の三男にして明治十二年三月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立す現時丸茶佐々木商店代表社員にして推されて大泊商工會議所常議員たり家族は尙二男正五(大五、六生)あり(樺太、大泊、大泊町)



八生、分家養子藤作(二男)は同縣人菅場吉藏に養子や(同七、五生、宮城、原惣助妹)は同縣人淺野太一郎に各養子となり三女は(同二八、七生)は愛知縣人今澤謙作に四女(同三〇、九生)は宮城縣人庄市市次に孫傳(同二六、二生、離縁養子徳藏長女)は同縣人鈴木長三郎に同みたり(同二七、一〇生、分家養子藤作長女)は同縣人西村五郎に同みたり(同三五、一〇生、同二女)は同縣人佐藤善吉に同し(同三七、五生、同三女)は同縣人佐藤儀四郎に同し(仙臺、原町若竹一〇三)

佐々木敏綱

古河鐵業株式會社取締役兼尾鐵業所長古河理事、東京府士族安政五、二生、東京、間宮宇山長母 昭 大三、一〇生

君は東京府士族佐々木直綱の長男にして明治十四年十二月に以て生れ大正二年家督を相續す明治三十八年東京帝國大學法科大學法科を卒業し現時古河合名會社理事にして古河鐵業株式會社取締役兼尾鐵業所長なり(東京市外品川町南品川宿淺間臺二七〇電話二二〇七)

佐々木富五郎

從五位勳五等、大阪工業大學附屬工學專門部教授、大阪府在籍明二九、二〇生、大阪、板倉千次郎養子、米國ヒロノイスクール出身 醜 二 六一〇、一〇生

君は京都府人佐々木謙之助の四男にして明治十六年一月を以て生れ同十四年分れて一家を創立す同三十八年大阪高等工業學校を卒業し同四十年同校助教となり大正六年米國に留學しスタンホルド大學及アモア工科大学に學ぶ同八年大阪高等工業學校教授に任じ昭和四年大阪工業大學附屬工學專門部教授となり今日に至る家族は尙三男春彦(大二三、三三)四男温(同四八)五女壽美代(昭二、二二)あり(大阪、西成、玉出新町通二ノ三八)

佐々木虎太郎

廣島縣農工銀行取締役頭取廣島縣士族

君は東京府人佐々木與四郎の長男にして明治三十四年十一月を以て生れ大正十四年家督を相續す同十三年早稻田大學專門部法科を卒業す家督を相續す(同九、二)明四五、二生、同同弘正(大六、三)生、妹知恵子(同九、一〇)生、あり姉長(明三二、一〇)生、は廣島縣人池田良作に妹(同四〇、四生)は東京府人具塚捨次郎二男敏二郎に嫁せり(東京市外品川町豊澤三〇) 參照 具塚捨次郎の項

佐々木信香

從五位、第七高等學校造士館教授福岡縣士族 父 巳喜次 安政二、一〇生、現戸主 母 萬延元、三三、福岡、土、原富重 妻 早苗 明二八、六生、福岡、陳誠一長女 女 英 兒 大九、九生

君は福岡縣士族佐々木巳喜次の長男にして明治十六年十二月を以て生れ同十四年東京帝國大學文科大學國文學科を卒業し翌四十五年長崎縣立五島中學校教諭となり鹿兒島縣私立福山中學校教諭を経て大正九年第七高等學校造士館教授に任じ今日に至る家族は尙二男秀夫(大一二、九生)三男立男(昭二、二)あり妹ソノ(明二三、二生)は東京府人伴幸次の未亡人にして同九子(同三三、六生)は三重縣人加藤謙に嫁し叔父禮三(同二、二二)生、は其子女を伴ひ分家せり(鹿兒島市藥師町四三六)

佐々木信綱

文學博士、東京帝國大學文學部講師、歌人、東京府在籍 妻 雪 明七、一〇生、熊本、土、藤島正健 女 文 綱 明三三、八生、經濟學士、三菱銀行員 女 治 綱 明四〇、八生、二男文綱妻、理學博士丘淺次郎長女

佐々木延次

乳産家東京府在籍 妻 直江 明三〇、一〇生、大阪、島津佐助 女 一 夫 大六、五生

君は大阪府人先代仁兵衛の長男にして明治二十五年一月を以て生れ大正二年家督を相續し養名味津醸造業を營む家族は尙二男仙二(大八、五生)三男光三(同九一)生、四男成(同二二、五生)長女昭子(昭二、八生)あり姉チエ(明二三、四生)は大阪府人田中藤九郎に妹ソノ(同三三、一〇)生、は同府人河野庄太郎に嫁し弟隆三(同二九、一〇)生、同妻孝(同三三、一〇)生、兵庫、谷垣松太郎(二女)は共に分家せり(大阪、西淀川、傳法町二ノ二八電士佐堀二四九七) 參照 田中藤九郎の項

男 一三、四生、廣島、土、福岡公樹妹 妻 英 一 府交通局通信部電氣課長 男 順 子 明三八、二生、長男英一妻、故宮中顧問官醫學博士新山莊輔五女 女 健 三 明三六、九生、廣島瓦斯電軌會社員

佐々木仁兵衛

味津醸造業大阪府在籍 妻 直江 明三〇、一〇生、大阪、島津佐助 女 一 夫 大六、五生

君は廣島縣士族佐々木爲三郎の長男にして慶應二年九月を以て生れ明治三十八年家督を相續す同十九年東京高等商業學校を卒業し現に廣島縣農工銀行取締役頭取たり家族は尙孫英子(昭四、三三)長男英一(長女)あり弟嘉久二郎(明七、三三)同富四郎(同一九、三三)は各分家し長女貞子(同四〇、一〇)生、縣立廣島高女出身)は廣島縣人三井銀行員法學士長谷川薫に妹ナチ(同三三、一〇)生、は同縣人小田熊次郎に同タネ(同九、一〇)生、は同縣人原田弘道に同シ(同四、七)生、は同縣人則武勝之進に嫁せり(廣島市上柳町三八ノ三電話三七四)

佐々木秀一

醫學博士、醫師東京府在籍 妻 秀 興 明四四、二生 女 雪 子 明四二、一〇生

君は東京府人佐々木貞次の長男にして明治十一年九月を以て生れ同十三年家督を相續す同三十七年東京帝國大學醫學科大學を卒業し大正六年醫學博士の學位を受く(大五、五)生、三男研造(同九、一〇)生、あり長女富士子(明四〇、九)生、は醫學士山内意緒に嫁せり(東京、本郷、駒込千駄木町五〇電小石川九九八) 參照 山内意緒の項

佐々木秀司

從四位勳四等、安田生命保險會社東京府在籍 妻 幹長女 明四、三三、福岡、土、全田貞

君は福岡縣人故佐々木一二の二男故佐々木鐵太郎の弟にして明治十三年十一月を以て生れ大正十三年明一樹方より分れて一家を創立す先是明治四十年東京帝國大學法科大學法科を卒業し同年文官高等試驗に合格す爾來警視廳警視四谷警察署長榎木縣事務官石川群馬新潟縣警務部長山形神奈川各縣内務部長香川縣知事等に歴任す大正十二年退官し實業界に入り現時前記各會社の重役たり養子キヨ(明四三、八)生、新潟、小林二郎(二女)は山形縣人司稅官加藤八郎に嫁せり(東京、芝、三田小山町一電高橋五〇八)

佐々木平次郎

勳四等、衆議院議員(北海道第三區選出)、榎木漁業、壽海鐵道、佐々木倉庫各社長、北海道鐵道、取水總務、北日本汽船、監査役、露領水産組合副社長、漁業北海道在籍

佐々木平之丞

宮城縣多額納稅者、酒造業宮城縣在籍 妻 さた 明八、一〇生、宮城、岩淵文右衛門長女 男 平太郎 明三七、三三、長男平太郎妻、宮城、高橋長七郎養子 女 善右衛門 明三五、三三 男 時子 明四二、八生、三男善右衛門妻、宮城、西條軍一〇生 女 小五郎 明三七、一〇生 女 さく 明四三、一〇生 女 まさこ 大三、一〇生

佐々木秀一

從四位勳四等、東京高等師範學校教授、東京府在籍 妻 明一五、一〇生、福井、八田敏夫 女 敬 明四二、三三 女 愛 大二、八生 女 福 大三、一二生

佐々木秀一

從四位勳四等、東京高等師範學校教授、東京府在籍 妻 明一五、一〇生、福井、八田敏夫 女 敬 明四二、三三 女 愛 大二、八生 女 福 大三、一二生

佐々木秀一

從四位勳四等、東京高等師範學校教授、東京府在籍 妻 明一五、一〇生、福井、八田敏夫 女 敬 明四二、三三 女 愛 大二、八生 女 福 大三、一二生

君は青森縣人佐々木準藏の長男にして明治七年三月を以て生れ同四十五年家督を相續す同三十五年東京高等師範學校文科を卒業し現時東京高等師範學校教授にして農に文部省在外研究員として海外に出張す家族は尙



サ之部 佐(佐)

となり甥百歳(同六、一一生)は同縣人天滿新兵衛の養子となり(宮城、志田、古川町)
參照 西條軍一、高橋長七郎の項

佐々木政吉

從五位勲六等、醫學博士、香雲堂醫院顧問、東京府士族
母 三子 慶應三、一一生、東京、士、須田
妻 よし 卓爾養叔母
養子 隆興 明一、五生

當家は代々醫學に従事し先代東洋は夙に醫學を修め香雲堂醫院を開設せり君は其長男にして安政三年十一月を以て生れ明治三十年家督を相続す先是同十二年東京大學醫學部を卒業し同年獨逸に留學し居る事五年にして歸朝す尋て醫學大學教授となり醫學博士の學位を受けて後大學病院院長となりしも辭して父の遺業を繼承して香雲堂醫院を經營し當代の大家として知られ現時香雲堂醫院顧問たり(東京市外入新井町新井三三五電大森二〇)
參照 佐々木隆興、須田卓爾、須田孝藏、須田源藏、妻木果造の項

佐々木政二郎

泉尾土地屋敷取締役
和歌山縣在籍
妻 トミ 長女
男 三九一 明三九、一一生
男 重三 明四一、七生
女 ウメ 大、一一生

君は大阪府人佐々木吉十郎の二男にして明治七年四月か以て生れ大正八年兄勇太郎より分れて一家を創立す明治三十一年慶應義塾を卒業し現時泉尾土地屋敷取締役たり家族は尙四男五女(大六、九生)四女同九、五生)あり長女幸(明三七、一一生)は大阪府人乾吉同九、長男亨に二女ミチ(同四三、一一生)は大阪府人糸岡又五郎長男恒吉に嫁し二男洋吉(同四〇、七生)は絶家小今井氏を再興せり(和歌山市玉造町電二三八一)
參照 糸岡又五郎、佐々木勇太郎の項

佐々木茂八

鳳來寺鐵道取締役
愛知縣在籍
男 安太郎 明一三、八生

部童に三女キヨ(同四、一一生)は東京府人今井謙弟久に嫁す(同四、一〇生)は岡山縣人武田勇二郎に嫁し弟重司(同七一、一一生)は兵庫縣人境野吉吉の養子となり(大阪、住吉、阿部野筋三ノ四三電天王寺六一〇)
參照 佐々木政二郎の項

佐々木勇之助

從五位勲三等、第一銀行、東京貯蓄銀行、東京生命保險、朝鮮興業各社取締役、東京府在籍
妻 久子 長女
男 重雄 明一五、一一生
男 重雄 東京帝大工學部助教
女 ナミ 明三五、六生

君は東京府人佐々木直右衛門の五男にして故佐々木慎思郎の實弟同興一の叔父なり安政元年八月を以て生れ明治九年家督を相続す幼時漢籍を修め同六年第一銀行に入り簿記となり累進して同二十九年遂に同行取締役役兼總支配人の地位を占め次第で頭取に進みしも現時是れを辭し前記諸會社の取締役たり日露事件の功に依り勲四等に叙じ瑞寶章を授けられ大正四年十一月特旨を以て從五位に叙せらる書畫骨董を愛し園藝を好む二男修三郎(明二〇、七生)三男和三郎(同二三、四生)は各分家し長女マサ(同三一、一一生)は法學博士同實に二女さわ(同二五、四生)は法學士立石信郎に三女わか子(同二六、一〇生)は法學士關原忠三に五女やす子(同三七、三生)は工學士兼重九郎に嫁し(文久二、八生)は退役海軍中將鈴木重道に嫁せり(東京、本郷町二ノ一九電小石川三三〇)
參照 岡實、佐々木謙一郎、佐々木興一、佐々木修三郎、佐々木和三郎、鈴木重道、關原忠三、立石信郎、横武家小泉信三、濱下村安、横哲次郎、本丞治、其輪馬三郎、坂橋山長次郎の項

佐々木祐太郎

從四位勲三等、東京高等師範學校教授、東京府士族
妻 一子 明三一、一〇生
男 君 明三八、七生、長男一郎妻、大分
男 仁郎 明三五、二生

サ之部 佐(佐)

明二一、八生、長男安太郎妻、靜岡、熊平春司妹
孫 太一郎 明四二、五生、長男安太郎長男
君は愛知縣人佐々木三郎の養子にして萬延元年一月を以て生れ明治二十四年家督を相続す現時鳳來寺鐵道會社取締役たり家族は尙孫練太郎(明四五、三生)、長男安太郎(同九、一一生、同四三、六生)、二生、同三男、同二女(同九、一一生、同四三、六生)は長野縣人石原登治郎長男研精に三女つぎよ(同二九、九生)は愛知縣人高岸治郎左衛門三男隆雄に四女とよ(同三六、三生)は同縣人湯淺秀三郎に嫁し養弟彦太郎(慶應二、一一生)は分家せり(愛知、北設樂、本郷町)

佐々木八十八

大阪府多額納税者、大阪市東區々會議員、日本赤十字社大阪支部協賛委員、日本少年保護協會大阪支部委員、東京佐々木營業部、レナウメリヤス工業各監査役、大阪佐々木營業部店主、内外物産輸出商、大阪府在籍
妻 隆子 明一六、一一生、大阪、雲川五兵衛
男 隆一 明三六、五生、關西學院高等商業部出身
女 日佐子 明四一、二生、長男隆一妻、子爵小笠原長生四女、女子學習院出身

當家は代々商を營み連綿十代を數ふる舊家に於て祖先是遠く佐々木高綱の流を指む十代目彌助後宮原源三郎入夫として佐々木家に入る君は其長男にして明治七年五月を以て生れ十一代目を相続すべき異父兄友治郎天折して後繼なき爲同三十一年家督を相続して當主となる内外物産輸出入を業とし傍ら前記各名譽職の外大阪市立高等東女學校商議員大阪市教化委員大阪市民公同委員大阪船場教育會評議員大阪市船場青年修養後援會理事大阪市東區第八青年團總所振興委員大阪市東區八聯合衛生組合評議員帝國法學會船場分會名譽會士大阪市船場東區聯合教化委員會交通協會評議員大阪實業協會評議員大阪商工中心會評議員大阪府志會評議員の公職に在り前記各會社の重役にして大阪府多額納税者に列し直接國稅一萬二圓を納め各種公共事業に盡す所妙からず大正十四年金杯一組を下賜され次で同十

佐佐木行忠

正四位、侯爵、貴族院議員、第二富士電力監査役、東京府華族
妻 米子 明三六、一一生、長崎、上野季三郎
女 行子 明三八、七生、女子學習院出身

當家は先代高行より顯る高行は舊高知藩士にして維新の際國事に奔走し後刑部大輔司法大輔元老院副議長參議院工部卿等に歴任し明治十七年華族に列し伯爵を授けらる爾來宮中顧問官樞密顧問官となり二内親王殿下御養育の任に膺り同四十二年侯爵に陞る君は其孫にして亡高美の長男なり明治二十六年七月を以て生れ同四十二年祖父の爵を繼承す大正六年京都帝國大學法學科を卒業し更に東京帝國大學文學部に學ぶ現時貴族院議員にして火曜會に屬す家族は尙長女美枝子(大一〇、一一生)二女春江(同二二、三生)弟行篤(明三一、二生、經濟學士、日本勸業銀行員)同妻富久子(同三九、八生、男爵紀俊秀二女、女子學習院出身)及其二子あり妹美知子(同二八、三生、學習院女學部出身)は子爵西尾忠方に從妹志賀子(同三六、一〇生)一〇八電青山七七〇五)
參照 子爵木松春彦、子爵西尾忠方、男爵紀俊秀、男爵眞木平一、上野季三郎、加藤加藤厚太郎、藤岡琢郎、藤岡琢男、藤岡山内豊政、紀俊清、清水長輝、村井五郎の項

君は山形縣士族佐々木餘太郎の長男にして明治三年十二月を以て生れ同二十二年家督を相続す同二十八年帝國大學農科大學農學科を卒業し同三十三年東京高等師範學校教授に任じ今日に至る家族は尙孫實(昭四、一一生、長男一郎長男)弟雄次郎(明六、一一生)同妻カメ(同九、一〇生、福岡、末松卯吉五女)及其子女あり姪春枝(同三七、三生、弟雄次郎長女)は東京府人三角武雄に嫁せり(東京市外濠谷町大向通三電青山二七二)

君は宮城縣人佐々木三郎の三男にして明治二十七年十月を以て生れ先代吉三郎の養子となり大正十三年家督を相続す同八年高等試験行政科試験に合格同九年東京帝國大學法學部獨法科を卒業し爾來埼玉縣內務局長、東京府加茂郡長、東京府加茂郡長、東京府加茂郡長、東京府加茂郡長、東京府加茂郡長に歴任し昭和四年岩手縣書記官に任ぜられ警察部長に補せらる家族は尙二男迪夫(大一一、一一生)三男康夫(昭四、三生)養妹節子(明四三、七生)同操(大二、二生)同典子(同四四、九生)同雅子(同四六、一一生)あり同徳子(明三七、七生)は宮城縣人氏家武に嫁せり(盛岡、内九町官舎)

君は長門縣士族佐々木義一(一〇生)にして明治二十年八月を以て生れ同三十年家督を相続す同四十一年神戸高等商業學校を卒業し直に臺灣銀行に入り臺北香港新嘉坡孟買倫敦各支店勤務を経て東京支店支配人に擧げらる後同行の推薦により神戸鈴木商店理事に轉じ其整理に參與せり現時前記各會社の重役たりゴルフに趣味を有す家族は尙二男物(六一、三、五生)三男紀(同一五、二生)四男彌(昭三、三生)長女光子(同五、一〇生)ありA三六三二(昭三、西須廣中延上五電須磨一六六)
參照 大島健一、坂井實作、坂井實武の項

佐々木芳照

宮崎縣議員(宮崎縣選出)
妻 芳紀 大、一〇生
男 壽雄 明三一、二生、長女政子夫、廣島
登世同族二男

サ之部 佐(佐)

五年結婚章を賜ふ家族は尙三男地拾(大三、二生)三女惇子(同七、四生)孫弘純(昭六、三生、長男隆一長男)あり二女智恵子(明三八、一一生、神戸女學院出身)は子爵三浦基次長男義次に嫁し貴族院議員野村徳七夫人きくは君の姪に當る(大阪、東、瓦町四ノ四九電本局三一四)
參照 子爵小笠原長生、子爵三浦基次、野村徳七、子爵藤堂高實、佐藤太郎、坂名村泰一の項

佐々木勇吉

花巻温泉鐵道取締役、岩手輕便鐵道監査役、岩手縣在籍
妻 タニ 明二二、一一生、岩手、伊田藤次郎
女 良七 明三一、九生、長女ヤシ夫、岩手
養子 隆興 明四一、二生、養子良七妻
女 ヤシ 明四一、二生、養子良七妻

君は岩手縣人先代勇吉の長男にして明治十七年九月を以て生れ昭和三年家督を相続し前名亦造を改め襲名す現時前記諸會社の重役たり家族は尙孫勇(大一一、一一生)、養子良七(長男)同四(昭二、七生)同二男、同敏郎(同五、五生、同三男)あり姉ヨシ(明一一、二生)は同夫源四郎(同六、四生、岩手、三島佐助二男)と共に其子女を伴ひ分家し養姪トヨ(同三二、一一生、養兄源四郎長女)は岩手縣人千田義雄に嫁せり(岩手、上閉伊、遠野町)
參照 岩手縣人佐々木勇吉の項

佐々木勇太郎

南海鐵道、大正火災海上保險各社取締役、大阪府士族
妻 ヨシ 明一〇、三生、廣島、内田政雄妹
男 時雄 大、八生

君は大分縣士族佐々木吉十郎の長男にして明治元年四月を以て生れ同十六年家督を相続す夙に慶應義塾に學び同二十三年山陽鐵道會社に入り豊州鐵道會社に轉じ後日本紡織會社の支配人たりし在職一年同三十三年南海鐵道會社に入り支那人事務取締役に歴任し現時取締役に於て前記會社の重役を兼ぶ弟政二郎(明七、四生)は其妻子を伴ひ分家し亡弟三妻ヒデ(同一九、一一生)長崎、竹若喜三郎長女)も亦其三男一女を伴ひ分家し長女キキ(同二九、一一生)は長野縣人河野猪太郎三男孝一に二女キキ(同三四、九生)は兵庫縣人美濃

君は福岡縣人黒田嘉の弟にして明治十年七月を以て生れ大正十年弟正徳より分れて一家を創立す夙に京都本願寺布教師となり昭和五年還俗し衆議院議員に當選す立憲民政黨所屬たり二女蓮子(明四〇、一一生)は福岡縣人伊藤八郎に嫁せり(熊本、宇田町)

君は宮城縣人佐々木三郎の三男にして明治二十七年十月を以て生れ先代吉三郎の養子となり大正十三年家督を相続す同八年高等試験行政科試験に合格同九年東京帝國大學法學部獨法科を卒業し爾來埼玉縣內務局長、東京府加茂郡長、東京府加茂郡長、東京府加茂郡長、東京府加茂郡長、東京府加茂郡長に歴任し昭和四年岩手縣書記官に任ぜられ警察部長に補せらる家族は尙二男迪夫(大一一、一一生)三男康夫(昭四、三生)養妹節子(明四三、七生)同操(大二、二生)同典子(同四四、九生)同雅子(同四六、一一生)あり同徳子(明三七、七生)は宮城縣人氏家武に嫁せり(盛岡、内九町官舎)

君は長門縣士族佐々木義一(一〇生)にして明治二十年八月を以て生れ同三十年家督を相続す同四十一年神戸高等商業學校を卒業し直に臺灣銀行に入り臺北香港新嘉坡孟買倫敦各支店勤務を経て東京支店支配人に擧げらる後同行の推薦により神戸鈴木商店理事に轉じ其整理に參與せり現時前記各會社の重役たりゴルフに趣味を有す家族は尙二男物(六一、三、五生)三男紀(同一五、二生)四男彌(昭三、三生)長女光子(同五、一〇生)ありA三六三二(昭三、西須廣中延上五電須磨一六六)
參照 大島健一、坂井實作、坂井實武の項

佐々木利吉

正六位、逓信省航空官、航空局長、阪出鐵所長、大阪飛行場長、東京府在籍

サ之部 佐(佐)

(※印は姻族關係)























妻 明二〇、三三、静岡、西脇時治五  
 男 吉 明四一、七生  
 男 進 明四四、一〇生  
 女 のり 大三、二生

君は静岡縣人先代吉兵衛の長男にして明治九年十二月を以て生れ大正十三年家督を相続し前名龜次郎を改め養名才現時伊東水方電氣會社長の外前記銀行會社の重役たり家族は尙養弟義正(明三三、二生、静岡、内田洋弟)同妻かね(同三三、四生、千葉、松本仙吉長女)及其二男一女あり(静岡、田方、伊東町)

佐藤吉兵衛 福島縣多額納稅者、酒類商  
 妻 明三、二生、大武次二女  
 男 寬一郎 明二九、三三  
 女 金二 明二四、一〇生、長女きち夫、山形  
 女 金三 明二六、七生、養子金二郎妻

君は山形縣人佐藤新右衛門の長男にして明治二年十月を以て生れ同四十三年分れて一家を創立す酒類商を營み現に縣下の多額納稅者たり家族は尙孫信吉(大二、一〇生、養子金二郎長男)同精平(同六、四生、同二男)同とも子(同二〇、八生、同長女)同福司(同二四、三三、同三男)同守司(同二一、一〇生、二男寬一郎二男)同イタ(同二四、九生、同長女)あり(福島市置賜町五一)

佐藤吉郎 從五位勳五等、逓信局書記官、東京逓信局現職課長、群馬縣在籍  
 妻 明二四、一〇生、東京、士、後藤  
 男 佐 大五、一〇生

君は群馬縣人佐藤源太郎の二男にして明治十五年十二月を以て生れ先代文藏の養子となり同二十六年家督を相続す同四十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し文官高等試験に合格す大正元年關東都府逓信事務官補に任じ旅順郵便局長春都郵便局長を経て同五年同府逓信事務官に進み爾來大連郵便局長關東逓信局長業務課長等に歷補し同十年依願免官となる後同十三年再び監事電信建設局事務官となり任官し兼逓信局事務官兼本逓信局經理課長に任官し昭和二年逓信局書記官となり東京逓信局經理課長兼復興局書記官たりし

現時前記の職に在り家族は尙二男正(大九、八生)長女幸子(同二、四生)三男吉昭(昭二、八生)二女則子(同五、三三)あり(東京市外邊谷町宇田川五五電番山七〇〇七)

佐藤清勝 正四位勳二等功五級、豫備陸軍中將、東京府在籍  
 妻 明一七、八生、廣島、手島兵次郎  
 男 信 大一一、二生  
 女 ス 大二、八生

君は石川縣人中村清の長男にして明治十年三月を以て生れ佐藤正の養子となり大正七年分れて一家を創立す明治三十年陸軍士官學校を卒業し同三十一年陸軍砲兵少尉に任じ昭和三年陸軍中將に昇進す其間陸軍兵器本廠検査官陸軍技術審査部審査官同議員陸軍砲工學校教官陸軍工科學校長陸軍技術本部附等を歴補し豫備役被仰付家族は尙三女(昭三、一〇生、二男峻勝(昭三、七生)あり長女イツク(昭四、一〇生、東京府立第二高等女校)は秋田縣人松井庫之助の養子に嫁せり(東京、本郷、向ヶ岡彌生町二二)三女小石川三三(昭三、一〇生)あり(松井庫之助の養子に嫁せり)

佐藤 謙 岐阜商工會議所常議員、岐阜縣在籍  
 妻 明八、八生、愛知、柳川國次郎二  
 男 美 明三三、七生、養父領次郎長女  
 女 美 昭四、一〇生、御茶水高女出身

君は岐阜縣人伊藤清四郎の四男にして明治二十八年四月を以て生れ先代領次郎の養子となり大正十五年家督を相続す現時岐阜商工會議所常議員にして前記會社の重役たり(岐阜市美園町四三三)

佐藤金治 正四位勳三等、陸軍主計監  
 妻 明一七、一〇生、神奈川、鈴木芳  
 女 美 昭四、一〇生、御茶水高女出身

君は宮城縣人佐藤孔作の長男にして明治元年十月を以て生れ同四十四年家督を相続す現時佐藤商店代表取締役の外前記各會社の重役にして兼に明治大學理事たり養子シナ(明三三、一〇生、福岡、末松寛藏妹)同夫恒生(同二九、一〇生、福岡、能美寅吉二男)は其子女を伴ひ分家せり(福岡縣若松市安政町一丁目電一六)

佐藤慶太郎 勳三等、佐藤商店代表取締役、福岡縣在籍  
 妻 明二八、九生、福岡、山本周太郎  
 男 美 昭四、一〇生、御茶水高女出身

君は千葉縣人佐藤藤藏の二男にして明治二十二年五月を以て生れ大正九年兄孝方より分れて一家を創立す大正七年東京帝國大學文部科大學法科を卒業し陸軍少尉に任じ陸軍幼年學校附士官學校豫科附等に歷補し大正十四年陸軍士官學校教官となり今日に至る家族は尙長女洋子(昭五、一〇生)あり(東京市外高田町大原一五七〇)

佐藤謙二 橫濱炭酸製造社長、木戸澤  
 妻 明四三、一〇生  
 男 謙 三 明四三、一〇生

君は神奈川縣人佐藤敬三の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治三十四年家督を相続す現時横濱炭酸製造會社社長たる傍ら前記各會社の重役たり家族は尙二男敬介(大二、四生)あり弟六郎(明一一、五生)同傳七郎(同二一、一〇生)は各分家し七弟五郎妻ヨキ(同五、五生、新潟、茅野治治妹)も亦其子女を伴ひ分家せり(横濱、中、久保町宮下五一〇四電本局一九七二)

佐藤謙之輔 衆議院議員、新潟縣在籍  
 妻 明二五、九生、新潟、西倉彌兵衛  
 男 謙 三 明四三、一〇生

君は新潟縣人佐藤宗彌の二男にして明治十九年九月を以て生れ大正三年家督を相続す同二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして郷黨より推されて衆議院議員に當選し現に立憲民政黨所屬たり兼に新潟縣會議員に推される家族は尙二男寬二(大九、一〇生)三男柳三(同四、六生)四男昭(昭二、三三)二女典(同三、一〇生)弟早二(明二二、一〇生)同妻ヒデ(同二八、四生、新潟、佐野豊長女)弟強三郎(同二六、二生)同妻滿(同三三、四九、長生)宮坂芳太郎(三女)及其三子あり妹リヤウ(同二九、七生)は新潟縣人大橋敬作長男清藏に嫁せり(新潟、南蒲原、新潟村)

佐藤賢治 日本勸業銀行松本支店長  
 妻 明三三、三三、東京、鈴木庸二女

君は秋田縣人佐藤竹松の三男にして明治二十六年一月を以て生れ大正七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時日本勸業銀行松本支店長たり家族は尙二男浩(大二三、三三)兄竹松(明二三、一〇生、現戸主)同妻カツ(同二八、四生、秋田、菅原清吉二女)及其三子の外弟勇次郎(同四一、五生)同彌太郎(同四三、二生)同重一(大元、一〇生)妹ヤエ(同三三、三三)あり同イト(明三六、九生)は秋田縣人高田喜一郎に嫁せり(松本、北深志、土井尻町四三)

佐藤堅司 從五位、陸軍教授、陸軍士官學校  
 妻 明三三、三三、東京、鈴木庸二女

君は新潟縣人佐藤宗彌の二男にして明治十九年九月を以て生れ大正三年家督を相続す同二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして郷黨より推されて衆議院議員に當選し現に立憲民政黨所屬たり兼に新潟縣會議員に推される家族は尙二男寬二(大九、一〇生)三男柳三(同四、六生)四男昭(昭二、三三)二女典(同三、一〇生)弟早二(明二二、一〇生)同妻ヒデ(同二八、四生、新潟、佐野豊長女)弟強三郎(同二六、二生)同妻滿(同三三、四九、長生)宮坂芳太郎(三女)及其三子あり妹リヤウ(同二九、七生)は新潟縣人大橋敬作長男清藏に嫁せり(新潟、南蒲原、新潟村)

佐藤敬治 宮城縣多額納稅者、酒造業  
 妻 明一九、六生、新潟、高桑茂三郎

君は新潟縣人佐藤三郎の長男にして明治十八年九月を以て生れ同二十四年家督を相続し後前名敬吉を改め旅館業を營み城東館大野屋旅館支店と稱す(東京、京橋、南橋町一九電京橋五〇七)

計監に昇進す其間南洋に出張して熱帯地の研究に従事歸朝後第十四師團團長陸軍省經理局依願課長陸軍糧秣本廠長等に歷補し昭和五年八月退職現時實業界に活躍しつゝありA二四〇(東京市外杉並町高岡寺四八三電中野三九三六)

佐藤金兵衛 勳七等、盛岡電燈取締役、金融  
 妻 明二六、五生  
 男 一郎 明三二、四生、長男一郎妻、秋田  
 女 し 高安虎治長女  
 女 知恵子 明四三、三三、大元、一〇生

君は秋田縣人佐藤忠一郎の二男にして明治二年三月を以て生れ先代健治の養子となり大正六年家督を相続す日清日露の戦役に従軍して功あり爾後前記會社重役たり家族は尙五男義雄(大四、一〇生)五女レツ六女チエあり三女サダ(明三八、三三)は秋田縣人平川武治に四女(同四〇、三三)は同縣人牧野喜一郎に嫁せり(秋田、平鹿、十文字町電四七)

佐藤九平治 清水市會議員、静岡縣多額納稅者  
 妻 明二二、一〇生、静岡、市川彦三妹  
 女 千重子 明四〇、六生

君は静岡縣人佐藤保之助の長男にして明治十五年三月を以て生れ同四十四年家督を相続し前名彌十郎を改む農業を營み直接納稅千五百七十七圓を納め縣下の多額納稅者に列し推されて清水市會議員たり弟巳巳(明二〇、一〇生)は分家し妹こと(同二三、一〇生)は静岡縣人狩野八郎長男幸之助に同領長(同二九、九生)は東京府人板倉安兵衛に嫁せり(清水、江尻一八)

佐藤國一 佐藤商店、大信汽船各社社長、  
 妻 明三一、二生、京都、池邊吉藏長

君は京都府人中村吉左衛門の二男にして明治二十一年一月を以て生れ大正六年兄吉太郎より分れて一家を

君は千葉縣人佐藤藤藏の二男にして明治二十二年五月を以て生れ大正九年兄孝方より分れて一家を創立す大正七年東京帝國大學文部科大學法科を卒業し陸軍少尉に任じ陸軍幼年學校附士官學校豫科附等に歷補し大正十四年陸軍士官學校教官となり今日に至る家族は尙長女洋子(昭五、一〇生)あり(東京市外高田町大原一五七〇)

佐藤謙二 橫濱炭酸製造社長、木戸澤  
 妻 明四三、一〇生  
 男 謙 三 明四三、一〇生

君は神奈川縣人佐藤敬三の二男にして元治元年十二月を以て生れ明治三十四年家督を相続す現時横濱炭酸製造會社社長たる傍ら前記各會社の重役たり家族は尙二男敬介(大二、四生)あり弟六郎(明一一、五生)同傳七郎(同二一、一〇生)は各分家し七弟五郎妻ヨキ(同五、五生、新潟、茅野治治妹)も亦其子女を伴ひ分家せり(横濱、中、久保町宮下五一〇四電本局一九七二)

佐藤謙之輔 衆議院議員、新潟縣在籍  
 妻 明二五、九生、新潟、西倉彌兵衛  
 男 謙 三 明四三、一〇生

君は新潟縣人佐藤宗彌の二男にして明治十九年九月を以て生れ大正三年家督を相続す同二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして郷黨より推されて衆議院議員に當選し現に立憲民政黨所屬たり兼に新潟縣會議員に推される家族は尙二男寬二(大九、一〇生)三男柳三(同四、六生)四男昭(昭二、三三)二女典(同三、一〇生)弟早二(明二二、一〇生)同妻ヒデ(同二八、四生、新潟、佐野豊長女)弟強三郎(同二六、二生)同妻滿(同三三、四九、長生)宮坂芳太郎(三女)及其三子あり妹リヤウ(同二九、七生)は新潟縣人大橋敬作長男清藏に嫁せり(新潟、南蒲原、新潟村)

佐藤賢治 日本勸業銀行松本支店長  
 妻 明三三、三三、東京、鈴木庸二女

君は秋田縣人佐藤竹松の三男にして明治二十六年一月を以て生れ大正七年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し現時日本勸業銀行松本支店長たり家族は尙二男浩(大二三、三三)兄竹松(明二三、一〇生、現戸主)同妻カツ(同二八、四生、秋田、菅原清吉二女)及其三子の外弟勇次郎(同四一、五生)同彌太郎(同四三、二生)同重一(大元、一〇生)妹ヤエ(同三三、三三)あり同イト(明三六、九生)は秋田縣人高田喜一郎に嫁せり(松本、北深志、土井尻町四三)

佐藤堅司 從五位、陸軍教授、陸軍士官學校  
 妻 明三三、三三、東京、鈴木庸二女

君は新潟縣人佐藤宗彌の二男にして明治十九年九月を以て生れ大正三年家督を相続す同二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し現時前記銀行會社の重役にして郷黨より推されて衆議院議員に當選し現に立憲民政黨所屬たり兼に新潟縣會議員に推される家族は尙二男寬二(大九、一〇生)三男柳三(同四、六生)四男昭(昭二、三三)二女典(同三、一〇生)弟早二(明二二、一〇生)同妻ヒデ(同二八、四生、新潟、佐野豊長女)弟強三郎(同二六、二生)同妻滿(同三三、四九、長生)宮坂芳太郎(三女)及其三子あり妹リヤウ(同二九、七生)は新潟縣人大橋敬作長男清藏に嫁せり(新潟、南蒲原、新潟村)

佐藤敬治 宮城縣多額納稅者、酒造業  
 妻 明一九、六生、新潟、高桑茂三郎

君は新潟縣人佐藤三郎の長男にして明治十八年九月を以て生れ同二十四年家督を相続し後前名敬吉を改め旅館業を營み城東館大野屋旅館支店と稱す(東京、京橋、南橋町一九電京橋五〇七)



佐藤 源藏

青森縣多額納税者、陸奥銀行専務役員、第八十八銀行監査役、農業、青森縣在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 治六

著述業、東京府在籍

佐藤 剛藏

從四位勳三等、醫學博士、京城醫學專門學校校長兼京城帝國大學教授、新瀉縣在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 三郎

正三位勳一等、醫學博士、貴族院議員、帝國學士院第二部長、東京府在籍

佐藤 剛藏

從四位勳三等、醫學博士、京城醫學專門學校校長兼京城帝國大學教授、新瀉縣在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 三郎

正三位勳一等、醫學博士、貴族院議員、帝國學士院第二部長、東京府在籍

佐藤 剛藏

從四位勳三等、醫學博士、京城醫學專門學校校長兼京城帝國大學教授、新瀉縣在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 三郎

正三位勳一等、醫學博士、貴族院議員、帝國學士院第二部長、東京府在籍

君は青森縣人佐藤治六の二男にして明治七年七月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す紅線と號し著述家として知らる著書に「富士に題して」麗人、野に叫ぶもの、其他數多あり家族は尙ほ三男彌(大二、二二生)四男久(同五、一〇生)六女早苗(同八、四生)七女愛子(同二、一一生)孫ユキヤ(同二、三生)長男八郎(長女)同鳩子(同四、一一生)同忠(昭四、九生)同二男(明三、八、三生)は分家せりA二十七六六(兵庫、武庫、鳴尾村)

佐藤 五郎

常務銀行事務取扱、川崎銀行第九ノ内支店長、東京府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 泉藏

正四位勳二等功二級、豫備海軍中將、東京府在籍

佐藤 小吉

從四位勳三等、奈良女子高等師範學校教授、山形縣在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 功一

工學博士、早稻田大學教授、日本女子大學教授、東京府在籍

佐藤 小次郎

富士屋、金融業、東京府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 功一

工學博士、早稻田大學教授、日本女子大學教授、東京府在籍

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

君は山形縣人佐藤嘉保の二男にして明治五年五月を以て生れ昭和二年明山松方より分れて一家を創立す明治三十一年東京帝國大學文部科學科を卒業し和歌山縣立第一尋常中學校東京府立第三中學校各教諭を経て現時奈良女子高等師範學校教授たり家族は尙ほ四男貞夫(大五、一一生)二女那保子(昭五、六生)あり(奈良市佐保山町九三)

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

君は香川縣人佐藤清の弟にして明治十四年一月を以て生れ同十四年分れて一家を創立す鑄造業を営み東洋機械製作所を經營し傍ら辰巳屋製糖取締役たり家族は尙ほ二男信行(大三、七生)三女千恵子(同五、一一生)四女裕子(昭四、五生)あり(大阪、南、内安堂寺町二ノ四六ノ三電東一七四三)

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

君は福島縣人佐藤右衛門の長男にして安政三年九月を以て生れ明治三十一年家督を相続し前名佐太郎を改め現時信越製糖社長たり家族は尙ほ孫御子(大七、一一生、長男佐輔二女)同權哉(同八、一一生、同長男)同京子(同二、六生、同三女)同卓也(同五、一一生、同二男)同喜美(同九、五生、二男太平長女)同鏡子(同二、一一生、同二女)同政子(昭三、一一生、同三女)あり第七太郎(明三、五生)は其二子を伴ひ同重吉(同九、五生)同妻マサ(同四、一一生、福島、無坂源藏二女)は其三子を伴ひ各分家し第九兵衛(同七、四生)は福島縣人長澤定助の養子となれり(福島、信夫飯坂町)

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

君は福島縣人佐藤三郎の弟にして明治十一年一月を以て生れ同十四年分れて一家を創立す現時佐藤製糖所専務取締役たり(東京市外濠野川町西ヶ原七九一)

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

君は新潟縣人夏目貞五郎の二男にして明治十三年七月を以て生れ後先代レイの入夫となり家督を相続す同三十九年京都帝國大學醫學科大學を卒業し同大學助手同助手を経て平壤同仁醫院院長兼附屬學校校長となり爾來朝鮮總督府醫院教官京城醫學專門學校教授兼朝鮮總督府技師等に歴任し現時前記の職に在り大正十年醫學博士の學位を受く家族は尙ほ二男正二(大六、一一生)あり長女ハツ(明四二、一一生)は長野縣人醫學博士佐々

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

君は新潟縣人夏目貞五郎の二男にして明治十三年七月を以て生れ後先代レイの入夫となり家督を相続す同三十九年京都帝國大學醫學科大學を卒業し同大學助手同助手を経て平壤同仁醫院院長兼附屬學校校長となり爾來朝鮮總督府醫院教官京城醫學專門學校教授兼朝鮮總督府技師等に歴任し現時前記の職に在り大正十年醫學博士の學位を受く家族は尙ほ二男正二(大六、一一生)あり長女ハツ(明四二、一一生)は長野縣人醫學博士佐々

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫

佐藤 綱征

辰巳屋製糖取締役、東洋機械製作所、鑄造業、大阪府在籍

母 明七、一一生、東京、川島榮吉長女

佐藤 元亥

明三二、一一生、福島、佐藤修三孫



佐藤 三郎 正五位勳三等功五級、陸軍少將、大佐、山形、鈴木彌兵衛

佐藤 重遠 從五位、衆議院議員(宮崎縣選出)、私立白學園長、東京府在籍

佐藤 繁雄 正五位勳五等、農學博士、農林技師、畜産局事務、東京帝國大學農

佐藤 重造 三木醬油社長、廣島縣在籍

佐藤 重益 住友信託事務取締役、岐阜縣在籍

佐藤 重三郎 同三男、同好子(六一五、二生、養子卯三郎長女)同秀

佐藤 昌介 正三位勳一等、男爵、農學博士、北海道帝國大學名譽教授

佐藤 庄作 新湯温泉土地地籍調査役、新湯縣在籍

佐藤 繁次郎 神奈川縣多額納稅者、文壽堂、印刷業、神奈川縣在籍

佐藤 主一 從五位勳五等、地方技師、福岡縣、農務部耕地課長、熊本縣士族

佐藤 昌彦 安政六、七生、從五位、法學士、北海道帝國大學法學科教授

佐藤 昌子 明三、七、九生、五男昌彦妻、男爵、松岡均平二女

佐藤 修一 正五位勳五等、判事、前橋地方裁判所部長、高知縣士族

佐藤 十兵衛 仙臺商工會議所常務議員、仙臺瓦斯、味噌油各取締役、宮城縣士族

佐藤 省三 河内紡績事務取締役、大阪府在籍

佐藤 庄右衛門 山形縣多額納稅者、天童銀行頭取、農學、山形縣在籍

佐藤 昌子 明一、六、四生、山形、佐藤庄三郎妻

佐藤 昌子 明一、六、四生、山形、佐藤庄三郎妻

佐藤 昌吉 住友銀行文書課長、東京府士族

佐藤 昌介 正三位勳一等、男爵、農學博士、北海道帝國大學名譽教授

佐藤 昌子 明一、六、四生、山形、佐藤庄三郎妻















サ之部 佐(一)

貴族院議員に互選せらる、事二回に及ぶ又曾て新設田...

佐藤 友藏 山形縣多額納税者、長井銀行...

佐藤 共之 從四位勳三等、判事、大審院判事...

佐藤 直丸 正五位、山形高等學校生徒主事兼...

佐藤 仁吉 山形縣多額納税者、田羽銀行...

佐藤 信 正四位勳二等功五級、陸軍中將...

佐藤 直信 山形縣議員、橋岡銀行...

佐藤 春太郎 從五位、農學博士、上田製絲專門...

サ之部 佐(二)

(明四三、三女、亡妹利榮長男)姪靜(大三、五生、同...

佐藤 寅二 大分縣多額納税者、中津市長...

佐藤 尚武 正四位勳二等、特命全權大使...

佐藤 信哉 從五位勳五等、地方技師、東京府...

佐藤 元 從五位勳六等、鐵道局技師、名古屋...

佐藤 久 正七位、醫學博士、侍醫、好生館...

佐藤 直信 山形縣議員、橋岡銀行...

佐藤 春太郎 從五位、農學博士、上田製絲專門...

サ之部 佐(三)

エネアに於ける海軍軍備制限會議に參列の全權委員...

佐藤 尚義 大分縣多額納税者、九州製絲總取...

佐藤 直信 山形縣議員、橋岡銀行...

佐藤 春太郎 從五位、農學博士、上田製絲專門...

佐藤 久 正七位、醫學博士、侍醫、好生館...

佐藤 直信 山形縣議員、橋岡銀行...

佐藤 春太郎 從五位、農學博士、上田製絲專門...

サ之部 佐(四)

サ之部 佐(五)

サ之部 佐(六)

サ之部 佐(七)

サ之部 佐(八)

サ之部 佐(九)

サ之部 佐(十)

サ之部 佐(十一)

サ之部 佐(十二)

サ之部 佐(十三)

サ之部 佐(十四)

サ之部 佐(十五)

サ之部 佐(十六)

サ之部 佐(十七)

サ之部 佐(十八)

サ之部 佐(十九)

サ之部 佐(二十)

サ之部 佐(二十一)

サ之部 佐(二十二)

サ之部 佐(二十三)

サ之部 佐(二十四)

サ之部 佐(二十五)

サ之部 佐(二十六)

サ之部 佐(二十七)

サ之部 佐(二十八)

サ之部 佐(二十九)

サ之部 佐(三十)

サ之部 佐(三十一)

サ之部 佐(三十二)

サ之部 佐(三十三)

サ之部 佐(三十四)

サ之部 佐(三十五)

サ之部 佐(三十六)

サ之部 佐(三十七)

サ之部 佐(三十八)

サ之部 佐(三十九)

サ之部 佐(四十)

サ之部 佐(四十一)

サ之部 佐(四十二)

サ之部 佐(四十三)

サ之部 佐(四十四)

サ之部 佐(四十五)

サ之部 佐(四十六)

サ之部 佐(四十七)

サ之部 佐(四十八)

サ之部 佐(四十九)

サ之部 佐(五十)

サ之部 佐(五十一)

サ之部 佐(五十二)

サ之部 佐(五十三)

サ之部 佐(五十四)

サ之部 佐(五十五)

サ之部 佐(五十六)

サ之部 佐(五十七)

サ之部 佐(五十八)

サ之部 佐(五十九)

サ之部 佐(六十)

サ之部 佐(六十一)

サ之部 佐(六十二)

サ之部 佐(六十三)

サ之部 佐(六十四)

サ之部 佐(六十五)

サ之部 佐(六十六)

サ之部 佐(六十七)

サ之部 佐(六十八)

サ之部 佐(六十九)

サ之部 佐(七十)

サ之部 佐(七十一)

サ之部 佐(七十二)

サ之部 佐(七十三)

サ之部 佐(七十四)

サ之部 佐(七十五)

サ之部 佐(七十六)

サ之部 佐(七十七)

サ之部 佐(七十八)

サ之部 佐(七十九)

サ之部 佐(八十)

サ之部 佐(八十一)

サ之部 佐(八十二)

サ之部 佐(八十三)

サ之部 佐(八十四)

サ之部 佐(八十五)

サ之部 佐(八十六)

サ之部 佐(八十七)

サ之部 佐(八十八)

サ之部 佐(八十九)

サ之部 佐(九十)

サ之部 佐(九十一)

サ之部 佐(九十二)

サ之部 佐(九十三)

サ之部 佐(九十四)

サ之部 佐(九十五)

サ之部 佐(九十六)

サ之部 佐(九十七)

サ之部 佐(九十八)

サ之部 佐(九十九)

サ之部 佐(一百)

サ之部 佐(一百一)

サ之部 佐(一百二)

サ之部 佐(一百三)

サ之部 佐(一百四)

サ之部 佐(一百五)

サ之部 佐(一百六)

サ之部 佐(一百七)

サ之部 佐(一百八)

サ之部 佐(一百九)

サ之部 佐(二百)

サ之部 佐(二百一)

サ之部 佐(二百二)

サ之部 佐(二百三)

サ之部 佐(二百四)

サ之部 佐(二百五)

サ之部 佐(二百六)

サ之部 佐(二百七)

サ之部 佐(二百八)

サ之部 佐(二百九)

サ之部 佐(三百)

サ之部 佐(三百一)

サ之部 佐(三百二)

サ之部 佐(三百三)

サ之部 佐(三百四)

サ之部 佐(三百五)

サ之部 佐(三百六)

サ之部 佐(三百七)

サ之部 佐(三百八)

サ之部 佐(三百九)

サ之部 佐(四百)

サ之部 佐(四百一)

サ之部 佐(四百二)

サ之部 佐(四百三)

サ之部 佐(四百四)

サ之部 佐(四百五)

サ之部 佐(四百六)

サ之部 佐(四百七)

サ之部 佐(四百八)

サ之部 佐(四百九)

サ之部 佐(五百)

サ之部 佐(五百一)

サ之部 佐(五百二)

サ之部 佐(五百三)

サ之部 佐(五百四)

サ之部 佐(五百五)

サ之部 佐(五百六)

サ之部 佐(五百七)

サ之部 佐(五百八)

サ之部 佐(五百九)

サ之部 佐(六百)

サ之部 佐(六百一)

サ之部 佐(六百二)

サ之部 佐(六百三)

サ之部 佐(六百四)

サ之部 佐(六百五)

サ之部 佐(六百六)

サ之部 佐(六百七)

サ之部 佐(六百八)

サ之部 佐(六百九)

サ之部 佐(七百)

サ之部 佐(七百一)

サ之部 佐(七百二)

サ之部 佐(七百三)

サ之部 佐(七百四)

サ之部 佐(七百五)

サ之部 佐(七百六)

サ之部 佐(七百七)

サ之部 佐(七百八)

サ之部 佐(七百九)

サ之部 佐(八百)

サ之部 佐(八百一)

サ之部 佐(八百二)

サ之部 佐(八百三)

サ之部 佐(八百四)

サ之部 佐(八百五)

サ之部 佐(八百六)

サ之部 佐(八百七)

サ之部 佐(八百八)

サ之部 佐(八百九)

サ之部 佐(九百)

サ之部 佐(九百一)

サ之部 佐(九百二)

サ之部 佐(九百三)

サ之部 佐(九百四)

サ之部 佐(九百五)

サ之部 佐(九百六)

サ之部 佐(九百七)

サ之部 佐(九百八)

サ之部 佐(九百九)

サ之部 佐(一千)

サ之部 佐(一千一)

サ之部 佐(一千二)

サ之部 佐(一千三)

サ之部 佐(一千四)

サ之部 佐(一千五)

サ之部 佐(一千六)

サ之部 佐(一千七)

サ之部 佐(一千八)

サ之部 佐(一千九)

サ之部 佐(二千)

サ之部 佐(二千一)

サ之部 佐(二千二)

サ之部 佐(二千三)

サ之部 佐(二千四)

サ之部 佐(二千五)

サ之部 佐(二千六)

サ之部 佐(二千七)

サ之部 佐(二千八)

サ之部 佐(二千九)

サ之部 佐(三千)

サ之部 佐(三千一)

サ之部 佐(三千二)

サ之部 佐(三千三)

サ之部 佐(三千四)

サ之部 佐(三千五)

サ之部 佐(三千六)

サ之部 佐(三千七)

サ之部 佐(三千八)

サ之部 佐(三千九)

サ之部 佐(四千)

サ之部 佐(四千一)

サ之部 佐(四千二)

サ之部 佐(四千三)

サ之部 佐(四千四)

サ之部 佐(四千五)

サ之部 佐(四千六)

サ之部 佐(四千七)

サ之部 佐(四千八)

サ之部 佐(四千九)

サ之部 佐(五千)

サ之部 佐(五千一)

サ之部 佐(五千二)

サ之部 佐(五千三)

サ之部 佐(五千四)

サ之部 佐(五千五)

サ之部 佐(五千六)

サ之部 佐(五千七)

サ之部 佐(五千八)

サ之部 佐(五千九)

サ之部 佐(六千)

サ之部 佐(六千一)

サ之部 佐(六千二)

サ之部 佐(六千三)

サ之部 佐(六千四)

サ之部 佐(六千五)

サ之部 佐(六千六)

サ之部 佐(六千七)

サ之部 佐(六千八)

サ之部 佐(六千九)

サ之部 佐(七千)

サ之部 佐(七千一)

サ之部 佐(七千二)

サ之部 佐(七千三)

サ之部 佐(七千四)

サ之部 佐(七千五)

サ之部 佐(七千六)

サ之部 佐(七千七)

サ之部 佐(七千八)

サ之部 佐(七千九)

サ之部 佐(八千)



以て生れ大正二年家督を相續す明治四十一年東京帝國大學探検冶金科を卒業し現時三井礦山會社串木野鐵礦所長たり家族は尙弟正男(明二七、三三)同妻ミツ(同二一、四一)生、新湯、池田進妹(明二二、九三)生、新湯縣人佐藤良策に嫁せり(鹿兒島、日置、串木野村)

鐵道材料社取締役社長、白山石村鐵道、日本砂利各取締役、仙長野鐵道、國分社各取締役

佐藤 秀松 明一三、一一生、長野、小日向助作長女

妻 昌 明三六、一〇生、農學士

男 秀 明三八、八生、京都帝大法學部在學

男 敏 明四〇、一一生、慶大文學部在學

君は長野縣下の素封家佐藤春治郎の二男にして明治八年二月を以て生れ同三十八年兄仙之助より分れて一家を創立す現時鐵道材料社長たる外前記各會社の重役たり(東京、芝、琴平町二電五五〇)

日本郵船株式會社會計課長 北海道在籍

佐藤 兵太郎 明七、一一生、北海道、加藤善吉

妻 ト 明二九、一〇生

男 秀 明三九、八生、長男秀一妻、北海道、池田清義妹

君は北海道人佐藤兵吉の長男にして明治九年十月を以て生れ大正四年家督を相續す明治三十六年東京高等商業學校を卒業し日本郵船會社に入り現時同社庶務部會計課長たり家族は尙孫英彌(昭四、六生、長男秀一長男)の弟一三(明二六、一一生)同孫人(同三一、三三)同貞吉(同二二、一一生)は各分家し妹ハル(同二二、五生)は北海道人針山茂兵衛に同幸(同二五、一〇生)は同道人常谷辰之助長男春松に嫁せりA三七一(東京市外大久保町百人町一六電四谷四六〇八)

勸四等、衆議院議員(山形縣選出) 羽瀨銀行、三山電氣鐵道各取締役 役、農業、山形縣在籍

佐藤 啓 明三五、三三、養子ハルの夫、山形、堀井照太郎二男

養子 晋 明四〇、一〇生、養子晋三妻、山形、長登山人孫

養子 みのり

藤商會社代表社員たり家族は尙孫彦次郎(大元、一〇生、長男彦藏長男)同久榮(同八、一一生、同長女)同登榮(同二五、七生、同二女)同哲男(昭四、二生、同二男)亡兄牛左衛門妻ナチ(安政元、一一生、鹿兒島森山善左衛門長女)亡弟友樹妻佐登(明一四、一一生、鹿兒島、田中陽一妹)及其子孫あり長女タツ(同八、七生)是其一男一女を伴ひ二男清治(同二六、五生)同妻アサ(同二八、七生、鹿兒島、小杉恒右衛門四女)は其二男三女を伴ひ各分家せり(鹿兒島、始良、加治木町) 參照 濱吉田得藏の項

佐藤 平左衛門 兩羽電業取締役 山形縣在籍

妻 タ 明一三、六生、山形、三原治郎兵衛二女

男 一 明三五、二生

妻 子 明四〇、四生、長男一郎妻、山形、福井吉之助八女

養子 銀 明三〇、一一生、三女フミ夫、山形、堀米今朝治二男

女 カ 明三九、三三、養子銀七妻

女 フ 明四一、一一生

女 カ 明四三、一一生

女 カ 明四四、一〇生

君は山形縣人佐藤平五郎の二男にして明治九年九月を以て生れ同三十三年家督を相續し前名龜治を改む現時前記會社の重役たり家族は尙二男信二(大元、一一生)七女ケイ(同七、一一生)孫公(同二五、一一生、長男一郎長女)同雄一(昭五、四生、同長男)同文七(同三、一一生、養子銀七長男)あり長女チヨ(明三一、一一生)は山形縣人三原源治に妹ナチ(同一九、三三)は同縣人小野傳左衛門に嫁し弟助(同二二、五生)同妻シヅノ(同二八、五生、山形、森法琳長女)は其三子を伴ひ分家し養子カホル(同二三、三三)山形、辻仙吉四女)弟平次郎(同四、四生)も亦各分家せり(山形、最上、眞室川村)

君は山形縣人佐藤里治の長男にして明治元年二月を以て生れ先代長八の養子となり同三十七年家督を相續す夙に早稲田大學を卒業し農業を營み現に前記會社の重役にして山形縣より選ばれて衆議院議員となり立憲民政黨に屬し當選三回に及ぶ農に縣會議員山形民報社長たりしことあり家族は尙孫壽子(昭四、一〇生、養子晋三長女)あり養子綾子(明三二、五生、山形、士、鈴木重房五女)は山形縣人齋藤敏夫に嫁せり(山形、西村山、西山村)

能勢電氣鐵道、六甲山聯合自動車各取締役、今津後電鐵監査役、阪神急行電鐵運轉課長 大阪府在籍

佐藤 博夫 明二九、五生、大阪、大探健十郎

妻 フシヨ 明二九、五生

男 和夫 明四、五生

君は大阪府人佐藤敏夫の弟にして明治十八年十一月を以て生れ大正十二年分れて一家を創立す現に阪神急行電鐵會社運轉課長にして前記會社の重役たり家族は尙長女清子(大六、九生)二男正夫(同二五、六生)あり(大阪、豊能、箕面村)

佐藤 廣吉 兩野工業事務取締役、二國商店 應取取締役、新潟縣在籍

妻 カ 明三〇、一一生、栃木、三五治助

男 祝 明四九、三三

女 フ 明四九、三三

君は新潟縣人佐藤仁市郎の二男にして明治二十年五月を以て生れ現時前記會社の重役たり家族は尙四女節子(大一一、一一生)五女幸子(同一一、三三)二男俊三(同二五、三三)三男照雄(昭四、一一生)亡兄俊二妻ツタ(明二二、三三)新湯、三五房五郎長女、現戸主)弟文(同二四、一一生)同妻キヨ(同三三、一一生、新湯、佐藤猶藏孫)及其子あり(尼利、通四丁目)

正五位勳六等、秋田鐵山專門學校教授、山形縣士族

佐藤 廣太 明二四、一一生、新湯、新井太郎二

妻 仲 明二四、一一生、新湯、新井太郎二

女 廣行 明二四、一一生、新湯、新井太郎二

君は北海道人佐藤平次郎の長男にして明治十一年二月を以て生れ昭和二年家督を相續す兩合羽商を營む家族は尙三女義惠(大七、六生)四女靜江(同二一、一一生)弟長吉(明三〇、一一生)同妻ハル(同三四、一一生)北海道、水野政治妹)及其子女妹ヨル(同三三、一一生)同大權三郎(同三二、一一生、齊藤茂登庶子)及其子男徳平(大二、五生)同藤藏(同五、九生)あり弟平吉(明二一、二生)同妻キヨ(同三〇、三三)新湯、齊藤寅太郎三女)は其子女を伴ひ分家し明徳司(同三五、一一生)同妻キヨ(同四〇、四生、北海道、岩崎重作長女)も亦其子女を伴ひ分家せりA二九〇三B五五一(函館、鶴岡町六五電一四四九)

福岡縣多額納稅者、綿平、酒造業 福岡縣在籍

佐藤 平次郎 明四一、一〇生、長男太左衛門妻

妻 カ 明四一、一〇生、福岡、岩隈久兵衛長女

男 太左衛門 明四一、一〇生

男 佛子 明四四、一〇生

君は福岡縣人佐藤平次郎の長男にして明治七年一月を以て生れ同十六年家督を相續し前名篤太郎を改め號名を綿平と稱し酒造業を營み直接國稅二千二百三圓を納め福岡縣多額納稅者たり家族は尙四男太吉郎(大二、一一生)五男太一(同五、一一生)六男平一(同九、八生)三女チヨ(同二二、一一生)あり長女セツ(明三七、五生)は福岡縣人中村惣次郎に嫁し妹マキ(慶應二、一一生)は同縣人格崎次七に嫁し二男平助(明四一、一一生)は他に弟美三郎(同三三、二生)は同縣人劉清七に各養子となり二女フミ(同三九、一一生)同夫保彦(同三三、三三)洞菊太郎三男)は共に分家し弟順吉(同九、一一生)は同妻トミ(同二一、一〇生)福岡、岩隈久兵衛二女)と共に弟玄四郎(同二五、一〇生)は同妻トモ(同二六、一一生)福岡、上原直次郎二女)と共に各其子女を伴ひ分家せり(福岡市本町三八電一〇)

佐藤 平亮 從五位勳六等、判事、神戸地方裁判所判事、千葉縣在籍

父 民治 慶應三、一一生、現戸主

繼母 よし 明元、一一生

君は山形縣人佐藤助信の二男にして明治十九年二月を以て生れ大正三年祖母辰の後を承け家督を相續す明治四十四年東京帝國大學工科大学探検冶金科を卒業し九州帝國大學工科大学助教授を経て大正六年現職秋田鐵山專門學校教授に任ず同年英米佛に留學を命ぜられる家族は尙長女和子(大七、三三)二女悦子(同二四、一〇生)二男鏡二(昭四、一〇生)あり(秋田市手形谷地町下官舎)

仙臺商工會議所議員、山三カイバイト代表取締役、東北土地漆器警備セメント、仙臺市街自動車各監査役、宮城縣在籍

佐藤 熙治 明一一、五生、養父勝治長女

妻 しん 明三三、一〇生

男 芳三郎 明四〇、三三

男 三郎 明四〇、三三

男 竹治郎 明四四、六生、三男竹治郎妻、福島、伊藤榮三郎三女

君は宮城縣人佐藤信作の二男にして明治三年七月を以て生れ同縣人佐藤勝治の養子となり同三十七年分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして推されて仙臺商工會議所議員たり家族は尙七男稔(明四五、三三)あり二女トキ(同三五、一一生)は山形縣人尾形輝太郎に三女あや(同四二、二生)は宮城縣人飯塚良雄に嫁せり(仙臺、東三番丁一三電五六二)

佐藤 平右衛門 鹿兒島縣多額納稅者、佐藤商會 代表社員、鹿兒島縣在籍

妻 七 元治元、二生、鹿兒島、横山惠吉

男 彦藏 明二〇、一一生

君は鹿兒島縣人佐藤彦左衛門の三男にして安政元年一月を以て生れ明治二十八年家督を相續し前名太兵衛を改む縣下の大地主にして鹿兒島縣多額納稅者に列し佐

萬子 明二七、九生、山口、武富收太郎長女

君は千葉縣人佐藤民治の長男にして明治二十年四月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大学探検冶金科を卒業し同年司法官試補となり同五年判事に至る六年檢事に更に判事に任ぜられ在任保區裁判所判事に補せられ和歌山地方兼同區裁判所判事を經て大正十二年神戸地方裁判所判事に轉じ今日に至る(神戸、楠町六一四九官舎電元町三八二)

從六位、帝國人造絹絲社長、朝鮮鐵業取締役、大分縣在籍

佐藤 法潤 明一七、七生、大阪、村越直治五

妻 ナツ

君は大分縣人佐藤法爾の三男にして慶應元年一月を以て生れ大正元年弟時平方より分れて一家を創立す業に臺灣總督府專賣局事務官に任ぜられ同總督府庶務課長同神戸支局長となる退官後日本クレイ會社社長長阪神豆粉會社監査役を経て現時前記各會社の重役たり(廣島市織町一四〇)

沼田電氣鐵道取締役、佐藤商會 代表社員、船泊及漁業 北海道在籍

佐藤 正男 明三三、九生、北海道、齋藤丈雄

妻 世 明三三、九生

君は北海道人佐藤松太良の長男にして明治二十八年六月を以て生れ大正七年家督を相續す船泊及漁業を營み傍ら前記會社の重役たり家族は尙長女よし(大八、三三)二女喜代子(同一一、一一生)二男孝次(昭二、一一生)弟榮(明三四、九生)同妻ヨリ(同三九、一一生)青森、内山永造孫(弟格一(同三五、一一生)同妻貞子(同四〇、九生)青森、野村理三郎四女)及其一男七弟廣志長男和廣(昭元、一一生)あり妹マサ(明二九、八生)同夫常三郎(同一九、七生)青森、野村逸民弟)は其一男を伴ひ弟正志(同三一、四生)同妻安喜(同三五、九生)神奈川、八幡安兵衛二女)は各分家せり(東京、赤坂、檜町三電青山五三一)

參照 齋藤丈雄、野村理三郎の項

佐藤 正雄 四國電力代表取締役 德島縣在籍

妻 千代 明三〇、一〇生、大阪、山住義次郎二女











**佐藤 健一** 大正、一〇生  
 君は熊本縣人佐藤吉の長男にして明治二十五年二月を以て生れ大正四年家督を相続す酒類醸造業を營み濱町商工會長其他數多の公職を帶ぶ家族は尙ほ二男道雄(大七、二生)二女カネ(同九、一〇生)三女アツ(同二、二生)弟篤次(明三三、一〇生)同妻洋子(同四三、一〇生)熊本、河野重孝長女)及其一子あり弟由雄(同三四、九生)は熊本縣人下田中藏の養子となり妹キヨ子(同三六、一〇生)は同縣人吉住晴吉に嫁せりA一四九六B四五八(熊本、上益城、濱町電三)

**佐藤 利市** 從五位勳六等、農學博士、上田蠶絲專門學校教授、福島縣在籍  
 父 彦吉 安政三、二生、現戶主  
 母 ヨシ 安政五、四生、福島、松浦吉左衛門長女  
 妻 その 明三一、一〇生、長野、土、正木直太郎四女  
 男 成男 大五一、一〇生  
 君は福島縣人佐藤彦吉の長男にして明治二十年九月を以て生れ大正二年東北帝國大學農學科を卒業し直に同大學助手となり同七年上田蠶絲專門學校教授に任じ今日に至る先是同十五年獨佛米に留學し昭和三年歸朝す家族は尙ほ長女みえ(大一一、三三)二女すよ(昭四、八生)弟正彦(明三一、一〇生)同妻ハツ(同三二、一〇生、福島、佐藤太次兵衛孫)及其子女あり妹カヨ(同二三、一〇生)は福島縣人新井太二男久次郎に同ミツヨ(同二六、三三)は同縣人淺間直次郎長男直一に嫁せり(上田、北大手町)  
 參照 中中原省三峯郡澤田太郎の項

**佐藤 利助** 福島縣參事、福島電氣鐵道取締役、桑折電氣鐵道取締役  
 父 善四郎 弘化三、八生  
 母 フキ 明八、二生、福島、紺野九右衛門  
 妻 善一郎 明三一、一〇生  
 男 善一郎 明三三、七生、長男善一郎妻、福島、渡邊治六孫  
 女 エイ 明三三、三三  
 明四〇、六生  
 明四二、二生

**佐藤 起美** 明二三、一二生、和歌山、海野駒市二女  
 君は和歌山縣人先代瑞兵衛の二男にして明治十四年二月を以て生れ同三十年家督を相続し前名瑞吉を改め製菓才現時南海銀行取締役にして和歌山縣會議員に擧げらるる義に同縣參事會たり家族は尙ほ二男盛夫(大五一、一〇生)二女ま(同七、一二生)三女久美子(同二〇、一〇生)四女きよ(同三三、九生)三男直巳(同二五、八生)五女みゆ(昭三三、三三)あり妹つる(明一七、七生)は和歌山縣人濱口喜代松長男佐一郎に嫁せり(同九、一〇生)は同縣人如中平吉三男虎左右に嫁し弟三四吉(同二〇、一〇生)叔父貞四郎(同四、八生)は各分家せり(和歌山、東平妻、下里町)  
 佐藤 竜治 秋田鐵道取締役社長  
 宮城縣土族

**佐藤 理吉** 山形縣參事會、最上銀行取締役、農學、山形縣在籍  
 妻 リヨウ 明二〇、九生、養父喜四郎長女  
 男 啓輔 明四三、三三  
 女 良藏 明四三、三三

**佐藤 瑠兵衛** 和歌山縣會議員、南海銀行取締役、和歌山縣在籍  
 母 起美 明二三、一二生、和歌山、海野駒市二女  
 妻 市二女  
 君は和歌山縣人先代瑞吉の二男にして明治十四年二月を以て生れ同三十年家督を相続し前名瑞吉を改め製菓才現時南海銀行取締役にして和歌山縣會議員に擧げらるる義に同縣參事會たり家族は尙ほ二男盛夫(大五一、一〇生)二女ま(同七、一二生)三女久美子(同二〇、一〇生)四女きよ(同三三、九生)三男直巳(同二五、八生)五女みゆ(昭三三、三三)あり妹つる(明一七、七生)は和歌山縣人濱口喜代松長男佐一郎に嫁せり(同九、一〇生)は同縣人如中平吉三男虎左右に嫁し弟三四吉(同二〇、一〇生)叔父貞四郎(同四、八生)は各分家せり(和歌山、東平妻、下里町)  
 佐藤 竜治 秋田鐵道取締役社長  
 宮城縣土族

**佐藤 龍馬** 從五位勳六等、司法書記官兼檢察事務局長、東京府在籍  
 妻 愛子 明三八、四生、東京、吉田輝二女  
 君は宮城縣人佐藤喜治の長男にして明治五年八月を以て生れ大正十五年家督を相続す現時秋田鐵道會社取締役社長たり家族は尙ほ孫祥子(昭四、一〇生)養子龍雄長女)ありA三〇〇(仙臺、片平町五二)

**佐藤 龍平** 岩手縣多額納稅者、製絲業  
 父 秀藏 嘉永四、三三  
 母 セイ 明四、四生、岩手、加藤五兵衛  
 妻 平 明三九、六生  
 男 忠平 明四二、六生  
 女 謙美 明四四、九生  
 君は岩手縣人佐藤秀藏の長男にして明治七年一月を以て生れ大正十年家督を相続す現時東京法學院を卒業し製絲業を營み直接國稅六千六百八十七圓を納め縣下の多額納稅者に列じ義に大樋水電氣會社取締役任に擧げらるる家族は尙ほ三男秀司(大一一、一〇生)四女節子(同六、一二生)五女時子(同二〇、一〇生)あり(岩手、東磐井、樽澤村)

**佐藤 亮太郎** 鳳至銀行監査役、石川縣在籍  
 母 嘉永三、九生、石川、津橋久四郎  
 妻 はつ 明八、七生、石川、泊宗一姉  
 男 明三九、六生、石川、村田嘉七郎  
 女 明三九、六生、石川、村田嘉七郎

**佐藤 量平** 下仁田銀行頭取、上毛貯蓄銀行上信電氣鐵道、下仁田倉庫各役、群馬縣在籍  
 妻 けさ 治三三、三三、群馬、市川和藤  
 男 耕平 明二二、六生  
 女 明二二、六生  
 男 明二二、六生、二男耕平妻、埼玉根岸雄三姉  
 女 明二九、四生  
 男 明三七、六生、四男耕妻、群馬、多賀谷甲子太郎五女  
 女 明三三、四生  
 君は群馬縣人佐藤嘉右衛門の長男にして安政五年七月を以て生れ先代幸五郎の養子となり明治十八年家督を相続す現時銀行會社の重役として知らるる家族は尙ほ孫和子(大一一、一〇生)二男耕平(二女)同林平(同二五、三三)同直子(同二五、一〇生)四男耕長女)あり養父幸五郎(天保九、一〇生)養母さく(嘉永元、一〇生)群馬、高野定八三女)を伴ひ分家し三男三郎(同二四、二二生)も亦分家し長女きく(同二八、二二生)は群馬縣人石井金造養子(二女ま) (同二七、一〇生)は埼玉縣人岡崎重藏(三女たけ) (同三二、八生)は東京府人橋本徳吉(四女うめ) (同三四、一二生)は同府人美山晋吉に從妹(慶應元、六生、叔母きみ長女)は同府人諸岡正に嫁し(群馬、北甘梁、磐戸村)は前記三郎の養子となれり(群馬、北甘梁、磐戸村)

**佐藤 禮云** 從五位、埼玉縣師範學校長、愛知縣土族  
 妻 富昭 明二四、四生、養父直二女  
 男 正昭 昭四、一〇生  
 女 美惠 大三、三三、三輪田高女出身  
 君は愛知縣人青山友三郎の二男にして明治十七年五月を以て生れ先代直の養子となり昭和五年家督を相続す大正四年東京帝國大學文學部を卒業し私立成田中學校校長同縣立濱松中學校校長文部省督學官兼圖書監修官等に歴任し昭和五年埼玉縣立師範學校長に轉じ日本大學駒澤大學の講師たり家族は尙ほ二女松江(大八、九生)三女靜子(同二四、七生)あり(東京、本郷、駒込神明町三六四)

**佐藤 治郎** 福井紡績、錦華紡績各社長、福井縣在籍  
 妻 源市 嘉永五、八生、現戶主  
 養母 けむ 嘉永五、二生、靜岡、山下善吉妹  
 男 進 明一〇、一〇生、養父源市長女  
 女 花子 明四四、六生  
 君は靜岡縣人山下善吉の二男にして明治六年七月を以て生れ同二十五年當主源市の養子となる同二十七年慶應義塾理財科を卒業し現時前記各社長たり家族は尙ほ三男悟(大三、一〇生)二女糸子(同八、二二生)あり養妹しゆう(明一三、一〇生)は靜岡縣人古橋貞次郎長男

**佐藤 和右衛門** 福島市會議員、福島商工會議所常議員、酒造業、福島縣在籍  
 妻 トヨ 明一三、一〇生、福島、松本徳平二女  
 男 庄八 明三四、八生  
 女 明三三、九生  
 男 三郎 明四一、一〇生  
 女 明四一、一〇生  
 君は福島縣人先代和右衛門の二男にして明治十年三月を以て生れ同二十八年家督を相続す酒造業を營み現に福島市會議員福島商工會議所常議員にして福島酒造組合聯合會長たり家族は尙ほ四男和男(大四、七生)六女ムツ(同六、四生)五男五郎(同七、一〇生)六男六郎(同九、一〇生)六女フミ(同二〇、三三)あり長女トヨ(明三〇、七生)は福島縣人松本勘六長男嘉一郎に二女ミヨ(同三六、七生)は同縣人小島守に三女キヨ(同四一、一〇生)は同縣人泉田秀成に嫁せりA五〇〇B一五〇(福島市豊田町三五)

**佐藤 米藏** 正五位勳四等、判事、宮津區裁判所判事兼京都府裁判所宮津支部判事、高知縣土族  
 妻 ちよの 明一七、五生、養父敦常長女  
 男 義信 明四二、三三、東大法學部獨法科在學  
 女 鶴野 明四四、六生、新舞鶴技術學校高等專攻科出身  
 君は高知縣人西村達吉の長男にして明治九年二月を以て生れ先代敦常の養子となり大正十年家督を相続す明治三十三年關西法律學校を卒業し同三十六年判事登用試験に合格し直ちに司法官試験となり同三十九年判事に任ぜられ札幌地方裁判所判事に補せられ爾來同地方兩箇區同地方三箇區廣域區裁判所判事に補せられ爾來同地方各裁判所判事兼鶴野區裁判所判事兼京都府地方裁判



廿之部 佐野

所舞鶴支部長等に候補し昭和六年現職に轉ず家族は...

佐野 伊平 明治冷蔵、朝日商事、神戸鮮牛移...

男 忠平 大九、一一生

君は兵庫縣人佐野仙藏の二男にして明治十七年十二月...

佐野 勇 鴻池銀行神戸支店支店長兼兵庫支店...

男 源一 大九、一一生

君は大阪府人磯野平貴の弟にして明治十一年十一月を...

佐野 會輔 從四位勳二等功五級、陸軍主計總...

男 一 明一七、五生、東京、渡邊悠妹

君は靜岡縣人佐野孫七の長男にして明治七年四月を以...

廿之部 佐野

一三、一二生あり二女芳子(明四四、一〇生)は東京...

佐野 龜雄 機械製造業 東京府士族

男 亮太郎 大二、一一生

君は東京府士族佐野卓の長男にして明治十一年二月を...

佐野 喜久藏 靜岡縣多額納稅者、紙類商

男 喜一郎 明二〇、一一生

君は靜岡縣人佐野大兵衛の長男にして安政六年九月を...

佐野 菊次郎 鐵道銀行取締役、佐野商店賣代...

男 青造 明三〇、五生、長男青造妻、東京

君は香川縣人藤原長次(明二二)にして明治元年四月を以...

廿之部 佐野

君は東京府人新堀惣三郎の二男にして明治二年一月を...

佐野 吉之助 明治冷蔵社長、中央亭取締役...

男 英三郎 明四三、五生

君は兵庫縣人小倉たけの兄にして安政六年八月を以て...

佐野 久太郎 石川縣多額納稅者、金融業

男 重滿 明四一、九生

君は大阪府人佐野淺次郎の長男にして明治十二年三月...

佐野 小三郎 鳥幸、鶏肉商 大阪府在籍

男 重滿 明四一、九生

君は東京府人佐野忠次郎の長男にして明治六年八月を...

廿之部 佐野

君は靜岡縣人佐野米吉の二男にして現戸主隆一の弟な...

佐野 忠司 大阪屋商店取締役兼調査部長...

男 忠太 大〇、一〇生

君は山梨縣人佐野市兵衛の二男にして明治四年十一月...

佐野 長松 富國農具代表取締役、東京...

男 長一 明四一、一一生

君は山梨縣人佐野市兵衛の二男にして明治四年十一月...

佐野 幸助 石崎專務取締役、南福崎土地...

男 武彦 明四三、七生

君は山梨縣人佐野市兵衛の二男にして明治四年十一月...

廿之部 佐野

君は兵庫縣人佐野仙藏の二男にして明治十七年十二月...

佐野 伊平 明治冷蔵、朝日商事、神戸鮮牛移...

男 忠平 大九、一一生

君は兵庫縣人佐野仙藏の二男にして明治十七年十二月...

佐野 勇 鴻池銀行神戸支店支店長兼兵庫支店...

廿之部 佐野

君は大阪府人磯野平貴の弟にして明治十一年十一月を...

男 一 明一七、五生、東京、渡邊悠妹

君は靜岡縣人佐野孫七の長男にして明治七年四月を以...

廿之部 佐野

君は東京府人新堀惣三郎の二男にして明治二年一月を...

男 英三郎 明四三、五生

君は兵庫縣人小倉たけの兄にして安政六年八月を以て...

廿之部 佐野

君は大阪府人佐野淺次郎の長男にして明治十二年三月...

男 重滿 明四一、九生

廿之部 佐野

君は香川縣人藤原長次(明二二)にして明治元年四月を以...

佐野 新平 香川縣多額納稅者、香川銀行、帝...

男 弘毅 明四二、九生、東京帝大經濟學部

君は舊伊勢國津藩士佐野嘉衛の二男林君之介の兄にし...

佐野 精一 東京電燈取締役、飯山鐵道監...

男 弘毅 明四二、九生、東京帝大經濟學部

君は東京府人佐野忠次郎の長男にして明治六年八月を...

佐野 忠司 大阪屋商店取締役兼調査部長...

廿之部 佐野

君は山梨縣人佐野市兵衛の二男にして明治四年十一月...

佐野 長松 富國農具代表取締役、東京...

男 長一 明四一、一一生

君は山梨縣人佐野市兵衛の二男にして明治四年十一月...

佐野 幸助 石崎專務取締役、南福崎土地...

男 武彦 明四三、七生

君は山梨縣人佐野市兵衛の二男にして明治四年十一月...

佐野 幸助 石崎專務取締役、南福崎土地...

廿之部 佐野

廿之部 佐野

廿之部 佐野

廿之部 佐野

廿之部 佐野



**佐野常羽** 正三位勳三等功四級、伯爵、海軍少將、東京府華族  
 養子 常光 明三九、五生、公爵一條實孝養弟  
 當家は藤原秀郷の末葉佐野源左衛門當世の後にして十世の孫常貞に至り佐野藩に仕へ相傳へて先代常民に至りて家名を揚ぐ常民嘉永五年藩命に依りて海軍創立汽船製造の事を管理し後海外に航し商工業を視察す歸朝後兵部少輔工部大丞伊藤兩閣在勤辦理公使大藏卿元老院議長農商務大臣樞密顧問官等に歴任し日本赤十字社長に擧げらる明治十七年華族に列し子爵を授けられ同二十八年伯爵に陞る君は其三男にして明治四年七月を以て生れ同三十五年家督を繼ぎ翌年海軍に入らる獨逸大使館附武官樺名艦長等に歴補し日露戦役の功に依り功四級を賜ふ家族は尙弟常紙(明八、一一生)あり同常尾(同一、一一生)は分家し姪米子(同一五、一一生、亡兄常樹長女)は男爵小野輝光長男章正に同仲子(同一九、五生、同二女)は愛知縣士加藤景太郎養子秀一に嫁し同茂子(同二四、六生、同四女)は東京府人近藤利兵衛の養子となり(東京市外馬込町寺郷二九九五電高輪二六一)  
 參照 伯爵一條實孝、男爵小野輝光、近藤利兵衛、伯爵南部利英、子爵水野忠亮、男爵一條實基、男爵木邊孝慈の項

佐野利器

正四位勳三等、工學博士、清水組  
 養父 誠一郎 安政六、一一生  
 養母 マイ 明二、二生、山形、士、増戸如雪  
 妻 ませ 明二八、六生、山形、士、秦繼弘  
 男 啓一 大八、一一生  
 女 千代 大八、一一生  
 君は山形縣人山口三郎兵衛の四男にして明治十三年四月を以て生れ先代誠一郎の養子となり大正九年家督を相續す明治三十六年東京帝國大學工學科大學建築學科を卒業し直に大学院に入る同三十九年同大學助教に任ぜられ同四十二年建築學博士の學位を得同七年東京帝國大學に留學し大正四年工學博士の學位を得同七年東京帝國

大學工學科大學教授に逾り同十年宮内省工務課長兼任となり明治神宮造營局參事兼復興院理事東京市建築局長たる傍ら建築學會々長たりし現時合資會社清水組副社長にして日本大學工學部長を兼ね家族は尙三女(明六、一一生)四女(明一、一一生)あり長女芳(明四三、一一生)は茨城縣人武藤完雄弟清に嫁せり(三五六)東京、小石川、駕籠町一六〇電大塚二〇三六)  
 參照 伯爵後藤一藏の項

佐野智勝

正四位、男爵  
 當家は先代延勝より家名を揚ぐ延勝は舊幕臣にして明治四年陸軍少尉に任じ果進して陸軍中將に陞る其間東京鎮臺騎兵隊長馬局長騎兵局長騎兵監等に歴補し同二十九年華族に列し男爵を授けられ後貴族院議員に擧げらる君は其長男にして明治十二年六月を以て生れ大正四年男爵す明治三十九年學問院高等科別科を卒業し京都帝國大學法科大學獨法科に學び兼に豐國銀行員たりし現時關地に在り妹常子は埼玉縣人齋藤周一郎の養子となり(東京、小石川、水道通町二〇六四)  
 參照 伯爵後藤一藏の項

佐野秀之助

正五位、工學博士、東京帝國大學  
 教授、工學部勳務、東京府在籍  
 妻 幸 明三、二生、京都、林田助三郎姉  
 明二九、九生、大阪、佐野幸助三  
 君は大坂府人佐野純三の長男にして明治二十年十二月を以て生れ同三十三年家督を相續す同四十五年東京帝國大學工學科大學探礦學科を卒業し大正二年獨逸に留學し同四年明治專門學校教授となり同十五年東京帝國大學教授に任じ現時工學部勳務たり同十五年工學博士の學位を授けらる家族は尙長女鈴子(大六、九生)あり(東京、本郷、向ヶ岡通生町三三二九電小石川二八九九)  
 參照 佐野幸助の項

月を以て生れ同二十九年分れて一家を創立す同三十四年東京帝國大學醫學科大學を卒業し脊髓腦神經系統學を専攻し同四十四年醫學博士の學位を受く夙に佐野内科病院を設立し現時其院長たり家族は尙二男(明六、一一生)三男(明六、六生)あり弟學(明二五、二生、法學士)は分家し妹ミチ(同一四、八生)は大分縣人黒屋辰六に嫁せり(東京、神田、小川町三三電神田三四八〇)  
 參照 伯爵後藤一藏の項

佐野譽

佐野病院長、醫師  
 妻 まん 元治元、一〇生、静岡、渡邊長助  
 男 秀道 明一五、一一生  
 男 進 明二二、七生  
 男 明三、二生  
 女 あや五 明四二、四生、八男進妻、兵庫、荒木卓三郎三女  
 君は静岡縣人佐野寛道の長男にして安政三年十一月を以て生れ明治十九年家督を相續す同十八年東京帝國大學醫學部を卒業し佐野病院を經營する院長たり家族は尙孫光司(大一一、二生、長男秀道庶子)同なき(昭四、八生、八男進長女)あり三男實(明二二、一一生)同妻いく(同三三、一一生、京都、西谷源三郎二女)は其二子を伴ひ分家し三女梅(同二六、三生)は大坂府人竹内理一亡弟伊三の末亡人にして七男梅雄(同三一、三生)は兵庫縣人山本乙五郎の養子となり(一〇〇一)(神戸、北長狭通四ノ三三ノ一電養合三〇九三)  
 參照 竹内理一、山本乙五郎、今井茂次の項

佐野正次

正五位勳四等、銀行検査官、銀行  
 妻 富貴 明二三、一一生、東京、佐野正一  
 男 芳郎 明四五、六生  
 女 勝子 大八、九生  
 君は東京府人大田正太郎の二男にして明治十五年十二月を以て生れ先代美津の養子となり大正六年家督を相續す明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し大藏書記官兼管財局理事大臣官房會計課長等を經て現時銀行検査官に任じ銀行検査課長たり家族は尙二男(明六、五生)三男充郎(同八、三生)四男幸郎(同一、三生)及兄正三(明一三、一〇生)あり(東京

市外落合町下落合丸山三〇四電大塚三八〇九

**佐野政清** 三十四銀行取締役、共同信託  
 妻 貞女 藏三女  
 男 政和 大七、九生  
 君は滋賀縣人佐野眞次郎の弟にして明治十四年二月を以て生れ同十四年分れて一家を創立す現に三十四銀行取締役にして前記會社の重役たり家族は尙二男(明一五、一一生)四女(明一、一一生)あり(兵庫、武庫、精道村蘆屋山角一〇九五電芦屋二六四一)

佐野光信

從五位勳三等、陸軍航空兵大佐、  
 陸軍航空本部第二課長  
 妻 マサ 明三二、二生、男爵松永正雄妹  
 男 光政 大六、一一生  
 君は三重縣人佐野秀治郎の三男にして明治十五年十月を以て生る夙に軍籍に入り明治三十七年陸軍歩兵少尉に任じ大正十四年航空兵科に轉じ昭和二年同大佐に果進す陸軍出身以來歩兵第三十三聯隊附參謀本部員陸軍航空部員陸軍航空學校教官志津陸軍飛行學校教官部長飛行第五聯隊長陸軍飛行學校教官部長兼同校研究部員等に歴補し昭和四年前記現職に轉ず其間大正八年より大正十二年夏軍事航空研究の爲め歐洲に出張す家族は尙長女貞子(大一一、三生)あり(東京市外武蔵野町境水吐三六三)  
 參照 男爵松永正雄の項

佐野勇次郎

徳島縣會議員、徳島縣多額納税者  
 妻 ヨシエ 明一七、四生、徳島、佐藤莊三郎  
 男 芳二 明三六、一一生  
 男 明四〇、一一生、長男芳二妻、徳島、久米照三郎孫  
 女 マツ子 明四二、九生  
 君は徳島縣人先代勇次郎の長男にして明治十四年十二月を以て生れ大正九年家督を相續し前名英二を改め號名す工業を營み直接國稅一千五百六十七圓を納め縣下の多額納税者に列し又徳島縣會議員に選ばれる義に同縣參事會員たり家族は尙三男正之(大三、三生)四男源三

佐野雄治

正四位勳二等功四級、海軍主計中  
 妻 フミ 明一五、三生、佐賀、白石伴一郎  
 男 元凱 明二九、三生  
 女 和子 明四五、一一生  
 君は群馬縣人佐野野四郎の四男にして明治二年五月を以て生る夙に海軍に入り少主計に任じ大正十年海軍主計中將に果進す其間海軍省經理局第一課長海軍經理學校長等に歴補し現時豫備役たり家族は尙男(明二四、九生、亡兄安長男、現戶主)同妻綾(同三五、九生)同、井浦義久四女)及其子女あり長女八重子(同三〇、四生)は茨城縣人宮本雄次弟三女操子(同三三、五八生)は兵庫縣人横山邦成に嫁せり(同四一、一〇生)は東京府人後藤以紀に嫁せり(同一九、三生)は兵庫縣人柿原琢郎に嫁せり(東京市外大久保町百人町七五)  
 參照 柿原琢郎、西山喜久平の項

佐野隆一

鐵道社理事取締役、電業製鐵  
 妻 忠太 大一一、一〇生  
 君は静岡縣人佐野米吉の長男にして同忠司の兄なり明治二十二年八月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治四十二年東京高等工業學校應用化學科を卒業し現時株式會社鐵道社理事取締役電業製鐵會社取締役たり家族は尙弟憲三(明三三、一一生)同妻みや(同四一、九生)、千葉、飯塚純造長女)及其一男あり(東京市外荏原町戸越一二四三)  
 參照 佐野忠司の項

佐野隆太郎

紙商  
 妻 キメ 明一五、五生、廣島、竹野内直太  
 母 サダコ 明三四、三生、廣島、竹野内英夫  
 妹

**安民** 大一一、二生  
 君は廣島縣多額納税者先代隆太郎の長男にして明治二十九年四月を以て生れ昭和五年家督を相續し前名武三を改め號名す父業紙商を營み縣下の豪商たり家族は尙長女操子(大一一、八生)二女節子(明三三、一一生)三女綾子(同五、二生)弟克巳(明三七、一〇生、慶大出身)同妻ミヨ(同三五、一一生、長崎、綠谷喜平次養子)及其一男妹周子(同四三、三生)同壽子(大三、三生)弟重義(同五、九生)あり妹元子(明四〇、二生)は廣島縣人高橋達三に同信子(同四一、五生)は山口縣人松井邑次郎長男韓一に養父叔母ハナ(同一八、四生、廣島、岩泉政次郎三女)は同縣人杉浦榮次郎に嫁せり(廣島市中島本町八電七八六)  
 參照 松井邑次郎の項

佐野令三

輸出入商  
 妻 セイ 文久三、三生、静岡、土、岡本廣太郎妹、東京女高師出身  
 男 謙爾 明二〇、七生  
 女 前田貞久妹  
 當家は慶長の頃大和に於て醫を業とす元和元年大阪落城に際し逃れて豊後國杵築に至り爾來連綿として世々醫を以て藩公に仕ふ父向孝翁小倉藩士中村家より入りて其後を享く夙に長崎に出で蘭學を修め常に藩醫の主席として令名あり君は其二男にして安政四年七月を以て生れ明治二十二年分れて一家を創立す同五年父を負て東都に出で開成學校備門商法講習所に學び後丸善商店に入り同十二年英國に渡航更に歐米各國を巡遊し歸朝後生絲輸出業を營み併せて歐米物貨の輸出入業を開始し以て今日に及び又會て臺灣鐵道會社監査役に推される家族は尙孫喜勢(大一一、四生、長男謙爾長女)同登勢(昭三、四生、同二女)あり長女キク(明二一一生、東京女學館出身)は日本銀行理事兼大阪支店長囑託中根貞彦に二女ヨシ(同二三、四生、出身校同上)は日本興業銀行理事松本弘造に三女悠(同二八、三生、出身校同上)は山口縣人小野格氏に四女薫(同二九、四生、出身校同上)は醫學博士中村豊に六女文(同三五、七生、出身校同上)は福岡縣人三菱銀行員赤間吉三郎に嫁し二男倫次(同二五、一一生、東亞同文書院出身)は東京府人佐野尙の養子となり三男巳世兒(同二六、



























參照 松山基範 濱南條金雄の項

齋藤 洲司

住支信託東京支店支配人 千葉縣在籍 母 文久二、八生、神奈川、伊藤喜兵衛三女 妻 ヒデノ 明三〇、七生、兵庫、志立金彌五

齋藤 俊吉

從四位勳三等、陸軍歩兵少尉、東京工業大學教授、東京府士族 母 文 嘉永四、一、二生、岡山、大野左一 妻 マヅ 明一九、一、生、東京、安田貞妹 男 隆一 明四四、九生 女 高子 大四、九生

齋藤 倫

日本晝夜銀行副頭取、安田銀行第三銀行、日本精工各廠監査役、安田保善社監事、埼玉縣在籍 妻 とし 明六、三生、埼玉、大垣六郎左衛門二女 男 弘文 明二八、一、生、法學士、辯護士、明理士 妻 静枝 明三七、九生、長男弘文妻、東京 女 富美 明二九、九生 男 弘武 明三三、一、生

齋藤 庄之助

勳六等功六級、山形民報社長兼主幹、福島縣在籍 妻 ハツ 明一〇、五生、山形、菊池豹次郎 女 明三三、二生、山形民報社支配人 兼編輯長 男 齋 明三七、二生、山形民報社支配人 以て生れ先代スイの養子となり同三十七年家督を相続す 君は福島縣人清野庄太郎の長男にして明治六年五月を以て生れ先代スイの養子となり同三十七年家督を相続す 君は福島縣人清野庄太郎の長男にして明治六年五月を以て生れ先代スイの養子となり同三十七年家督を相続す 君は福島縣人清野庄太郎の長男にして明治六年五月を以て生れ先代スイの養子となり同三十七年家督を相続す

齋藤 省一郎

從五位勳六等、判事、岡山地方裁判所部長、福井縣在籍 父 五郎右衛門 安政三、二生 母 ヒテヲ 文久元、一、生、福井、藤野教順 妻 もと 明三〇、一〇生、福井、田中甚兵衛三女 男 壽 大六、九生

齋藤 新三郎

西邊銀行總務部長 父 元、三生、静岡、天野俊三郎二女 妻 もと 明二二、一、生 男 宗治 明三二、一〇生、三男宗治妻、静岡 女 はつ 明二四、三生 女 七七郎 明三三、七生 女 七七郎 明三三、七生

齋藤 清太郎

正四位勳三等、東京帝國大學教授 父 五郎右衛門 安政三、二生 母 ヒテヲ 文久元、一、生、福井、藤野教順 妻 もと 明三〇、一〇生、福井、田中甚兵衛三女 男 壽 大六、九生

參照 高木鎮二 大島堅造 高野吉太郎の項

齋藤 順三

安田銀行總務部長 妻 孝太郎 明三八、二生 妻 米子 明四〇、八生 妻 歌子 明四二、八生

齋藤 眞澄

正五位勳四等、大和鐵道社長、鐵道總局局長、東京府士族 妻 允 明一六、三生、岐阜、吉田贊三二女 男 不子 明四三、二生 女 明四四、七生

齋藤 正平

東京イシ工業常務取締役 妻 マツエ 明一七、一、生、北海道、士、渡 男 正秀 明三七、五生 妻 順子 明四一、一、生、長男正秀妻、貴族院議員、本清治三女、實踐女學校出身

齋藤 清一

千葉縣議員、千葉縣多額納税者、千葉水電氣取締役、酒造業 妻 けん 慶應二、一、生、千葉、齋藤新吉 妻 てゑ 明二四、一、生、千葉、三木房吉 養子 重文 明三二、一〇生、長女郁子夫、千葉 女 郁子 明四二、一〇生、養子重文妻 女 ふみ子 明四二、七生

齋藤 清助

東京株式取引所取引員 妻 モト 明一八、七、生、新潟、小澤七三郎 養子 富美 明四二、九生、亡兄吉助長女 君は新潟縣人齋藤吉作の二男にして明治十五年七月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す現に東京株式取引所一般短期貨物取引員たり(東京、日本橋、兜町四電燈場町二六三〇) 參照 小澤七三郎 小澤國治 中村隆治の項

齋藤 清太郎

正四位勳三等、岡山縣士族 妻 咲 明一二、一、生、岡山、士、安田 正直長女

齋藤 清太郎

正四位勳三等、東京帝國大學教授 父 五郎右衛門 安政三、二生 母 ヒテヲ 文久元、一、生、福井、藤野教順 妻 もと 明三〇、一〇生、福井、田中甚兵衛三女 男 壽 大六、九生

參照 加藤榮一郎の項

齋藤 正助

岐阜縣多額納税者、農業 妻 東九郎 明二一、九、生、現戶主 妻 てる 明二四、一〇生、長男東九郎妻、岐阜、岡崎竹之輔長女 孫 昌子 大四、二、生、長男東九郎長女 君は岐阜縣人齋藤正三の三男にして明治七年三月を以て生れ同二十七年齋藤氏を再興す現時東京イシ工業會社常務取締役たり(東京、日本橋、兜町四電燈場町二六三〇) 參照 小澤七三郎 小澤國治 中村隆治の項

齋藤 正平

東京イシ工業常務取締役 妻 マツエ 明一七、一、生、北海道、士、渡 男 正秀 明三七、五生 妻 順子 明四一、一、生、長男正秀妻、貴族院議員、本清治三女、實踐女學校出身

齋藤 清一

千葉縣議員、千葉縣多額納税者、千葉水電氣取締役、酒造業 妻 けん 慶應二、一、生、千葉、齋藤新吉 妻 てゑ 明二四、一、生、千葉、三木房吉 養子 重文 明三二、一〇生、長女郁子夫、千葉 女 郁子 明四二、一〇生、養子重文妻 女 ふみ子 明四二、七生

齋藤 清助

東京株式取引所取引員 妻 モト 明一八、七、生、新潟、小澤七三郎 養子 富美 明四二、九生、亡兄吉助長女 君は新潟縣人齋藤吉作の二男にして明治十五年七月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す現に東京株式取引所一般短期貨物取引員たり(東京、日本橋、兜町四電燈場町二六三〇) 參照 小澤七三郎 小澤國治 中村隆治の項

齋藤 清太郎

正四位勳三等、岡山縣士族 妻 咲 明一二、一、生、岡山、士、安田 正直長女

齋藤 清太郎

正四位勳三等、東京帝國大學教授 父 五郎右衛門 安政三、二生 母 ヒテヲ 文久元、一、生、福井、藤野教順 妻 もと 明三〇、一〇生、福井、田中甚兵衛三女 男 壽 大六、九生

齋藤 清太郎

正四位勳三等、岡山縣士族 妻 咲 明一二、一、生、岡山、士、安田 正直長女















齋藤彦太郎

新瀨縣多額納稅者、新瀨興業貯蓄銀行、新瀨電氣各取締役、農業新瀨縣在籍

年陸軍中將に陞り備後役に編入する家族は尙弟齋(明三、一〇生)同妻芳子(同二九、二生、石川、岡本純太郎妹)及其子女あり妹婿(明一九、四生)は香川縣人

君は大阪府人佐々木嘉助の二男にして慶應三年八月を以て生れ先代ヨネの養子となり明治十八年家督を相続す

齋藤英夫

正六位、地方技師、三重縣内務部大木課長、山形縣在籍

君は山形縣人齋藤伊左衛門の四男にして明治二十二年七月を以て生れ先代貞治の養子となり昭和二年家督を相続す

君は東京府人齋藤辨之助の弟にして同善八の従弟なり

齋藤恒

正四位勳二等功四級、陸軍中將石川縣士族

君は石川縣士族齋藤恒固の男にして明治十年十一月を以て生れ同十六年家督を相続す

君は東京府人齋藤房吉の長男にして明治十二年九月を以て生れ同十三年家督を相続す

齋藤廣三郎

富商商店代表社員、大阪府在籍

君は新瀨縣士族齋藤廣三郎の長男にして明治十九年十二月を以て生れ同三十九年家督を相続す

君は大阪府人齋藤房吉の長男にして明治十二年九月を以て生れ同十三年家督を相続す

齋藤萬壽雄

千葉縣多額納稅者、農業千葉縣在籍

君は千葉縣人齋藤萬右衛門の長男にして明治二十二年五月を以て生れ大正元年祖父其平の後を承け家督を相続す

出仕侍從武官和泉富士各副長常備艦隊參謀秋津洲島各艦長

齋藤辨之助

山形、編練商、東京府在籍

齋藤家は舊幕時代より埼玉縣岩槻町に定住し代々本陣を勤めたる

君は兵庫縣人齋藤四郎の長男にして安政二年四月を以て生れ

齋藤實

正二位勳一等功二級、子爵、海軍大將、樞密顧問官、朝鮮總督、日露協會々長、岩手縣華族、日露協會々長、岩手縣華族、日露協會々長

君は舊仙臺藩の一門水澤の留守家の臣齋藤辨平の長男にして安政五年十月を以て生れ

君は兵庫縣人齋藤四郎の長男にして安政二年四月を以て生れ

齋藤英

從四位勳二等、工學博士、海軍造機中將、東京府士族

君は福井縣士族齋藤易の長男にして明治十年九月を以て生れ

君は兵庫縣人齋藤四郎の長男にして安政二年四月を以て生れ

齋藤正之

關西文具製造監査役、神永社士、地家屋周旋管理業、兵庫縣在籍

君は兵庫縣人齋藤四郎の長男にして安政二年四月を以て生れ

君は兵庫縣人齋藤四郎の長男にして安政二年四月を以て生れ

齋藤又右衛門

北三十三銀行取締役、地主、北海道在籍

君は兵庫縣人齋藤四郎の長男にして安政二年四月を以て生れ

君は兵庫縣人齋藤四郎の長男にして安政二年四月を以て生れ

齋藤又右衛門

北三十三銀行取締役、地主、北海道在籍

君は兵庫縣人齋藤四郎の長男にして安政二年四月を以て生れ

君は兵庫縣人齋藤四郎の長男にして安政二年四月を以て生れ







サ之部 齋藤

女 百子 大二、一、生、佛英和高女出身
君は群馬縣人寺口吉造の弟にして明治七年八月を以て
生れ同三十年先代嘉久太郎の養子となり昭和三年家督
を相続す榎屋と稱し明治十年より洋服商を営み同業
者間の老舖たり家族は尙孫嘉久子(六一、一〇、生、長
男一、同長女)同妻(昭三、二、生、同長男)同子(昭四、
一〇、生、同二女)あり長女長子(昭三、一、生)は東京
府人井口在屋二男常雄に三女美佐子(昭四、一、生、
御茶の水高女出身)は同府人神保文太郎長男英一に四
女あつ子(昭三、四、生、佛英和高女出身)は同府人王
川二郎に嫁せりA一八一四B一九六(東京、神田、表
神保町一電神田二六五九)

齋藤由太郎 福井銀行取締役兼支配人
福井縣土族
妻 すま 昭三、一、生、福井、高田彌三
右衛門四女
男 嘉明 昭四、二、生
男 直次 昭四、三、一、生
女 やみ子 昭三、二、生

君は福井縣人横田由兵衛の二男にして明治六年十月を
以て生れ齋藤泰明の養子となり同十年家督を相続す現
に福井銀行取締役兼支配人たり家族は尙三男三女(大
一〇、一、生)あり三女民子(昭四、六、生)は福井縣人
大脇伊太郎に嫁せり(福井市寶永下町三七)

齋藤吉廣 從五位勳五等、地方技師、愛知縣
工業學校長、愛知縣在籍
妻 たか 昭二、一、生、福井、戸澤吉兵
昭二、二、生
男 尚一 昭四、一、生
男 吉隆 昭四、一、生
女 ひろ 昭三、一、生

君は福井縣人齋藤吉松の三男にして明治六年二月を以
て生れ大正十四年明吉兵衛より分れて一家を創立す
明治二十七年福井縣立師範學校を卒業し小學教育に
従事すること二年半にして東京工業職業養成所に入
學同三十二年卒業し爾來福井縣立工業學校長に立派
學校長職を勤め工業學校各教諭を経て群馬縣立工業
長群馬縣技師となり大正十二年現職地方技師に任じ愛
知縣工業學校長同工業補習學校長に補せり家族は尙
三男三女(大五、八、生)四男三女(昭九、一、生)あり長女ミ
エ(昭三、六、九、生)は佐賀縣人三好甲子郎に二女も(同

サ之部 齋藤

三九、六、生)は愛知縣人武田利賢に嫁せり(名古屋、
中、北丸屋町六四)

齋藤良衛 從四位勳三等、法學博士、南滿洲
鐵道理事、福島縣土族
妻 繼母 ヨシ 昭元、九、生、福島、五十嵐藤作姉
男 一 昭二、七、六、生、東京、鈴木方儀姪
昭六、一、二、生

君は福島縣土族齋藤良淳の長男にして明治十三年十一
月を以て生れ大正元年家督を相続す明治四十四年東京
帝國大學法科大學政治學科を卒業し外交官及領事官試
驗に合格し領事官補となり天津漢口オタリに在勤す爾
來領事官事務書記官同事務官通商局第一課長大使館二等
書記官情報部第一課長外務省通商局長に進み後之を
辭し昭和二年南滿洲鐵道會社に入り現時同社理事たり
茲に法學博士の學位を授けらるる家族は尙二男二女(大
九、二、生)弟實(昭二、五、一、生)同妻良(昭三、四、一、生、
福島、野地榮長女)及其子女あり(東京市外濠谷町松濤
四一電濠山三三〇)

齋藤良清 高島屋飯田邸取締役
高島府土族
妻 さた 昭二、一、生、栃木、木村淺七姉
昭二、二、生
男 文子 昭四、三、一、生
女 良介 昭四、三、一、生

君は東京府土族齋藤幾衛の長男にして明治十二年九月
を以て生れ同二十四年家督を相続す同三十三年東京高
等學校を卒業して高島屋飯田株式會社に入り勤職今
日及び現に同社取締役たり家族は尙三男三女(大七、
一、生)四男二女(昭一、八、生)あり弟恒清(昭一、四、一、
生)は東京府人山口花の八女となり同留吉(昭二、〇、
二、生)同長(昭二、四、七、生)は各分家せりA四八六
(東京、小石川、久堅町七四電小石川三六五二)
參照 木村淺七の項

サ之部 齋藤

齋藤富美子 明四二、三、生、男爵宇佐川正雄妹
君は東京府土族故陸軍中將齋藤太郎の二男にして明治
十一年六月を以て生る同三十一年陸軍士官學校を卒業
し陸軍歩兵少尉に任じ歩兵第十六聯隊附に補せられ
正十二年陸軍少將に累進す其間陸軍大學校を卒業し陸
軍省副官歩兵第三聯隊大隊長第十七師團參謀歩兵第六
十四聯隊附朝鮮總督府副官兼元帥副官歩兵第六十聯隊
長薩哈連洲派遣軍參謀同參謀長歩兵第二十四旅團長第
十四師團司令官第四師團留守隊司令官等に歴補し
昭和三年陸軍中將に陞り豫備役に編入さる日露戰役に
正十四年支那動亂に際し滿洲派遣混成第一旅團長とし
て派遣せらるる家族は尙孫義弘(昭五、一、生、養子弘夫
長男)の外兄弟(昭八、四、生、現戸主)同妻スエ(昭七
八、生、滋賀、前川春吉母)及其子女あり(東京市外代々
橋町代々木二二四)

齋藤義雄 靜岡縣多額納稅者、濱松商工會議
所議員、靜岡縣土地廳監査役、谷
島屋、書籍運銷具商、靜岡縣在籍
妻 ふみ 昭二、九、一、生、靜岡、山下庄次
昭二、二、生
男 時雄 昭六、一、〇、生
昭六、二、〇、生

君は靜岡縣人中村東海の七男にして明治二十四年十月
を以て生れ先代源三郎の養子となり大正九年家督を相
續す同三年應義塾理財科を卒業し谷島屋と稱し書籍
運銷具商を営み傍ら前記會社の重役にして直接國稅千
六百五十三圓を納め縣下の多額納稅者に列し又推され
濱松商工會議所議員たり家族は尙長女冬子(大八、
一、生)三男和雄(昭一、三、三、生)四男秀雄(昭三、一、生)
あり(濱松、連尺町二八電三三〇)

齋藤義雄 會津電力證券取締役、今津銀行
會津電力各監査役、福島縣在籍
妻 シノ 昭二、二、五、生、齋藤庄四郎二女
昭二、一、二、生
男 秀雄 昭六、一、二、生
昭六、二、五、生
女 芳江 昭三、五、生
昭三、三、五、生

君は伊東元代山の三男にして明治十四年六月を以て生
れ伊藤庄四郎の養子となり後分れて一家を創立す現時
會津電力證券會社取締役の外前記銀行會社の重役たり

齋藤義太郎 東邦火災保險取締役會長
群馬縣土族
妻 とよ 昭一、〇、九、生、群馬、岡崎秀雄姉
昭一、五、一、生
男 太郎 昭四、一、七、生、長男太郎妻、群馬
昭四、一、七、生
女 ふみ 昭四、一、七、生、長男太郎妻、群馬
昭四、一、七、生

君は群馬縣土族齋藤金太郎の長男にして明治四年十一
月を以て生れ同三十六年家督を相続す現時東邦火災保
險會社取締役會長たり義に群馬縣農工銀行頭取にして
推されて前橋商工會議所常議員たりし事あり家族は尙
四女とも子(大七、三、生)五女仁子(昭八、一、二、生)孫義
人(昭四、八、生、長男太郎長男)あり長女や子(昭三、
八、七、生)は福島縣人川角五郎に二女さだ子(昭三、八、
七、生)は東京府人梅田文雄に妹みよ(昭一、一、一、生)は同
妻とく(昭一、一、一、生、群馬、關口萬吉妹)を伴ひ弟稔
(昭一、五、五、生)は同妻あり(昭二、五、三、生、群馬、川
井菊太郎長女)及び其一女を伴ひ各分家せり(前橋、一
毛町二五)

齋藤義政 銀座千疋屋、果物草花商
東京府在籍
妻 なか 昭二、八、生、東京、竹内兼五郎妹
昭二、八、生
女 貞子 昭四、一、九、生、愛知、友松將治長
昭四、一、九、生

當家は先代義政福井縣より上京し分家して一家を創立
したるに始まり本家は代々地主業を營める舊家火災義
政明治二十七年頃千疋屋と稱して銀座に果物店を開き
鋭意營業の發展に努力せる結果年と共に隆盛に赴き遂
に今日の家産を爲すに至れり君は其二男にして明治三
十年五月を以て生れ大正十年家督を相続し前名甚作を
改め眞名す夙に父を扶けて店務に従事し果物を試食す
る食堂を併せて經營する等千疋屋の改善せり家族は尙
て果物其他の視察の爲め歐米各國を漫遊せり家族は尙
妹やま(昭三、一、〇、生)弟義一(昭三、三、六、生)同妻ス
キ(昭三、六、一、生、東京、千川平吉妹)及其子女弟義雄
(昭三、六、九、生)同妻信(昭四、〇、五、生、慶大在學)あり
妹しま(昭三、五、二、生)は東京府人山田眞一に嫁せり

齋藤米次郎 新炭商
岐阜縣在籍
君は岐阜縣人齋藤吉の長男にして明治元年十二月を
以て生れ同四十年家督を相続す新炭商を営む家族は妹
きん(昭二、二、四、生)弟正夫(大一〇、一、一、生)同信夫
(昭八、七、生)あり同留吉(昭一、〇、二、生)同妻くに(昭
二、二、一、一、生、岐阜、渡邊新兵衛二女)は其子女を伴
ひ分家せりA一〇五六B一七〇九(名古屋、中、西
瓦町三四電中二八三三)

齋藤義夫 正四位勳二等功四級、陸軍中將
東京府土族
妻 マツ 昭二、一、一、生、山口、土、後藤
昭二、一、一、生
女 義子 昭三、七、五、生、養子富美子夫、東京
昭三、七、五、生、陸軍騎兵中尉

君は大阪府人雜賀彌三郎の二男にして安政三年二月を
以て生れ先代七之助の養子となり明治二年家督を相続
す始め大阪給養所に勤めしが後實業界に轉じ大阪
硫磺會社に勤務すること多年更に大阪製糖日本製糖帝
國製糖會社常務取締役として昭和四年之を退き現時前
記各會社の重役たり家族は尙孫辰太郎(昭三、三、三、
二、男保三郎長男)同長(昭四、五、生、同長女)あり二
女秋子(昭三、九、八、生、實踐女學校出身)は東京府人星
野吉美子齊に嫁せり(東京市外品川町南品川宿一四
七四電高輪三五四)

齋藤義夫 正四位勳二等功四級、陸軍中將
東京府土族
妻 マツ 昭二、一、一、生、山口、土、後藤
昭二、一、一、生
女 義子 昭三、七、五、生、養子富美子夫、東京
昭三、七、五、生、陸軍騎兵中尉

君は長崎縣土族七種純一郎の長男にして明治七年八月を
以て生れ大正十二年家督を相続す醫師にして七種醫院
を經營し傍ら前記銀行會社の重役にして直接國稅二千
五百九十九圓を納め縣下の多額納稅者に列し長崎縣參

七種純一郎 長崎縣參事會員、長崎縣多額納稅
者、佐世保貯蓄銀行、佐世保鐵道
各監査役、七種醫院、醫師
妻 サエ 昭一、七、八、生、福岡、中原潤二妹
昭一、七、八、生
男 禮藏 昭三、七、一、〇、生
昭三、七、一、〇、生
女 登與子 昭三、八、生
昭三、八、生

君は靜岡縣人坂修の弟にして安政二年十二月を以て生
れ明治二十年分れて一家を創立す同十三年工部大學校
工學科を卒業し同三十二年工學博士の學位を受く義に
川崎造船所造船監督長として在職多年現時同所取締役
たり長女愛子(昭二、二、七、生)は兵庫縣人下田文吾に二
女トミ(昭三、五、一、生)は同縣人小本江笠に嫁せり(神
戸、港地方林山一地ノ六電元町三三六)

坂秀夫 大連汽船取締役、國際運輸監
査役、福島縣土族
妻 スミ 昭二、六、一、生、祖父綱長女
昭二、六、一、生
女 アヤ 昭二、六、一、生、祖父綱長女
昭二、六、一、生

君は福島縣土族坂武の長男にして明治十七年十月を以
て生れ大正十二年家督を相続す現時前記各會社の重役
たり家族は尙長女きよ(大六、七、生)二女時子(昭七、
九、生)三女信子(昭三、九、生)あり祖父綱(昭三、二、一、
〇、生)祖母ミ(昭三、六、生、福島、長谷川佐平太二
女)は叔父誠(昭八、四、生)と共に分家し姉美義(昭一、五、
八、生)は福島縣土族長尾景信長男景正に妹芳尾(昭二、五、
一、〇、生)は同縣土族伊藤三好養子兵吾に嫁し弟周(昭二、
三、四、生)は同縣人更科虎五郎に同成(昭二、九、一、生)
は東京府人酒井君に各養子となり(大連、風光臺一
九五)

坂井郁太郎 南投興業代表取締役、臺灣森林
工業常務取締役、臺灣電氣興業
會社取締役、臺灣製糖監査役
東京府土族
妻 タツ 昭二、七、生、青森、土、寺田松次
昭二、七、生

サ之部 齋藤

※印は姻族關係



**坂井 陸雄** 明二〇、一、二生、陸軍歩兵中尉  
 妻 明二六、九生、長男陸雄妻、靜岡  
 子 宇田敏夫  
 女 明四〇、一〇生

坂井家は舊幕時代佐賀藩に仕へ御側頭を勤めたる家柄なり君は同藩士坂井辰之充の長男にして文久二年八月を以て生れ慶應元年家督を相続す明治十八年慶應義塾を以て日本鐵道王子製紙各會社の勤務し大正八年鈴木梅四郎と共に臺灣森林工業會社の經營に當り擧げられ其常務取締役となり今日に至る傍ら前掲各會社の重役として各名あり家族は尙孫平郎(大七、四生、長男陸雄長男)同マツ子(同九、六生、同二女)同幸彦(同一一、四生、同二男)同聖之助(同一四、一生、同三男)あり四女龍(明三七、七生、三輪田高女出身)は東京府人畑長長男保之に嫁せり(臺灣、臺北州羅東郡二結)

坂井英太郎

君は東京府士族坂井彦彌の長男にして明治四年四月を以て生れ同二十七年家督を相続す同二十八年東京帝國大學理學科大學物理學科を卒業し大學院に入り數理物理學を研究し同三十年山口高等學校教授となり後東京帝國大學理學科大學助教授に轉じ同三十七年教授に進み理學博士の學位を授けられ數理第二講座を擔任す長女貞(明三五、一生)は工學士古橋進三郎に二女淑(同四〇、一二生)は理學士山村能久に嫁せり(東京、本郷、駒込西片町一〇)に三電小石川六九四

坂井勝造

君は廣島縣士族坂井三郎の二男にして明治八年十二月を以て生れ同二十四年家督を相続し前名幸次郎を改む土地の名望家にして現時尾道商工會議所會頭に擧げらるる家族は尙三男寛三(大二、一〇生)四男憲吉(同一三、六生)あり二女久子(明三七、二生)は東京府人加藤康太郎長男信萬に嫁せり(尾道、土堂町) 參照 坂佐々木千秀の項

坂井善兵衛

君は尾道商工會議所會頭 廣島縣在籍  
 妻 ナミエ 明一七、三、廣島、佐々木仙次  
 子 明三三、一〇生  
 女 幸子 明四三、一〇生

坂井大輔

君は尾道縣人坂井雄次郎の男にして明治二十年十月を以て生れ大正九年兄久雄より分れて一家を創立す同二年早稲田大學專門部政治經濟科を卒業し渡米して華盛頓大學に學ぶ次で大戰後歐洲各國を歴遊し華府會議の際外務省顧問として米國に出張を命ぜられ又萬國議會同盟會議に參列す衆議院議員に當選する事四回立憲政友會に屬す(東京、麹町、紀尾井町六電九段三三八七)

坂井徳治

君は新潟縣人坂井久治の長男にして明治十三年六月を以て生れ大正六年家督を相続す(イ・ジョー・キン)ア商會出張所員並に支店支配人たること二十一年に及び大正九年坂井木材會社を設立して木材輸出業に従事す現時鋼路商工會議所會頭に擧げらるる家族は尙二男基貞良(明四五、二生)三女節子(大八、五生)四女良

七生)五女紀美子(同九、二生)弟行義(明二七、四生)同妻貞子(同三四、六生、廣島、下村憲四女)及其二子あり長女清子(同四〇、一〇生)は廣島縣人突永清人に姉ヒテ(同九、一〇生)は同縣人加藤多市に同マツ(同一二、八生)は同縣人松浦泰次郎に嫁せり(廣島市上流川町一〇ノ四) 參照 松浦泰次郎の項

坂井規矩一郎

君は和歌山縣人坂井常松の長男にして明治二十三年九月を以て生れ昭和四年家督を相続す大正六年東京帝國大學工學科大學應用化學科を卒業し現に内閣印刷局技師印刷部活版課長たり家族は尙二男升(大一〇、三三)長女規子(明三三、七生)妹オヒロ(明二七、一〇)伯母トミ(萬延元、一生)あり(東京、麹町、大手町一ノ四官舎電九ノ内三九〇)

坂井久二

君は北海道人坂井佐助の二男にして明治二十年二月を以て生れ同四十二年兄忠三より分れて一家を創立す現時樽太製藥會社事務取締役にして推されて大泊商工會議所議員たり家族は尙三女京子(大六、二生)四女陽子(明二五、五生)三男久彌(同三三、三三)四男雷太(同五、一生)及弟武平(明二二、二生)同妻タカ(同三七、六生)岩瀧兵九郎四女あり(樽太、大泊、大泊町)

坂井權吉

君は七位、新潟縣縣議員、新潟縣多額納稅者、長岡商工會議所議員、北越製糖會社、大阪機械製作所各取締役、吳服商、新潟縣在籍  
 妻 千代子 明四四、五生、高田ヨシ妹  
 子 明一八、五生、大阪、高田ヨシ妹

坂井正義

君は東京府人坂井正方の長男にして明治十七年三月を以て生れ大正十一年家督を相続す旭光製糖研究所を經營する傍ら前記諸會社の重役たり父正方(安政五、三三)は分家せり(東京、本郷、駒込林町一三電小石川三〇三)

坂入與兵衛

君は茨城縣人坂入金作の長男にして明治十四年七月を以て生れ大正四年家督を相続す農業を營み傍ら前記銀行の重役にして直接國稅二千四百十圓を納め縣下の多額納稅者たり茲に茨城石村會社取締役たりし事あり家族は尙三男篤三(大六、七生)四男行(同九、七生)第五郎(明三〇、三三)同七郎(同三六、九生)あり同前(同二二、一〇生)は茨城縣人中村謙次郎の養子となり長女松(同三五、一二生)は同縣人坂入久雄に妹きく(同一七、一生)は栃木縣人横松倫一郎に同たけ(同一九、一生)は茨城縣人關操二男敬次郎に嫁し第六郎(同三三、三三)は同縣人松村頼子の入夫となり(茨城、筑波、菅間村) 參照 稻葉吉左衛門、關操、小林半助、堀越孝次郎の項

坂生久一

君は和歌山縣人坂上平兵衛の三男にして明治十一年十一月を以て生れ大正元年兄平兵衛より分れて一家を創立す現に大正總布會社に入り同社取締役を經て現時其社長たり家族は尙三女喜久子(大九、九生)あり二男

妻 ムツ 明二四、九生、新潟、駒形字太七  
 子 明四一、一〇生、新潟、菊地理三  
 女 明四三、二生

君は新潟縣人先代權吉の長男にして明治二十年十二月を以て生れ後家督を相続し前名常吉を改め名才吳服商を營み現時前記各會社の重役にして直接國稅二千五百二十八圓を納め縣下の多額納稅者に列し新潟縣會議員長岡商工會議所議員に擧げられ茲に同縣參事會議員に推されし事あり家族は尙妹イヅツ(明二八、一二生)あり弟新次(同二六、一二生)同妻キヲ(同三〇、九生、新潟、小林喜作妹)は共に分家し妹トミ(同三一、一生)は新潟縣人田中清三に嫁せり(長岡、本町二ノ九三〇) 參照 駒形字太七、坂野尾徳之助の項

坂井定吉

君は北海道人佐野平右衛門の四男にして明治三年三月を以て生れ先代ハナの養子となり同四十四年家督を相続す現時坂井商店社長たる外前記諸會社の重役にして推されて函館商工會議所議員たり家族は尙二女良子(大八、三三)五男哲夫(同九、一〇生)ありA一五五(函館、會所町六六電三三三)

坂井定吉

君は三重縣人坂生左衛門の長男にして明治二十五年八月を以て生れ大正九年家督を相続す大正六年東京帝國大學法政科大學政治科を卒業直に安田銀行に入り大正十一年十一月より同三十二年十一月迄歐米に銀行業研究の爲め留學せり現時安田銀行岡山支店長たり家族は尙長女利子(大九、八生)二女洋子(同一五、八生)あり(岡山市西山下六〇電二七八)

坂牛直太郎

君は岩手縣人坂牛直の長男にして明治二十四年十月を以て生れ大正六年東京帝國大學法政科大學法政科を卒業し現時小樽新聞取締役兼總務局長たり家族は尙二女文子(大一〇、七生)三女君子(同一二、一〇生)四女徳子(同一五、四生)五女道子(明四〇、八生)弟謙次(明二八、七生)同妻チヨ(同三九、一生、北海道、吉田清一妹)及其子女弟龍三(同三七、四生)あり長男直正(大一一、三三)長女久子(同九、四生)は共に北海道人小樽新聞取締役上田壽久の養子となり養祖母ヤス(天保一三、一〇生)は分家し姉ツル(明一九、一〇生)は岩手縣人澤藤久吉に妹チヨ(同三五、七生)は北海道人高安綱太郎二男三次に嫁せり(小樽、入船町九ノ一)

坂上喜代三

君は和歌山縣人坂上平兵衛の三男にして明治十一年十一月を以て生れ大正元年兄平兵衛より分れて一家を創立す現に大正總布會社に入り同社取締役を經て現時其社長たり家族は尙三女喜久子(大九、九生)あり二男

妻 喜美

妻 美津子 大五、八生  
 子 大五、八生



俊二(明四四、一〇生)は和歌山縣人左納シノの養子となれり(和歌山市屋形町三ノ五電二八四五) 参照||米流波芳太郎の項

坂上五郎兵衛

青森縣多額納税者、青森商工會議所常務議員、青森製氷社長、青森銀行取締役、青森電燈社長、弘前電燈第五十九銀行、小館木材、青森運送合同、青森海運倉庫、青森信託各種監査役、海産物商、青森縣在籍

妻 いま 孫 明一、一、生、青森、奈良岡要吉 男 良助 明三三、七生 妻 マカ 明三八、一、生、長男良助妻、青森、宇野勇作四女 養子 和助 明二九、一〇生、長女ちる夫、青森、西谷嘉一三男、養子 清藏 明三三、二、生、養子 明三三、一、生、養子 明四一、一、生、二男清藏妻、青森、野村晋次郎孫 男 良藏 明四四、六生

君は青森縣人先代五郎兵衛の長男にして明治七年十月を以て生れ同四十二年家督を相続し前名良吉を改め襲名す海産物商を營み傍ら青森製氷會社社長の外前記銀行各會社の重役にして直接國稅五千六百六十九圓を納め縣下の多額納税者に列し推されて青森商工會議所常務議員たり家族は尙六男吉藏(大三、一、生)三女(長女)同一(一、生)孫貞子(同一四、一、生、長男良助長女)同嘉子(昭四、五、生、同二女)同榮一(大一〇、五、生、養子)同助長男(同三、一、生、同二男)同昭三(昭三、八、生、同三男)同裕一(同四、一、生、二男清藏二男)弟久藏(明一〇、一、生)同妻きよ(同一八、一、生、青森、小田原永太郎三女)及其子女妹みよ(同一七、一〇生)あり同ふさ(同一二、七、生)同夫磯吉(同四、六、生、青森、原田佐吉三男)及其子女を伴ひ分家(同二、一、生)青森、一、生)同夫辰藏(同一三、七、生、青森、柳川秀太郎弟)も亦其子女を伴ひ分家(同二、一、生)青森、一、生)は青森縣人小島貞藏に同く(同二五、三、生)は同縣人今野伊三郎三男金藏に同く(青森市安方町一八電一五五) 参照||宇野勇作、野村晋次郎、宇野善造、宇野要三郎、近藤藤助の項

坂上宗兵衛 家主 大阪府在籍 男 宗太郎 明二六、一〇生 妻 茂登 明三六、一〇生 女 恒次郎 明二八、一〇生 男 幸子 明三七、四生、二男恒次郎妻、東京、石川岩吉長女 男 金之助 明三一、二生 君は大坂府人先代宗兵衛の長男にして慶應元年六月を以て生れ明治十八年家督を相続し襲名す家主たり家族は尙孫宗衛(大一五、一〇生、長男宗太郎長男)同榮(昭三九、生、同長女)あり長女ハナ(明二〇、一、生)は大坂府人平泉平右衛門に嫁し弟彦五郎(同七、三、生)は分家せり(大阪、西、京町堀上通五ノ一〇五電土佐堀一三九六) 参照||五十嵐秀助、石川岩吉、宮井誠吉の項

坂上元之助

日本綿花植文書課長 大阪府在籍 妻 美代 明三三、三、生、大阪、坂上彦五郎 男 豊次 昭二、一、生 君は大坂府人坂上友吉の二男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正十五年兄邦太郎方より分れて一家を創立す現時日本綿花會社文書課長たり(大阪、西、江戶堀南通五ノ四〇)

坂上與三松

北海道在籍 妻 マツ 明一、七、生、北海道、長谷川七 男 勤太郎 明三四、六生 女 久次郎 明三七、九生、二男勤太郎妻、北海道、佐藤與八郎長女 男 ハツエ 明三六、六生 女 ハルエ 大二、三、生 女 カツ 大五、一、生 君は北海道人坂上市左衛門の長男にして明治八年五月を以て生れ同十九年家督を相続す漁業を營む家族は尙四男利夫(大九、六、生)あり弟國藏(明一四、三、生)は分家し同與太郎(同一七、九、生)も亦分家し三女アツ(同

四三、一〇生)は其養子となれりA一〇〇(函館、船場町二五)

坂口二郎

日本製絲總務取締役、山陰電氣 妻 壽 明三六、一、二、生、養父平兵衛庶子 君は鳥取縣人榊野要太郎の四男にして同秀雄の弟坂口武市の養弟同惣五郎の養男なり明治二十八年一月を以て生れ坂口平兵衛の養子となり大正十三年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙長女澄子(大一一、二、生)二女輝子(同一四、七、生)三女郁子(昭二、一、二、生)四女禮子(同五、二、生)あり(米子、角盤町三ノ六三)

坂口拙三

四等、掛斐川電力經相談役、岐阜縣水産會會長、岐阜縣治水副會長 妻 もと 明一二、一、生、岐阜、馬淵賢次 妹 明一、一、生、生母、神奈川、飯塚マカ 君は岐阜縣人坂口太八郎の長男にして明治七年三月を以て生れ同三十五年家督を相続す慶應義塾及東京法學院を卒(實業界に入り現時掛斐川電力會社社長談役岐阜縣水産會會長たり)兼に岐阜縣會議員同議長となり衆議院議員に當選する事二回大正三四年事件の功に依り勳四等に敘せらるA一三〇〇(岐阜、稲葉、木田村)

坂口惣五郎

坂口商店代表取締役、日本製絲 妻 榮 明五、二、生、鳥取、稻田喜重郎二 女 正一 明四二、三、生、生母、大阪、赤尾 庶子 波子 明四三、九、生、生母、大阪、赤尾 君は鳥取縣人坂口平吉郎の長男にして同惣五郎の兄同二郎の養父なり安政元年六月を以て生れ後家督を相続し大正九年退隠す現時米子銀行頭取たる外前記各會社長たり兼に實業獎勵の廉により藍綬褒章を賜り又多額納税者として貴族院議員に互選せらるる家族は尙孫孫枝(昭三、五、生、孫清太郎長女)同平吉郎(同五、一、生、同長男)あり孫晋一郎(明二六、一、一、生、亡養子豊藏長男)は同妻フミヨ(同三〇、六、生、鳥根、三島盛之助妹)と共に養子ふみ子(同一七、一、生、鳥取、坂口常次郎長女)同夫武市(其一子)を伴ひ妹は(慶應元、八、生)は其夫藤治郎(安政五、六、生、鳥取、佐藤卯平二男)と共に各分家せり(米子市)

参照||坂口二郎、坂口武市、坂口平兵衛の項

坂口武之助

正五位勳四等、立教大學教授 長崎縣土族 妻 増 明三三、一、生、立教大學出身、商 男 至 明三九、一、二、生、長男至妻、千葉 女 克子 小出善一郎二女、千葉縣立女學校出身

君は長崎縣土族坂口權六の次男にして慶應三年八月間被に生る税關鑑定官大藏技師鐵道技師等三十有餘年間官途に奉職し歐洲戰中には日本帝國特派財政經濟委員として米國に派遣せられ在官中清國皇帝より第三雙龍寶星章佛國政府よりレジオン・ド・ノール章を贈與せらるる退官後實業に従事し現に立教大學教授として東京帝國大學經濟學部海軍經理學校早稻田大學中央大學東京大學等の講師を兼ね清澄幼稚園園長たり家族は尙孫一雄(大一、九、生、長男至長男)兄尙衛(安政五、三、生、現戸主)同妻ルイ(明元、九、生、町田柳吉長女)あり長女ミヨ(同二六、一、二、生)は長崎縣人醫學士橋倉正二女サカエ(同二八、一〇、生)は東京府人陸軍航空兵大佐長嶺龜助に三女ミヨ(同三七、一〇、生)は福岡縣人商學士渡邊利邦に妹波津(同四、八、生)は長崎縣人市山松三郎に同志津(同六、四、生)は東京府人關口伊太郎に嫁せりA二二七(東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇電青山八二四)

坂口忠次

從五位勳六等、鐵道局參事、仙臺 鐵道局庶務課長、鐵道局土族 妻 貴太郎 慶應元、一〇、生、現戸主 女 美喜 明三八、一、生、東京、青木貞長女

君は福岡縣土族坂口貴太郎の長男にして明治二十三年十二月を以て生る大正六年東京帝國大學法政科大學政治科を卒業し文官高等試驗に合格す爾來鐵道院書記同參事補鐵道省事務官兼同參事官鐵道大臣秘書官等に歴任し同十二年研究の爲め英米に留學し引續き同十五年視察の爲め歐米各國に出張を命ぜられ昭和二年鐵道局參事に任じ鐵道書記官を兼任し歸朝後大臣官房に勤務し現時仙臺鐵道局庶務課長たり家族は尙長女恭子(昭五、八、生)の外養弟外規(明三〇、四、生、福岡、中村健太郎)

坂口常太郎

大阪府在籍 妻 リヨウ 明一三、五、生、大阪、大知久吉長女 男 房次郎 明三二、二、生 女 房次郎 明三五、二、生、長男房次郎妻、京都、野村拾治郎二女

坂口武市

米子商工會議所會頭、鳥取縣參事 妻 安 明四〇、七、生 女 静枝 明四三、二、生 男 和夫 明四四、一、生 君は鳥取縣人井上豊治郎の二男坂口二郎の養兄同惣五郎の養男にして明治十六年七月を以て生れ同縣人坂口平兵衛の養子となり同四十二年分れて一家を創立す同三十九年早稻田大學大學部法學科を卒業し現に廣島電氣會社山陰支社長たる外前記各會社の重役たり兼に倉吉電氣電氣大谷オフセツト山陰製米會社の重役たり(同六、五、生)五男平(同八、三、生)二女富士子(同六、五、生)五男平(同八、三、生)七男融(同一、二、生)三女三保子(同一三、一、生)ありA二〇三五(米子、西町二九電四五七) 参照||坂口二郎、坂口惣五郎、坂口平兵衛、坂口武市、鳥取縣の項

坂口平兵衛

米子銀行頭取、日本製絲、博愛 妻 とみ 明九、二、生、亡養子豊藏妻、鳥取 女 純三 大二、六、生、生母、都田たか

君は東京府人坂口前の二男にして明治十八年十二月を以て生れ大正六年兄昌洋方より分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學醫學科大學醫學科を卒業し青山内科に入る大正三年傳染病研究所技手となり同五年東京帝國大學醫學科大學助手同八年講師を経て同十一年同助教授に進み稲田内科に勤務し昭和四年以來東京醫學院院長を兼任し今日に至る同九年醫學博士の學位を受く家族は尙二女敦子(大一一、三、生)三男弘(同一三、一、二、生)三女八重子(昭二、五、生)四男孝(同五、一、一、生)弟觀藏(明三五、一、二、生、三井信託會社員)あり妹は(同二二、五、生)は山形縣人醫學士佐藤泰輔に同く(同三〇、一、一、生)は福岡縣人佐々木五郎(オチス、エレーター)會社支店長)に嫁し青木玉五郎(同二八、一、二、生)は東京府人坂口いのの家籍に入り當主たり(東京、牛込、下宮町一三電牛込八六) 参照||青木玉五郎、添田定一、灰石操、三、灰、齋藤均、森本清親の項











を以て生る現時坂間商會社代表取締役の外前記各會社の重役たり家族は尙兄秋之助(安政四、四生、現戶主)同廣吉(明三、一一生)同妻まさ(慶應元、二生、愛知、小田原平太郎妹)及其二女の外養明光春(大五、一一生)亡兄富次郎(養子)長野、鈴木忠重(三男)甥辰一(明一、一一生、妹かつ私生子)及其妻子ありA一六一(東京、本所、中之郷業平町三〇電番田一四三三)

坂水

盛岡商會社代表取締役、盛岡電燈、三陸水産冷蔵、陸奥電力各種取締役、岩手縣在籍  
妻 コウ 明一九、一一生、多喜乃雄佐長女  
男 弘 明四一、三三  
女 ヲキ 明四五、五五

坂元

南九州水力電氣、日本水電各電取、鹿兒島縣在籍  
妻 アイ 明一、四生、養父源吾二女  
男 貞 明三一、三三  
女 トロ 明三一、一〇生、長男貞文妻、鹿兒島、小田豊武妹  
男 貞 明三九、八生  
男 貞 明四一、一一生  
男 貞 明四四、五五

坂元 犬熊

君は鹿兒島縣土族松下介の弟にして明治七年八月を以て生れ先代セキの養子となり同三十四年家督を相続す現時前記各會社の重役たり家族は尙大男壽(大四、五生)二女チエ(同六、一〇生)孫ツルエ(同九、六生、長男貞文長女)同貞一郎(同九、九生、同長男)同ミフ(同四、五生、同二女)同地久男(昭四、三三、同二男)あり二男貞治(明三三、九生)は鹿兒島縣人成尾政盛の養子となり長女マツ(同三六、七生)は同縣人松加賀野一六電九二七

下正男に嫁せり(鹿兒島、肝屬、西車良村)  
坂本 輯 醫學博士、宮崎縣立病院院長兼内科部長、醫師、茨城縣在籍  
父 一 作 元治元、一一生、現戶主  
母 けん 明二、二生、堀越長右衛門長女  
妻 静子 明二九、一一生、福岡、吉田良春長女  
男 亨 大七、五五

坂本

君は茨城縣人坂本一作の長男にして明治二十二年二月を以て生る大正二年九州帝國大學醫學科大學を卒業し現時宮崎縣立病院院長にして内科部長を兼ね大正十二年醫學博士の學位を授けたる家族は尙二男清(六一、五、二生)弟鶴嶺(明二四、六生)醫學博士(同妻瀧子(同三六、九生)茨城、田中珍妹)弟征夫(同二八、四生、醫學士)あり妹みち(同三二、三三)は茨城縣人櫻井宗吾に嫁せり(宮崎市清水町電五六〇)  
參照吉田良春の項

坂本 一角

君は東京府人坂本吉吉の二男にして明治三十年十月を以て生れ大正十五年兄清作方より分れて一家を創立す日本農科醫學專門學校を卒業し明治大學に學ぶ昭和三年東京府より推されて衆議院議員となり爾來當選二回に及び立憲政黨會所所屬たり日本武徳會教士にして農醫學專門學校監事大田道長大日本武徳會教士にして農科に東洋商業學校外中等學校體育講師日本大學學生監等に就任し足跡五大洲に遍す(東京、本所、南二葉町四)

坂本 乙造

東福土地總代表取締役、木村實業(東京府在籍)會務取締役、會陽製絲株式會社取締役  
妻 あき 明一、一一生、福井、駒嘉右衛門長女  
男 憲一郎 明三九、九生、木村實業會社員  
男 榮治 明四四、一一生、木村實業會社員  
君は福井縣人坂本市松の弟にして明治五年九月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役たり家族は尙三男三(大七、一〇生)あり長女はつゝ(明三六、九生)は福島縣人中村末廣留に嫁せり(東京、神田、豊島町四一電番花六一八五)

京、神田、豊島町四一電番花六一八五)  
坂本 嘉治馬 日清印刷監査役、富山房代表社員、原田積善會理事、書籍出版販賣業、東京府在籍  
妻 サッ 慶應元、三三、東京、千本松金八妹、富山房妻出資社員  
男 榮一 明三八、一一生、富山房妻出資社員  
女 松枝 明三一、四生、亡二男金太郎妻、高知、井上進一妹  
妻 福松 明二三、一一生、東京、伊藤徳兵衛三男

坂本

君は高知縣人坂本喜八の長男にして慶應二年三月を以て生れ同二十九年弟太市郎方より分れて一家を創立す少壯にして東京に出て小野伴の東洋館書店に入り同十九年小野義眞の後援に依り富山房書店を創設し合資會社富山房社長となり現時前記諸會社の重役にして原田積善會理事に擧げらるるに帝國朝日銀行取締役たりしことあり家族は尙孫和子(大八、八生、亡二男金太郎長女)同幸子(同二二、一〇生、同二女)同英子(昭二、一〇生、同四女)あり養子志津(明一八、三三、東京、千本松金八妹)は岡山縣土族中村末次郎弟熊男に嫁せり(東京、小石川、林町七〇電小石川二七五)

坂本 覺平

熊本縣在籍  
妻 春 明二二、一一生、増田傳五郎二女  
女 絹子 大元、一〇生  
女 糸子 大元、三三

坂本 喜一

武蔵野鐵道、東京セメント各種取、埼玉縣在籍  
妻 てう 明一、八生、東京、野野信姉  
男 鏡太郎 明四四、二生  
女 とく 大元、三三  
君は埼玉縣人坂本宮保の長男にして萬延元年十二月を以て生れ後家督を相続す現時前記會社の重役にして

に武蔵野鐵道東西運搬倉庫各會社の取締役たりし事あり家族は尙伯母はな(天保一三、三三)あり三女たけ(大八、一一生)は東京府人坂本鐵之助に嫁し(文久三、一〇生)は同府人藤木安吉に各養子となり養子徳(明三〇、八生)東京、飯原ナチ養子)は前記坂本鐵之助に嫁し(同八、一一生)は岩手縣人小泉與左衛門に嫁し(同二、一〇生、伯母はな女)は埼玉縣人馬場清次郎に同(同六、三三、同上)は東京府人古川傳吉二男八五郎に同(同八、一〇生、同上)は埼玉縣人新井鶴吉に嫁せりA一四七(東京市外落合町下落合一五四)

坂本 久三郎

辰巳屋商事社長、福岡縣在籍  
妻 ツル 明六、三三、福岡、矢野安右衛門長女  
孫 シスエ 明三一、二生、亡長男久次郎妻、福岡、飛來盛之助長女  
女 カツ 大九、五生、亡長男久次郎長男  
女 マカ 明三〇、九生  
男 久雄 明三九、一一生  
男 義雄 明四四、四生

坂本 錦治

日本郵船參事、東京府在籍  
妻 嘉都 明一八、一〇生、東京、葛目猪太郎長女、東京女學館出身  
男 重雄 明三九、三三  
男 健次郎 明四一、八生  
男 平三郎 明四四、四生  
女 武子 大元、三三、五五

君は高知縣土族坂本重治の二男にして明治十二年三月を以て生れ先代重治の養子となり同三十八年家督を相続す同三十六年東京帝國大學工學科大學電氣工學科を卒業し現時前記各會社の重役にして東京府に勤務す家族は尙四男貞男(大六、四生)五男錦藏(同九、一一生)六

男正男(同二、四生)二女文子(同四、一一生)あり(横濱、中、南太町一八六六電長者町七一九)  
參照吉田友喜の項  
坂本 五郎 九州印刷、臺灣物産各種取締役、大日本家庭音樂會代表社員、著述業、福岡縣在籍  
妻 トミ 明二、一〇生、山口、伊藤初穂妹  
男 正雄 明四一、一一生  
女 ミサ子 明四三、九生

坂本 公德

愛媛縣在籍  
妻 マカノ 慶應二、九生、愛媛、渡部滿陳二女  
女 英子 明一八、二生、愛媛、渡部滿弘三女  
女 佳子 大五、二生

坂本 公徳

君は愛媛縣人渡部常一郎の長男にして明治十二年一月を以て生れ先代公徳の養子となり同二十三年家督を相続し前名取を改む同三十四年東京專門學校邦語政治科を卒業し家督にして夙に地方開發の爲め盡力し各種事業に關係せり夙に縣下の多額納税者たり書畫骨董を愛し茶道に通ず家族は尙三男公行(大三、八生)四男公堅(同六、五生)五男公文(同二〇、一〇生)六女典子(同二五、四生)あり姉イチ(明七、一一生)同夫公直(同三、一〇生)は分家し長女親子(同三七、八生)は愛媛縣人末光千代太郎弟兼介に嫁せり(愛媛、温泉、川上村)  
參照末光千代太郎清清水義彰の項

坂本 作平

函館商會議事會頭、東邦水産株式會社社長、函館製菓賣所、小川各邑代表社員、漁業、北海道在籍

妻 エイ 明一〇、二生、北海道、富原ミヤ私生子  
養子 健次 明三五、六生、石川、坂本孝三弟  
養子 喜和子 明三九、一一生、養子健次妻、品川久太郎二女  
養子 正之 明二六、六生、養子あき夫、石川、塚岸又次弟  
養子 あき夫 明三〇、一一生、養子正之妻、石川、坂本孝三妹  
君は石川縣人坂本市郎平の三男にして明治八年四月を以て生れ同二十八年分れて一家を創立す夙に函館に渡り同地の商業學校に學び遠く樺提島に至りて漁業を實習す爾來沿海州方面を視察し漁業を督む事多年現に前記會社の重役にして推されて函館商會議事會頭たり家族は尙孫智恵(大二、九生)養子正之(二女)同玲子(昭五、一一生)養子健次長女)ありA一四一(函館、天神町八一電四一)

坂本 貞熊

山口縣多額納税者、華浦銀行取、山口縣在籍  
妻 フミ 明一五、二生、山口、小倉甚吉四女  
男 喜亮 明三五、一一生、文學士  
男 康祐 明四一、一一生、亡長男秀三妻、陸軍少將、松田善衛長女  
男 泰造 明三八、八生、經濟學士、三十四銀行員  
女 賀子 大元、一一生

坂本 眞熊

坂本家は山口縣の葉封家にして酒造業を營み代々大庄屋役を勤めたる家柄なり君は先代眞熊三の長男にして明治十年七月を以て生れ同三十七年家督を相続す酒造業を廢し農業を營み直接國稅三千二百九十四圓を納め縣下の多額納税者に列し傍ら前記銀行の重役たり諸曲を好む家族は尙六男克巳(大三、二生)七男直彦(同五、六生)八男完次(同八、一一生)孫貴子(昭四、一一生)亡長男秀三長女弟章造(明一九、三三、法學士)同妻鏡子(同二九、三三、山口、部坂三長女)あり姉フサ(同二、五生)は元衆議院議員山口吉良に嫁し弟庸彦(同四、五生)は法學士)は山口縣人山本都彦の養子となり當主たり(山口、熊毛、三丘村)  
參照山口吉良、山本庸彦の項











**坂本龍太郎** 從七位、千屋村長、秋田縣多額納稅者、日の丸製造、仙北倉庫各務取締役、農業、秋田縣在籍  
 母 ヤス 慶應二、一生、秋田、栗林慶治叔  
 妻 カツ 明二五、六生、秋田、藤本勇太郎  
 女 静子 大元、六生  
 男 大元、六生

君は秋田縣人坂本理一郎の長男にして明治十九年八月を以て生れ大正六年家督を相続す農業を營み傍ら前記各會社の重役にして千屋村長の職に在り直接國稅五千七百一十圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尙二男(大元、六生)二女(静子、六生)三女(三子、六生)三男(明三、三三、三三)あり同順次郎(同三〇)一(生)同妻キヨ(同四〇)一(生)秋田、栗澤竹藏二女)は其一子を生ひ分家し弟三郎(同三四、一一生)は秋田縣人土屋青の入夫となり妹ヨシ(同二八、二生)は同縣人橋本平左衛門二男政之助に嫁せり(秋田、仙北、千屋村)

參照 橋本平左衛門の項

**坂井戒爾** 從四位、男爵、陸軍砲兵少尉  
 母 春 安政六、二生、高知、士、伊藤兵  
 妻 綾子 明二七、九生、愛知、東松松兵衛

當家は先代重季より家名を揚ぐ重季は舊高知藩士にして明治四年陸軍大尉に任じ中將に果進す其間名古屋鎮憲司令官近衛歩兵第二聯隊長歩兵第二十旅團長後備第一師團長等に歴補し日清日露の役に参加し功三級を賜ひ同十年華族に列し男爵を授けらる後貴族院議員に列し富士生命保險會社社長に擧げらる君は其長男にして明治十四年二月を以て生れ大正十一年襲爵す先是明治十四年東京美術學校洋畫科を卒業し一年志願して依り陸軍砲兵少尉に任ぜらる君は堀川貯蓄銀行監査役たり家族は尙長女小夜子(大一一、一一生)二男(明一、一四、一〇生)三男(明二、二生)弟勲爾(明一五、三三)同妻(同二五、一一生、東京、日高尙忠六女)及其二女あり(東京、牛込、市谷仲ノ町九電牛込一五二五)

**坂井正壽** 富田銀行取締役兼支配人  
 妻 幸 明二六、八生、奈良、池口勝治郎

君は愛知縣土族坂井久之の長男にして明治元年六月を以て生れ同四十二年家督を相続す夙に米國に航しハーバード大學に學びマスター・オブ・アーツの稱號を受く明治三十七年二月日露國交斷絶するや外務省より子爵金子堅太郎氏と共に米國に派遣せられ歸朝後直ちに外務大臣内閣總理大臣各秘書官に任ぜられ現時三井合名會社理事たり妹は(明八、一〇生)は東京府人村金之助に嫁せり(東京、赤坂、青山高樹町二〇電青山七七)參照 赤坂越前太郎富田忠詮の項

**阪上重信** 共同信託常務監査役  
 妻 喜久 明二二、一〇生、大阪、阪上新治

君は大阪府人阪上種治の長男にして明治二十五年八月を以て生れ大正三年家督を相続す現時富田銀行取締役兼支配人たり家族は尙長女賀壽(大一一、八生)あり弟(明二八、一一生)は分家し妹千壽(同三三、四生)は大阪府人橋本正太郎に嫁し同千代(同三五、九生)は同府人木下源治郎の養子となり(大阪、南河内、高志村)

**阪上新治郎** 伊丹新、生魚問屋業  
 母 あい 明一五、一生、祖父新治郎長女  
 妻 明子 明一五、一生、祖父新治郎長女

君は大阪府人阪上重信の長男にして明治四十二年四月を以て生れ大正十年家督を相続す共に襲名して前名周之助を改む祖父新治郎は大阪株式取引所理事長三十四銀行日本綿花尼崎紡績各會社北濱銀行等の取締役として關西實業界に雄飛し大正十一年五十萬圓の私財を投じ財團法人阪上慈善會を設立し慈善公共の事業に盡力せり君は其長男にして生れ大正十一年襲爵す現時伊丹新と稱す家族は尙弟益次郎(明四三、一一生)同勝三郎(同四五、一一生)同宗四郎(大三、一〇生)妹貞子(同七、一一生)あり叔母喜久(明二二、一〇生)同夫重信(同一九、八生)は其一男を生ひ分家せり(大阪、西、江戸堀南通五ノ一五電土佐堀一三四)

參照 阪上新治郎の項

**阪上重信** 共同信託常務監査役  
 妻 喜久 明二二、一〇生、大阪、阪上新治

**阪川登** 阪川牛乳店常務取締役  
 妻 茂次 大元、一一生

君は東京府人阪川當晴の三男にして明治八年五月を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す現時阪川牛乳店常務取締役たり家族は尙四男守正(大一一、九生)あり長女琴子(明三九、六生)は東京府人八木又兵衛長男長吉に三女直子(同四三、一一生)は愛知縣人神原寅吉に嫁せり(東京、麹町、麹町三ノ七電九段四七五)

**阪口吉藏** 西宮銀行取締役、丹波屋、海  
 妻 さよ 嘉永元、二生、兵庫、松本重介長

君は兵庫縣人先代吉藏の長男にして明治六年十一月を以て生れ同三十三年家督を相続し前名吉太郎を改む丹波屋と稱し酒造業を營み傍ら前記銀行の重役にして依り兵庫縣多額納稅者たりし事あり妹は(明一〇、三三)は大阪府人濱崎健吉に同(同二二、一〇生)は同府人村井庄七養子忠三郎に同(同二〇、一〇生)は同府人上田彌兵衛に嫁せり(西宮、濱崎町七〇電西宮二七)

**阪口清** 正五位勳四等、判事、金澤地方裁判所部長、大阪府在籍  
 妻 廣 明一九、五生、大阪、廣野好方長

君は大阪府人阪口直作の五男にして明治十年五月を以て生れ後一家を創立す明治三十五年關西法律學校を卒業し同三十八年判事登用試験に合格す同年司法官試験となり同四十年判事に任ぜられ金澤地方金澤區名古屋區同地方富山地方各裁判所判事兼名古屋各地方裁判所部長名古屋控訴院判事等に歴補し昭和四年金澤地方裁判所部長に轉じ今日に至る(金澤、玄蕃町二番丁一二電三九三)

**阪口定吉** 阪口定吉商店代表取締役、鐵商  
 妻 みつ 明三〇、三三、大阪、安田秀吉妹

君は大阪府人先代定吉の長男にして明治二十六年八月を以て生れ大正八年家督を相続し前名定太郎を改め襲名す鐵商を營み阪口定吉商店代表取締役たり家族は尙長女千鶴子(大一一、一一生)二女(魚子、同四一、一一生)三女(昌子、同二二、一一生)四女(博子、同四四、六生)の外弟善之助(明三三、八生)阪口定吉商店代表取締役あり妹末子(同三六、四生)は大阪府人石松七藏に嫁し弟清太郎(同三四、二生)は分家せり(大阪、港、北境川町三ノ一九電西四〇九五)

**阪口祐三郎** 南地大和屋種代表取締役、別府温泉土地種代表、大阪府在籍  
 妻 きみ 明一四、二生、大阪、南伊兵衛長

君は大阪府人阪口芳松の長男にして明治十七年八月を以て生れ後先代芳松の養子となり大正十年家督を相続す現時前記各會社の重役たり(大阪、南、宗右衛門町一四電南五七六四)

**阪田香松** 大正商會、帽子卸商  
 妻 祐太郎 大八、一〇生、生母、大阪、堀田

君は大阪府人阪田直作の五男にして明治十年五月を以て生れ後一家を創立す明治三十五年關西法律學校を卒業し同三十八年判事登用試験に合格す同年司法官試験となり同四十年判事に任ぜられ金澤地方金澤區名古屋區同地方富山地方各裁判所判事兼名古屋各地方裁判所部長名古屋控訴院判事等に歴補し昭和四年金澤地方裁判所部長に轉じ今日に至る(金澤、玄蕃町二番丁一二電三九三)

**阪田成一** 大連機械製作所取締役、水給鐵  
 妻 恒四郎 慶應元、八生、廣島、沖加都麻四女

君は大阪府人阪田恒四郎の長男にして同素夫の兄なり明治十五年十月を以て生れ大正九年家督を相続す明治三十四年大阪高等工業學校を卒業し阪田商會と稱し機械商を營み傍ら前記會社の重役を兼ね家族は尙二女壽美子(大六、二生)弟三佐夫(明二五、一〇生)同妻リツ(同三一、一一生)廣島、片野保二女)及其二子弟婿(同二九、一一生)同妻なみ(同三三、一一生)大阪、岸田秀之助(明三五、一〇生)あり(大阪、北、會根崎三三〇電北一五六二)

**阪田八十郎** 坂田代表社員  
 妻 よね 明一六、一〇生、理學博士小川琢

君は和歌山縣土族先代八十郎の長男にして明治七年五月を以て生れ同十六年家督を相続し襲名す夙に關西大學及中央大學の業を卒へ判事登用試験に合格す同三十二年陸軍省に入り理事に任ぜらる後退官して鴻池會社に入り大阪倉庫會社に鴻池銀行に勤務し次で同銀行中之島神戶各支店調査部長に歴任し大正八年之を辭し阪田合名會社代表社員となり現在に至る家族は尙三女誠子(大六、一一生)孫良作(昭五、一一生)長男英一長

**阪谷芳郎** 正三位勳一等、男爵、法學博士、  
 妻 希 明二二、五生

君は幕末の鴻儒阪谷素の四男にして坂田附二の再從兄なり素は朗庵と號し大體中齊古賀阿庵の門に學び後郷里備中の地に興讓館を立て書生を養育す一時海内の儒宗を以て稱せらる晩年廣島藩に仕へ維新後諸省に官仕啓沃する處多かり是れ大正十一年一月を以て生れ明治二十年分家して一家を創立す同十三年東京大學文學部政治經濟科を首席を以て卒業し大藏省に入り書記官參事官主計局長總務長官大藏次官等を歴任し同三十二

**阪谷希一** 正五位、陸軍三等主計、拓務書記  
 妻 芳子 明三一、一一生、現戶主

君は男爵阪谷芳郎の長男にして明治二十二年五月を以て生れ第二高等學校を経て東京帝國大學法科大學政治科に入り文官高等試験に合格し大正三年卒業す直に日本銀行に入り同十三年關東廳理事官參事官に任ぜられ後關東廳事務官に進み内務局財務課長を命ぜらる昭和四年拓務書記官に任ぜられ大臣官房文書課長たり家族は尙長女正子(大六、一一生)二女(明一、一〇生)三女(理子、同三一、一〇生)あり(東京市外千駄ヶ谷町七五電善山八〇五九)

サ之部 阪(口、田、谷)

(※印は姻族関係)



年法學博士の學位を受け同三十九年大藏大臣に親任せられ日露事件の功に依り勳一等に叙せられ大正六年巴里開國博覧會國會議員に本邦委員として参列す同年以來貴族院議員に互選せらるる事三回現に公正會の重鎮として其任に在り財政經濟學界の著書にして専修大學長中央統計委員會長其他の公職に就き又仙石原地所會社長の外前記會社の重役を兼ね三女八重子(明二九二生)は男爵中村實之に四女千重子(同三一、七生)は東京府人工學士秋庭義衛に五女穂子(同三四、九生)は兵庫縣人伊藤長次郎長男三郎に嫁し二男俊作(同二五、九生、文學士、名古屋圖書館長)は分家し東京府士族八十島親義姉文子(同三六、九生、東京女學館出身)を娶れり(東京、小石川、原町一、二六電小石川一二〇)

參照 子爵澤澤榮一、男爵中村實之、伊藤長次郎、坂田耐二、阪谷希一、八十島親義、男爵澤澤重遠、明石照男、尾高豊作、澤澤敬三、澤澤澤治、太郎、澤澤澤武之助、澤澤澤篤二、澤澤澤雄、澤澤澤正、澤澤澤澤元、治、澤澤澤杉村、甚兵衛、八十島樹次郎の項

阪根 武兵衛

君は大阪府人先代武兵衛の二男にして明治十七年六月を以て生れ同四十二年家督を相続し前名武三郎を改め號名才金屬製鐵造販業を營み現時前記會社の重役たり家族は尙二男健三(大三、一〇生)、阪根商店重出資社員あり長女美知(明四、一〇生)は大阪府人竹尾治右衛門養子幸次郎に嫁し(同一九、九生)は京都府人牧野定助二男莊太郎に嫁し(同二三、六生)は分家し姉トク(同四、一二生)も亦分家し叔母ナミ文久元、五生)は大阪府人阪根吉藏の母たり(大阪、天王寺、松ヶ森町八、電南三三六) 參照 阪根福之介、竹尾治右衛門の項

阪根福之介 阪根商店重出資、萬屋、銅眞鍮、女、相愛高女出身 妻 康三 大二、二生、府立住吉中學校在學 當家は丹波山家藩御藏目附阪根武左衛門美治の三男阪根武兵衛を初代とし以來代々大阪に住す君は五代目の當主武兵衛の弟にして明治二十三年六月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す府立天王寺中學校を卒業し直ちに兄を補佐し家業銅眞鍮販賣業を營み阪根商店相談役たり曾て支那に商業視察に赴き二回講義茶道を能くす家族は尙二男達造(大四、一〇生、府立住吉中學校在學)三男胤三(同六、一〇生、同上校在學)四男義三(同八、七生、長女美彌子(同四、七生)あり(大阪、住吉、相生通三、一三電天下茶屋二〇〇四) 參照 阪根武兵衛、牧野定助、尾高豊作、澤澤澤門の項

阪元 不二男

君は宮城縣人阪元道隆の三男にして明治二十年六月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官候補となり同六年検事に任ぜられ佐世保區兼長崎地方裁判所佐世保支部福岡區兼同地方横濱區兼同地方東京區兼同地方甲府地方兼同地方地方兼同地方裁判所檢察等に歷補し昭和五年現職に轉す家族は尙長女俊子(大一一、一二生)の外兄仁(明一六、三生、現戸主)同妻ふじ(同二五、二生、宮城、富士東七妹)弟陽太郎(同三九、六生)妹富貴子(同四一、六生)同和歌子(同四三、七生)同千重子(大三、一〇生)あり同八重路(明二二、二生)は郡山區裁判所理事高瀬助三郎に同花代(同二四、九生)は東京區裁判所理事高瀬助三郎に同花代(同九、四生)同妻きよ(同二二、一二生、宮城、毛利清右衛門三女)は其三女を伴ひ分家せり(千葉市向榮川二一九電二一四〇) 參照 高瀬助三郎、富士東七妹鈴木爲吉の項

阪本 鈺之助

君は宮城縣人阪本藤十郎の長男にして明治二年三月を以て生れ先代仙太郎の養子となり後家督を相続し大正十五年退隱す現時吉野銀行頭取の外前記會社の重役にして奈良縣多額納税者に列し直接國稅三千六百二十八圓を納む(奈良、吉野、上市町電三三六) 參照 阪本鈺之助の項

妻 きう 明八、六生、山形、士、加勢清雄 姉 明三〇、三生、法學士、正六位、大使館二等書記官、國際聯盟帝國事務局長 妻 瑞男 明三五、六生、長男瑞男、伯爵川村鐵太郎二女、女子學習院出身 妻 越郎 明三九、一〇生、文學士 妻 幸 明四二、四生、女子學習院高等科出身 妻 鹿名夫 明四四、七生、府立高等學校在學 君は愛知縣士族永井匡威の三男にして安政四年六月を以て生れ明治十五年元老院議員阪本政均の養子となり同二十三年家督を相続す甥に外務次官永井松三文士永井荷風醫學博士永井成三郎あり同十二年内務卿となり爾來滋賀岡山各縣書記官奈良縣參事貴族院書記官兼内務書記官東京府書記官福井縣兒島各縣知事に歴任し名古屋市長の選に當りて退官す同十四年貴族院議員に勅選せられ尋で日本赤十字社副社長となり現に其任にあり家族は尙四女華(大六、七生)孫武彦(同四、一〇生、聖心女子學院出身)は鳥取縣人古井實壽二男東京府事務官喜實に嫁せり(東京、麻布、飯倉町三ノ二四電赤坂九一一) 參照 伯爵川村鐵太郎、加勢清雄、永井成三郎、永井松三、伯爵川村鐵太郎、永井實壽、永井松三、三井守之助の項

阪本 治作

君は福岡縣人先代治作の二男にして明治二十三年七月を以て生れ同三十七年家督を相続し前名秀治を改め號名才金屬製鐵造販業を營み直接國稅千七百七十八圓を納め縣下の多額納税者たり家族は尙長女惠美子(大九、一〇生)二女愛子(同一五、四生)三女三枝(同四、四生)あり姉トク(明一六、六生)は岐阜縣士族和才吉に嫁せり(小倉、鳥町二) 參照 阪本治作の項

阪本 廣太郎

君は奈良縣人柳御全香の二男にして明治十三年三月を以て生れ先代タマの養子となり同三十七年家督を相続す夙に神宮學堂及東京帝國大學法學部大學史科を卒業し帝國大學史科編纂官神宮學堂教授を経て大正十一年神宮學堂に任じ現に儀式課長たり傍ら神宮學堂講師臨時大神宮史編纂部長等を兼ね家族は尙二男香彦(大三、一〇生)三男參郎(同八、二〇生)四男楠彦(同二〇、七生)あり長女俊子(明四、三)は實見柳防芳俊に二女淑子(同四、三)は外戚今西菊治郎に各養子となり(宇治山田、一ノ木町)

阪本 仙次

君は奈良縣人阪本仙次の長男にして明治二十四年八月を以て生れ大正十五年家督を相続す夙に慶應義塾を出で現時阪本林業會社常務取締役の外前記會社に從事す大正八年伊太利セネバに開催せる國際海員労働會議に政府代表の隨員として渡航し終了後副使松岡男爵の助手となり戦後の獨逸國情調査をなし更に倫敦巴里に赴き米國を経て歸朝すA一二六九(奈良、吉野、上市町電三六) 參照 奥村實次郎、阪本仙次、奥村實の項

酒井 伊四郎

君は福井縣人先代伊四郎の長男にして酒井正二の兄なり明治二十五年十二月を以て生れ大正九年家督を相続し前名伊市郎を改め號名才金屬製鐵造販業を營み江越織物

君は大阪府人阪本元良の長男にして明治十九年十月を以て生れ大正七年家督を相続す明治四十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し住友生命保險會社に入り現時同社支配人たり家族は尙二男鐵郎(大一一、一〇生)三男三郎(同二二、二生)長女紀代子(同四、一〇生)あり弟三郎(明二七、一二生)は同妻スマエ(同三八、七生、大阪、西田彌兵衛)及其一男を伴ひ分家し同信義(同三三、一〇生)も亦分家せり(大阪、住吉、天王寺町三二六、一〇九電天王寺一〇四七)

阪本 信一

君は大阪府人阪本元良の長男にして明治十九年十月を以て生れ大正七年家督を相続す明治四十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し住友生命保險會社に入り現時同社支配人たり家族は尙二男鐵郎(大一一、一〇生)三男三郎(同二二、二生)長女紀代子(同四、一〇生)あり弟三郎(明二七、一二生)は同妻スマエ(同三八、七生、大阪、西田彌兵衛)及其一男を伴ひ分家し同信義(同三三、一〇生)も亦分家せり(大阪、住吉、天王寺町三二六、一〇九電天王寺一〇四七)

阪本 仙次

君は京都府人竹谷庄兵衛の三女にして明治二十二年四月を以て生れ先代福治郎に嫁し大正七年家督を相続す丹波と稱し料理業を營むA一四四七(京都、中京、錦小路西洞院西入ル電本局四七六)

阪本 武重

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

阪本 忠次郎

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

君は奈良縣人阪本藤十郎の長男にして明治二年三月を以て生れ先代仙太郎の養子となり後家督を相続し大正十五年退隱す現時吉野銀行頭取の外前記會社の重役にして奈良縣多額納税者に列し直接國稅三千六百二十八圓を納む(奈良、吉野、上市町電三三六) 參照 阪本鈺之助の項

阪本 鈺之助

君は宮城縣人阪元道隆の三男にして明治二十年六月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官候補となり同六年検事に任ぜられ佐世保區兼長崎地方裁判所佐世保支部福岡區兼同地方横濱區兼同地方東京區兼同地方甲府地方兼同地方地方兼同地方裁判所檢察等に歴補し昭和五年現職に轉す家族は尙長女俊子(大一一、一二生)の外兄仁(明一六、三生、現戸主)同妻ふじ(同二五、二生、宮城、富士東七妹)弟陽太郎(同三九、六生)妹富貴子(同四一、六生)同和歌子(同四三、七生)同千重子(大三、一〇生)あり同八重路(明二二、二生)は郡山區裁判所理事高瀬助三郎に同花代(同二四、九生)は東京區裁判所理事高瀬助三郎に同花代(同九、四生)同妻きよ(同二二、一二生、宮城、毛利清右衛門三女)は其三女を伴ひ分家せり(千葉市向榮川二一九電二一四〇) 參照 高瀬助三郎、富士東七妹鈴木爲吉の項

阪本 鈺之助

君は宮城縣人阪本藤十郎の長男にして明治二年三月を以て生れ先代仙太郎の養子となり後家督を相続し大正十五年退隱す現時吉野銀行頭取の外前記會社の重役にして奈良縣多額納税者に列し直接國稅三千六百二十八圓を納む(奈良、吉野、上市町電三三六) 參照 阪本鈺之助の項

阪本 仙次

君は京都府人竹谷庄兵衛の三女にして明治二十二年四月を以て生れ先代福治郎に嫁し大正七年家督を相続す丹波と稱し料理業を營むA一四四七(京都、中京、錦小路西洞院西入ル電本局四七六)

阪本 武重

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

君は奈良縣人阪本仙次の長男にして明治二十四年八月を以て生れ大正十五年家督を相続す夙に慶應義塾を出で現時阪本林業會社常務取締役の外前記會社に從事す大正八年伊太利セネバに開催せる國際海員労働會議に政府代表の隨員として渡航し終了後副使松岡男爵の助手となり戦後の獨逸國情調査をなし更に倫敦巴里に赴き米國を経て歸朝すA一二六九(奈良、吉野、上市町電三六) 參照 奥村實次郎、阪本仙次、奥村實の項

酒井 伊四郎

君は福井縣人先代伊四郎の長男にして酒井正二の兄なり明治二十五年十二月を以て生れ大正九年家督を相続し前名伊市郎を改め號名才金屬製鐵造販業を營み江越織物

阪本 仙次

君は京都府人竹谷庄兵衛の三女にして明治二十二年四月を以て生れ先代福治郎に嫁し大正七年家督を相続す丹波と稱し料理業を營むA一四四七(京都、中京、錦小路西洞院西入ル電本局四七六)

阪本 武重

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

阪本 忠次郎

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

君は奈良縣人阪本藤十郎の長男にして明治二年三月を以て生れ先代仙太郎の養子となり後家督を相続し大正十五年退隱す現時吉野銀行頭取の外前記會社の重役にして奈良縣多額納税者に列し直接國稅三千六百二十八圓を納む(奈良、吉野、上市町電三三六) 參照 阪本鈺之助の項

阪本 鈺之助

君は宮城縣人阪元道隆の三男にして明治二十年六月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官候補となり同六年検事に任ぜられ佐世保區兼長崎地方裁判所佐世保支部福岡區兼同地方横濱區兼同地方東京區兼同地方甲府地方兼同地方地方兼同地方裁判所檢察等に歴補し昭和五年現職に轉す家族は尙長女俊子(大一一、一二生)の外兄仁(明一六、三生、現戸主)同妻ふじ(同二五、二生、宮城、富士東七妹)弟陽太郎(同三九、六生)妹富貴子(同四一、六生)同和歌子(同四三、七生)同千重子(大三、一〇生)あり同八重路(明二二、二生)は郡山區裁判所理事高瀬助三郎に同花代(同二四、九生)は東京區裁判所理事高瀬助三郎に同花代(同九、四生)同妻きよ(同二二、一二生、宮城、毛利清右衛門三女)は其三女を伴ひ分家せり(千葉市向榮川二一九電二一四〇) 參照 高瀬助三郎、富士東七妹鈴木爲吉の項

阪本 鈺之助

君は宮城縣人阪本藤十郎の長男にして明治二年三月を以て生れ先代仙太郎の養子となり後家督を相続し大正十五年退隱す現時吉野銀行頭取の外前記會社の重役にして奈良縣多額納税者に列し直接國稅三千六百二十八圓を納む(奈良、吉野、上市町電三三六) 參照 阪本鈺之助の項

阪本 仙次

君は京都府人竹谷庄兵衛の三女にして明治二十二年四月を以て生れ先代福治郎に嫁し大正七年家督を相続す丹波と稱し料理業を營むA一四四七(京都、中京、錦小路西洞院西入ル電本局四七六)

阪本 武重

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

君は奈良縣人阪本仙次の長男にして明治二十四年八月を以て生れ大正十五年家督を相続す夙に慶應義塾を出で現時阪本林業會社常務取締役の外前記會社に從事す大正八年伊太利セネバに開催せる國際海員労働會議に政府代表の隨員として渡航し終了後副使松岡男爵の助手となり戦後の獨逸國情調査をなし更に倫敦巴里に赴き米國を経て歸朝すA一二六九(奈良、吉野、上市町電三六) 參照 奥村實次郎、阪本仙次、奥村實の項

酒井 伊四郎

君は福井縣人先代伊四郎の長男にして酒井正二の兄なり明治二十五年十二月を以て生れ大正九年家督を相続し前名伊市郎を改め號名才金屬製鐵造販業を營み江越織物

阪本 仙次

君は京都府人竹谷庄兵衛の三女にして明治二十二年四月を以て生れ先代福治郎に嫁し大正七年家督を相続す丹波と稱し料理業を營むA一四四七(京都、中京、錦小路西洞院西入ル電本局四七六)

阪本 武重

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

阪本 忠次郎

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

君は奈良縣人阪本藤十郎の長男にして明治二年三月を以て生れ先代仙太郎の養子となり後家督を相続し大正十五年退隱す現時吉野銀行頭取の外前記會社の重役にして奈良縣多額納税者に列し直接國稅三千六百二十八圓を納む(奈良、吉野、上市町電三三六) 參照 阪本鈺之助の項

阪本 鈺之助

君は宮城縣人阪元道隆の三男にして明治二十年六月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官候補となり同六年検事に任ぜられ佐世保區兼長崎地方裁判所佐世保支部福岡區兼同地方横濱區兼同地方東京區兼同地方甲府地方兼同地方地方兼同地方裁判所檢察等に歴補し昭和五年現職に轉す家族は尙長女俊子(大一一、一二生)の外兄仁(明一六、三生、現戸主)同妻ふじ(同二五、二生、宮城、富士東七妹)弟陽太郎(同三九、六生)妹富貴子(同四一、六生)同和歌子(同四三、七生)同千重子(大三、一〇生)あり同八重路(明二二、二生)は郡山區裁判所理事高瀬助三郎に同花代(同二四、九生)は東京區裁判所理事高瀬助三郎に同花代(同九、四生)同妻きよ(同二二、一二生、宮城、毛利清右衛門三女)は其三女を伴ひ分家せり(千葉市向榮川二一九電二一四〇) 參照 高瀬助三郎、富士東七妹鈴木爲吉の項

阪本 鈺之助

君は宮城縣人阪本藤十郎の長男にして明治二年三月を以て生れ先代仙太郎の養子となり後家督を相続し大正十五年退隱す現時吉野銀行頭取の外前記會社の重役にして奈良縣多額納税者に列し直接國稅三千六百二十八圓を納む(奈良、吉野、上市町電三三六) 參照 阪本鈺之助の項

阪本 仙次

君は京都府人竹谷庄兵衛の三女にして明治二十二年四月を以て生れ先代福治郎に嫁し大正七年家督を相続す丹波と稱し料理業を營むA一四四七(京都、中京、錦小路西洞院西入ル電本局四七六)

阪本 武重

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

君は奈良縣人阪本仙次の長男にして明治二十四年八月を以て生れ大正十五年家督を相続す夙に慶應義塾を出で現時阪本林業會社常務取締役の外前記會社に從事す大正八年伊太利セネバに開催せる國際海員労働會議に政府代表の隨員として渡航し終了後副使松岡男爵の助手となり戦後の獨逸國情調査をなし更に倫敦巴里に赴き米國を経て歸朝すA一二六九(奈良、吉野、上市町電三六) 參照 奥村實次郎、阪本仙次、奥村實の項

酒井 伊四郎

君は福井縣人先代伊四郎の長男にして酒井正二の兄なり明治二十五年十二月を以て生れ大正九年家督を相続し前名伊市郎を改め號名才金屬製鐵造販業を營み江越織物

阪本 仙次

君は京都府人竹谷庄兵衛の三女にして明治二十二年四月を以て生れ先代福治郎に嫁し大正七年家督を相続す丹波と稱し料理業を營むA一四四七(京都、中京、錦小路西洞院西入ル電本局四七六)

阪本 武重

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

阪本 忠次郎

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

君は奈良縣人阪本藤十郎の長男にして明治二年三月を以て生れ先代仙太郎の養子となり後家督を相続し大正十五年退隱す現時吉野銀行頭取の外前記會社の重役にして奈良縣多額納税者に列し直接國稅三千六百二十八圓を納む(奈良、吉野、上市町電三三六) 參照 阪本鈺之助の項

阪本 鈺之助

君は宮城縣人阪元道隆の三男にして明治二十年六月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官候補となり同六年検事に任ぜられ佐世保區兼長崎地方裁判所佐世保支部福岡區兼同地方横濱區兼同地方東京區兼同地方甲府地方兼同地方地方兼同地方裁判所檢察等に歴補し昭和五年現職に轉す家族は尙長女俊子(大一一、一二生)の外兄仁(明一六、三生、現戸主)同妻ふじ(同二五、二生、宮城、富士東七妹)弟陽太郎(同三九、六生)妹富貴子(同四一、六生)同和歌子(同四三、七生)同千重子(大三、一〇生)あり同八重路(明二二、二生)は郡山區裁判所理事高瀬助三郎に同花代(同二四、九生)は東京區裁判所理事高瀬助三郎に同花代(同九、四生)同妻きよ(同二二、一二生、宮城、毛利清右衛門三女)は其三女を伴ひ分家せり(千葉市向榮川二一九電二一四〇) 參照 高瀬助三郎、富士東七妹鈴木爲吉の項

阪本 鈺之助

君は宮城縣人阪本藤十郎の長男にして明治二年三月を以て生れ先代仙太郎の養子となり後家督を相続し大正十五年退隱す現時吉野銀行頭取の外前記會社の重役にして奈良縣多額納税者に列し直接國稅三千六百二十八圓を納む(奈良、吉野、上市町電三三六) 參照 阪本鈺之助の項

阪本 仙次

君は京都府人竹谷庄兵衛の三女にして明治二十二年四月を以て生れ先代福治郎に嫁し大正七年家督を相続す丹波と稱し料理業を營むA一四四七(京都、中京、錦小路西洞院西入ル電本局四七六)

阪本 武重

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七

君は奈良縣人阪本仙次の長男にして明治二十四年八月を以て生れ大正十五年家督を相続す夙に慶應義塾を出で現時阪本林業會社常務取締役の外前記會社に從事す大正八年伊太利セネバに開催せる國際海員労働會議に政府代表の隨員として渡航し終了後副使松岡男爵の助手となり戦後の獨逸國情調査をなし更に倫敦巴里に赴き米國を経て歸朝すA一二六九(奈良、吉野、上市町電三六) 參照 奥村實次郎、阪本仙次、奥村實の項

酒井 伊四郎

君は福井縣人先代伊四郎の長男にして酒井正二の兄なり明治二十五年十二月を以て生れ大正九年家督を相続し前名伊市郎を改め號名才金屬製鐵造販業を營み江越織物

阪本 仙次

君は京都府人竹谷庄兵衛の三女にして明治二十二年四月を以て生れ先代福治郎に嫁し大正七年家督を相続す丹波と稱し料理業を營むA一四四七(京都、中京、錦小路西洞院西入ル電本局四七六)

阪本 武重

君は京都府人橋本爲七の二男にして慶應三年三月を以て生れ明治十七年先代仙太郎の養子となり後家督を相続すオカネ忠と稱し明治二十六年創業の肥前産陶磁器卸商を營む家族は尙孫節子(大六、一〇生)養子顯太郎二女)同紅美子(同八、二生)同三女、府立清水谷高女(同二、三生)同長男同都夫(同四、一二生)同二男同洋子(昭二、一二生)同五女ありA一三五五B一七



會社々長たる外前記會社の重役にして福井縣多額納稅者たり家族は尙長女ます(六六、四生)二女廣(同一、五生)三女靜子(同一五、八生)弟伊三男(明三八、五生)酒伊合同紡織會社取締役)同伊四男(同四五、四生)あり(福井、今立、鯖江町)

酒井猪太郎

大秀組、別府温泉土地各務社長、日本勸業火災保險會社社長、富島組、旭商事各務副社長、坂又商店魚問屋業、大阪府在籍

祖母 てる 明元、一〇生、大阪、福井猪次郎

養母 よれ 明元、一〇生、大阪、福井猪次郎

女 房 子 明四三、一〇生

君は大阪府人酒井文兵衛の五男にして幣谷傳三郎の弟杉本又三郎の養弟なり明治十二年三月を以て生れ先代兄猪太郎の養子となり同三十九年家督を相続し前名幸三郎を改め襲名す坂又商店と稱し魚問屋業を営み傍ら前記諸會社の重役たり農に大阪府會議員に擧げらる(明二七、四生、市岡高女出身)は大阪府人樋口六左衛門に嫁せり(大阪、西、京町堀上通五ノ四四電柱佐堀三四六)

參照II幣谷傳三郎、杉本又三郎、樋口六左衛門派井上藤三郎の項

酒井幾五良

資産家 東京府在籍

母 とき 萬延元、九生、東京、田中八十八

妻 里 舞 明一六、五生、東京、田中八十八

女 精 一 六二、一〇生

君は東京府人酒井民三郎の長男にして明治十二年二月を以て生れ同四十年家督を相続す資産家たり弟庄五郎(明一九、三生)は外戚田中八十八に同慶之助(同三二、三三)は東京府人養老次郎に各養子となり妹千代(同二四、五生)は同府人海老澤鐵五郎に同イト(同二八、二九)は従兄田中八十八に同ヨシ(同三三、三六、五生)は同府人神山萬藏に嫁し弟房五郎(同二二、二生)同妻みつ(同二六、一〇生、東京、田中職吉妹)は分家し姓壽

參照II幣谷傳三郎、杉本又三郎、樋口六左衛門派井上藤三郎の項

酒井幾五良

資産家 東京府在籍

母 とき 萬延元、九生、東京、田中八十八

妻 里 舞 明一六、五生、東京、田中八十八

女 精 一 六二、一〇生

君は東京府人酒井民三郎の長男にして明治十二年二月を以て生れ同四十年家督を相続す資産家たり弟庄五郎(明一九、三生)は外戚田中八十八に同慶之助(同三二、三三)は東京府人養老次郎に各養子となり妹千代(同二四、五生)は同府人海老澤鐵五郎に同イト(同二八、二九)は従兄田中八十八に同ヨシ(同三三、三六、五生)は同府人神山萬藏に嫁し弟房五郎(同二二、二生)同妻みつ(同二六、一〇生、東京、田中職吉妹)は分家し姓壽

參照II幣谷傳三郎、杉本又三郎、樋口六左衛門派井上藤三郎の項

酒井貫一

村瀬銀行常務取締役、鶴沼銀行村瀬貯蓄銀行、尾張貯蓄銀行、名古屋商事、中央殖産各務取締役

妻 れい 明二六、五生、岐阜、土、武藤章

男 芳 郎 明四五、四生

子(大六、三生、弟房五郎二女)は東京府人淺野榮吉の家籍に入れり(東京市外入新井町新井宿二六一六)參照II海老澤鐵五郎の項

酒井一平

中津電氣、中津製氷、東海電機、東北自動車各務社長、北惠那鐵道監査役、岐阜縣在籍

男 順 平 明三九、三生

君は岐阜縣人酒井兵平の長男にして明治九年四月を以て生れ大正元年家督を相続す現時中津電氣會社社長たる外前記會社の重役たりA一〇〇〇(岐阜、惠那、中津町)

酒井榮次

酒井屋、酒類商 東京府在籍

妻 八 重 明四二、四生、東京、佐島仙吉妹

君は東京府人酒井榮藏の長男にして明治十七年四月を以て生れ同二十七年家督を相続す酒井屋と稱し酒類商を営む家族は尙四男康介(大四、一〇生)五男淳(同一二、九生)あり姉ます(明一〇、八生)は東京府人神藤造酒蔵に妹喜久(同一九、一〇生)は同府人佐島仙吉に嫁し同たまた同二(一、二生)は同府人岩橋才助の養子となれり(東京、本所、練町四ノ二五電柱所三三三)

酒井榮藏

播磨鐵道、播磨電氣鐵道、播磨鐵道各務社長、東京海土地、山陽興業各務取締役、酒井組代表社員

妻 秋 子 明四〇、二生

君は岡山縣人酒井定治の叔父にして明治五年一月を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す土木建築請負業を営み現に播磨鐵道會社社長の外前記諸會社の重役にして日本正義團盟主たり養子壽得(明二七、四生、朝鮮、徐相潤長女)は和歌山縣人谷延二郎に嫁せり(東京市外大井町北濱川一〇三〇電柱高輪三六三三)

酒井億尋

荏原製作所取締役 新潟縣在籍

父 直 一 安政六、三生、現戸主

母 トク 明元、二生、石川、土、島山義比

君は愛知縣人酒井惟一の長男にして明治十年五月を以て生れ大正十年家督を相続す現時村瀬銀行常務取締役の外前記銀行會社の重役たり家族は尙二男修二(大二、八生)三男省三(同四、二生)四男史郎(同五、一〇生)長女敏子(同六、九生)弟精二(明一八、五生)及其一男あり妹ら(同一五、九生)は愛知縣人小澤松太郎弟朝吉に同ひ(同二〇、三生)は同縣人井上鼎一に同あい(同二二、七生)は同縣人佐分利新右衛門に嫁し叔父八郎(同二、一〇生)は同縣人村瀬善三郎の養子となれりA五二二(名古屋、東、登屋町七六電柱三三六)

酒井喜一

愛國生命保險會社調査課長 富山縣在籍

妻 七 明一〇、三生、現戸主

君は富山縣人酒井喜七の長男にして明治二十八年二月を以て生れる現時愛國生命保險會社調査課長にして三井生命保險會社契約課長たり家族は尙弟喜則(明三五、九生)同妻ハライ(同四三、一〇生、富山、大井善助五女)弟喜孝(同四〇、五生)妹輝子(大三、三生)弟喜忠(同五、四生)あり妹ミドリ(明三三、一〇生)は富山縣人阿波加啓太郎に同さみ子(同三八、二生)は同縣人石坂甚吉に嫁せり(東京市外大井町徳谷五九五七)參照II飯倉平兵衛の項

酒井龜久次郎

從五位勳四等、陸軍技術師、陸軍造兵廠大阪工廠職員、和歌山縣在籍

妻 かをる 明四四、五生、東京、土、佐々木

君は和歌山縣人酒井友造の二男にして明治十七年六月を以て生れる同三十七年大阪高等工業學校機械科を卒業し陸軍技術師に任じ大正六年同技術師に進み現時前記の職にあり(大阪、天王寺、勝山通一ノ一八五)

君は新潟縣土族酒井直一の三男にして明治二十七年五月を以て生れる大正五年早稲田大學商科を卒業し現時在原製作所取締役たり家族は尙姉十代(明二一、九生)兄千穂(同二三、一〇生)同妻キヨ(同三四、三生、栃木、白井茂四郎長女)及其二子の外弟輝雄(同三三、一〇生)同妻タツ(同三七、一〇生、新潟、中村治作二女)及其二子並に弟廣(同三八、三生)妹ヨウ(同四〇、五生)ありA一五(東京市外高田町集鴨三五五三電柱大塚三七七〇)

酒井嘉重

静岡商工會議所議員、静岡土地、静岡織布、静岡有信各務取締役、静岡銀行支店配人、静岡縣在籍

妻 はる 明三五、七生、亡五男健則妻、靜岡、大月資平姪

養子 みな 明三三、八生、靜岡、志田瀧四郎

孫 博 大二三、三生、亡五男健則長男

男 壯 介 明三九、九生

養子 喜美子 大元、一〇生、靜岡、大月資平三女

酒井芳

石川縣多額納稅者、農業 石川縣在籍

妻 芳 明二一、八生、亡二男興秀妻、石川、鈴木清七四女

孫 芳 明三九、一〇生、亡二男興秀長男

男 芳 明二六、五生

女 千 枝 明四〇、一〇生

君は静岡縣人海野榮吉の三男にして慶應三年十月を以て生れ先代嘉吉の養子となり明治三十年家督を相続す現時前記諸會社の重役にして静岡商工會議所議員に推薦する家族は尙四女綾子(大八、九生)五女芳子(同一三、一二)七男哲夫(同一五、一〇生)孫眞治(昭二、四生)亡五男健則二男養孫繁雄(大七、三生、靜岡、海野千代松五男)あり長女喜代(明三七、八生)は静岡縣人小泉憲一に二女美代子(同四一、一〇生)は同縣人藤津義雄に嫁せり(静岡市井宮町四七)

酒井金次郎

萬金本店、酒類商 東京府在籍

妻 ぶつ 明三一、一〇生、東京、井上八十

君は東京府人酒井新兵衛の長男にして明治二十五年一月を以て生れ大正十一年繼母くわの後を承け家督を相続す萬金本店と稱し酒類商を営む家族は尙長女鶴子(大六、七生)弟喜三郎(明三七、一二)同清(同三八、一二)あり繼母くわ(同一五、五生、東京、井上八十八二女)は弟金藏(大二、六生)を伴ひ分家し弟喜三郎(明三六、一〇生)も亦分家せり(東京、四谷、谷町二ノ一〇電柱三三六一)

酒井銀太郎

日本商店代表社員、自轉車商 東京府在籍

妻 カタ 明四九、八生、神奈川、井上定吉妹

男 新一郎 明三六、三生、雙葉高女出身

女 百合 明三九、三生、日本女大出身

女 梅子 明四一、一〇生、雙葉高女出身

女 久和子 明四五、二生、佛英和高女出身

君は神奈川縣人山田新兵衛の四男にして明治元年十二月を以て生れ先代くまの養子となり同三十年家督を相続す若年にして志を立て米國に渡航し苦學奮闘十餘年の後歸朝して同三十一年日本商店を開き義經シン自轉車諸機械鋼玉の輸入並に洋服類の販賣に従事す家族は尙二男新二(大九、一〇生)あり長女徳子(明三三、一二)同高女出身は東京府人上野康治郎に嫁せりA六三四(東京、神田、須田町二五電柱神田三三四)參照II井上定吉の項

君は新潟縣土族酒井直一の三男にして明治二十七年五月を以て生れる大正五年早稲田大學商科を卒業し現時在原製作所取締役たり家族は尙姉十代(明二一、九生)兄千穂(同二三、一〇生)同妻キヨ(同三四、三生、栃木、白井茂四郎長女)及其二子の外弟輝雄(同三三、一〇生)同妻タツ(同三七、一〇生、新潟、中村治作二女)及其二子並に弟廣(同三八、三生)妹ヨウ(同四〇、五生)ありA一五(東京市外高田町集鴨三五五三電柱大塚三七七〇)

酒井嘉重

静岡商工會議所議員、静岡土地、静岡織布、静岡有信各務取締役、静岡銀行支店配人、静岡縣在籍

妻 はる 明三五、七生、亡五男健則妻、靜岡、大月資平姪

養子 みな 明三三、八生、靜岡、志田瀧四郎

孫 博 大二三、三生、亡五男健則長男

男 壯 介 明三九、九生

養子 喜美子 大元、一〇生、靜岡、大月資平三女

酒井芳

石川縣多額納稅者、農業 石川縣在籍

妻 芳 明二一、八生、亡二男興秀妻、石川、鈴木清七四女

孫 芳 明三九、一〇生、亡二男興秀長男

男 芳 明二六、五生

女 千 枝 明四〇、一〇生

君は静岡縣人海野榮吉の三男にして慶應三年十月を以て生れ先代嘉吉の養子となり明治三十年家督を相続す現時前記諸會社の重役にして静岡商工會議所議員に推薦する家族は尙四女綾子(大八、九生)五女芳子(同一三、一二)七男哲夫(同一五、一〇生)孫眞治(昭二、四生)亡五男健則二男養孫繁雄(大七、三生、靜岡、海野千代松五男)あり長女喜代(明三七、八生)は静岡縣人小泉憲一に二女美代子(同四一、一〇生)は同縣人藤津義雄に嫁せり(静岡市井宮町四七)

酒井金次郎

萬金本店、酒類商 東京府在籍

妻 ぶつ 明三一、一〇生、東京、井上八十

君は東京府人酒井新兵衛の長男にして明治二十五年一月を以て生れ大正十一年繼母くわの後を承け家督を相続す萬金本店と稱し酒類商を営む家族は尙長女鶴子(大六、七生)弟喜三郎(明三七、一二)同清(同三八、一二)あり繼母くわ(同一五、五生、東京、井上八十八二女)は弟金藏(大二、六生)を伴ひ分家し弟喜三郎(明三六、一〇生)も亦分家せり(東京、四谷、谷町二ノ一〇電柱三三六一)

酒井銀太郎

日本商店代表社員、自轉車商 東京府在籍

妻 カタ 明四九、八生、神奈川、井上定吉妹

男 新一郎 明三六、三生、雙葉高女出身

女 百合 明三九、三生、日本女大出身

女 梅子 明四一、一〇生、雙葉高女出身

女 久和子 明四五、二生、佛英和高女出身

君は神奈川縣人山田新兵衛の四男にして明治元年十二月を以て生れ先代くまの養子となり同三十年家督を相続す若年にして志を立て米國に渡航し苦學奮闘十餘年の後歸朝して同三十一年日本商店を開き義經シン自轉車諸機械鋼玉の輸入並に洋服類の販賣に従事す家族は尙二男新二(大九、一〇生)あり長女徳子(明三三、一二)同高女出身は東京府人上野康治郎に嫁せりA六三四(東京、神田、須田町二五電柱神田三三四)參照II井上定吉の項



サ之部 酒(井)

相續す大正七年東京帝國大學文科大學英文學科を卒業し...

酒井 公平 大五製薬専修生 岐阜縣在籍...

酒井 定右衛門 石川屋、雜貨商 京都府在籍...

酒井 次郎三 靜岡縣多額納稅者、西鐵銀行總取...

酒井 宗太郎 地主 東京府在籍...

酒井 隆吉 從五位勳六等、北海道帝國大學醫學部助教授...

酒井 隆吉 從五位勳六等、北海道帝國大學醫學部助教授...

酒井 隆吉 從五位勳六等、北海道帝國大學醫學部助教授...

(※印は姻族關係)

次四長女)同次吉郎(同一、一生、同長男)同次得郎...

酒井 繁三郎 東海砂利代表取締役、宇都宮德藏回漕店...

酒井 俊一 新潟縣多額納稅者、小出銀行總取...

酒井 正二 酒井織物總代表取締役、酒伊合同紡織...

酒井 卓造 從四位勳三等、醫學博士、千葉醫科大學教授...

酒井 武 竹定藥守屋、醬油問屋業 大阪府在籍...

酒井 越夫 從五位、朝鮮總督府檢事、光州地方法院檢事...

酒井 越夫 從五位、朝鮮總督府檢事、光州地方法院檢事...

サ一〇四

酒井 正七 北海道多額納稅者、酒井商店總取...

酒井 庄平 神奈川縣會副議長 神奈川縣在籍...

酒井 新治郎 家主 大阪府在籍...

酒井 忠一 正四位、子爵 舊上州伊勢藩藩...

酒井 忠一 正四位、子爵 舊上州伊勢藩藩...

酒井 忠一 正四位、子爵 舊上州伊勢藩藩...

酒井 忠一 正四位、子爵 舊上州伊勢藩藩...

酒井 忠一 正四位、子爵 舊上州伊勢藩藩...

サ之部 酒(井)

(※印は姻族關係)

サ一〇五



サ之部 酒(井)

(※印は姻族関係)

業し東京帝國大學に學び宮内省に出仕し...

酒井 忠良

正四位、伯爵、山形縣多額納稅者...

酒井 忠英

正五位、子爵、横濱正金銀行大連支店員...

酒井 忠純

從七位、退任陸軍歩兵中尉、六十七銀行...

酒井 忠孝

酒田米穀取引所理事長、山居賃貸倉庫取締役...

酒井 忠正

從四位、伯爵、貴族院議員、東京府多額納稅者...

酒井 忠吉

從五位勳五等、專賣局副參事、大阪府專賣局庶務課長...

酒井 忠常

從五位勳五等、專賣局副參事、大阪府專賣局庶務課長...

酒井 忠精

從三位、男爵、舊姫路藩分家、當家は先代忠精の立つる所なり...

酒井 爲太郎

英城許番銀行取締役、五十銀行専務取締役...

酒井 常藏

土木建築請負業、兵庫縣在籍、長女...

酒井 寅八

果物産業、熊本縣在籍、明二五、一、生、豊田儀平三女...

サ之部 酒(井)

(※印は姻族関係)

生、子爵米津政實叔父、同妻辰(明元、三、生、東京、士...

酒井 忠高

從七位、退任陸軍歩兵中尉、六十七銀行...

酒井 忠英

正五位、子爵、横濱正金銀行大連支店員...

酒井 忠純

從七位、退任陸軍歩兵中尉、六十七銀行...

酒井 忠孝

酒田米穀取引所理事長、山居賃貸倉庫取締役...

酒井 忠正

從四位、伯爵、貴族院議員、東京府多額納稅者...

酒井 忠吉

從五位勳五等、專賣局副參事、大阪府專賣局庶務課長...

酒井 忠常

從五位勳五等、專賣局副參事、大阪府專賣局庶務課長...

酒井 忠精

從三位、男爵、舊姫路藩分家、當家は先代忠精の立つる所なり...

酒井 爲太郎

英城許番銀行取締役、五十銀行専務取締役...

酒井 常藏

土木建築請負業、兵庫縣在籍、長女...

酒井 寅八

果物産業、熊本縣在籍、明二五、一、生、豊田儀平三女...



**酒井 早雄** 酒井商會常務取締役、白木屋製菓検査課長、東京府在籍  
 妻 ヨシ 明二、八生、大分、松田録兵衛六女

君は東京府人酒井功の二男にして明治十年十一月を以て生れ大正八年兄靜雄方より分れて一家を創立す現に白木屋商品検査課長にして傍ら酒井商會常務取締役たり家族は尙長女貞(大六、四生)二男雄二(同一〇、二生)あり(東京市外大崎町上大崎四七)

**酒井 秀次** 酒井商店専務取締役、大東京鐵道取締役、大正認察監査役  
 妻 正七 嘉永五、五生、現戸主  
 妻 正忠 明一、八、四生、北海道、齋藤平吉女

君は新潟縣人松原慶の四男にして明治十四年六月を以て生れ同二十四年酒井正七の養子となる現時前記各會社の重役たり家族は尙三男保(大九、一一生)四男省三(同一三、一〇生)あり(小樽、稲穂町東七ノ一八)

**酒井 又兵衛** 栃尾銀行、栃尾鐵道各種取締役  
 妻 又平 明三〇、九生、長男又平妻、妹り  
 妻 千代 明二七、一一生

君は新潟縣人酒井良八の長男にして先代又兵衛の孫なり慶應二年十二月を以て生れ明治三十一年家督を相続し前名幸助を改む現時前記各銀行會社の重役たり家族は尙孫又司(大七、六生、長男又平長男)妹りや(明一〇、一一生)及其子女あり(明三六、四生、妹りや)

**酒井 安之助** 家主  
 妻 ケイ 明三五、五生、大阪、川目勝吉長女  
 妻 憲 明四一、五生  
 妻 ヲキ 明四四、二生  
 妻 スミ子 大二、一一生  
 妻 ハナ子 大四、三生

君は大府人酒井安兵衛の弟にして同安太郎の從兄なり明治十九年十二月を以て生れ同三十六年家督を相続す家主たり義に繪安合資會社業務擔當社員たり事あり家族は尙二男亮(明四五、五生)三男三郎助(大七、二生)五男敏夫(明三三、一一生)あり(大阪、南、安堂寺橋三ノ六二電場一四四〇)

**酒井 要一郎** 治郎の項  
 妻 おはなや、吳服商  
 妻 愛知縣在籍

君は新潟縣人下村藤助長男藤作に同ツヤ(同四〇六生、同四女)は同縣人石原信七孫信平に嫁し甥一郎(同二九、六生、同長男)は其妻子を伴ひ分家せり(新潟、古志、栃尾町)

**酒井 久野** 明二、五生、東京、酒井理一  
 妻 元子 明三八、一〇生  
 妻 春子 明四二、五生

君は愛知縣人木村清九郎の長男にして明治十七年十二月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立すおはなやと稱し吳服商を営む家族は尙孫文子(昭三、一一生、陸奥養子國三郎長女)あり(一〇七二B三六四(東京、下谷、竹町一二電下谷三四三))

**酒卷 景一** 忍野銀行監理取締役、忍野銀行常務取締役、埼玉縣在籍  
 妻 登代 慶應元、九生、埼玉、小島貞藏妹  
 妻 さと 明二、三、三、群馬、新島三郎女

君は埼玉縣人酒卷敬之助の長男にして明治十五年二月を以て生れ大正十四年家督を相続す先代敬之助の長男にして現時忍野銀行監理取締役忍野銀行常務取締役庫庫社重役たり君其後を承く早稲田大學政治經濟科出身にして現時忍野銀行監理取締役忍野銀行常務取締役たり家族は尙弟洵(明二〇、三)及其子女同衡(同二二、三)同妻マカ(同三一、三)京、玉城嘉十郎(同四、一)生)は同妻イネ(同八、一)生、北海道、小澤辰次郎(二女)及其子女を伴ひ分家し同六郎(同八、九)生)は埼玉縣人柿崎政次郎長女津彌の婿となり妹知勢(同一六、一〇生)は子爵尾光の母たり(八四八B一五)埼玉、北埼玉、志多見村(電生二)

**酒卷 芳男** 正五位勳五等、宮内省参事官兼宮内書記官、大臣官房總務課勤務  
 妻 繼母 サタ 文久二、四生、東京、酒巻興教二女  
 妻 壽 明二九、一一生、東京、秋月登藏二女

君は東京府土族飯島貞義の四男にして同道徳の弟なり明治二十三年七月を以て生れ先代一男の養子となり昭和二年家督を相続す大正三年東京帝國大學法科大學獨和法科を卒業し現時宮内省参事官兼宮内書記官にして大臣官房總務課に勤務す家族は尙長女千榮子(大六、一一生)一子女志都(同八、一)生)三子女香子(同九、二)生)四子女瑛子(昭二、一)生)あり(東京市外巢鴨町巢鴨一〇五九電大塚一〇六二)

**相良 安之助** 鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島肥料廠取締役、酒造業、鹿兒島縣在籍  
 妻 弘 明三一、九生  
 妻 筆子 明三九、八生、長男弘妻、東京、高坂要四郎長女  
 妻 清 明三八、一〇生  
 妻 ハルエ 明四二、三

君は鹿兒島縣人相良安藏の長男にして明治五年四月を以て生れ同三十八年家督を相続す酒造業を営み現に縣下の多額納稅者にして前記會社の重役たり家族は尙孫泰代(昭三、一)生、長男弘長女(同四、一)生、同二女あり長女シヅエ(明三四、一)生)弟敬三(同二六一)生)は共に鹿兒島縣人藤武喜助の養子となり妹フチ(同一八、六)生)は同縣人岩元善藏に嫁せり(鹿兒島市柳町一〇)

**酒卷 貞一郎** 從五位勳六等、判事、東京地方裁判所部長、埼玉縣在籍  
 妻 幾三郎 文久元、一一生  
 妻 明三、一一生、山梨、秋山儀作妹  
 妻 さだ 明二五、八生、千葉、杉谷達長女  
 妻 誠之 大、一一生

君は埼玉縣人酒卷房次郎の三男にして明治二十年一月を以て生れ酒卷幾三郎の養子となる大正二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し後辯護士を開業せしが同六年判事に任ぜられ官界に入る新潟地方兼同區東京區兼同地方甲府地方兼同區各裁判所判事兼同區各地方裁判所部長等に歴補し昭和二年東京地方裁判所部長に轉じ今日に至る家族は尙長女順子(大六、一〇生)二男直(同一二、二)生)三男昭(昭三、一)生)養妹孝子(大一一〇、三)生)あり(東京市外入新井町新井三三四)

**彭城 嘉津馬** 富士電力、第二富士電力、川根電力索道各取締役、東京府在籍  
 妻 明一〇、一一生、靜岡、土、藤野在善四女

君は長崎縣土族清江良太夫の三男にして明治七年七月を以て生れ先代清江の養子となり同三十一年家督を相続す現に富士電力會社取締役の外前記各會社の重役たり長女嘉(明三三、六)生)は靜岡縣人海軍技師齋藤定藏に嫁せり(一四四五(東京、本郷、駒込神明町三六四電小石川五四七〇))

**相良 頼綱** 從四位、子爵、東京府多額納稅者、舊肥後人吉藩  
 妻 中子 明三、四生、從五位  
 妻 頼知 明三七、四生、從五位

當家は左大臣藤原武智磨の裔駿河守時理の二男遠江守維兼の後なり其孫右京大夫周頼遠州相模原郡相良の庄を領し依て氏とす後四世を経て三郎長頼に至り建久九年初めて肥後人吉の庄を領す後十一世を経て宮内少輔長毎に至り豊臣氏に屬し又徳川氏に隨ひ人吉二萬二千石の本領を安堵す夫より二十一世を経て先代頼綱に至る頼綱宮中藏候藤原長局書記官主典に歴任して歐洲を漫遊し明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に列す君其後を享く君實は先々代頼基の男にして明治九年十一月を以て生れ先代頼綱の養子となり大正十三年家督を相続し肥後仰付局に學習院及外國語學校に學び後林學を修め帝室林野管理局長に任ぜられし現時獨立して山林を經營す長女島子(明三九、八)生)は伯爵眞田幸治に二女充子(同四二、四)生)は愛知縣人伊藤次郎左衛門二男鏡次郎に養妹貞子(同一〇、四)生)は子爵福岡秀猪に同鴻子(同一四、一〇)生)は元特命全權公使杉村虎一に養叔母弘子(同一〇、七)生)は子爵京極高備に嫁し養叔父基直(同一四、四)生)は故男爵島津久實の後を

**酒卷 貞一郎** 從五位勳六等、判事、東京地方裁判所部長、埼玉縣在籍  
 妻 幾三郎 文久元、一一生  
 妻 明三、一一生、山梨、秋山儀作妹  
 妻 さだ 明二五、八生、千葉、杉谷達長女  
 妻 誠之 大、一一生

君は埼玉縣人酒卷房次郎の三男にして明治二十年一月を以て生れ酒卷幾三郎の養子となる大正二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し後辯護士を開業せしが同六年判事に任ぜられ官界に入る新潟地方兼同區東京區兼同地方甲府地方兼同區各裁判所判事兼同區各地方裁判所部長等に歴補し昭和二年東京地方裁判所部長に轉じ今日に至る家族は尙長女順子(大六、一〇生)二男直(同一二、二)生)三男昭(昭三、一)生)養妹孝子(大一一〇、三)生)あり(東京市外入新井町新井三三四)

**相良 益次郎** 從四位勳五等、水戸高等學校教授  
 妻 節子 明二三、二生、岡山、宮田良三女  
 妻 節子 明二〇、五生

君は佐賀縣土族相良信之の長男にして明治五年九月を以て生れ同七年家督を相続し長男益次郎を改む同三十二年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し同四十二年佐賀縣立小城中學校教諭第四高等學校教授兼生徒監を経て大正四年水戸高等學校教授に任ぜられ今日に及ぶ家族は尙長女貞子(大一一〇、一〇)生)あり(養子)子(明三三、一)生、佐賀、大善寺(一)生)は熊本縣人西島七郎二男壽生に嫁せり(水戸、上市松小路一)

**相良 頼綱** 從四位、子爵、東京府多額納稅者、舊肥後人吉藩  
 妻 中子 明三、四生、從五位  
 妻 頼知 明三七、四生、從五位

當家は左大臣藤原武智磨の裔駿河守時理の二男遠江守維兼の後なり其孫右京大夫周頼遠州相模原郡相良の庄を領し依て氏とす後四世を経て三郎長頼に至り建久九年初めて肥後人吉の庄を領す後十一世を経て宮内少輔長毎に至り豊臣氏に屬し又徳川氏に隨ひ人吉二萬二千石の本領を安堵す夫より二十一世を経て先代頼綱に至る頼綱宮中藏候藤原長局書記官主典に歴任して歐洲を漫遊し明治十七年子爵を授けられ貴族院議員に列す君其後を享く君實は先々代頼基の男にして明治九年十一月を以て生れ先代頼綱の養子となり大正十三年家督を相続し肥後仰付局に學習院及外國語學校に學び後林學を修め帝室林野管理局長に任ぜられし現時獨立して山林を經營す長女島子(明三九、八)生)は伯爵眞田幸治に二女充子(同四二、四)生)は愛知縣人伊藤次郎左衛門二男鏡次郎に養妹貞子(同一〇、四)生)は子爵福岡秀猪に同鴻子(同一四、一〇)生)は元特命全權公使杉村虎一に養叔母弘子(同一〇、七)生)は子爵京極高備に嫁し養叔父基直(同一四、四)生)は故男爵島津久實の後を



サ之部 相(樂) 境(菜) 田(谷)

(※印は姻族関係)

關きて久賢と名し其子久英當主たり(東京、麻布、東  
鳥居坂町一三電赤坂二六八)  
參照 公愛 伯備岡田幸治、子爵岡田秀  
猪、子爵京極高綱、男爵島津久英、伊藤次郎  
左衛門公爵西園寺公望、公爵島津忠重、公  
爵廣田信輔、侯爵佐竹義春、伯爵中野信子、  
伯爵阿部正一、子爵松平頼孝、男爵住友吉左衛  
門、男爵高千穂宜廣、男爵徳大寺則廣、岡谷  
惣助、柏原孫左衛門の項

相樂 公愛 從五位、男爵  
妻 淳子 明三六、七生、子爵梅溪通虎妹、  
先代綱直養子

當家は故正三位子爵富小路敬直の次男富道の立つる所  
なり富道幼にして南都興福寺の僧となり同寺中慈門院  
の住職となり明治元年勅命に依り復して別に一家を  
立て家號を相樂と稱す翌年堂上の列に加へられ八年  
華族に列す先代綱直は子爵富小路隆直の叔父にして其  
後を嗣ぎ明治十七年男爵を授けらる君實は侯爵磯崎公  
勝の四男岡實勝子爵牧野康熙の弟男爵中根實元の兄に  
して明治三十三年二月を以て生れ先代綱直の養子淳子  
の婿養子となり昭和三年家督を相續し襲爵被仰付(京  
都、上京、寺町今出川上ル四丁目西入塔ノ段櫻木町三  
九四)

參照 侯爵磯崎公勝、子爵梅溪通虎、子爵牧野康熙、  
男爵中根實元、侯爵實勝、子爵富小路隆直、  
子爵毛利元雄、男爵川崎武之助、男爵雨宮鐵郎、  
町田徳之助の項

境長三郎 從四位勳三等、朝鮮總督府檢事、  
京城覆審法院檢事、佐賀縣士族  
妻 とめ 明一四、八生、福岡、士、三原良  
太郎四女

君は佐賀縣士族境長三郎の長男にして明治四年十月を以  
て生れ大正四年家督を相續す明治三十四年東京帝國大  
學法科大學英法科を卒業同三十六年判事に任じ名古屋  
岡崎各區裁判所判事福岡地方裁判所判事を經て同四十  
一年統監府判事に轉じ京城地方裁判所判事に補せられ  
同四十三年朝鮮總督府判事に任じ爾來京城地方裁判檢  
事高等法院檢事京城地方裁判檢事正次郎覆審法院檢事

長等に歴補し現時京城覆審法院檢事長たり家族は尙四  
女正子(大九、九生)三男延三(同一、七生)亡妹タツ  
夫徳太郎(明一六、四生、佐賀、小部伊平太弟)及其子  
女亡弟源太郎の子女あり長女佐久古(同三六、五生)は  
北海道人益田俊夫に二女夏子(同四三、八生)は香川縣  
人山地靖之に嫁せり(京城、覆審法院内)

境 豐吉 日本青森縣取船役、東京イシー  
工業、東山農事、鎌倉海濱ホテル  
東京米穀各縣監査役、辯護士  
妻 照 明六、五生、鹿兒島、士、田實胤  
信二女

君は福岡縣士族境善次郎の二男にして元治元年三月を以  
て生れ明治八年家督を相續す同十八年以來辯護士を業  
とし傍ら前記諸會社の重役たり家族は尙七男俊夫(大  
三、一〇生)八男貞夫(同六、五生)孫京子(同九、九生  
長男一郎長女)同善子(同一、四生、同二女)同直哉  
(昭二、一〇生、同長男)あり長女田鶴子(第一高女出  
身)は福岡縣人執行正雄に二女女子(明三三、三生、  
三輪田高女出身)は京都府人酒見外次三男佐市に嫁せ  
り(東京、牛込、市谷町二ノ三五電牛込二〇八九)  
參照 志田勝民の項

境田 賢吉 因幡水方電氣、日本電力、飛騨索  
道運輸、日電證券各縣取船役  
妻 木 嘉永五、一〇生、大阪、堀江純一妹  
たすへ 明二八、八生、岐阜、神戸治三郎  
婿 明四三、六生

君は大阪府人境田秀成の長男にして明治十年四月を以  
て生れ同三十一年家督を相續す同三十五年京都帝國大  
學理工科大學土木工學科を卒業京都府技師日山水力電  
氣會社技師を経て現時前記各會社の重役たり家族は尙  
四女壽子(大一〇、六生)五女俱子(同一、三三)二男

賢治(同一五、五生)あり長女節子(明四一、九生)は大  
阪府人橋本長男覺勝に嫁せりA二三〇一(大阪、三  
島、春日村電本五五)

境野源八郎 日本相模縣取船役  
妻 規矩夫 明二八、八生、長男規矩夫妻、和  
歌山、山田靜馬長女

君は群馬縣人境野憲太郎の二男にして文久元年八月を  
以て生れ明治四年先代彦藏の養子となり家督を相續す  
現時前記會社の重役にして兼に共益商會取船役たりし  
事あり家族は尙孫和子(大八、一〇生、長男規矩夫妻長女)  
同みち子(昭二、九生、同二女)あり長女フサ(明三  
一、三三)は群馬縣人重田義男に嫁せり(桐生、安樂土  
二四六)

榮田 猛猪 從五位勳六等、東京外國語學校教  
授、高知縣在籍  
妻 兼太郎 安政元、八生  
石尾 明一七、三三、養父兼太郎長女  
一 郎 大一一、一〇生、養父兼太郎長女

君は高知縣人濱田壽吉の三男にして明治十二年三月を  
以て生れ先代兼太郎の養子となり同四十二年家督を相  
續す同三十三年高知縣師範學校同三十九年第一臨時教  
員養成所國語漢文科を卒業し高知縣立第一中學校教諭  
に任じ更に東京帝國大學文藝學科大學助手となり同四十  
四年東京外國語學校助教授に轉じ大正七年同校教授とな  
り今日に及ぶ長女女子(明四一、二生)は高知縣人福留  
淺治長男健男に嫁せり(東京、小石川、高田老松町一  
七電牛込五五四)

名萬次郎が改む現時前記會社の重役にして推されて岡  
山商工會議所議員たり家族は尙三男川平(大一一、九  
生)二女雪之(同一四、三三)あり兄繁二(明一〇、三三)  
同柳太郎(同一七、三三)は各分家し姉千賀(同一二、  
二生)も亦其夫増藏(同九、八生、岡山、龜山源平四男)  
及其子女と共に分家せり(岡山市東田町八〇)  
參照 龜山俊藏の項

榮屋 誠貴 榮屋石綿紡織所社長  
妻 女 明九、七生、大阪、楠岡助三郎長  
女、榮屋石綿紡織所取締役

君は愛媛縣士族岡宮久敬の四男にして明治二年二月を  
以て生れ同二十三年家督を相續す現時榮屋石綿  
紡織所社長たり長女繁子(明二七、七生)は兵庫縣士族  
山田水哉三男千倉に嫁し養子あつ(同四一、七生、兵  
庫、樹田和三郎妹)は分家せり(大阪、泉南、信達村牧  
野)

神 岩五郎 岩手縣多額納稅者、吳服商  
妻 女 明一五、三三、岩手、東藤秀助長  
女

君は岩手縣人先代岩五郎の長男にして明治八年十月を  
以て生れ大正四年家督を相續し襲名して前名源次郎を  
改む吳服商を營み縣下の多額納稅者たり家族は尙三男  
源三(大四、四生)孫盛文(同一四、三三)、長男文治郎  
長男(同啓助)昭三、五生、同二男弟安藏(明二七、九  
生)同妻キ(同三六、四生、岩手、宮金太郎庶子)及  
其子女同七兵衛(同二八、九生)同妻ト(同三五、一  
一生、岩手、中澤善太郎長女)及其子女妹リ(同一二  
九生)及其子女あり弟清助(同二五、三三)は其妻ヤエ  
(同三〇、九生、岩手、佐藤ミツ妹)及其子女を伴ひ同  
半助(同二六、四生)は其妻ナミ(同三二、八生)を伴ひ同  
川、伊東芳太郎妹)及其子女を伴ひ各分家せり(盛岡、  
志家第六地刺町二二四)  
參照 沢川村徳助の項

神 順次郎 神戶院長、日本産婆看護學校校長  
妻 女 明六、一〇生、神奈川、桑島登連長  
婿 明三三、三三、長男邦彦妻、神奈  
川、六角謙吉四女

神 常吉 増田組取締役、土木建築請負業  
妻 女 明一五、七生、京都、士、野添元  
之進妹

君は京都府人神常吉の長男にして明治十一年七月を以  
て生れ同三十九年家督を相續す土木建築請負業を營み  
増田組取締役たり家族は尙弟常治郎(明三三、九生、  
増田組監査役)同妻キ(同四四、三三)、京都、谷菊太  
郎庶子)及其子女あり妹アイ(同二七、四生)は滋賀縣  
人青木市市長男傳七に嫁せりA八七九B一八五(京都、  
東山、宮川筋四ノ三一九ノ二電祇園二七五)

神 伊助 愛知縣多額納稅者、知多商工會  
所常議員、知多鐵道取船役、衣  
浦銀行、中田臨港各縣監査役、酒  
造業、愛知縣在籍  
妻 女 明二五、七生、愛知、鈴木登太郎  
長女

君は愛知縣人先代伊助の長男にして明治十二年十一月  
を以て生れ大正四年家督を相續し前名篤一郎を改め襲  
名す酒造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接  
國稅二千六十八圓を納め縣下の多額納稅者に列し推さ  
れて知多商工會議所常議員たり家族は尙明克己(大五、  
九生、亡弟伊三郎長男)あり弟愛次郎(明一四、二生)  
は其子女を伴ひ同謙吉(同二〇、六生)同妻ちやう、同  
二〇、七生、愛知、勝野太郎妹)は其子女を伴ひ各  
分家し同義助(同三一、七生)も亦分家し同謙平(同二  
三、三三)は愛知縣人神原文四郎の養子となり妹ぜつ  
(同三三、七生)は同縣人森田清兵衛に嫁せり(愛知、知  
多、成岩町電一四九)

神 原吉兵衛 やつこうなき、料理業  
妻 女 慶應三、一〇生、養父吉兵衛長女  
小林長三郎弟  
養子 精一 明二五、四生、養子あか夫、東京  
明二二、四生、養子精一妻、養父  
養子 あか 吉兵衛五女

サ之部 榮(屋) 神(原)

(※印は姻族関係)















九生)は分家し長女アキ(同三一、一〇生)は東京府人  
大庭四郎に二女マサ(同三四、三三)は神奈川縣人堤英  
三に嫁せり(川崎、大野河原)

**櫻井昇策** 廣須賀市會議員、廣須賀商工會議  
所常議員、米穀商、神奈川縣在籍  
妻 ヨシ 明八、七生、英城、野村安吉長女  
男 昌 明三七、九生、明大出身  
君は神奈川縣人櫻井忠之助の二男にして明治十一年二  
月を以て生れ大正二年家督を相続す米穀商を営み推さ  
れて廣須賀市會議員同商工會議所常議員たり義に神奈  
川縣多額納税者に列す家族は尙三男秀雄(明四五、五  
生)四男亮(大三、二生)姪五百子(明四四、二生)亡弟三  
郎(二女)あり二男昇(同四一、五生)は英城縣人野村たつ  
の死跡を相続し養子とす(同三〇、一二生、英城、石  
引莊二孫)は神奈川縣人松尾吉吉に嫁せり(同四一  
九生、亡弟三郎長女)は東京府人山口倉吉の養子とな  
れり(廣須賀、山王町一六電一〇七)

**櫻井錠二** 從二位勳一等、理學博士、樞密顧問  
官、帝國學士院長、學術研究會  
議長、東京帝國大學名譽教授  
東京府在籍  
妻 三 慶應二、一、生、石川、土、岡田楳  
二女  
男 武 明二〇、九生、海軍中佐  
男 房 明三一、六生、三男武雄妻、兵庫  
野口太郎姉  
男 季 明二九、九生、理化學研究所員  
明三八、四生、五男季雄妻、文學  
博士大瀨甚太郎五女  
男 春 明三三、五生、七男春雄妻、理學  
博士大瀨甚太郎五女  
男 秋 明四二、二生  
男 信 明四二、二生  
君は舊金澤藩士櫻井甚太郎の四男にして安政五年八月  
を以て生れ明治二十年兄房記方より分れて一家を創立  
す同四年出家して大學南校に入り普通學を修む當り化  
學を専攻す同九年文部省より化學研究の爲英國に留學  
を命ぜられ倫敦大學に入り在學五年クローズウオルカ獎  
學金及金牌を受く同十五年歸朝文部省御用掛東京大學  
講師となり翌十五年東京大學理學部教授に任ぜられ同  
二十一年理學博士の學位を授けらる後東京帝國大學理

學部長に推され東京帝國大學總長事務取扱に補せら  
る學術視察及び萬國學術會議の爲歐米各國に出張  
する事數回アラゴスゴ大學より法學博士の名譽學位を  
授けられ佛國米國各化學會英國工業化學會英國皇立學  
士院醫學士院等の名譽會員に選ばる大正九年貴族院  
議員に勅選せられ現時樞密顧問官にして帝國學士院長  
に擧げられ又東京帝國大學名譽教授學術研究會議長  
たり家族は尙孫道子(六一、九生、三男武雄長女)同君  
子(同三一、四生、同二女)同由美子(昭二、一〇生、同  
三女)同美代(大一一、一〇生、五男季雄長女)同昭雄  
(昭二、一〇生、同長男)同壽美(同四、九生、同二女)  
あり二男時雄(明一八、一二生)同妻つよ(同二七、七  
生、埼玉中條寺八五女)は其一子か伴ひ分家し長女峰  
(同二一、九生)は東京府士族鈴木正美に二女文(同二  
二、一〇生)は同府士族理學士鈴木庸生に四女皆(同二  
六、九生、御茶の水高女出身)は愛媛縣人醫學博士芳我  
石雄に五女滿(同三六、一〇生)は愛知縣人服部勤二男工  
學士謙次に嫁せり(東京、本郷、駒込町三電小石川  
七五一)

參照 大瀨甚太郎、鈴木正美、鈴木庸生、岩崎輝彌  
、濱野阿具、中波慈女、濱野村、松井簡治  
の項

**櫻井眞吾** 從七位勳六等功五級、山通村長、  
新潟縣會議員、朝日酒造取締役  
新潟縣在籍  
妻 ア ヤ 明二〇、四生、新潟、金内老之進  
長女  
女 ヒロ 明二二、四生  
君は新潟縣人櫻井慎三郎の長男にして明治十五年七月  
を以て生れ同二十七年祖父慎平の後を承けて家督を相  
續す現時前記會社の重役にして推されて山通村長新潟  
縣會議員たり家族は尙弟茂(明一九、九生)同妻八重  
(同三〇、八生、新潟、金内燕長女)及其子女あり(新  
潟、古志、山通村)

以て生れ櫻井平七の養子となり同三十七年分れて一家  
を創立す洋品雜貨商を營み武藏野館社長の外前記會社  
の重役たり家族は尙七男七郎(大一一、四、三三)あり(東  
京市外淀橋町角管九電四谷一〇五七)

**櫻井清三郎** 愛知縣多額納税者、足袋太物商  
愛知縣在籍  
妻 し げ 衛門養姉  
男 一 明一一、一〇生、愛知、山田八右  
君は愛知縣人櫻井秀三郎の二男にして明治三十九年五  
月を以て生れ大正十五年祖父清三郎の後を承けて家督を  
相続し前名久三を改め襲名す足袋太物商を營み同縣多  
額納税者たり家族は尙兄清一(明三六、四生)弟昌平  
(同四四、七生)妹綾子(大三、六生)弟守三(同八、一  
一生)あり姉峰(明三三、二六生)は愛知縣人福田卯助に  
嫁せり(名古屋、東、七間町三ノ五電東一三九)  
參照 山田八右、福田卯助の項

**櫻井宗一郎** 正四位勳三等、錦鶏岡祇候  
富山縣在籍  
妻 里 久 明四四、一二生  
女 貞 明四四、一二生  
君は富山縣人先代宗一郎の二男にして明治十九年五月  
を以て生れ大正十三年家督を相続し前名好雄を改め襲  
名す農業を營み傍ら前記銀行の重役にして直接國稅二  
千六百一圓を納め縣下の多額納税者たり推されて油田  
村長に就任す家族は尙三女静(大七、二生)四女淑(同  
一〇、一〇生)あり弟健吉(明二三、二生)は富山縣人  
井長平に妹富(同二五、四生)は同縣人關口環に各養子  
となり姉すみ(同九、六生)は同縣人矢崎嘉十郎長男外  
吉に同やす(同一一、一〇生)は同縣人菊池治七郎長男林  
造に同(同六一、一〇生)は同縣人館長右衛門に嫁し  
叔父久五郎(文久三、一〇生)同妻(慶應二、一二生  
石川、土、松田亮長女)は共に分家せり(富山、東礪波  
油田村)

**櫻井爭三** 從五位勳六等、鐵道技師、大臣官  
房研究所勤務、東京府在籍  
妻 ふ じ 明三七、一〇生、群馬、秋谷泰一妹  
男 昭 昭二、八生  
君は東京府人櫻井小平太の三男同小一の弟にして明治

二十年十二月を以て生れ同三十八年分れて一家を創立  
す同十四年東京帝國大學工科大学機械工學科を卒業  
し鐵道院技師同技師を経て大正九年鐵道技師に任ぜら  
れ大臣官房研究所に勤務す義に在外研究員を命ぜられ  
三ヶ年英米各國に出張す家族は尙二男隆二(昭三、一  
二生)長女明子(同五、九生)あり(東京、小石川、西江  
戸川町三)

參照 櫻井小一の項

**櫻井惣助** 貸地貸家業  
東京府在籍  
妻 いく 長女  
男 甚 吾 大一一、二生  
君は愛知縣人近藤博の長男にして明治十八年十二月を  
以て生れ先代惣助の養子となり大正十一年家督を相続  
し前名甚吾を改め襲名す先代惣助物業を營みしが君  
に至り之を廢し貸地貸家業に従事す養母とす(慶應二  
一、一〇生、静岡、宮地安次郎長女)は分家し庶子友治(大  
八、八生、生母、櫻井のぶ)は其の養子となれり(東京  
市外小松川町一ノ一〇五電墨田二二二五)  
參照 黒田辰五郎の項

君は東京府人櫻井魯助の長男同功の甥にして明治三十  
七年三月を以て生れ大正十二年家督を相続す醫師たり  
家族は尙弟麟(明四〇、七生)妹天瑠子(同四三、五生)  
同みよ子(大三、三三)の外叔父清香(明二七、一〇生)同  
妻操(同三二、二生、北海道、奥田良平四女)及其一男  
一女あり叔母静子(同二五、三三)は大阪府人佐多愛彦  
に嫁せり(東京、芝、西久保算手町二六電芝七六七)

參照 佐多愛彦、櫻井功の項

**櫻井忠剛** 勳八等、尼崎市長  
兵庫縣在籍  
妻 子 明六、五生、子爵酒井忠英叔母  
男 忠 守 明二六、三三  
男 忠 貞 明三一、六生  
君は東京府士族櫻井忠剛の長男にして慶應三年四月を  
以て生れ後家督を相続す現時尼崎市長たり家族は尙三  
男忠典(大一一、二生)あり長女春子(明二四、三三)は兵  
庫縣人杉原淳造二男詳造に嫁し三女信子(同三七、五  
生)は同縣人秋岡龜太郎の死跡を相続せり(尼崎、竹谷  
新田村一三六ノ三)

參照 子爵酒井忠英の項

被仰付學習院中等科出身にして博物學を好み標本の蒐  
集を以て樂となす家族は尙六女博子(大八、一〇生)七女  
瑛紀子(同一一、一二生)あり長女章子(明四〇、二生)  
女子學習院出身)は子爵南部利克嗣子信克に嫁せり(東  
京市外目黒町上目黒五〇四電青山六五三)

參照 子爵南部利克、子爵本多忠昭、井上正詮の項

**櫻井忠温** 正五位勳三等功五級、陸軍少將  
愛媛縣在籍  
妻 し つ の 明一八、九生、愛知、森與治右衛  
門長女  
女 温 子 明四四、一〇生  
君は愛媛縣士族櫻井信之の三男にして明治十二年六月  
を以て生れ大正二年家督を相続す夙に軍籍に入り明治  
三十五年陸軍歩兵少尉に任じ昭和五年陸軍少將に累進  
す其間第十二師團副官陸軍兵器本廠附等を歴補し昭和  
五年換備役に編入せらる「肉彈」の著者として知られ其  
他著作數種あり弟忠武(明二〇、一二生)は同妻多賀  
(同三〇、九生、東京、木村駿吉三女)と共に其三子を  
伴ひ分家し妹スエ(同二七、一〇生)は愛媛縣人木村謙  
介に嫁せり(東京、四谷、南寺町二三)

參照 木村駿吉、大山綱國の項

君は長野縣人櫻井紋四郎の二男にして明治七年十二月  
を以て生れ同三十五年家督を相続す多年花玉石鹼本舖  
長瀬商會に仕へ同三十二年刺用紙の製造販賣を始め  
目下星名刺として普く内外に聲價を認められ本邦新業  
者中一頭地を抜く尙青寫眞感光紙製圖用紙等の製造を  
なし益々發展しつゝあり家族は尙五男五郎(大二、八  
生)六男滋(同一〇、一〇生)あり長女文子(明四〇、五  
生)日本女大出身)は廣島縣人多川熊次郎三男静志に  
嫁せり(大二三五三B七〇一(東京、日本橋、馬喰町二  
ノ一電蓮花五〇〇〇))  
參照 多川一治の項

當家は徳川家康四代の祖松平出雲守長親の三男内膳正  
信定の後なり信定三州櫻井の城主となり櫻井の松平と  
稱す夫より六代左馬頭忠頼家康に仕へ遠州濱松五萬石  
の城主となりしを慶長十四年江戸の棋席に於て刺殺せ  
られ其子幼なるを以て所領を沒收せられ更に其嫡子大  
膳大夫忠重に封邑を賜ひ寛永十二年同國掛川四萬石に  
累進す後八代を経て攝州尼崎の城主として四萬石を領  
し先代忠興に至り維新後姓を櫻井と改め明治十七年子  
爵を授けらる君は其三男にして明治十四年七月を以て  
生れ前名を善之助と稱し同二十八年家督を相続し襲爵

君は舊出石の藩士櫻井一太郎の長男にして天保十四年  
九月を以て生る藩主一太郎生前の功勞を嘉し特に祿を  
賜ひ一家を建てしむ明治二十五年家督を亡長男恒次郎  
に譲り退隱す夙に和漢の學を修め明治元年藩の貢士と  
なり其秋藩學弘道館の校長たり同二年藩の少參事とな  
り果進して大參事となり慶應後松山縣權參事租稅補助  
内務省地理寮五等出仕兼地租改正局五等出仕内務大書  
記官地理局長山田局長等に歴任す尋で同二十二年徳島  
縣知事に任じ後官を罷め衆議院議員に當選し再び山梨  
縣知事に起用せられ新州知事を経て神社局長に任ぜ  
られ同四十年錦鶏岡祇候仰付らる嘗て新竹製腦會社取  
締役會長たりし事あり著書多く校補但馬考小笠原誌但

星名刺及青寫眞感光紙製造元  
東京府在籍  
妻 エ ン 嘉永四、一、生、長野、櫻井金作長  
女 明一四、五生、長野、佐々木與平  
男 明三九、四生、慶大出身  
女 静子 明四三、九生、東京府立第一高女  
君は長野縣人櫻井紋四郎の二男にして明治七年十二月  
を以て生れ同三十五年家督を相続す多年花玉石鹼本舖  
長瀬商會に仕へ同三十二年刺用紙の製造販賣を始め  
目下星名刺として普く内外に聲價を認められ本邦新業  
者中一頭地を抜く尙青寫眞感光紙製圖用紙等の製造を  
なし益々發展しつゝあり家族は尙五男五郎(大二、八  
生)六男滋(同一〇、一〇生)あり長女文子(明四〇、五  
生)日本女大出身)は廣島縣人多川熊次郎三男静志に  
嫁せり(大二三五三B七〇一(東京、日本橋、馬喰町二  
ノ一電蓮花五〇〇〇))  
參照 多川一治の項

從三位、子爵  
舊攝州尼崎藩  
妻 鷹 子 明二一、三三、子爵本多忠昭姉、  
學習院女學部出身  
男 加壽子 明四二、一〇生、女子學習院出身  
女 美知子 明四三、一二生、女子學習院出身  
當家は徳川家康四代の祖松平出雲守長親の三男内膳正  
信定の後なり信定三州櫻井の城主となり櫻井の松平と  
稱す夫より六代左馬頭忠頼家康に仕へ遠州濱松五萬石  
の城主となりしを慶長十四年江戸の棋席に於て刺殺せ  
られ其子幼なるを以て所領を沒收せられ更に其嫡子大  
膳大夫忠重に封邑を賜ひ寛永十二年同國掛川四萬石に  
累進す後八代を経て攝州尼崎の城主として四萬石を領  
し先代忠興に至り維新後姓を櫻井と改め明治十七年子  
爵を授けらる君は其三男にして明治十四年七月を以て  
生れ前名を善之助と稱し同二十八年家督を相続し襲爵

正四位勳三等、錦鶏岡祇候  
兵庫縣在籍  
妻 つ や 安政五、七生、兵庫、佐伯五郎兵  
衛姉  
男 明一〇、三三、亡長男恒次郎妻、  
東京、大澤兵太郎養子  
女 明四〇、四生、亡長男恒次郎長男  
現戸主  
君は舊出石の藩士櫻井一太郎の長男にして天保十四年  
九月を以て生る藩主一太郎生前の功勞を嘉し特に祿を  
賜ひ一家を建てしむ明治二十五年家督を亡長男恒次郎  
に譲り退隱す夙に和漢の學を修め明治元年藩の貢士と  
なり其秋藩學弘道館の校長たり同二年藩の少參事とな  
り果進して大參事となり慶應後松山縣權參事租稅補助  
内務省地理寮五等出仕兼地租改正局五等出仕内務大書  
記官地理局長山田局長等に歴任す尋で同二十二年徳島  
縣知事に任じ後官を罷め衆議院議員に當選し再び山梨  
縣知事に起用せられ新州知事を経て神社局長に任ぜ  
られ同四十年錦鶏岡祇候仰付らる嘗て新竹製腦會社取  
締役會長たりし事あり著書多く校補但馬考小笠原誌但







君は福島縣人櫻内隆藏の弟にして明治十六年九月を以て生れ大正九年分れて一家を創立す同三十九年東京高等商業學校を卒業し直に横濱正金銀行に入り大正八年同行東京支店副支店長となり同十年紅十字會支店支店長に轉じ更に沙市支店支店長に進み現時同行桑港支店支店長たり(桑港、横濱正金銀行支店)

櫻内 幸雄 從三位勳二等、商工大臣、衆議院議員(島根縣選出)、島根縣士族  
妻 さと、明一五、三三、東京、徳永純長女  
男 乾 雄 明三三、八五  
女 文 子 大五、一五  
女 淑 子 大五、一五

君は島根縣士族櫻内和一郎の長男にして同辰郎の兄なり明治十三年八月を以て生れ大正五年家督を相続す夙に早稲田大學理工科を卒業し實業界に入り琴川電力會社々長の外幾多の會社の重役に就任し大正九年以來島根縣より推されて衆議院議員に當選すること四回に及び立憲民政黨に屬し昭和六年同黨幹事長に擧げられ同年四月第二次若槻内閣の組閣に當り閣内に列し商工大臣に親任せらるるに列國議會同盟會議に參列す家族は尙四男義雄(明四五、五五)三女俊子(六七、三三)四女經子(同八、五五)あり(東京、麹町、上二番町一三電九段二四二六)

櫻木滿之助 高知商工會議所會頭、土佐商工聯合會々頭、土佐同盟汽船會社取締役、高知縣士族  
妻 春 田 明二六、九三、二女豊夫、高知、西村庸三男  
男 豐 明三三、九三、養子春田妻  
女 子 明三三、九三、養子春田妻

櫻木亮三 高知縣人田所圭吉の弟にして明治十六年六月を以て生れ櫻木嘉右衛門の養子となり同三十六年分れて一家を創立す藥種商を營み傍ら前記會社の重役に就任して推されて高知商工會議所會頭土佐商工聯合會頭高知縣實業同業組合長高知商組組長たり(阿波電氣軌道會社監査役たり)とあり家族は尙孫茂子(昭三、一二)生、養子春田三女(同四五、九三)あり(高知市種崎町九六)

君は佐賀縣人吉岡卯八の二男にして明治十三年二月を以て生れ同三十年絶家櫻木氏を再興す同三十九年東京帝國大學法政科大學政治科を卒業し現時三河電力會社專務取締役たる外前記諸會社の重役に就任し博多商工會議所副會頭に擧げらるる家族は尙長女澄子(大六四)二女道子(同八、六八)三女亮子(同二〇、四三)四女照子(同八、六八)あり(一八、一〇)(名古屋、東、大曾根町二四六電東三六一八)

櫻澤 千藏 松本製粉會社取締役  
妻 いく 明二二、二二、千葉、坂卷常吉二女  
女 敦 子 大四、三三

君は埼玉縣人櫻澤廣治の二男にして明治十七年四月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同三十七年中央大學を卒業し初め新聞記者たりしが後月刊埼玉公論を主宰す現時松本製粉會社取締役たり(埼玉、大里、熊谷町)

櫻澤忠四郎 三菱商會社社員  
妻 美 代 明二九、一三、岐阜、士、田中勇次三女  
男 堅 太郎 大一二、一一  
女 敦 子 大四、三三

君は埼玉縣人櫻澤廣吉の二男にして明治十七年五月を以て生れ大正十四年兄廣吉より分れて一家を創立す明治四十年東京外國語學校を卒業し三菱商會社に入り日本商工會議所副會頭に推されしが現時同行本店勤務たり家族は尙二男誠二(大一一、四九)三男義郎(昭二七)あり(三菱商會社内)

君は埼玉縣人櫻澤廣吉の長男同志四郎の兄にして明治六年十二月を以て生れ同十八年家督を相続す中外商業新報通信員片倉組社員石原製糖所長を経て大正九年片倉製糖會社理事となり昭和二年同社監査役に擧げられ現時前記諸會社の重役を兼ねる家族は尙孫健彦(大一一、七三)養子富士雄長男(同和彦)昭四、一〇生、同二男あり姉(文久元、三三)は東京府人武田仙吉に姉(明九、二二)は埼玉縣人高田豊次郎に各養子となり姉(慶應三、一三)は同縣人根岸傳三郎に嫁せり(一五、三〇)(東京、本郷、湯島三組町三六電下谷五九八)

櫻田 壬午郎 櫻田機械製造所專務取締役、鬼怒川温泉會社取締役、東京ビルデンガ協理理事、櫻田ビルデンガ主  
父 元次郎 萬延元、一五  
妻 エイ 明一六、一五、東京、小島亮平妹  
男 巖 明四五、二二

君は東京府人櫻田元次郎の長男にして明治十六年二月を以て生れ大正九年家督を相続す明治三十五年櫻田機械製造所を創設し爾來經營に努め大正九年組織を株式に變更し其專務取締役に就任し傍ら前記會社の重役並公共團體の役員たり家族は尙四男午郎(大七、六五)五男英夫(同一一、四三)六男清一(同三三、一五)あり(二〇〇)(東京市外池袋町櫻丘七六電青山三三五六)

櫻田 壽 從四位勳三等、判事、福岡地方裁判所長、宮城縣士族  
妻 さくの 明一二、九三、三三、士、林捨松  
男 勝 德 明三六、一〇生  
女 子 明三六、一〇生

福岡地方裁判所長たり(福岡市船町三五)

櫻田 平治 ヤマサ醤油會社取締役兼東京出張店長、東京府在籍  
妻 たけの 明二九、一三、兵庫、前田五左衛門二女  
男 良 平 大六、一五

君は福岡縣人櫻田平左衛門の四男にして明治九年三月を以て生れ大正三年兄平四郎より分れて一家を創立す明治四十一年中央大學を卒業し現時ヤマサ醤油會社取締役兼東京出張店長たり家族は尙二女信子(大一一、四三)三女愛子(同一一、四三)あり(東京市外池袋町神泉一八電青山二二四五)

櫻田 松太郎 夕刊大阪新聞社監査役、大阪毎日新聞社取締役、大阪府在籍  
妻 末 子 明二五、二二、大阪、濱田太郎姉  
男 昇 明二九、六三

君は奈良縣人川端九平の三男にして明治三年十月を以て生れ櫻田さみの養子となり同二十一年家督を相続す同二十一年山陽鐵道會社に入り同三十一年大阪毎日新聞社に轉じ會計販賣各部長營業局長常任監査役常務取締役等に歴任し昭和四年十二月取締役任期満了と同時に退任し引續き同社の相談役に就任せり而して同社の出資に係る夕刊大阪新聞社監査役たり家族は尙二男重治(明四五、五五)、關西學院在學あり(大阪、豊能、豊中町櫻塚一五二五電岡町五二)

大津教授を辭し櫻根病院を經營し其院長たり長女幸子(明二七、五五)は京都府人楳林建之弟三三に三女コウ(同三三、一一)は奈良縣人谷村忠保に四女キタ(同三七、一一)は長崎縣人田原伸松三男正人に五女トシ(同三九、二二)は熊本縣人宮原甚太郎孫杉造に六女シモ子(同四〇、九三)は和歌山縣人岩崎俊太郎長男俊雄に嫁し二男次郎(同四三、六八)は大坂府士族大塚惟明の養子となれり(大阪、東、北濱四ノ四六電本局一九一四)

君は愛知縣人櫻田延一郎の二男にして明治二十一年十二月を以て生れ同四十四年東京帝國大學農工大學農工學科を卒業し次で京都帝國大學理工大學土木科に入り大正四年卒業す現時矢作電力會社土木係長にして傍ら矢作開墾會社監査役及名古屋高等工業學校講師たり家族は尙長女文子(大一一、一五)二女節子(同一一、七三)二男欣哉(同一一、一五)一男二女節子(同一一、二二)三女千恵子(昭四、一一)弟三男三(明二八、三三)同妻純子(同三六、七三)福井、相澤陣吉郎二女及其一男二女あり姉(同一一、五五)は岐阜縣人後藤庄太郎養子省三に同みつ(同一一、一五)は福井縣人川端太郎弟成康に嫁せり(名古屋、東、大曾根町一九五電東七三六)

君は和歌山縣人櫻根吉兵衛の長男同誠之進の兄にして明治三年九月を以て生れ同十六年家督を相続す大阪獨逸語學校に學び同二十三年大阪府立醫學學校を卒業し大阪府立病院外科助手となり同三十一年同府立助産科同教諭に任ぜられ同三十六年皮膚科長を命ぜらるる同三十八年獨逸に就しアレクサワ市ナイセル博士の門に學び同四十二年醫學博士の學位を授けらる現時大阪府立

君は青森縣人櫻庭八五郎の長男にして明治五年一月を以て生れ後前名豊太郎を改め同三十一年分れて一家を創立す酒類肥料商並金融業を營み縣下の多額納税者にして傍ら弘前電燈會社常務取締役たり又推されて弘前商工會議所議員たり家族は尙六男徳五郎(大八、五五)あり二男豊輔(明三〇、六三)同妻ちや(同三一、二二)青森、内山覺孫(其子女を伴ひ分家し五男健藏(同四三、七三)亦分家し長女(同三九、二二)は青森縣人高橋要一に二女つな(同四一、一五)は同縣人石田正三に嫁せり(弘前、桶屋町八七)

君は鹿児島縣人櫻田助右衛門の三男にして安政四年



一月を以て生れ同二十二年家督を相續す(六十三銀行常務取締役東京支店長)家族は尙養子廣衛(大八、一一生、東京、調所武光二男孫勝憲(同一四、三三、長男政憲長男)同照子(同一五、九生、同二女)同勝彦(昭四、一一生、同二男)あり二女キタ(明一九、一一生)は鹿島鳥嶺人三原貞次郎に三女(同二五、九生)は男爵所一郎叔父武光に嫁せりA八五二(東京、麹町、元園町一ノ三電九段六九二)

雀部 顯宜

從四位勳四等、宮城縣女子專門學校長、大阪府士族  
妻 アイ 明二、九生、長崎、濱恒太郎長男  
男 敬宜 明三二、一一生  
女 尚宜 明三六、三三、長男敬宜妻、三重  
女 輝子 明三八、一〇生  
女 輝子 明四一、三三  
女 輝子 明三三、一〇生  
女 輝子 明三五、二二生

雀部市郎右衛門

西成製紙取締役、柏原洋紙店監査役、東京府在籍  
妻 た 慶三、一一生、先々代市郎右衛門三女  
男 發三郎 明三三、二二生  
男 信之助 明四〇、七生  
君は兵庫縣人小西茂十郎の二男にして安政四年一月を以て生れ先代あやの養子となり明治九年家督を相續す現時西成製紙取締役柏原洋紙店監査役たり五男眞六(明三五、二生)は分家し長女清(同一、六生)は大坂府人豊田字左衛門の養子となり分家し八男(同四元)に嫁せり(仙臺、連坊小路電三七二八)

笹部昌之介

兵庫縣在籍  
妻 トメ 明二、一一生、大阪、松谷重太郎長男  
男 彦太郎 明四四、四生  
君は兵庫縣人笹部彦太郎の二男にして同先代弟なり明治二十年十二月を以て生れ先代定介の養子となり昭和二年家督を相續す現に阪東式鋼管合資會社員たり家族は尙二男次郎(大元、九生)四男虎四郎(同一五、二生)五男昌吾(昭四、七生)ありA二九一(兵庫、武庫魚崎町電二八三三)

笹部 慶一

從五位勳六等、朝鮮總督府技師、總督官房會計課勤務、青森縣在籍  
妻 み 明二、一一生、青森、千葉宇之吉長男  
男 仁 大四、一一生  
君は青森縣人笹部太郎の四男にして明治二十年四月を以て生れる大正二年東京帝國大學工科大学建築學科を卒業し陸軍技師を経て四年陸軍技師に任じ爾來朝鮮總督府技師に任じ内務局勤務を経て現時總督官房會計課勤務たり家族は尙二男昇(大六、一一生)三男旭(同七、六生)長女初枝(同九、一〇生)二女愛子(同一二、一〇生)四男忠夫(同一四、一一生)三女京子(昭四、一一生)兄慶次郎(明一〇、五生、現戸主)及其子女七人(慶助妻)し(同二六、一一生、青森、土、成田彦太郎三女)及其子女あり弟成(同二九、六生)は分家し姓ヤエ(同三二、一〇生、兄慶次郎長女)は北海道人森昭吉に嫁せり(京城、和泉町八號官舎)

笹部 昇太郎

西陣織物取締役兼大阪支店長、大阪府在籍  
妻 む 明七、三三、京都、大橋四五六長男  
男 清太郎 明三二、一一生  
男 慶二郎 明三四、一一生  
男 美代子 明四〇、四生

笹川喜三郎

從五位勳六等、朝鮮總督府技師、總督官房會計課勤務、青森縣在籍  
妻 よし 明三、一〇生、京都、佐竹伊兵衛長男  
男 喜一 大三、七生  
君は京都府人笹川儀助の長男にして明治十九年一月を以て生れ大正八年家督を相續す材木商を商し現時前記會社の重役たり家族は尙二男泰輔(大五、五生)三男三作(同八、三三)長女俊子(同一、六生)二女和子(同一、一三)同妻サノ(同三二、四生、京都、湯淺源太郎二女)ありA八五二(大阪、港、今木町一ノ四七電櫻川二四六三)

笹川 種郎

文學博士、東洋、駒澤大學教授、東北中學、著述業、東京府士族  
妻 とよ 明四、一〇生、愛知、土、柴田有徳二女  
男 義郎 大二、四生  
君は舊幕臣笹川義潔の二男にして明治三年八月を以て生れ同三十二年家督を相續す同二十九年帝國大學文科大學史學科を卒業し白河鯉洋等と江湖文學を發行し勇健奔放の筆を揮ひ後第三高等學校教授宇都宮中學校長明治大學法政大學各講義師等を歴任し文學博士の學位を受く臨風と號し八幡船以下十數種の歴史小説を上梓し皆世に行はれ江戸趣味の人として文壇に知られる家族は尙二男俊夫(大四、九生)あり長女樓文(明三四、三三、跡見女學校出身)は鹿島鳥嶺士族車田篤弟工學士千春に二女雪子(同三六、二生、佛英和高女出身)は新潟縣人醫學博士本間純に妹春(同八、二生)は工學博士佐野藤次郎に嫁せり(東京、本郷、駒込西片町一〇一ノ二八電小石川四五八一)

笹川 三男三

東京慈惠會醫科大學理事、赤線檢査(五)監査役、日本醫師共濟生命保險(五)監査役、東京市醫師會副會長、笹川醫院長、醫師、東京府士族  
妻 正 明二〇、一一生、東京、柳元永四女  
男 正男 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
君は東京府士族笹川高節の長男にして元治元年四月を

二、三三)は京都府人笹部實一郎の養子となり六女偉世子(同三九、一一生)は新潟縣人木戸常吉二男武男に嫁せり(東京市外千駄谷町原宿二二三電青山一五七六)參照||豊田字左衛門の項

笹川 喜三郎

從五位勳六等、朝鮮總督府技師、總督官房會計課勤務、青森縣在籍  
妻 よし 明三、一〇生、京都、佐竹伊兵衛長男  
男 喜一 大三、七生  
君は京都府人笹川儀助の長男にして明治十九年一月を以て生れ大正八年家督を相續す材木商を商し現時前記會社の重役たり家族は尙二男泰輔(大五、五生)三男三作(同八、三三)長女俊子(同一、六生)二女和子(同一、一三)同妻サノ(同三二、四生、京都、湯淺源太郎二女)ありA八五二(大阪、港、今木町一ノ四七電櫻川二四六三)

笹川 種郎

文學博士、東洋、駒澤大學教授、東北中學、著述業、東京府士族  
妻 とよ 明四、一〇生、愛知、土、柴田有徳二女  
男 義郎 大二、四生  
君は舊幕臣笹川義潔の二男にして明治三年八月を以て生れ同三十二年家督を相續す同二十九年帝國大學文科大學史學科を卒業し白河鯉洋等と江湖文學を發行し勇健奔放の筆を揮ひ後第三高等學校教授宇都宮中學校長明治大學法政大學各講義師等を歴任し文學博士の學位を受く臨風と號し八幡船以下十數種の歴史小説を上梓し皆世に行はれ江戸趣味の人として文壇に知られる家族は尙二男俊夫(大四、九生)あり長女樓文(明三四、三三、跡見女學校出身)は鹿島鳥嶺士族車田篤弟工學士千春に二女雪子(同三六、二生、佛英和高女出身)は新潟縣人醫學博士本間純に妹春(同八、二生)は工學博士佐野藤次郎に嫁せり(東京、本郷、駒込西片町一〇一ノ二八電小石川四五八一)

笹川 三男三

東京慈惠會醫科大學理事、赤線檢査(五)監査役、日本醫師共濟生命保險(五)監査役、東京市醫師會副會長、笹川醫院長、醫師、東京府士族  
妻 正 明二〇、一一生、東京、柳元永四女  
男 正男 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
君は東京府士族笹川高節の長男にして元治元年四月を

笹川 三男三

東京慈惠會醫科大學理事、赤線檢査(五)監査役、日本醫師共濟生命保險(五)監査役、東京市醫師會副會長、笹川醫院長、醫師、東京府士族  
妻 正 明二〇、一一生、東京、柳元永四女  
男 正男 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
君は東京府士族笹川高節の長男にして元治元年四月を

笹川 三男三

東京慈惠會醫科大學理事、赤線檢査(五)監査役、日本醫師共濟生命保險(五)監査役、東京市醫師會副會長、笹川醫院長、醫師、東京府士族  
妻 正 明二〇、一一生、東京、柳元永四女  
男 正男 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
君は東京府士族笹川高節の長男にして元治元年四月を

笹川 三男三

東京慈惠會醫科大學理事、赤線檢査(五)監査役、日本醫師共濟生命保險(五)監査役、東京市醫師會副會長、笹川醫院長、醫師、東京府士族  
妻 正 明二〇、一一生、東京、柳元永四女  
男 正男 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
君は東京府士族笹川高節の長男にして元治元年四月を

笹川 三男三

東京慈惠會醫科大學理事、赤線檢査(五)監査役、日本醫師共濟生命保險(五)監査役、東京市醫師會副會長、笹川醫院長、醫師、東京府士族  
妻 正 明二〇、一一生、東京、柳元永四女  
男 正男 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
君は東京府士族笹川高節の長男にして元治元年四月を

笹川 三男三

東京慈惠會醫科大學理事、赤線檢査(五)監査役、日本醫師共濟生命保險(五)監査役、東京市醫師會副會長、笹川醫院長、醫師、東京府士族  
妻 正 明二〇、一一生、東京、柳元永四女  
男 正男 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
君は東京府士族笹川高節の長男にして元治元年四月を

一月を以て生れ同二十二年家督を相續す(六十三銀行常務取締役東京支店長)家族は尙養子廣衛(大八、一一生、東京、調所武光二男孫勝憲(同一四、三三、長男政憲長男)同照子(同一五、九生、同二女)同勝彦(昭四、一一生、同二男)あり二女キタ(明一九、一一生)は鹿島鳥嶺人三原貞次郎に三女(同二五、九生)は男爵所一郎叔父武光に嫁せりA八五二(東京、麹町、元園町一ノ三電九段六九二)

笹部 顯宜

從四位勳四等、宮城縣女子專門學校長、大阪府士族  
妻 アイ 明二、九生、長崎、濱恒太郎長男  
男 敬宜 明三二、一一生  
女 尚宜 明三六、三三、長男敬宜妻、三重  
女 輝子 明三八、一〇生  
女 輝子 明四一、三三  
女 輝子 明三三、一〇生  
女 輝子 明三五、二二生

笹部市郎右衛門

西成製紙取締役、柏原洋紙店監査役、東京府在籍  
妻 た 慶三、一一生、先々代市郎右衛門三女  
男 發三郎 明三三、二二生  
男 信之助 明四〇、七生  
君は兵庫縣人小西茂十郎の二男にして安政四年一月を以て生れ先代あやの養子となり明治九年家督を相續す現時西成製紙取締役柏原洋紙店監査役たり五男眞六(明三五、二生)は分家し長女清(同一、六生)は大坂府人豊田字左衛門の養子となり分家し八男(同四元)に嫁せり(仙臺、連坊小路電三七二八)

笹部昌之介

兵庫縣在籍  
妻 トメ 明二、一一生、大阪、松谷重太郎長男  
男 彦太郎 明四四、四生  
君は兵庫縣人笹部彦太郎の二男にして同先代弟なり明治二十年十二月を以て生れ先代定介の養子となり昭和二年家督を相續す現に阪東式鋼管合資會社員たり家族は尙二男次郎(大元、九生)四男虎四郎(同一五、二生)五男昌吾(昭四、七生)ありA二九一(兵庫、武庫魚崎町電二八三三)

笹部 慶一

從五位勳六等、朝鮮總督府技師、總督官房會計課勤務、青森縣在籍  
妻 み 明二、一一生、青森、千葉宇之吉長男  
男 仁 大四、一一生  
君は青森縣人笹部太郎の四男にして明治二十年四月を以て生れる大正二年東京帝國大學工科大学建築學科を卒業し陸軍技師を経て四年陸軍技師に任じ爾來朝鮮總督府技師に任じ内務局勤務を経て現時總督官房會計課勤務たり家族は尙二男昇(大六、一一生)三男旭(同七、六生)長女初枝(同九、一〇生)二女愛子(同一二、一〇生)四男忠夫(同一四、一一生)三女京子(昭四、一一生)兄慶次郎(明一〇、五生、現戸主)及其子女七人(慶助妻)し(同二六、一一生、青森、土、成田彦太郎三女)及其子女あり弟成(同二九、六生)は分家し姓ヤエ(同三二、一〇生、兄慶次郎長女)は北海道人森昭吉に嫁せり(京城、和泉町八號官舎)

笹部 昇太郎

西陣織物取締役兼大阪支店長、大阪府在籍  
妻 む 明七、三三、京都、大橋四五六長男  
男 清太郎 明三二、一一生  
男 慶二郎 明三四、一一生  
男 美代子 明四〇、四生

笹川喜三郎

從五位勳六等、朝鮮總督府技師、總督官房會計課勤務、青森縣在籍  
妻 よし 明三、一〇生、京都、佐竹伊兵衛長男  
男 喜一 大三、七生  
君は京都府人笹川儀助の長男にして明治十九年一月を以て生れ大正八年家督を相續す材木商を商し現時前記會社の重役たり家族は尙二男泰輔(大五、五生)三男三作(同八、三三)長女俊子(同一、六生)二女和子(同一、一三)同妻サノ(同三二、四生、京都、湯淺源太郎二女)ありA八五二(大阪、港、今木町一ノ四七電櫻川二四六三)

笹川 種郎

文學博士、東洋、駒澤大學教授、東北中學、著述業、東京府士族  
妻 とよ 明四、一〇生、愛知、土、柴田有徳二女  
男 義郎 大二、四生  
君は舊幕臣笹川義潔の二男にして明治三年八月を以て生れ同三十二年家督を相續す同二十九年帝國大學文科大學史學科を卒業し白河鯉洋等と江湖文學を發行し勇健奔放の筆を揮ひ後第三高等學校教授宇都宮中學校長明治大學法政大學各講義師等を歴任し文學博士の學位を受く臨風と號し八幡船以下十數種の歴史小説を上梓し皆世に行はれ江戸趣味の人として文壇に知られる家族は尙二男俊夫(大四、九生)あり長女樓文(明三四、三三、跡見女學校出身)は鹿島鳥嶺士族車田篤弟工學士千春に二女雪子(同三六、二生、佛英和高女出身)は新潟縣人醫學博士本間純に妹春(同八、二生)は工學博士佐野藤次郎に嫁せり(東京、本郷、駒込西片町一〇一ノ二八電小石川四五八一)

笹川 三男三

東京慈惠會醫科大學理事、赤線檢査(五)監査役、日本醫師共濟生命保險(五)監査役、東京市醫師會副會長、笹川醫院長、醫師、東京府士族  
妻 正 明二〇、一一生、東京、柳元永四女  
男 正男 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
女 正子 明二五、三三、養子正男妻  
君は東京府士族笹川高節の長男にして元治元年四月を



君は生れ明治二十三年家督を相續す...

笹木親丸

川崎第百銀行東京橋支店長

君は東京府土族笹木甚吾の二男にして...

笹氣慶治郎

宮城縣在籍

君は生れ昭和三年家督を相續す...

笹島長左衛門

羽前社製絲總社長、三山電氣鐵道

君は山形縣人笹島正齋の長男にして...

笹田傳左衛門

丸竹醬油監査役、村上商店、小

君は千葉縣人笹木七左衛門の弟にして...

笹谷清次郎

京都合同運送取締役、梅小路

君は京都府人笹谷萬太郎の長男にして...

笹沼源之助

備前國、支那料理業

君は山口縣土族先代吉郎の長男にして...

笹村竹造

東洋紙業紡織、寶船冷蔵各種取締

君は山口縣土族原田貞光長男光良に...

笹本菊太郎

正四位勳三等功五級、陸軍中將

君は東京府人今井新二の二男にして...

笹本孝太郎

信濃銀行取締役

君は長野縣人笹本源藏の長男にして...

笹森榮

青森縣多額納税者、東興銀行、弘

君は大阪府人笹部達吉の二男にして...

笹部新太郎

大阪府在籍

君は大阪府人笹部達吉の二男にして...

笹村吉郎

新潟鐵工所社長



サ之部 篠、指、定、貞

(※印は姻族関係)

妻 しを 明二三、五生、青森、成田年秋二女
養子 豊 明二三、一〇生、長女きわ夫、青
森、葛原宇三郎三男
女 きわ 明二九、一〇生、養子豊妻

篠山三樹雄 東京府在籍
妻 トシ 津幸治養子
男 基 六一四、三三
君は故男爵森村市左衛門の三男にして富主市左衛門の

篠木 茂 石川縣在籍
妻 重 明二四、六生、石川、安間鐵三郎
長女、石川縣立高女出身
女 頼子 政科在籍
明二七、七生、實踐女學校專門部家

君は山口縣人貞弘男吉の三男にして明治十八年二月を
以て生れ昭和五年兄正興方より分れて一家を創立す夙
に東京高等商業學校卒業し日本銀行に勤務し現時二

入社し現時同社取締役たり(千葉、海上、鏡子町電四
〇二)
篠部 長藏 瀨商業銀行(常任監査役
兵庫縣在籍
母 きみ 安政四、一二生、兵庫、吉田喜七
郎二女
妻 とのめ 明一八、六生、兵庫、蓬萊松之介
三女

君は兵庫縣人先代長藏の長男にして明治十三年十二月
を以て生れ同四十年家督を相續し前名圭次郎を改め
襲名す現時瀨商業銀行常務取締役たり妹巳子(明二六、
五生)は分家せり(兵庫、武庫、魚崎町五七六)

篠目八郎兵衛 茨城縣多額納税者、東京通船船務常
務取締役、運送業、茨城縣在籍
君は茨城縣人先代八郎兵衛の長男にして明治八年一月
を以て生れ同三十八年家督を相續し前名篤太郎を改め
襲名す運送業を營み傍ら前記會社の重役にして直接國
稅九百四十三圓を納め縣下の多額納税者たり家族は弟

君は舊徳島藩士篠山鳩八の長男にして明治十五年十月
を以て生れ同三十八年家督を相續す同四十二年横濱正
金銀行に入り果進して昭和二年文書課次長となり今日
に至る家族は尙二男茂(大六、六生)三男豊(同八、一
生)四男勇(同二、八生)五男五郎(同三、一〇生)
六男誠(昭五、一〇生)あり姉ヤツ(明六、一一生)弟誠
三(同二二、五生)は各分家し妹フミ(同二三、八生)は
長野縣人笠井二郎に嫁せりA一五五(横濱、神奈川、
青木町反町七〇八電本局三九〇九)

養子 久 六一五、九生、埼玉、渡邊平三四
男
指田家は先代義雄風に入實業界に入り東京商業會議所議
員日本倉庫會社社長始め諸會社の重役に就任し又四回に
亙り衆議院議員に當選し政治實業界に雄飛せり君は埼玉
縣人渡邊與吉の二女にして明治十年二月を以て生れ
先代義雄に嫁し大正十五年其後を承け家督を相續す資
産家たりA四四七三(東京市外千駄ヶ谷町原宿一四三
電青山三七七)

指田茂十郎 西多摩村長、豊田炭礦(取締役、
青海電氣鐵道監査役、武陽銀行
(常任監査役)東京府在籍
妻 サウ 明一二、五生、東京、八卷善七長
女 清子 明三五、五生

君は東京府人先代茂十郎の長男にして明治十三年四月
を以て生れ同三十五年家督を相續し前名茂一を改め襲
名す慶應義塾大學理財科出身にして現時前記會社の
重役に擧げられ西多摩村長に推される義に帝國酒造日本
紡織各會社重役たりし事あり二女當子(明三七、八生)
は埼玉縣人高山嘉七に嫁し(同七、一〇生)は東京府
人内田勇太郎に嫁せり(東京、西多摩、西多摩村羽村
電三)

定方兼吉 染物業
東京府在籍
妻 あさ 明二五、六生、静岡、井澤勝之助
妹 三三、一〇生、東京、神山民次
郎十女
男 繁 六一〇、四生
君は東京府人定方兼吉の三男にして明治二十六年七月
を以て生れ大正十年家督を相續す染物業を營む家族は
尙五男吾郎(昭二、四生)妹百子(大八、四生)あり四男
由次(同二二、五生)は東京府人犬宮ヨシの家督を相續
し弟銳藏(同九、三三)は静岡縣人仲森萬策の養子とな
れり(東京、芝、三田四國町九)

薩摩治兵衛 勳五等、東京府多額納税者
東京府在籍
妻 まさ 明一六、九生、東京、杉村甚兵衛
妹 明三四、四生
男 治郎八 明四〇、六生、長男治郎八妻、伯
爵山田英夫長女
女 千代 明四三、一〇生、東京女學府出身
當家の先代治兵衛は近江の出身なり君は其長男にして

君は山口縣人貞弘男吉の三男にして明治十八年二月を
以て生れ昭和五年兄正興方より分れて一家を創立す夙
に東京高等商業學校卒業し日本銀行に勤務し現時二
深支店長たり家族は尙長女直子(大六、四生)二男尙二
(同九、一〇生)二女かな子(同三、一〇生)三女三女以都
子(同二、八生)三男昭(昭三、九生)ありA二三三(金
澤、高岡町上敷ノ内)

薩摩 孫平 兵庫縣多額納税者、材木問屋業
兵庫縣在籍
妻 ハルエ 明三〇、六生、養父藤太郎二女
男 利治 大五、一二生
君は徳島縣人中富利佐太の三男にして明治二十年一月
を以て生れ後薩摩藤太郎の養子となり大正十年養兄藤
太郎方より分れて一家を創立す夙に材木商に携り薩摩
兄弟商會を興して業務を擴張し各地に出張所を設けて
遂に今日の盛況を見るに至れり現に兵庫縣多額納税者
たり家族は尙二男榮一(大一、三三)三女絹子(同二、
三、二生)四女房子(同五、三三)三男清次(昭三、六
生)あり長女美子(明四五、七生)は分家せり(神戸、御
幸通八ノ九九電舎合五四二)

屬 最 吉 三井鐵山三池鐵礦所長兼三池染
料工業所長、三池港務所長
山口縣在籍
妻 ヨシ 慶應三、四生、山口、杉文右衛門
長女
男 哲夫 興長女
明三八、一〇生
女 澄江 明四一、二生
明四三、二生
女 敏子 明四三、二生

君は山口縣人井上哲藏の二男にして明治六年五月を以
て生れ先代哲亮の養子となり昭和三年家督を相續す明
治三十一年東京帝國大學法科大學を卒業し三井鐵山會
社に入り總務部長を経て現時同社三池鐵礦所三池染科
工業所三池港務所各所長を兼ねる家族は尙二男照雄(明
四五、四生)四男義雄(大五、一〇生)四女明子(同八、
六生)あり長女松(明三〇、一〇生)は山口縣人莊原和作
に養妹嫁し(同三三、一〇生)は同縣人西村良藏に嫁せ
り(大牟田、下里四二九)

里 正 義 從四位勳三等、農學博士、北海道
帝國大學教授、農學部勤務、國際
酪農聯盟常任委員、三重縣在籍
妻 房枝 近義三女
明二四、一二生、三重、土、大原
女 輝子 大七、八生
君は三重縣人里藤左衛門の二男にして明治十五年七月
を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す同四十二年
東北帝國大學農學科を卒業し東北帝國大學助教授とな
り大正六年米英瑞各國に留學し歸朝後同十年同大學教
授に任ぜられ現に農學部に勤務し國際酪農聯盟常任委
員に推される同十一年農學博士同十二年米國シラキュー
ス大學よりドクトル・オブ・サイエンスの學位を授けら
る家族は尙二女尙子(大一、四、二生)三女郁子(昭二、
八生)四女萬里子(同四、七、七生)あり妹とみ(明一九、
八生)は三重縣人小坂次郎に嫁せり(札幌、大通東八
ノ一)

里 見 寛 二 正五位勳五等、朝鮮總督府檢事、
公州地方法院檢事正、京都府在籍
妻 つき 萬延元、三三、京都、横山繁長
女 正 明二五、一二生、三重、土、土井
大郎二女
男 慶 明四四、六生
君は京都府人里見時三の二男にして明治十五年一月を
以て生れる同四十二年東京帝國大學法科大學法科を卒
業し大邱區釜山地方各裁判所判事を經て朝鮮總督府判

サ之部 薩、屬、里(井、内、見)

(※印は姻族関係)











女 壽 大五、七生  
君は滋賀縣人澤光多郎の長男にして明治十六年十月を以て生れ同二十八年家督を相續す現時大華電氣會社事務取締役たり家族は尙三女光九(大八、一)生、亡弟英一妻マサ(明二九、六生、長野、小松代市郎)及其子女あり弟武次郎(同三一、七生)は大阪府人樋口金治郎に叔父宗助(同七、三)は東京府人瀧田榮三郎に各養子となりA一四(京都、上京、猪熊通丸太町下中之町五一九電西陣六〇二九)

澤 逸 與 茨城縣在籍  
父 安政六、七生、現戶主  
母 慶應元、六生、茨城、海老原五平  
妻 こかつ 明二四、九生、茨城、士、萩谷忠  
女 亨 大五、一、二生  
男 マス 大三、一、一生

澤 卯兵衛 千歳同族監査役、松卯、生魚間  
母 たね 明九、七生、大阪、吉岡勘三郎長女  
妻 信 明三一、一、二生、大阪、安藤善五郎三女

澤 宣 武 正四位、伯爵 萬公卿家  
當家は清原野の高伏原宣幸の次男澤忠量の後なり六世を経て宣嘉に至り夙に王政復古の鴻圖を企てて七卿の長州藩となり或は生野の義舉の功に推され、等具に幸蒙る嘗む維新後外國官事務總務命全權公使等に歴任す先代宣量明治十三年朝鮮に遊學し歸朝後職を宮内司法各省に奉じ同二十四年祖父宣嘉の勳功に依り特に伯爵を授けらる君は其長男にして明治二十七年五月を以て生れ同四十三年家督を相續し翌年大正十二年慶應義塾大學法學部政治科を卒業す家族は弟宣治(明三〇、四生)妹雪子(同三二、二生)あり姉歐子(同二三、一)は別一家を創立し大叔父宣元(文久二、一生)は分家して男爵を授けられ大叔母忠子(嘉永五、一生)は子爵岡崎泰光祖父國有に同久子(文久二、一〇)は公爵岩倉具榮祖父具定に嫁せり(東京市外日黒町中目黒一〇〇〇)  
參照 公爵岩倉具榮、子爵岡崎泰光、男爵澤宣元の項

は大阪府人儀備右衛門の養子となり妹龍子(同三八、一生、相愛高女出身)は兵庫縣人生駒弘三郎に嫁せり(大阪、西、江戸堀下通五ノ四三電國土佐堀六一〇六)參照 澤井上徳兵衛家吉岡四三電國土佐堀六一〇六

澤 鑑之丞 正四位勳三等功四級、海軍造兵中  
父 明二一、八生、法學士、三井物産會社員、現戶主  
母 明二九、六生、長男鑿治妻、東京  
妻 明三六、六生、經濟學士、米井商  
男 鑿治 明三九、二生、二男鑿男妻、東京  
女 明三六、六生、經濟學士、米井商

澤 慶治郎 從五位勳五等、朝鮮總督府技師、  
山林部林務課長、新潟縣在籍  
妻 光 明二五、八生、東京、矢野のぶ三  
女 次 大七、一生

澤 幸助 澤井商店代表取締役、文具俱樂部  
父 明一八、八生、大阪、澤井義三郎  
母 ユキ 明三八、七生  
妻 善次郎 明三六、六生、二女婦美子夫、大  
女 富子 明四一、二生、養子善次郎妻  
女 富子 明四四、四生

澤 藤助 近江屋、金中木綿商  
父 明二七、二生、長女ふぢ夫、滋賀  
母 明三三、一、一生  
妻 一太郎 明三三、一、一生  
女 拾三郎 明三九、八生  
男 拾三郎 明三九、八生

澤 要一 從三位勳三等、前第八高等學校教  
授、東京府在籍  
妻 きん 明八一、二生、静岡、士、淺香傳  
女 明二二、四生、現戶主、齒科醫學  
士  
男 幸 明二八、七生、長男維一妻、鹿兒  
島、三輪基文長女

澤 元之 三職道普通事務取締役、四日市鐵  
道取締役、愛知縣土族  
妻 文 明二六、一、一生、愛知、鶴岡賢一  
女 明二六、一、一生

澤 全雄 從七位勳五等功五級、陸軍歩兵中  
隊、東京府土族  
妻 コト 明二一、九生、富山、黒田治三郎  
女 明三三、一、一生、長女貞夫、神奈  
川、山口傳造弟、新高製糖會社員  
女 明四〇、二生、養子學妻、双葉高  
女出身

澤 重保 東洋紡績會庫課長  
妻 しな 安政二、二生、三重、朝倉喜遊二  
女 明二七、一〇生、三重、伊藤吉之  
助妹

澤 宣 武 正四位、伯爵 萬公卿家  
當家は清原野の高伏原宣幸の次男澤忠量の後なり六世を経て宣嘉に至り夙に王政復古の鴻圖を企てて七卿の長州藩となり或は生野の義舉の功に推され、等具に幸蒙る嘗む維新後外國官事務總務命全權公使等に歴任す先代宣量明治十三年朝鮮に遊學し歸朝後職を宮内司法各省に奉じ同二十四年祖父宣嘉の勳功に依り特に伯爵を授けらる君は其長男にして明治二十七年五月を以て生れ同四十三年家督を相續し翌年大正十二年慶應義塾大學法學部政治科を卒業す家族は弟宣治(明三〇、四生)妹雪子(同三二、二生)あり姉歐子(同二三、一)は別一家を創立し大叔父宣元(文久二、一生)は分家して男爵を授けられ大叔母忠子(嘉永五、一生)は子爵岡崎泰光祖父國有に同久子(文久二、一〇)は公爵岩倉具榮祖父具定に嫁せり(東京市外日黒町中目黒一〇〇〇)  
參照 公爵岩倉具榮、子爵岡崎泰光、男爵澤宣元の項

澤 文三郎 正五位勳五等、鐵道技師、大臣官  
房研究所第五科長、神奈川縣在籍  
妻 とし 明一九、八生、東京福井澤次郎妹  
女 藤枝 明四四、四生  
女 多嘉子 大二、八生

澤 宣 武 正四位、伯爵 萬公卿家  
當家は清原野の高伏原宣幸の次男澤忠量の後なり六世を経て宣嘉に至り夙に王政復古の鴻圖を企てて七卿の長州藩となり或は生野の義舉の功に推され、等具に幸蒙る嘗む維新後外國官事務總務命全權公使等に歴任す先代宣量明治十三年朝鮮に遊學し歸朝後職を宮内司法各省に奉じ同二十四年祖父宣嘉の勳功に依り特に伯爵を授けらる君は其長男にして明治二十七年五月を以て生れ同四十三年家督を相續し翌年大正十二年慶應義塾大學法學部政治科を卒業す家族は弟宣治(明三〇、四生)妹雪子(同三二、二生)あり姉歐子(同二三、一)は別一家を創立し大叔父宣元(文久二、一生)は分家して男爵を授けられ大叔母忠子(嘉永五、一生)は子爵岡崎泰光祖父國有に同久子(文久二、一〇)は公爵岩倉具榮祖父具定に嫁せり(東京市外日黒町中目黒一〇〇〇)  
參照 公爵岩倉具榮、子爵岡崎泰光、男爵澤宣元の項

澤 元之 三職道普通事務取締役、四日市鐵  
道取締役、愛知縣土族  
妻 文 明二六、一、一生、愛知、鶴岡賢一  
女 明二六、一、一生

澤 重保 東洋紡績會庫課長  
妻 しな 安政二、二生、三重、朝倉喜遊二  
女 明二七、一〇生、三重、伊藤吉之  
助妹











竹之部 澤(田、竹、水、登、野)

(※印は姻族關係)

妻 フサ 明一六、一二生、京都、松井敬次郎姉
男 米吉 明四〇、七生、長男米吉妻、愛知
妻 米吉 明四〇、七生、長男米吉妻、愛知

澤田 利吉 衆議院議員(北海道選出)、雜貨商
妻 ミツ 明三二、二生、北海道、小田島寅三女
男 英吉 明三五、一一生

澤登 定雄 從五位勳六等、檢事、相川區裁判所檢事、山梨縣在籍
妻 よし 明二七、一一生、山梨、田中啓吉三女

澤田 廉三 從五位勳四等、大使館一等書記官
妻 美喜 明三二、七生、男爵岩崎久彌長女
男 信一 明四二、九生

澤永彦四郎 從四位勳四等、臺灣總督府事務官
妻 キク 明二二、二生、富山、養彦九郎長女
男 弘一 明四一、八生

澤野 定七 兵庫縣多額納稅者、神戸弘業社社長、京都火災保險、兵庫大同信託
妻 あい 明三三、七生、長男定良妻、大阪
男 定良 明三六、九生

澤野 信藏 從五位勳六等、判事、廣島控訴院判事、廣島高等師範學校講師
妻 登興 明三〇、九生、兵庫、諫山徳太郎女
母 もと 元治元、四生、大阪、味園八平長女

澤原 俊雄 從六位勳四等、廣島縣多額納稅者、廣島合同貯蓄銀行頭取、農業
妻 ナミ 明三七、一一生、亡二男亮吉妻、島根縣多額納稅者堀藤十郎妹
男 裕郎 明三三、三生、亡二男亮吉長男

澤村 宗十郎 東京俳優協會理事、七代紀伊國屋
妻 昇 明三三、三生、助高屋高助、歌舞伎俳優
男 定子 明三九、三三、長男昇妻、愛知、伎俳優
女 三木男 明四二、五生、七里安次郎叔母

澤野 信藏 從五位勳六等、判事、廣島控訴院判事、廣島高等師範學校講師
妻 登興 明三〇、九生、兵庫、諫山徳太郎女
母 もと 元治元、四生、大阪、味園八平長女

澤村 九平 不二興業事務所取締役、不二鐵山
妻 ひら 明三九、一一生、東大出身、經濟學士、日本海上保險會社勤務
男 正一 明三九、一一生、東大出身、經濟學士、日本海上保險會社勤務

澤村 太七 京都府多額納稅者、峰山組運送、澤村商店各取締役、縮繙商
妻 たれ 明二〇、三三、京都、川田久一郎姉
男 太郎 明四九、一一生、二女ふく夫、京都中村猪之助弟
女 實 明四〇、一一生、養子實妻

澤原 精一 廣島縣農工銀行、廣島縣多額納稅者、廣島縣農工銀行、廣島縣多額納稅者
妻 ウタ 長女
男 正道 明二一、三三、神奈川、伊藤市長

澤村 正吉 神奈川縣多額納稅者、富士屋自動車、箱根ホテル各取締役
妻 フタ 明二一、三三、神奈川、伊藤市長
男 正道 明二一、三三、神奈川、伊藤市長

澤村 太七 京都府多額納稅者、峰山組運送、澤村商店各取締役、縮繙商
妻 たれ 明二〇、三三、京都、川田久一郎姉
男 太郎 明四九、一一生、二女ふく夫、京都中村猪之助弟
女 實 明四〇、一一生、養子實妻

澤原 精一 廣島縣農工銀行、廣島縣多額納稅者、廣島縣農工銀行、廣島縣多額納稅者
妻 ウタ 長女
男 正道 明二一、三三、神奈川、伊藤市長

澤村 正吉 神奈川縣多額納稅者、富士屋自動車、箱根ホテル各取締役
妻 フタ 明二一、三三、神奈川、伊藤市長
男 正道 明二一、三三、神奈川、伊藤市長

澤村 太七 京都府多額納稅者、峰山組運送、澤村商店各取締役、縮繙商
妻 たれ 明二〇、三三、京都、川田久一郎姉
男 太郎 明四九、一一生、二女ふく夫、京都中村猪之助弟
女 實 明四〇、一一生、養子實妻

竹之部 澤(野、原、村)

(※印は姻族關係)

澤原 精一 廣島縣農工銀行、廣島縣多額納稅者、廣島縣農工銀行、廣島縣多額納稅者
妻 ウタ 長女
男 正道 明二一、三三、神奈川、伊藤市長

澤村 正吉 神奈川縣多額納稅者、富士屋自動車、箱根ホテル各取締役
妻 フタ 明二一、三三、神奈川、伊藤市長
男 正道 明二一、三三、神奈川、伊藤市長

澤村 太七 京都府多額納稅者、峰山組運送、澤村商店各取締役、縮繙商
妻 たれ 明二〇、三三、京都、川田久一郎姉
男 太郎 明四九、一一生、二女ふく夫、京都中村猪之助弟
女 實 明四〇、一一生、養子實妻



サ之部 澤(村、本)

(※印は姻族關係)

一二生、宮城、菅野半助長女)も亦其子女を伴ひ分家せり(京都、中京、新町通錦小路上ル百足町三八四電本局一四二)

澤村 武雄 從四位、男爵 舊熊本藩國老 養祖母マサ 母 初 明元、一生、男爵細川興督長女 男 重好 大一四、四生

澤村 直 從五位勳六等、判事、東京控訴院判事、岐阜縣在籍 妻 しづ 明三四、一生、滋賀、原田元治郎 女 二

澤村 萬吉 資産家 京都府在籍 妻 萬右衛門 明二五、五生 婦 すか 京都、山本梅吉長女 男 幸三郎 明二九、一〇生

澤本 頼雄 從五位勳四等、海軍大佐、軍務局長 山口縣在籍 妻 初子 明三三、五生、山口、田島欽次郎 女 長女

澤山 昇吉 澤山兄弟商會、澤山汽船各社副社長、東華生命保險、城北土地各社取締役、長崎縣在籍 妻 せい 明三四、一〇生、茨城、増山酒造 女 三

澤山 精八郎 貴族院議員、長崎縣多額納税者、島原水電、澤山汽船、澤山兄弟商會、澤山土地各社社長、城北土地各社代表取締役、日本硬質陶器廠取締役、長崎紡織、大日本製水各社監査役、長崎縣士族 妻 松 慶應三女 男 喜多路 明一五、一生、慶大理財科出身 女 秀子 明一七、七生、長男喜多路妻、東京、士、山崎利準四女

澤山 福彌太 北九州鐵道取締役、澤山汽船、澤山兄弟商會各社監査役 妻 カメ 明二九、七生、長崎、澤山精八郎 女 二

澤本 與一 從五位、衆議院議員(山口縣選出) 鐵道大臣秘書官、山口縣在籍 妻 その 明二四、一生、岐阜、馬淵徳右衛門 女 二

澤本 孟虎 青山書院代表社員、大阪帝國通信社監査役、臺灣總督府囑託 妻 たか 明二三、一生、東京、村田勇養母 男 孟彦 明三一、五生 女 佳子 明三一、五生、長男孟彦妻、東京 男 健三 明三九、七生

澤本 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤村 勇治郎 旭木村、バンドホテル各社事務取締役、大阪機械工作所取締役 妻 シナ 明一六、七生、大阪、澤村常次郎 女 一

澤本 岩吉 澤本羅紗無責任社員 妻 カ 明五、五生、神奈川、林彌兵衛五女 女 嘉久子 明四〇、五生、東京府立第三高女 男 五郎 明四〇、五生 男 辰雄 明四一、五生

澤山 昇吉 澤山兄弟商會、澤山汽船各社副社長、東華生命保險、城北土地各社取締役、長崎縣在籍 妻 せい 明三四、一〇生、茨城、増山酒造 女 三

澤山 精八郎 貴族院議員、長崎縣多額納税者、島原水電、澤山汽船、澤山兄弟商會、澤山土地各社社長、城北土地各社代表取締役、日本硬質陶器廠取締役、長崎紡織、大日本製水各社監査役、長崎縣士族 妻 松 慶應三女 男 喜多路 明一五、一生、慶大理財科出身 女 秀子 明一七、七生、長男喜多路妻、東京、士、山崎利準四女

澤山 福彌太 北九州鐵道取締役、澤山汽船、澤山兄弟商會各社監査役 妻 カメ 明二九、七生、長崎、澤山精八郎 女 二

澤本 與一 從五位、衆議院議員(山口縣選出) 鐵道大臣秘書官、山口縣在籍 妻 その 明二四、一生、岐阜、馬淵徳右衛門 女 二

澤本 孟虎 青山書院代表社員、大阪帝國通信社監査役、臺灣總督府囑託 妻 たか 明二三、一生、東京、村田勇養母 男 孟彦 明三一、五生 女 佳子 明三一、五生、長男孟彦妻、東京 男 健三 明三九、七生

澤本 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

サ之部 澤(本、柳、山)

(※印は姻族關係)

澤山 市松 澤山汽船事務取締役、澤山兄弟商會、長崎合同運送各社取締役、長崎青果監査役、長崎縣在籍 妻 春世 明三五、一生、山口、佐田俊雄長 女 明三三、五生

澤柳 猛雄 正六位、海軍少佐、アマゾン興業専務取締役、東京府在籍 妻 安 明二一、一生、長野、士、村田 男 三郎長女、長野縣立松本高女出身

澤本 頼雄 從五位勳四等、海軍大佐、軍務局長 山口縣在籍 妻 初子 明三三、五生、山口、田島欽次郎 女 長女

澤山 昇吉 澤山兄弟商會、澤山汽船各社副社長、東華生命保險、城北土地各社取締役、長崎縣在籍 妻 せい 明三四、一〇生、茨城、増山酒造 女 三

澤山 精八郎 貴族院議員、長崎縣多額納税者、島原水電、澤山汽船、澤山兄弟商會、澤山土地各社社長、城北土地各社代表取締役、日本硬質陶器廠取締役、長崎紡織、大日本製水各社監査役、長崎縣士族 妻 松 慶應三女 男 喜多路 明一五、一生、慶大理財科出身 女 秀子 明一七、七生、長男喜多路妻、東京、士、山崎利準四女

澤山 福彌太 北九州鐵道取締役、澤山汽船、澤山兄弟商會各社監査役 妻 カメ 明二九、七生、長崎、澤山精八郎 女 二

澤本 與一 從五位、衆議院議員(山口縣選出) 鐵道大臣秘書官、山口縣在籍 妻 その 明二四、一生、岐阜、馬淵徳右衛門 女 二

澤本 孟虎 青山書院代表社員、大阪帝國通信社監査役、臺灣總督府囑託 妻 たか 明二三、一生、東京、村田勇養母 男 孟彦 明三一、五生 女 佳子 明三一、五生、長男孟彦妻、東京 男 健三 明三九、七生

澤本 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

澤山 八郎 正五位勳五等、名古屋高等商業學校教授、京都府在籍 妻 文雄 明三四、八生

サ之部 澤(本、柳、山)

(※印は姻族關係)

澤山 市松 澤山汽船事務取締役、澤山兄弟商會、長崎合同運送各社取締役、長崎青果監査役、長崎縣在籍 妻 春世 明三五、一生、山口、佐田俊雄長 女 明三三、五生

澤柳 猛雄 正六位、海軍少佐、アマゾン興業専務取締役、東京府在籍 妻 安 明二一、一生、長野、士、村田 男 三郎長女、長野縣立松本高女出身

澤本 頼雄 從五位勳四等、海軍大佐、軍務局長 山口縣在籍 妻 初子 明三三、五生、山口、田島欽次郎 女 長女

澤山 昇吉 澤山兄弟商會、澤山汽船各社副社長、東華生命保險、城北土地各社取締役、長崎縣在籍 妻 せい 明三四、一〇生、茨城、増山酒造 女 三

澤山 精八郎 貴族院議員、長崎縣多額納税者、島原水電、澤山汽船、澤山兄弟商會、澤山土地各社社長、城北土地各社代表取締役、日本硬質陶器廠取締役、長崎紡織、大日本製水各社監査役、長崎縣士族 妻 松 慶應三女 男 喜多路 明一五、一生、慶大理財科出身 女 秀子 明一七、七生、長男喜多路妻、東京、士、山崎利準四女



三條公輝

從三位勳五等、公爵、貴族院議員、皇太后宮事務官、皇太后宮職庶務課長、舊公卿家

當家は右大臣藤原師輔の十男閑院太政大臣公季の後なり夫より五代太政大臣實行に至り三條と稱す二十四世を経て實美に至る七清華の一たり實美は勤王の志を懐き文久三年薩長の士と謀り攘夷の旨を幕府に達せしも後廢藩置縣に變じ六卿と共に長州に奔る慶應三年春されて京都に還り大納言左近衛大將となる維新後右大臣太政大臣内大臣臨時内閣總理大臣に歴任し明治十七年公爵を授けられ維新の元勳として正一位大勳位に昇り二男實憲復其後を襲ひ以て君に至る君實は實美の三男にして子爵河津實英の實兄男爵東三條實敏の從兄なり明治十五年十二月を以て生れ同二十五年分れて男爵を授けられし大正十三年五月先代男爵實敏の從兄に依り同年六月其後を承け男爵仰付けらる明治四十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業して農に菓子傳育官皇宮事務官に任せられ現時皇太后宮事務官にして同庶務課長たり家族は尙三女修子(大六、一〇生)亡兄公美妻千代子(明一四、一〇生)侯爵松平康昌(大六、一〇生)及一子あり姉智恵子(同五、五生)は閑院宮載仁親王妃と同章子(同九、一〇生)は伯爵大谷光暢先代光元利元昭と同章子(同三、一〇生)は子爵齋藤篤麿に妹末子(同二、一〇生)は爵關縣人松永安彦副子安衛に姪子(同三、一〇生)亡兄公美二女は子爵永井直邦に同泰子(同四、一〇生)同三女(同六、一〇生)は公卿島津忠承に嫁せり(東京市外大崎町上大崎六三九電高輪四七九) 參照 閑院宮家、公爵島津忠承、公爵毛利元昭、侯爵松平康昌、伯爵大谷光暢、伯爵正親町公和、子爵河津實英、子爵永井直邦、子爵齋藤篤麿、男爵東三條實敏、松永安衛、男爵毛利元良、侯爵齋藤篤麿、子爵加藤泰通、子爵岡田池田致、子爵竹屋春光、子爵戸田康保、子爵島島直、子爵藤波茂時、子爵牧野一成、子爵松平慶民、男爵徳川喜翰、男爵三井八郎右衛門の項

三條西實義

從二位勳三等、伯爵、神宮大宮司、舊公卿

當家は三條左大臣實房の庶流正親町三條實繼の二男大納言公時の後なり世々大臣納言の官に任じ十三世を経て正二位季知に至り歌道の達人にして又長州藩七卿の一たり其長男公允明治十七年伯爵を授けられ三條西家を改めて西三條と稱す水原新海各縣知事大島神社大宮司宮中祇候侍御歌所參侍等に歴任せり君其後を承く君は實は子爵風早公武先代實泰の兄にして慶應二年十一月を以て生れ先代公允の養子となり明治三十七年家督を相續し男爵仰付けられ大正七年舊姓三條西に復歸し官に官中に奉仕し義に在り家族は尙孫淑子(大五、四生)二男公正長女(同三、九生)同二女(同三、九生)同二女(同三、九生)同二女(同三、九生)は子爵風早家を嗣ぎ當主たり(宇治山田、神宮司廳官舎内) 參照 久通宮家、子爵風早公武、侯爵久通邦久、侯爵大谷光暢、伯爵三井基義、子爵竹内維斌、子爵東園基光の項 三三寺正一郎 杉浦商店經營務取締役兼營業副部長、京都府在籍 妻 慶應元、三三、京都、川崎彌兵衛 長女 母 明二七、二生、京都、杉本源三郎 妻 サト 明二七、二生、京都、杉本源三郎 男 照二 大二三、一〇生、京都、杉本源三郎 女 照三 明二七、二生、京都、杉本源三郎 三番三郎 王子製紙京都工場技師、地主主 母 弘化元、八生、大阪、上田八三郎姉 父 彦三郎 慶應元、八生

三戸壽

第一銀行五條支店支配人、京都府士族

君は京都府士族三戸馨の長男にして明治十五年八月を以て生れ同二十九年家督を相續す現時第一銀行五條支店支配人たり家族は尙姉ユウ(明一三、九生)實兄重三郎(同三、二生、廣島、土岐龍滿養子)の外に其子女あり(同七、三生、茨城、土岐龍滿養子)の外に其子女あり(京都、上京、小山花ノ木町九) 三孟一太郎 内田汽船取締役、兵庫縣在籍 妻 幸子 明三六、一〇生、長野、寺田良人 男 勝弘 昭三、一〇生 君は北海道人三孟八太郎の長男にして明治二十七年五月を以て生れ大正二年家督を相續す同七年東京高等商業學校を卒業し現時内田汽船會社取締役たり家族は尙妹タエ(明三〇、八生)あり(神戸、西須磨上樋詰一〇電須磨一〇三三) 三枝久兵衛 三枝糖社長、三谷本店監査役、東京府在籍 妻 キク 明一八、一〇生、東京、齋藤嘉助 三女 明三三、二生、長女トシ夫、東京小堀鎌之助二男

三枝茂智

從五位勳六等、外務書記官兼文部書記官、文化事業部第二課長兼第一課長、山梨縣在籍

君は東京府人先代久兵衛の二男にして明治十三年七月を以て生れ同二十九年家督を相續し前名信之助を改め襲名す現時前記各會社の重役たり家族は尙孫孝榮(昭五、一〇生、養子波也長男)あり姉ひさ(明三、一〇生)は分家し同(同九、五生)は東京府人三谷長三郎に妹よし(同二、一〇生)は同府人鶴塚彦兵衛に嫁せりA一二七(東京、芝、高輪北町四八電高輪四〇一) 參照 鶴塚彦兵衛、三谷長三郎の項 三枝茂智 從五位勳六等、外務書記官兼文部書記官、文化事業部第二課長兼第一課長、山梨縣在籍 妻 國太郎 文久二、一〇生、現戶主 養母 ゆい 慶應元、四生、山梨、廣瀬正道 妻 サミ 明二三、七生、養父國太郎二女、甲府英和女學校出身 男 駿次 大一一、八生 君は山梨縣人堀内茂啓の三男にして明治二十一年十月を以て生れ大正二年同縣人三枝國太郎の養子となる同年文官高等試験に合格同三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し造幣局監稅監督局監稅副司稅官同九年外務事務官に轉じ臨時事務局長に勤務し同一年第一回國際聯盟總會帝國全權隨員として渡歐爾來一年間瑞西兩國大使館三等書記官同四年文部事務局長を経て大使館二等書記官となり四年公使館二等書記官兼領事に轉じストックホルム在勤昭和二年公使館一等書記官に進み瑞典國在勤同年外務書記官に任じ文化事業部第二課長兼第一課長となり同三年文部書記官兼任を命ぜらる同五年専修大學講師を囑託せられ今日に至る支那の財政及外交國際聯盟の活動等著あり諸曲ゴルフ等を趣味とす家族は尙長女京子(大六、八生、東京女學院在學)二女華子(同八、九生)あり(東京市外花原町中延一〇六一電荏原二九五) 三枝代三郎 東京府多額納稅者、泰南農林採取役、三枝商店、洋品雜貨商、東京府在籍 妻 マサ 明四、八生、養父與三郎長女 幸太郎 明二四、二生

三枝彦雄

從五位、理學博士、東北帝國大學教授、理學部勤務、山梨縣在籍

君は山梨縣人三枝彦太郎の長男にして明治二十三年一月を以て生れ昭和四年家督を相續す先是明治四十四年東京高等工業學校電氣科を大正四年東北帝國大學理學科大學を卒業し同九年理學博士の學位を授けられ同十一年東北帝國大學助教授に任ぜられ同十三年歐米各國に出張を命ぜられ同十四年歸朝同十五年教授に進み理學部勤務にして今日に及ぶ家族は尙長女俊子(大一一、五生)二女敏子(同一一、一〇生)二男武彦(昭三、二生)あり弟舉一郎(明二五、二生)同妻フミ(同三七、五生)秋田、山本時宜長女)は分家し妹みづの(同二六、一二生)は秋田縣人山本勇に嫁せり(東京、小石川、大

三枝秀太郎

牛島肉商、東京府在籍

君は東京府人三枝萬吉の長男にして明治二十四年十二月を以て生れ昭和三年家督を相續す牛島肉商を營む家族は尙二男二郎(大一一、一〇生)三男啓二(同四、一〇生)二女達子(同九、六生)の外弟義三郎(明二九、六生)同妻美津(同三四、八生、東京、船橋岩次郎四女)及其二女あり姉まゆ(同二三、六生)は島根縣士族岡正雄に嫁せり(東京、本郷、春木町二ノ二〇電小石川三一九) 參照 岡正雄の項 三枝彦雄 從五位、理學博士、東北帝國大學教授、理學部勤務、山梨縣在籍 妻 しほ 明一六、九生、山梨、三枝榮治朗 三女 明三〇、七生、東京、三枝代三郎 男 文彦 大一一、三三 君は山梨縣人三枝彦太郎の長男にして明治二十三年一月を以て生れ昭和四年家督を相續す先是明治四十四年東京高等工業學校電氣科を大正四年東北帝國大學理學科大學を卒業し同九年理學博士の學位を授けられ同十一年東北帝國大學助教授に任ぜられ同十三年歐米各國に出張を命ぜられ同十四年歸朝同十五年教授に進み理學部勤務にして今日に及ぶ家族は尙長女俊子(大一一、五生)二女敏子(同一一、一〇生)二男武彦(昭三、二生)あり弟舉一郎(明二五、二生)同妻フミ(同三七、五生)秋田、山本時宜長女)は分家し妹みづの(同二六、一二生)は秋田縣人山本勇に嫁せり(東京、小石川、大



シ之部

四王天延孝

從四位勳二等功五級、陸軍中將  
東京府士族  
妻 美壽 明一七、三三、茨城、江戸守三郎  
長女、東京女學館出身  
男 政信 大三、四生  
女 美美 明三九、四生、東京女學館出身  
女 義子 明四三、一生

四王天家は累代上州前橋藩主松平家に臣事し先々代天清に至る迄家老職を務めたる家柄なり君は同藩士西村茂兵衛の弟にして明治十二年九月を以て生れ先代政彬の養子となり同三十九年家督を相續す夙に軍籍に入り明治三十三年工兵少尉に任じ昭和四年陸軍中將に累進す其の間陸軍省事務局航空課長豊後要案司令部第十六師團司令部附等に歴補し昭和四年豫備役に編入せらるる家族は向二男長政(大一一、七生)あり三男政虎(同一五、五生)は茨城縣人山田佐武郎弟茂の養子となれり(東京市外移並町高圓寺五五五)

四竈 孝輔

正四位勳二等功五級、海軍中將  
東京府在籍  
妻 孝夫 明一八、九生、故貴族院議員宮島  
男 孝一 明三九、一〇生、東洋製鐵會社員

君は宮城縣士族四竈信直の四男にして明治九年十月を以て生れ同四十二年兄訥治方より分れて一家を創立す同三十年海軍兵學校を卒業し同三十二年海軍少尉に任じ爾來累進して海軍中將に陞る其間海軍大學校を卒業し皇族附武官敷島肥前縣島各副長第二戰隊參謀津輕艦長侍從武官兼島前縣島各副長第二戰隊參謀津輕艦司令官等に歴補す家族は向三男安正(大二三、六生、成蹊高等學校在學)三女幸子(同六、三三)四男信治(同八、七生)四女博子(同一〇、九生)五男經夫(同一一、一二生)あり長女節子(明四四、二生)は廣島縣人中村俊三に嫁せり(東京市外武藏野町吉祥寺五〇三電吉祥寺六三)

參照 濱男爵山下知彦の項  
四條七十郎 日本建築材料、南洋産業各務取締役、福島縣在籍

母 トミ 嘉永三、二生、茨城、山崎藤吉二  
妻 ミツ 明一六、一〇生、福島、土、金古  
男 榮一 明四四、一生  
女 禮子 大四、一一生

君は福島縣人四條榮藏の三男にして明治十五年三月を以て生れ大正五年家督を相續し前名七重郎を改む明治三十八年東京高等商業學校を卒業し現時前記會社の重役たり家族は向三女喜久子(大一一、九生)あり(東京牛込、原町三ノ六一電牛込四三〇六)  
參照 金古久次の項

四條 隆愛

正三位勳三等、侯爵、陸軍騎兵少  
佐、貴族院議員、佛教音樂協會々々  
長、舊公卿家  
男 隆德 明四〇、四生、從五位  
妻 糸子 學習院女學部出身

當家は藤原鎌足の曾孫左大臣魚名十二世の孫大納言隆季の後なり隆季に至り四條と稱し世々膳蓋を掌り納言參議の間に職を奉じ二十一世を經て先代隆愛に至る隆愛は王政の復古に努め長州藩七卿の一人にして戊辰の役大總督府參謀として功あり弓術に達し明治天皇の御師範となり後軍籍に入り陸軍中將に任じ大阪名古屋仙臺等の鎮臺司令官となり明治十七年侯爵を授けらる君は其九男にして男爵四條隆英の養叔父なり明治十三年六月を以て生れ幼名を龍也と云ひ同三十一年襲爵仰付けらる同三十三年陸軍士官候補生となり累進して大正九年陸軍騎兵少佐に陞り同十三年豫備役に編入せらる其間に宮内省御用掛を仰付けらる貴族院議員にして火曜會に屬す長女富子(明四二、四生)は子爵大河内輝耕嗣子輝信に嫁し姉(同六、八生)は子爵三島通陽の母たり(東京、本郷、湯島六ノ七)  
參照 公爵德川慶光、子爵大河内輝耕、子爵三島通陽、男爵四條隆英、侯爵池田仲博、侯爵伯耆勝精、侯爵德川誠、男爵松平齊光、男爵毛利祥久の項

四條 隆英

正三位勳三等、男爵、安田生命保  
險社長、群馬水電監査役、安  
田保善社長理事、四條侯爵家分家  
妻 駒子 明一五、五生、養父隆平長女、學  
習院女學部出身

男 隆秀 大三、一二生  
女 芳子 明四三、一生、學習院女學部出身  
女 輝子 明四四、二生  
女 治子 大二、三生  
女 光子 大五、五生

當家は先代隆平の立つ所なり隆平は正二位勳一等侯爵四條隆調の長男にして戊辰の役軍功あり後奈良縣令宮内省御用掛華族御五部長太政官兼元老院少書記官元老院議官貴族院議員に歴任し明治三十一年特旨を以て華族に列し男爵を授けらる君其後を享く君實は公爵二條隆基男爵二條豐基の叔父慶光院利敬の弟にして侯爵四條隆愛の養弟なり明治九年二月を以て生れ先代隆平の養子となり同四十四年家督を相續し襲爵仰付けらる同三十七年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し農商務省に入り書記官商工局工務課長工場課長工務局長前工次官等に歴任す現時安田生命保險會社社長たる外前記會社の重役たり家族は向四男隆貞(大七、一〇生)七女優子(同九、六生)八女富子(同一二、三三)養妹孝子(明一七、六生、學習院女學部出身)あり長女英子(同三六、六生、出身校同上)は男爵松岡信淳に二女華子(同三八、一〇生、女子學習院出身)は男爵毛利祥久嗣子重雄に嫁せり(東京市外中野町東郷三六電四谷七五三)  
參照 公爵二條隆基、侯爵四條隆愛、男爵二條豐基、男爵松岡信淳、男爵毛利祥久、慶光院利敬の項

四宮 兼之

從五位、九州帝國大學教授、法文  
學部勤務、愛知縣士族  
妻 ミツ 明三〇、一一生、岩手、中目成一  
男 兼昭 大一一、四生

君は愛知縣士族四宮兼吉の長男にして明治十七年九月を以て生れ大正十二年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學文科大學を卒業し大正八年東洋帝國大學教授となり第四高等學校教授を経て同十三年九州帝國大學教授に任じ法文學部に勤務し今日に至るに歐米各國に留學す家族は向長女ちづ子(昭二、二生)妹はな(明二八、一〇生)あり(福岡市荒戸四番丁二一六電三三三〇)

司波 尚太郎

赤穂鐵道取締役、日本食鹽製造  
監査役、兵庫縣在籍



**志賀 俊夫** 從五位勳六等、朝鮮總督府技師、福島縣在籍  
 母 慶應三、一〇生、福島、中村清右衛門  
 妻 トモ 五郎三女  
 男 明三、三、生、福島、土、阿部鶴  
 女 明二、四、三、生、福島、土、阿部鶴

君は福島縣人志賀敏の長男にして明治二十三年九月を以て生れ大正五年東京帝國大學農學部農藝化學科を卒業し税關監査官補同職査官に任じ爾來神戸長崎門司各税關課長に歴補し昭和五年朝鮮總督府技師に任ぜられ今日に至る家族は尙從弟正夫(明二四、三、生、現戸主)從姉ヨシ(同二三、三、生)あり妹イシ(同二八、一〇生)は福島縣人志賀見恒三(從姉ハル(同二二、八、生)は宮城縣人武田大進に嫁せり(朝鮮總督府内)

**志賀 貞次郎** 正五位勳四等、判事、土浦區裁判所監督判事兼水戸地方裁判所土浦支部長、山口縣在籍  
 妻 キシ 萬延元、一、二、生、山口、藤本勘助  
 養母 キシ 明一七、一〇、生、志賀實人長女、實踐女學校出身  
 妻 タネ 大元、一、二、生、山口、下川宗七長女、東京府立第三高女出身  
 養子 智恵子 君は山口縣人藤田吉太郎の二男にして明治八年三月を以て生れ大正十年先代キシの養子となり家督を相続す明治三十二年東京法學院を卒業し同三十四年判事登用試験に合格す同年司法官試験となり同三十六年判事に任ぜられ山口松山松江千葉各裁判所判事及沼津區裁判所判事兼静岡地方沼津支部長等に歴補し昭和三年現職に轉ず(茨城、沼津、土浦町區裁判所内)  
 參照 下川宗七の項

**志賀 文二郎** 編織商、京都府在籍  
 父 禮之助 文久二、七、生  
 母 モト 明三、八、生、京都、木村孫七長女  
 妻 エイ 明三、五、生、京都、出島兵太郎  
 男 昌 昭五、二、生  
 君は京都府人志賀禮之助の長男にして明治二十九年十月を以て生れ大正十五年家督を相続す編織商を營む家族は尙長女政榮(大一一、一、生)二女和子(同二一、五、九生)あり姉トモ(明二四、六、生)同キ(同二六、七、生)弟市次郎(同三三、三、生)阿武三(同三三、八、三、生)同傳三(同四一、三、生)は各分家姉まつ(同二八、八、三)は京都府人北尾市之助長男吉太郎に嫁し妹つる(同三六、二、生)は同府人山本金次長男卯之助の養子となりA二二二六B三九四(京都、下京、松原通堺町西八ル電下八六一)

**志賀 橋介** 正五位勳五等、鐵道局技師、大阪鐵道局改良課長、東京府在籍  
 妻 トヨ 明二七、一、生、東京、西卷佐多彦  
 男 信之 大三、五、生  
 君は舊藩藩士志賀信の三男にして明治十六年二月を以て生れ大正五年分れて一家を創立す明治四十年京都帝國大學理工科大學土木工學科を卒業し京阪電氣鐵道會社四等技士帝國鐵道技師鐵道技師鐵道局長古川屋敷島保鐵道事務所長鐵道局工務課改良掛長各鐵道局長各鐵道局工務課長等に歴任し昭和四年大阪鐵道局改良課長に轉じ今日に至る同三年歐米各國に出張す家族は尙長女嘉子(大六、八、生)二男信和(同二一、一、生)あり(大阪鐵道局改良課内)  
 參照 坂井政道の項

**志賀 和利** 正五位、衆議院議員(若手縣選出)、辯護士、若手縣在籍  
 妻 リセ 明六、一、生、新潟、石山保吉二女  
 男 學 面 明四三、一、生  
 女 やな子 大二、八、生  
 君は若手縣人志賀英之進の長男にして明治七年十月同縣津部郡金ヶ崎町に生れ大正八年家督を相続す明治三十三年日本大學を卒業し文官高等試験並に判事登用試験に合格し司法官試験となり後辯護士を開業し大正九年以來郷黨より推されて衆議院議員に當選する事四

**志賀 半次** 鹽漬製品販賣取扱役、鹽水港製糖廠參事、内地製糖所長、東京府在籍  
 妻 シノ 明二六、八、生、新潟、横督從妹  
 男 光 夫 大一一、三、生  
 君は東京府人志賀倉光の二男にして現戸主光繼の弟なり明治十五年十二月を以て生れる同四十四年東京高等商業學校を卒業し現職鹽水港製糖會社參事内地製糖所長にして前記會社の重役たり家族は尙二女キミ(大六一〇生)三女信子(同九一〇生)ありA二二五(兵庫、武庫、精道村蘆屋伊勢講田五四九電番三三四七)  
 參照 横督の項

**志方 勢七** 同志土地運代表取締役、攝津製油廠監査役、大阪府在籍  
 妻 ノナ 安政六、二、生、大阪、和田牛兵衛  
 母 ノナ 養叔母  
 女 忠 明四〇、八、生、長崎、田口成能長  
 君は大府人先代勢七の二男にして明治三十七年五月を以て生れ大正十年家督を相続し後前名信三を改め襲名す現時前記會社の重役たり姉靜(明二五、三、生)は大府人志方玉手弘行弟弘に同清(同二七、一、生)は靜岡縣人水谷操一に嫁し兄貞三(同二三、五、生)は分家せり(大阪、西、福南通三ノ八電番五五三三)  
 參照 志方貞三、玉手弘、和田牛兵衛、岡橋芳太郎、山田卯助の項

**志岐 守治** 從三位勳一等功二級、陸軍中將、鹿兒島縣士族  
 妻 久子 明一一、九、生、鹿兒島、土、山本盛重姉  
 男 守 國 大三、六、生  
 君は鹿兒島縣志岐守行の長男にして明治四年四月を以て生れ同十一年家督を相続す凡に陸軍士官學校を卒業し同二十四年歩兵少尉に任じ同三十二年陸軍大學校を卒業し大正八年陸軍中將に累進す其間歩兵第四十三聯隊中隊長陸軍士官學校教官臺灣守備混成旅團參謀長教育總監部第二課長歩兵第二十七旅團長第四師團長等に歴補し日清日露西比利亞三戰役に從軍し功二級に叙せらるる家族は尙長女治子(大六、六、生)弟守二(明一〇、九、生)あり(東京市外杉並町阿佐谷二五〇)

**志岐 勉四郎** 九十九銀行常務取締役、長崎縣士族  
 妻 タニ 安政六、一〇、生  
 母 マサ 吉郎妹  
 女 千 世 明四三、四、生  
 女 敏子 大二、二、生  
 君は長崎縣人松野太郎の四男にして明治十三年六月を以て生れ先代大三郎の養子となり大正五年家督を相続す現時九十九銀行常務取締役たり家族は尙二男橋夫(大七、六、生)あり(長崎、北松浦、平戸町)

**志岐 信太郎** 東亞土木企業、朝鮮天然水各種取扱役、朝鮮火災鐵道監査役、木浦土地運代表社員、志岐組、土木建築請負業、東京府在籍  
 妻 政代 明一五、三、生、東京、浦上藤榮姉  
 男 信一 明三五、一、生  
 男 久子 明四二、一、生、長男信一妻、東京  
 男 信吾 明四二、九、生  
 男 信雄 明四四、四、生  
 君は福岡縣人志岐甚三郎の長男にして明治二年三月を

**志岐 鏡造** 從五位勳六等、製鐵所技師、土木部建築課長、山口縣在籍  
 母 スエ 明四、七、生、山口、近藤平治  
 妻 松子 明三一、一、二、生、山口、鈴木勝丸長女  
 男 忠 生 大一一、三、二、生  
 君は山口縣人志岐安太郎の長男にして明治二十五年一月を以て生れ大正三年家督を相続す同四年九州帝國大學工學科大學工學科を卒業し翌年製鐵所技師となり同八年技師に任ぜられ現に土木部建築課長たり家族は尙長女益子(大七、四、生)二女淑子(同九、二、生)三女和子(昭二、八、生)四女渥子(同五、一、生)弟健治(明二七、五、生)同妻貞重(同三一、八、生)山口、宮原弘介妹)及其子女弟四郎(同四〇、二、生)あり妹ハル(同三〇、三、生)は山口縣人宮原弘介に嫁し弟秀夫(同三三、六、生)

**志岐 守治** 從三位勳一等功二級、陸軍中將、鹿兒島縣士族  
 妻 久子 明一一、九、生、鹿兒島、土、山本盛重姉  
 男 守 國 大三、六、生  
 君は鹿兒島縣志岐守行の長男にして明治四年四月を以て生れ同十一年家督を相続す凡に陸軍士官學校を卒業し同二十四年歩兵少尉に任じ同三十二年陸軍大學校を卒業し大正八年陸軍中將に累進す其間歩兵第四十三聯隊中隊長陸軍士官學校教官臺灣守備混成旅團參謀長教育總監部第二課長歩兵第二十七旅團長第四師團長等に歴補し日清日露西比利亞三戰役に從軍し功二級に叙せらるる家族は尙長女治子(大六、六、生)弟守二(明一〇、九、生)あり(東京市外杉並町阿佐谷二五〇)



は同縣人配部ウタの養子となれり(八幡、親田製鐵所官會)

志豆機源太郎

正五位勳四等、前臺灣總督府典獄長、同縣在籍

君は靜岡縣人志豆機源太郎の長男にして明治六年九月を以て東京に生れ同三十四年家督を相續す...

志田勝民

共立汽船經營取締役、夕張鐵道長、同縣在籍

君は長崎縣人志田宗一の長男にして明治六年十一月を以て生れ同四十一年家督を相續す...

志田御太郎

從四位勳四等、法學博士、明治大學教授、同縣在籍

君は長崎縣人志田宗一の長男にして明治六年十一月を以て生れ同四十一年家督を相續す...

志波安一郎

衆議院議員(長崎縣選出)、農業者、同縣在籍

君は舊佐賀藩士志波三九郎の長男にして同慶治大谷彬亮の兄なり...

志保田銆吉

從四位勳三等、臺灣總督府臺北第一師範學校長、同縣在籍

君は京都府土族清水道勝の三男にして同安衛同外次郎の弟なり...

君は千葉縣志田知義の長男にして青山兼司の兄なり...

志田順

正四位勳二等、理學博士、京都帝國大學教授、同縣在籍

君は千葉縣志田知義の長男にして青山兼司の兄なり...

志立鐵次郎

勳四等、三菱信託取締役、日本勸業銀行理事、同縣在籍

君は千葉縣志田知義の長男にして青山兼司の兄なり...

志摩源次郎

德島縣多額納稅者、阿波木村廳取、同縣在籍

君は德島縣人先代源次郎の長男にして弘化四年六月を以て生れ...

志摩重三

阿波農工銀行取締役、同縣在籍

君は德島縣人五島民之助の五男にして天保十年九月を以て生れ...

志水源兵衛

小濱銀行、小濱合同運送各取締役、同縣在籍

君は福井縣人杉田源助の二男にして明治二十五年十一月を以て生れ...

君は舊雲州松江藩士志立範藏の二男にして慶應元年六月を以て生れ...

志津野直文

山陽中央水電專務取締役、岡山電燈取締役、同縣在籍

君は福井縣人志津野直文の二男にして元治元年十二月を以て生れ...

志波鷹治

三十四銀行、共同信託各取締役、同縣在籍

君は舊佐賀藩士志波三九郎の二男にして同安一郎の弟大谷彬亮の兄なり...

志水小一郎

從三位勳一等、陸軍法務官、貴族院議員、同縣在籍

君は熊本縣人志水貞光の二男にして安政元年二月を以て生れ...

志水貞元

正五位勳五等、判事、岡崎區裁判所判事、同縣在籍

君は熊本縣人志水貞光の二男にして安政元年二月を以て生れ...







シ之部 (紫藤) 自、持、慈、椎(川、津、名)

(紫印は姻族關係)

紫藤 章 從三位勳三等、農學博士、熊本電...

持明院基揚 從四位、子爵、殿家...

椎川 恒 從五位勳五等、判事、米澤區裁判...

自念春次郎 門司築港取締役、門司土地整理...

慈光寺愛仲 正五位、子爵、舊公卿家...

椎津 盛一 從五位勳五等、判事、東京控訴院...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 太輔 松尾鐵道、伊那電氣鐵道、鐵道電...

鹽入 松三郎 從五位勳六等、農事試驗場技師、...

潮先 藤次郎 第一證券監査役、大阪堂島米穀...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

シ之部 (潮、鹽(入、釜))

(紫印は姻族關係)

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...

潮見 茂樹 正五位勳四等、海軍法務官、横須...

鹽入 伊兵衛 從四位勳三等、仙臺高等工業學校...

鹽入 伊右衛門 山田莊左衛門の項...



シ之部 鹽(川、崎)

鹽川 一郎

長野縣多額納稅者、佐久鐵道運取長野縣在籍
安政三、一〇生、長野、小山萬五郎三女

鹽川 幸太

勳四等、佐久銀行頭取、長野野著銀行監査役、長野縣在籍
慶應元、一一生、長野、小山代吉長女

鹽川 幸三

君は長野縣人鹽川仁助の長男にして同三四郎の兄なり
元治元年三月を以て生れ明治十六年家督を相續す現時前記銀行會社の重役たり

(※印は姻族關係)

鹽川 三四郎

從六位勳五等、廣島商工會議所議長、藝備銀行頭取、東京府在籍
明一四、六生、伯耆邊邊昭叔母、學習院女學部出身

鹽川 正藏

從六位、東京市本郷區長、靜岡縣在籍
明二三、七生、岡根谷省作長女

鹽川 八男

帝國海上火災保險海海上部長、東京府在籍
明三九、四生

鹽崎 一治

安塚銀行專務取締役、新潟縣在籍
安政五、一一生、新潟、鹽崎佳太郎長女

鹽崎 市松

神戸取引所取引員、米穀問屋業、兵庫縣在籍
安政元、七生、兵庫、市川桂妹

鹽崎 市

君は兵庫縣人鹽崎市郎兵衛の長男にして明治十五年九月を以て生れ大正十年家督を相續す現時米穀問屋業を營み

シ之部 鹽(崎、澤、治、路、田)

鹽澤 虎之助

宮城縣多額納稅者、東北植林廳取締役、金礦業、宮城縣土族
明一五、二生、宮城、土、里見良顯長女

鹽澤 幸一

外五位勳三等、海軍少將、第一遣外艦隊司令官、長野縣在籍
明二三、三生、長野、北原阿智之助長女

鹽崎 觀三

從五位勳四等、外務書記官、條約局第二課長、兵庫縣在籍
文久三、三生、現戶主

鹽澤 昌貞

法學博士、早稻田大學理事、早稻田大學教授、政治經濟學部長
安政二、五生、茨城、土、關昌誠叔母

鹽澤 直重

從五位勳五等、判事、小濱區裁判所判事、山梨縣在籍
明二三、五生、山梨、鹽澤安重妹

鹽澤 昌

君は山梨縣人鹽澤三郎の三男にして明治十八年七月を以て生れ大正十年兄重太郎より分れて一家を創立す

鹽路 淳之助

日高紡織總務取締役、日高製材所取締役、和歌山縣在籍
明二〇、五生、和歌山、原秀次郎

鹽田 伊三郎

高松百十四銀行專務取締役、豐崎貯蓄銀行取締役、高松木村憲監査役、香川縣在籍
明一八、三生、香川、池田彌太郎

(※印は姻族關係)

鹽崎 觀三

君は兵庫縣人鹽崎觀三郎の長男にして明治二十七年四月を以て生れ大正六年外交官及領事官試驗に合格し翌年東京高等商業學校專攻部領事科を卒業爾來領事官補

鹽崎 觀三

君は宮城縣土族鹽澤清隆の四男にして明治十年十二月を以て生れ大正二年家督を相續す金礦業を營み傍ら前記社會の重役にして直接國稅二千一圓を納め縣下の多額納稅者たり

鹽治 助太郎

電氣興業、東京電氣各社取締役、鳥根縣在籍
現戶主







シ之部 鹽(野、原)

會社長たる外前記會社の重役たり家族は尙二男明二(大七、七生)長女敬子(同一〇、二生)三男恒同一三(二生)あり(大阪、東、高麗橋三ノ一〇電本局四六六)

鹽野義三郎

鹽野義商店社長、廣榮、大日本製藥、堂島大藥房各種取締役、三田藥品製煉所、千種製煉所各種監査役、廣業代表社員

父 義一

役 明一八、一一生、大阪、阿部慶太郎

君は大阪府人鹽野義一の長男にして明治十四年十一月を以て生れ大正九年家督を相續し前名正太郎を改む現時鹽野義商店社長たる外前記會社の重役を兼ねる家族は尙養子朝子(大六、三生)分家弟長次郎(二女)あり(明一七、八生)は大阪府人小西雅吉に同ツル(同一九、九生)は同府人堀内善五郎に同ツル(弟長次郎)同一六、四生)は分家せり(大阪、東、道修町三ノ一二電本局四〇九〇)

鹽野吉兵衛

大阪府多額納税者、鹽野香料種代表取締役、香料種商

妻 ヒロ

明二九、八生、大阪、和田和八妹

君は大阪府人先代吉兵衛の庶子にして明治二十二年二月を以て生れ同四十五年家督相續と共に襲名して前名光太郎を改む香料種商を営み現に前記會社の重役にして大阪府多額納税者たり家族は尙二男良之助(大一一、一一生)三男喜久夫(昭二、二生)あり(一九三二(大阪、東、道修町三ノ一二電本局一九六一)参照) 京、西、西次郎の項

鹽野健太郎

新潟商工會議所議員、新潟運送船務取締役、新潟縣在籍

妻 田鶴

明一二、九生、新潟、田邊文司姪

君は新潟縣人先代吉兵衛の庶子にして明治二十二年二月を以て生れ同四十五年家督相續と共に襲名して前名光太郎を改む香料種商を営み現に前記會社の重役にして大阪府多額納税者たり家族は尙二男良之助(大一一、一一生)三男喜久夫(昭二、二生)あり(一九三二(大阪、東、道修町三ノ一二電本局一九六一)参照) 京、西、西次郎の項

鹽野長次郎

千種製煉所、鹽野義商店、猪飼商製煉業、大阪府在籍

妻 静江

明四三、一一生、大阪、猪飼史郎妹

君は大阪府人鹽野義一の二男同義三郎の弟にして明治十六年四月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す

鹽野長次郎

千種製煉所、鹽野義商店、猪飼商製煉業、大阪府在籍

妻 孝太郎

明四三、一一生、大阪、猪飼史郎妹

君は大阪府人鹽野義一の二男同義三郎の弟にして明治十六年四月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す

鹽野長次郎

千種製煉所、鹽野義商店、猪飼商製煉業、大阪府在籍

妻 純子

大三、七生

君は大阪府人鹽野義一の二男同義三郎の弟にして明治十六年四月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す

鹽野長次郎

千種製煉所、鹽野義商店、猪飼商製煉業、大阪府在籍

妻 静江

明四三、一一生、大阪、猪飼史郎妹

君は大阪府人鹽野義一の二男同義三郎の弟にして明治十六年四月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す

(※印は姻族關係)

て生れ先代猶次郎の養子となり家督を相續す現時新潟運送船務取締役にして推されて新潟商工會議所議員たり家族は尙孫和子(大一一、三生)あり(新潟市西堀前通一番町電一〇五五)

鹽野季彦

長野縣在籍

妻 宜慶

大元、八生

君は長野縣人山崎山寺信三の三男にして明治十三年一月を以て生れ先代宜健の養子となり大正四年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學法科大學を卒業し同四十四年検事に任じ大阪府東京區兼同地方各裁判所検事司法省參事官兼司法省書記官東京控訴院檢事東京地方裁判所檢事正等に歴任し昭和五年現職に轉ず同二年歐米各國に出張を命ぜらるる家族は尙二男宜徳(大六、九生)三女雪(同一〇、二生)あり長女時(明四三、八生)は廣島縣人鈴木宗正に嫁せり(東京、牛込、余丁町二八電四谷六〇〇) 井直興の項

鹽野介

福井縣士族

妻 ます

明一〇、一一生、京都、上林昇治

君は福井縣人山崎村松の五男にして明治五年十月を以て生れ先代了の養子となり同十六年家督を相續す現時教員二十五銀行常任監査役たり家族は尙三男達郎(大八、一一生)五男謙郎(同一〇、七生)あり四男友郎(同五、八生)は東京府人菅絶學の養子となり(福井、大飯、高濱町)

鹽野長次郎

千種製煉所、鹽野義商店、猪飼商製煉業、大阪府在籍

妻 静江

明四三、一一生、大阪、猪飼史郎妹

君は大阪府人鹽野義一の二男同義三郎の弟にして明治十六年四月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す

鹽野長次郎

千種製煉所、鹽野義商店、猪飼商製煉業、大阪府在籍

妻 孝太郎

明四三、一一生、大阪、猪飼史郎妹

君は大阪府人鹽野義一の二男同義三郎の弟にして明治十六年四月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す

鹽野長次郎

千種製煉所、鹽野義商店、猪飼商製煉業、大阪府在籍

妻 純子

大三、七生

君は大阪府人鹽野義一の二男同義三郎の弟にして明治十六年四月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す

鹽野長次郎

千種製煉所、鹽野義商店、猪飼商製煉業、大阪府在籍

妻 静江

明四三、一一生、大阪、猪飼史郎妹

君は大阪府人鹽野義一の二男同義三郎の弟にして明治十六年四月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す

鹽野長次郎

千種製煉所、鹽野義商店、猪飼商製煉業、大阪府在籍

妻 純子

大三、七生

君は大阪府人鹽野義一の二男同義三郎の弟にして明治十六年四月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す

シ之部 鹽(見、谷)

妻 千代 明一九、一〇生、東京、奥田象三 長女、東洋英和女學校出身 男 智三 明四二、九生、プリンス頓大學 女 智子 明四四、一一生、聖心女子學院出身 女 泰子 明四五、七生、聖心女子學院出身 君は長野縣人鹽原又市の長男にして明治十年一月を以て生れ同三十七年家督を相續す當時の横濱英和學校に學び日本製茶會社に入りて以て實業界の人となる次いで横濱製茶會社を設立し其取締役支配人となり明治三十二年製茶業を以て雄飛せんと同年在高崎博士と相提携して我が製茶工業の發展を策し同三十五年東京に出で三共合資會社を起し全身を製茶界に投ずるに至れり爾來歐米に航すること數回大いに得る所あり大正二年個人的の三共事業を株式組織に改め其専務取締役役に就任し引續き經營の任に俯り尙前記各會社の重役たり好みて古陶器を蒐集す家族は尙二男祥三(大三、二生)三男良三(同一〇、五生)五男健三(同九、一一生)六男英三(同一一、五生)五女邦子(昭五、五生)あり長女朝子(明三九、七生、聖心女子學院出身)は東京府人石崎丈太郎長男政一郎に二女英子(同四一、三生、出身校同上)同府人永井好信二男信二郎に妹トヨ(同一、八生、跡見女學校出身)は同府人福井源次郎に嫁せり(東京市外港町羽澤一〇二電青山九〇一) 參照 石崎丈太郎、福井源次郎、永井好信、田島小島説の項

鹽見清右衛門

越後屋、生絲商 京都府在籍

母 エン

門長女 慶應三、一〇生、東京、鹽谷信武

當家は先々代清三の分家に創る君は清三の孫にして先代清右衛門の長男なり明治二十年一月を以て生れ大正十一年家督を相續し前名英藏を改め襲名す越後屋と稱し生絲商を營む家族は尙二男義郎(大八、六生)長女康子(昭二、六生)妹朝(明四一、一〇生)あり弟清九郎(同二五、一一生)、慶應義塾理財科出身)は分家し妹房(同三一、九生)は京都府人内貴清兵衛弟清三郎に同加嗣(同三八、三生)は陸軍中將長岡外史長男護三郎に嫁

せりA一三〇一B三三六(京都、上京、今出川大宮西入ル西北小路町一七六電西陣一八) 參照 内貴清兵衛、長岡外史の項

鹽見由三郎

丹波屋、藥種貿易商 大阪府在籍

妻 エツ

明三五、四生、大阪、大道吉藏三

君は大阪府人清田正吉の二男にして明治二十八年六月を以て生れ先代由三郎の養子となり大正十四年家督を相續し襲名して前名武治郎を改む丹波屋と稱し藥種貿易商を營む家族は尙長女多榮子(大一一、一一生)二女光子(昭四、八生)あり(大阪、東、道修町二ノ三二電本局六一七七)

鹽谷 温

從四位勳三等、文學博士、東京帝國大學教授、文學部勤務 東京府士族

妻 恒

大二、五生

君は故第一高等學校教授鹽谷時敏の長男にして幕末の鴻儒鹽谷岩陰の孫なり明治十一年七月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學文學部大學漢學科を卒業し更に大學院に學び同三十八年學院院教授に任じ同三十九年東京帝國大學文學部教授となり同年支那文學研究の爲獨清に留學し歸朝後更に支那に出張を命ぜらるる大正九年東京帝國大學教授に任ぜられ文學博士の學位を受く現に其職に在り昭和六年順宮浴湯の儀に際し讀書控被仰付家族は尙二男横(大七、二生)三女恒(同一、一〇生)あり長女悦(明三七、八生)は福岡縣人幸島小四郎二男横に妹(同一七、一八生)は東京府人田中彌太郎弟逸平に同積(同二七、一一生)は同府人矢野周一に同積(同三〇、九生)は廣島縣人頼彌次郎に嫁し弟良(同一五、五生)は東京府人山井幹六の養子となり同恭(同一三、六生)は分家せり(東京、小石川、久堅町七四電小石川一九三)

鹽谷久太郎

新海銀行取締役、大神樂鹽漁業 鹽原縣在籍

妻 恒

大二、五生

君は故第一高等學校教授鹽谷時敏の長男にして幕末の鴻儒鹽谷岩陰の孫なり明治十一年七月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十五年東京帝國大學文學部大學漢學科を卒業し更に大學院に學び同三十八年學院院教授に任じ同三十九年東京帝國大學文學部教授となり同年支那文學研究の爲獨清に留學し歸朝後更に支那に出張を命ぜらるる大正九年東京帝國大學教授に任ぜられ文學博士の學位を受く現に其職に在り昭和六年順宮浴湯の儀に際し讀書控被仰付家族は尙二男横(大七、二生)三女恒(同一、一〇生)あり長女悦(明三七、八生)は福岡縣人幸島小四郎二男横に妹(同一七、一八生)は東京府人田中彌太郎弟逸平に同積(同二七、一一生)は同府人矢野周一に同積(同三〇、九生)は廣島縣人頼彌次郎に嫁し弟良(同一五、五生)は東京府人山井幹六の養子となり同恭(同一三、六生)は分家せり(東京、小石川、久堅町七四電小石川一九三)

鹽谷藤治郎

大阪府在籍

妻 津

明三〇、九生、大阪、村上房治郎

當家は先々代藤吉の分家より創る藤吉初め乾物商を營み傍ら餘財を以て貸家を求め現在の基礎を築く君は其孫先代久吉の長男にして明治二十八年二月を以て生れ同四十二年家督を相續す家主として知らる趣味として讀書を能くす家族は尙長女千代子(大九、三生)弟孝三郎(明三七、三生、慶應義塾理財科出身)あり姉ヤエ(同一九、三生)は大阪府人野口富三郎長男長藏に同(同二二、五生)は同府人大谷三郎孫平太郎に同(同三三、一四生)は同府人榮榮次郎に嫁し弟宗太良(同三三、一一生)、

(※印は姻族關係)

同四十年東京帝國大學醫科大學藥學科を卒業し製煉業を營み傍ら前記各會社の重役たり家族は尙三女雅子(大七、二生)二男敬次郎(同一〇、二生)あり二女朝子(同六、三生)は大阪府人鹽野義三郎の養子となり(同三一、四一三(兵庫、武庫、大社村森具山如三四二電西宮八二三) 參照 猪飼史郎、鹽野義三郎の項

鹽原民二

日本興業代表取締役 兵庫縣在籍

妻 千代子

明一〇、八生、群馬、鹽原清十郎

君は大阪府人難波萬年の二男にして明治五年十一月を以て生れ大正八年鹽原千代子の入夫となり家督を相續す現時日本興業會社代表取締役たり又鹽原學園研究所を京都市に設立し神戸高等技藝女學校及大阪京都新舞鶴等に各女子高等技藝學校の姉妹校六校を設立し夫人千代子校長として女史の研究に成れる直角選針鹽原式裁縫を全國的に普及し現在生徒各姉妹校を通じて約四千人を數ふ國産に趣味を有し神戸布引山に二萬坪の遊園地を經營せり又家族は尙養子チ(大一一、一〇生、群馬、鹽原清十郎孫)あり同チチ(明三三、三生、群馬、田村登喜太姉)は京都府人山岡峻美に嫁せり(二九七、七(神戸、加納町二ノ二電養合二二六)

鹽原時三郎

從六位、清水市長 靜岡縣在籍

妻 八重子

明三四、七生、愛知、宮田悦次郎

君は長野縣人和田開謙の息にして明治二十九年二月を以て生れ鹽原家の養子となり昭和五年分れて一家を創立す大正九年東京帝國大學法學部獨法科を卒業し通信局書記兼通信局となり同十二年貯金局事務官に任じ爾來通信事務官通信局事務官簡易保險局事務官兼鹽原督府交通局參事兼簡易保險局書記官等に歴任し昭和四年十月清水市長に就任し現在に至る全國最年少の市長として名あり(清水、入江受新田六五電一三四)

鹽原又策

三共製煉取締役社長、亞細亞アルミ、ナホ、高崎保全、泰昌製煉、臺灣生藥、興東貿易、東洋製煉、大和鐵造各種取締役、柏木鐵造器製造所監査役 鹽原省代表社員、東京府在籍

妻 とめ

明二〇、六生、富山、永守九郎三

君は富山縣人鹽谷久左衛門の二男にして明治十年十一月を以て生れ先代久左衛門の養子となり大正九年家督を相續す現時前記各會社の重役たり長女雅子(明三八、四生)は富山縣人森永興作長男丈太郎に二女ナミ(同四一、一一生)は同縣人保科治郎に妹千代子(同三九、七生)は同縣人田中治作に嫁し弟富山(同三六、四生)は同縣人境久作の養子となり(富山、射水、新湊町)

鹽谷三郎

日本郵船船長 德島縣士族

妻 文子

明二五、九生、岡山、森義春二女

君は德島縣人鹽谷依信の三男にして明治十五年五月を以て生る現時日本郵船會社船長たり家族は尙二女百合子(大一一、〇七生)三女晶子(生年月同上)兄謙吉(明一〇、五生、現戶主)及其子女同吉備夫(同一三、八生)同妻エ(同一五、三生、北海道、菅原伊太郎二女)及其子女弟百千(同一二、三生)同又雄(同二八、一一生)同妻フミエ(同三五、六生、德島、原竹藏三女)及其一子あり(A二三八(東京市外調布町田岡都市四五)



京都同志社大學出身は分家したま(同一六、五生)も亦一女を伴ひ分家せりA二〇四(大阪、豊能、豊中町標一〇四ノ三三電岡町五三)

鹽谷友厚 三菱海上火災保險會計課長、計理士、新潟縣在籍

君は新潟縣人鹽谷賢藏の二男にして明治二十六年一月を以て生れ先代兄三作の後を承け家督を相續す大正四年東京高等商業學校を卒業し同六年同校専攻部を修了し現時三菱海上火災保險會計課長の職に在り家族は尚長女英子(大一一、四生)二女桂子(同一三、二生)の外姉リイ(明一二、一一生)同リウ(同一五、二生)及其一子ありA一八七(東京、本郷、駒込曙町九ノ四)

鹽谷不二雄 從五位、醫學博士、東京帝國大學助教授、醫學部勤務、東京府在籍

君は滋賀縣人鹽谷泰造の長男にして明治十五年七月を以て生れ後家督を相續す同四十二年東京帝國大學醫學部を卒業し大正元年同校助手となり同七年米國に留學し歸朝後同校助教授に任ぜられ現時醫學部に勤務す先是大正七年醫學博士の學位を授けらるる家族は尚二女司(大九、二生)三男繁雄(同一二、四生)三女千恵(同一五、一一生)四女佐榮(明三、一〇生)あり(東京、小石川、大門町一七電小石川三三三)

鹽山仙次郎 熊本縣多額納稅者、吳服並洋品雜貨商、熊本縣在籍

君は熊本縣人鹽山仙藏の弟にして明治十五年十二月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し歐米に遊學する事三年歸朝後富士瓦斯紡績會社に入り現に事務取締役たり(東京市外入新井町三三二八電大森四六一)

以て生れ同十八年家督を相續す吳服並洋品雜貨商を營み熊本縣多額納稅者にして直接國稅千五百六十六圓を納む(熊本市南新井町電四七八)

鹿海文助 今川商店取締役、南海土地地租監査役、有價證券買賣業

君は大阪府人先代文助の長男にして明治十九年九月を以て生れ大正十三年家督を相續し後襲名して其名賢治を改む先代文兵衛初め大阪に出で洋反物商大業屋に多年勤務し後別家を許されて獨立開業し洋反物商を營み南海家今日の基礎を築けり先代文助に至り是を廢し大阪三品取引所仲買人として更に巨利を博す君の後を承けて現時有價證券買賣業を營み前記各會社の重役たり家族は尚三男國造(大一一、一一生)四男信也(同一二、一〇生)五男恒一(同一五、一一生)二女芳枝(昭四、二生)弟秀三(明三九、八生、横濱高商在學)あり母滿津(文久三、六生、大阪、佐野雅四郎三女弟文之助(明三二、一〇生)、大阪高商出身)同太郎(同一三、四生)、東京府人先代石田萬兵衛に弟文雄(同一三、三三)は大阪府人北川喜三郎に各養子となり妹サツ(同一六、二生、夕陽ヶ丘高女出身)は東京府人田中市良に同たま(同一三、二生、出身校同上)は和歌山縣人今川晉藏に同八重(同一三、一一生、出身校同上)は大阪府人別府陸に同す(同一三、七、八生)は同府人佐野繁太郎に嫁せりA一八八B三一一(大阪、南、鹽町通三)一六電船場二八二)

鹿園直治 從五位、男爵

當家は右大臣三條實起の第七子空見の立つる所なり空見幼にして南都興福寺に入り喜多院の住職となる維新の際勅命に依り復歸し明治二年堂上の格を賜ひ一家を創立し鹿園と稱す先代實博其後を承け同八年華族に列し同十七年男爵を授けられ貴族院議員に擧げらるる先代傳仲は伯爵林博太郎の二男にして入りて其後を繼ぎ

君に至る君實は子爵南部利克の六男子爵井上正徳男爵鳥津久英の弟子爵戸田忠肅の再從弟なり明治四十二年一月を以て生れ當家に入り昭和五年家督を相續し學問に優れ高等科を卒業し東京帝國大學に在學中なり(東京市外千駄ヶ谷町標田三五南部子爵邸)

鹿戸安太郎 川越市參事會、川越商會議所議員、武蔵野合同運送、青山印刷所各監査役、埼玉縣在籍

君は埼玉縣人大野辨太郎の二男にして明治六年四月を以て生れ先代彦四郎の養子となり大正三年家督を相續す現時前記各會社の重役にして推されて川越市參事會川越商會議所議員たり家族は尚二男福三(大三、七生)四男勝三(同八、二生)五男俊三(同一〇、八生)三女美代子(同一二、一一生)四女政子(同一五、二生)六男定雄(昭三、八生)あり(川越、松郷四九七)

鹿野治三郎 資産家

君は岐阜縣人鹿野平次郎の長男にして明治四年三月を以て生れ同二十五年家督を相續す同二十八年東京高等商業學校を卒業し鐘ヶ淵紡績會社營業部事務課長に任じ主任たりしが退職し資産家たり家族は尚孫藏夫(昭五二生、二男邦彦長男)弟佐太郎(明九、三三)あり同鹿次郎(同六、一〇生)は岐阜縣八寶藤茂七の養子となり妹いし(同一、五生)は兵庫縣人岡村正行長男定雄に

同し(同一六、八生)は岐阜縣人平森藤藏長男三木太に嫁せりA八六四(神戸、西須磨東北野下二三ノ六電須磨二四九)

鹿村美久 富士瓦斯紡績專務取締役

君は愛媛縣土族鹿村眞吉の三男にして明治十七年五月を以て生れ大正四年分れて一家を創立す明治三十八年東京高等商業學校を卒業し歐米に遊學する事三年歸朝後富士瓦斯紡績會社に入り現に事務取締役たり(東京市外入新井町三三二八電大森四六一)

敷波重治郎 正四位勳三等、醫學博士、岡山醫科大學教授、石川縣在籍

君は石川縣人敷波大休の二男にして明治五年二月を以て生れ大正三年兄喜三郎より分れて一家を創立す明治二十七年金澤醫學專門學校を卒業し東京帝國大學醫學科大學助手第二高等學校教授仙臺醫學專門學校教授に歴任し同三十八年解剖學及組織學研究の爲獨逸に留學し同四十五年東京帝國大學醫學專門部教授となり大正八年醫學博士の學位を受く同十一年東京帝國大學教授となり轉じて現時岡山醫科大學教授たり同十三年歐米に出張を命ぜらるる家族は尚孫雪子(大一一、三三)養子義雄長女(同喜美子)同一四、八生、同二女(同博)同四、五生、同長男あり(岡山市南方中道二四六電三〇一七)

鳴原彌作 福島縣多額納稅者、糸類商

鳴原家は福島縣郡山有数の舊家にして十二代を経て先代彌作に至る君は其長男にして明治五年十月を以て生れ後家督を相續す糸類商を營み福島縣多額納稅者たり

(郡山、中町四電一四)

茂野誠衛 片倉越後製紙專務取締役、新湯縣在籍

君は新潟縣人茂野恭平の長男にして明治三十一年八月を以て生れ大正七年家督を相續し現時前記諸會社の重役にして推されて村松町長たり家族は尚三男正(昭二九生)長女せつ(同五、五生)姉ウケ(明三〇、二生)弟友衛(同三八、一一生)あり同達衛(同三三、一一生)は新潟縣人茂野榮松の養子となり妹ムロ(同三六、一一生)は同縣人桑原謹一に同桂(同三九、九生)は同縣人指田平陸に嫁せり(新湯、中蒲原、村松町)

茂見義夫 從四位勳三等、檢事、水戸地方裁判所檢事、東京府在籍

君は岡山縣人茂見孝四郎の長男にして明治四年八月を以て生れ大正十四年家督を相續す明治三十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十六年判事に任じ福岡區同地方久留米區佐賀地方各裁判所判事長崎地方裁判所部長を経て檢事に轉じ爾來神戸區同地方姫路區各裁判所檢事青森高知金澤安濃津各地方裁判所檢事正に歴補し昭和四年現職水戸地方裁判所檢事正に補せらるる家族は尚三男義高(大五、三三)三女清子(同一二、四生)あり長女久子(明四〇、四生)は大阪府人松本チヲ長男判事昌三に嫁せり(水戸、大町電一〇七)

重岡信治郎 正五位勳二等功五級、海軍少將、海軍水學校校長、愛媛縣在籍

君は愛媛縣人重岡忠三の從兄にして明治十二年五月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治三十五年海軍學校を卒業し海軍少尉に任じ大正十五年海軍少將に果進す其間第四水雷戰隊參謀長鎮守府附海軍水學校教頭出雲艦長兼由良艦長海軍水學校校長等に任じ昭和二年第二潜水戰隊司令官となり海軍水學校長に任じ艦政本部第五部長を経て同五年海軍水學校長に任じ今日に至る家族は尚三女明子(大六、三三)二男泰(同一八、七生)三男力(同九、一一生)四女邦子(同一、一一生)あり(吳、海軍水學校在籍)

君は愛媛縣人重岡忠三の從兄にして明治十二年五月を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治三十五年海軍學校を卒業し海軍少尉に任じ大正十五年海軍少將に果進す其間第四水雷戰隊參謀長鎮守府附海軍水學校教頭出雲艦長兼由良艦長海軍水學校校長等に任じ昭和二年第二潜水戰隊司令官となり海軍水學校長に任じ艦政本部第五部長を経て同五年海軍水學校長に任じ今日に至る家族は尚三女明子(大六、三三)二男泰(同一八、七生)三男力(同九、一一生)四女邦子(同一、一一生)あり(吳、海軍水學校在籍)

重田長吉 神奈川縣多額納稅者、砂糖商

君は神奈川縣人先代長吉の二男にして明治二十九年十月を以て生れ大正十三年家督を相續し前名道太郎を改め襲名す砂糖商を營み直接國稅千三百六十八圓を納め縣下の多額納稅者たり家族は尚二男長三郎(大一一、四一)一男(三男綱雄)昭二、二生)長女マサ子(同三、九生)一男(三男綱雄)昭二、二生)あり姉フサ(同二四、二生)同夫綱四郎(同一六、九生、栃木、磯市郎平三男)は共に分家し弟秋作(同三一、一〇生)も亦分家し妹アサ(同三五、一〇生)は東京府人野田源次郎の養子となり(横濱、中、長者町九、一六七電長者町八三四)

重信勇太郎 鹿兒島縣多額納稅者、履物商

君は鹿兒島縣人重信伊八の長男にして元治元年五月を以て生れ明治三十三年家督を相續す履物商を營み縣下の多額納稅者たり家族は尚孫勇(大一一、一〇生)一男、長男勇一(長男)あり弟龜次郎(明一〇、一〇生)同妻ナチ(同二〇、四生、鹿兒島、正野清次郎長女)及弟武次郎(同



七、(二生)同妻ハル(同八、二生、鹿兒島、津典十助三女)...

重原慶信

君は愛知縣人重原慶の長男にして明治十八年八月を以て生れ...

重政近太郎

君は廣島縣人重政六左衛門の長男にして明治七年五月を以て生れ...

重松重治

君は廣島縣人重松重治の長男にして明治七年五月を以て生れ...

重松養二

君は廣島縣人重松養二の長男にして明治七年五月を以て生れ...

重見龍造

君は廣島縣人重見龍造の長男にして明治七年五月を以て生れ...

重宗芳水

君は東京府人重宗芳水の長男にして明治二十二年二月を以て生れ...

重宗雄三

君は東京府人重宗雄三の長男にして明治二十七年二月を以て生れ...

滋岡長彦

君は大阪府人滋岡長彦の長男にして田中俊清の甥にして明治十五年四月を以て生れ...

繁田武平

君は埼玉縣人繁田武平の長男にして發智庄平の弟なり...

重光

君は大分縣人重光直胤の二男にして同族の弟なり...

重光喜

君は大分縣人重光喜の長男にして同族の弟なり...

君は廣島縣人重松重治の長男にして明治七年五月を以て生れ...

重松武右衛門

君は愛知縣人重松武右衛門の長男にして明治三年十二月を以て生れ...

重松養二

君は廣島縣人重松養二の長男にして明治七年五月を以て生れ...

重見龍造

君は廣島縣人重見龍造の長男にして明治七年五月を以て生れ...

重宗芳水

君は東京府人重宗芳水の長男にして明治二十二年二月を以て生れ...

重宗雄三

君は東京府人重宗雄三の長男にして明治二十七年二月を以て生れ...

滋岡長彦

君は大阪府人滋岡長彦の長男にして田中俊清の甥にして明治十五年四月を以て生れ...

繁田武平

君は埼玉縣人繁田武平の長男にして發智庄平の弟なり...

重光

君は大分縣人重光直胤の二男にして同族の弟なり...

重光喜

君は大分縣人重光喜の長男にして同族の弟なり...

重光喜

君は大分縣人重光喜の長男にして同族の弟なり...

重光喜

君は大分縣人重光喜の長男にして同族の弟なり...

君は廣島縣人重松重治の長男にして明治七年五月を以て生れ...

重見龍造

君は廣島縣人重見龍造の長男にして明治七年五月を以て生れ...

重宗芳水

君は東京府人重宗芳水の長男にして明治二十二年二月を以て生れ...

重宗雄三

君は東京府人重宗雄三の長男にして明治二十七年二月を以て生れ...

滋岡長彦

君は大阪府人滋岡長彦の長男にして田中俊清の甥にして明治十五年四月を以て生れ...

繁田武平

君は埼玉縣人繁田武平の長男にして發智庄平の弟なり...

重光

君は大分縣人重光直胤の二男にして同族の弟なり...

重光喜

君は大分縣人重光喜の長男にして同族の弟なり...

重光喜

君は大分縣人重光喜の長男にして同族の弟なり...

重光喜

君は大分縣人重光喜の長男にして同族の弟なり...

重光喜

君は大分縣人重光喜の長男にして同族の弟なり...

重光喜

君は大分縣人重光喜の長男にして同族の弟なり...



















芝 嘉久太

徳島縣多額納税者、阿波農工銀行  
阿波製紙各務取締役、農業者  
妻 スミエ 明一五、一生、徳島、箕浦正長女  
男 彦一 明二八、五生、徳島、箕浦正三女  
女 ミサチ 明三三、二生、長男彦一妻、徳島  
男 吉 明三〇、八生、箕浦正三女  
女 アヤ 明三三、三三、野々木秀造四女

君は徳島縣人芝三郎の長男にして慶應二年二月を以て生れ明治九年祖父芝太郎の没を以て家督を相続す同二十四年慶應義塾別科を卒業し爾來祖業油商を營みし近時之を廢し農業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接國稅三千八百六圓を納め縣下の多額納税者に列す義に推されて徳島商工會議所議員たりし事あり家族は尙孫嘉一(大、一四、三生、長男彦一長男)同満喜(同、一五、七生、同長女)同モト(昭四、一〇生、同二女)同千代(大、一五、二生、二男龜吉長女)同敬子(昭四、六生、同二女)あり姉ミツ(元治元、一〇生)同友麻三郎(安政三、一〇生、徳島、赤岩積二弟)は其子女を伴ひ伯父牛太郎(萬延元、一〇生)同妻キ(元治元、一〇生、徳島、増谷嘉平妹)を伴ひ各分家し伯母ケイ(慶應二、一〇生)は徳島縣人後藤利吉に嫁せり(徳島市東町一六)  
參照 濱石原六郎の項

芝 葛盛

從五位勳五等、圖書寮編修官、編  
修課長、諸陸院臨時事務兼務、  
東京府士族  
妻 いづ 明二〇、一生、岡山、藤原道雄養子、三輪田高女出身  
男 盛雄 大、一二、五生、雙葉高女出身  
女 信子 明四四、六生、雙葉高女出身  
女 敏子 大、二、九生、立教高女出身  
女 敏子 大、三、一〇生、立教高女出身

芝 憲太郎

徳島縣在籍、棉花商  
父 長五郎 明九、八生、現戶主  
妻 千代子 明四一、九生、兵庫、一井宇之次  
君は徳島縣人芝長五郎の長男にして明治三十七年八月を以て生れ棉花商を營み現時前記會社の重役たり家族は尙長女眞壽美(昭四、二生)ありA五九八九(大阪、西、土佐堀通一ノ三五)  
參照 芝長五郎の項

芝 甚之助

大阪乾物商俱樂部取締役社長、  
乾物商、大阪府在籍  
妻 マス 明三、一〇生、大阪、芝宗七五女  
男 義之助 明一六、一〇生、養父甚之助長女  
女 小み 明四五、一〇生  
君は奈良縣人八尾勇助の二男にして明治十六年七月を以て生れ先代甚之助の養子となり大正四年家督を相続し前名勇治を改め養名干乾物商を營み前記會社の重役にして大阪乾物同業組合代議員議長たり(大阪、北菅原町二〇電話北二五九一)

芝 染太郎

シャパンタイムス社専務理事兼主  
幹、愛媛縣士族  
妻 東香 明三、八、九生  
男 世男 明四〇、一〇生  
女 辨 明四三、五生  
君は愛媛縣人芝芝明の長男にして明治三年九月を以て生れ後家督を相続す現時シャパンタイムス社専務理事兼主幹たり長女敏(明三四、一〇生)は和歌山縣人榎本隆一郎に嫁し長男均平(同三六、一〇生)は北米合衆國の國籍に入れり(東京、麹町、内幸町一ノ六電報局三三三三)  
參照 芝長五郎の項

芝 富四郎

大阪石膏専務取締役、日本農藥  
監査役、兵庫縣在籍  
妻 俊次 明四〇、九生、生母、大阪、霜井  
君は兵庫縣人芝虎之介の三男にして明治九年四月を以て生れ同三十二年分れて一家を創立す現時前記會社の重役にして義に農井製藥會社取締役たりし事あり庶子美津(明三五、一〇生、生母、大阪、霜井)は大阪府人三治郎弟季一(同三三、八、五生、生母同上)は三重縣人森岡佐市弟生に嫁せりA三八六(大阪、天王寺、大道町三ノ七三電天王寺一七七〇)  
參照 芝憲太郎の項

芝 松太郎

山下製藥専務取締役大阪支店  
長、三好炭販賣取締役  
妻 タカ 明元、四生、愛媛、芝孫八長女  
男 敬一 明二五、一〇生、東京、瀨下小五郎長女  
女 静子 大、一、九生  
君は愛媛縣人芝新太郎の長男にして明治二十二年十二月を以て生れ大正九年家督を相続す現時山下製藥會社常務取締役兼大阪支店長にして傍ら前記會社の重役たり家族は尙弟康三郎(明二八、一〇生)同妻ヒロ(同三七、一〇生、愛媛、竹葉長次郎長女)及其三男弟五郎(同三六、一〇生)同妻好子(同四三、一〇生、鹿兒島、堀孟子長女)弟清六郎(同三九、一〇生)亡弟萬次郎妻幸子(同二七、三三、愛媛、芝貞一姉)及其四女あり亡妻代子(大、一〇、二生、長男榮一長女)同憲一(同二二、一生、同長男)あり長女ヒサ(明二七、九、一〇生)は廣島縣人平田義太郎に嫁せり(同三七、六生、神戸學院高等女學部出身)は福岡縣人原勝三郎長男吉平に四女八重(同四〇、九生、甲南高女出身)は宮城縣人中目覺長男悟に嫁し二男榮三(同二七、六生、法學士)養弟新次郎(同二四、一〇生)は各其妻を伴ひ分家せり(大阪、西、江戸堀北通二、二八)  
參照 芝川榮三、芝川新次郎、中目覺、平田義太郎の項

芝 義太郎

芝商事、芝業各種代表取締役、  
東京機械製作所取締役、  
東京府士族  
妻 ムメ 明二、二生、福岡、岡村惣吉長女  
男 徹一郎 明三二、九生  
男 文子 明三六、一〇生、長男徹一郎妻、愛媛、井上雄馬姪  
男 周平 明三六、三三、山屋他人三女  
男 ナツ 明四三、六生、三男周平妻、東京府士族

芝 江初五郎

芝江組、土木建築請負業、  
東京府在籍  
妻 よね 明一二、二生、東京、奥田留五郎  
男 新太郎 明三二、四生  
男 義三 明四〇、一〇生  
君は東京府人小原勘五郎の四男にして明治五年六月を以て生れ先代藤五郎の養子となり十七年家督を相続す土木建築請負業を營み芝江組と稱す家族は尙孫とし子(大、一、五生、長男新太郎長女)同憲一郎(同二、八生、同長男)同ちよ子(昭二、八生、同二女)同泰三郎(同三、一〇生、同二男)あり(東京市外日暮里町谷中本一四五電下谷四一〇〇)

芝 川榮助

芝川商店、大阪毛織各種社長、芝  
川商店代表社員、大阪府在籍  
妻 キミ 明七、一〇生、養父新助二女  
男 榮一 明二五、二生  
君は京都府人横田清兵衛の二男にして慶應元年六月を以て生れ明治二十四年先代新助の養子となり家督を相続す内外織物及雜貨の販賣を業とし後組織を株式及合名會社に改め現時社長及代表社員にして傍ら大阪毛織會社社長たり論而商標球等の趣味あり家族は尙孫喜

芝 佐市郎

正四位勳二等功三級、陸軍中將  
徳島縣在籍

芝 川榮三

大阪毛織、新興土地各種取締役、  
芝川商店監査役、大阪府在籍  
妻 武 明三七、三三、東京、秀島英五郎  
君は大阪府人芝川榮助の二男同新次郎の養男にして明治二十七年六月を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す同七年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し實業界に入り現時大阪毛織新興土地各會社取締役の外前記會社の重役として知らるる家族は尙長女春子(大、一三、一〇生)あり(大阪、東、高橋橋三ノ一〇電本局四六〇〇)  
參照 芝川榮助、芝川新次郎、秀島英五郎、中目覺、平田義太郎の項

芝 川新次郎

芝川商店副社長、芝川商店代表  
社員、大阪府在籍  
妻 小苗 明一九、五生、大阪、林助三郎二女  
君は大阪府人芝川新助の長男同榮助の養弟同榮三の養叔父にして明治十四年十一月を以て生れ同二十四年分れて一家を創立す同三十六年大阪高等商業學校を卒業し現時株式會社芝川商店副社長にして合名會社芝川商店代表社員たり(大阪、西、江戸堀北通一ノ一五電土佐堀六〇六)  
參照 芝川榮助、芝川榮三、中目覺、平田義太郎の項

芝 川又四郎

千島土地運取取締役  
大阪府在籍  
妻 又右衛門 嘉永六、一〇生  
父 文久二、二生、大阪、山口吉郎兵衛叔母







シ之部 柴垣、等

母 キ ヌ 明一、一、生、大阪、小西コトラ
君は大阪府人柴清治郎の長男にして明治二十八年五月
を以て生れるキヌメ経営主にしてルナパーク演藝
會社取締役たり弟榮太郎(明三、一、生)は分家せりA
一六四一(大阪、天王寺、南河堀町五八電一〇九七)

柴仁三郎 兵庫商店社長
兵庫縣在籍
妻 すて 明一〇、四、生、滋賀、目加田三郎
男 吉一 明二九、一、生
男 敏郎 明四四、三、生
女 敬子 大、九、生

君は兵庫縣人柴仁兵衛の長男にして明治九年五月を以
て生れ同四十二年家督を相続す貿易商を営み現に柴仁
商店社長たり義に神戸商工會議所議員に推されし事あ
り家族は尙三女富子(大九、五、生)あり弟間之祐(明一
六、一、生)は其妻を伴ひ分家し妹とく(同二三、三、生)
は東京府人吉田淳長男に嫁せり(神戸、楠町六ノ三
四電元町一四三三)
參照柴間之祐の項

柴碩文 正五位勳四等、検事、札幌地方裁
判所検事正、福岡縣士族
母 ヒサ 萬延元、八、生、奈良、見城重次二
妻 さわ 明一七、一、生、愛知、伴野喜兵衛
女 照代 明四五、一、生
女 彰子 大、三、五、生

君は福岡縣士族柴茂三郎の二男にして明治十四年一月
を以て生れ大正十二年家督を相続す明治四十四年東京
帝國大學法科大學を卒業し翌年司法官試補となり同四
十五年檢事に任じ爾來浦和蕨谷札幌釧路旭川神戸大阪
長崎各區地方裁判所檢事長崎東京各控訴院檢事大審院
檢事に歴補し昭和四年札幌地方裁判所檢事正に補せら
れ今日に至る家族は尙二男瑞二(大七、一〇、生)四女桂
子(同二〇、一、生)五女茂枝(同二三、一〇、生)三男曉
彦(同二五、二、生)弟正人(明二〇、一、生)同妻仁子
(同三三、九、生、東京、西村道彦長女)及其二女弟克彌

(※印は姻族關係)

(同三〇、八、生)あり(札幌、大通西十二丁目官電五
七)
柴垣 喜福子 三井物産大阪支店長代理
妻 久米吉 明一〇、一〇、生
男 喜福子 明三〇、七、生、東京、永富謙一姉

君は千葉縣人柴垣久道の二男にして明治十六年十一月
を以て生れ大正元年兄柴太郎方より分れて一家を創立
す現時三井物産會社大阪支店長代理たり家族は尙長女
千世(大七、五、生)二女きく(同八、一、生)三男米三郎
(同二三、一〇、生)あり(大阪、天王寺、勝山通一ノ一
六九)
參照柴垣太郎、永富謙一の項

柴垣鼎太郎 正四位勳三等、文部技師、大臣官
房建築課長、千葉縣士族
母 はま 嘉永五、一、生、千葉、土、谷守人
妻 鶴 明二一、一、生、東京、近藤謙夫婦
男 嘉一郎 明四〇、一、生

君は千葉縣士族柴垣久道の長男にして明治十年七月を
以て生れ大正二年家督を相続す明治三十五年東京帝國
大學工科大学建築科を卒業し同四十年文部技師に任ぜ
られ現時大臣官房建築課長たり義に臨時警備局長を
兼ねしことあり家族は尙二男二郎(明四五、一、生)あ
り長女俊子(同四二、一〇、生)は石川縣人溝口貞に嫁し
弟良(同二六、一、生)は分家せり(東京、小石川、原
町一三電小石川二〇)
參照柴垣長次郎治三の項

柴垣則義 從四位勳三等、新潟縣新潟師範學
校校長、新潟縣士族
妻 多津 明一三、一、生、石川、坂田萬馬
男 俊雄 明四四、一、生
男 留雄 明三六、八、生、愛知、坂田忠雄弟
妻 松代 明四一、九、生、養子留雄妻、佐賀
女 野嶺一 大野嶺一 姪

君は石川縣士族柴垣則盛の二男にして慶應三年三月を
以て生れ明治十九年家督を相続す同二十七年東京高等
師範學校文學科を卒業し山口兵庫山梨各縣師範學校教
諭兼新潟縣師範學校教授陸軍教授長野山形宮城札幌
各師範學校校長等に歴任し現時新潟縣新潟師範學校長

參照山根宗太郎の項

柴田音吉 神戸商工會議所常務議員、パラグア
イ共和国領事、神戸日佛協會
副會長、北海林業監査役、柴田
音吉商店代表社員、羅紗洋服商
兵庫縣在籍
妻 千代 明二七、一、生、兵庫、柴田友藏
男 高明 大、三、九、生

當家は江州出身にして妻の祖父音吉氏に横濱に出で洋
服裁縫を見習ひ明治十六年初めて神戸に洋服店を開き
今日の基礎をなす君は兵庫縣人山田伊兵衛の二男にし
て柴田享一の義弟なり明治十九年二月を以て生れ大正
二年先代の孫千代と結婚し家督を相続と共に前名忠を
改め姓名同三十九年東京外國語學校佛語科を卒業し
後農商務省海外實業練習生として毛織物研究の爲佛國
に派遣せられルベリ市立工業學校校長を卒業し大
正元年歸朝す爾來祖業を繼ぎ店務に従事し亦で合名組
織となし自ら代表社員として其經營に衝し新に羅紗部
を創設して毛織物の輸入を開始し又倫敦に仕入部を置
く等同店の發展に餘念なく現時關西屈指の店舗たり現
に神戸商工會議所議員に推されパラグアイ共和国領事
に任ぜらる又神戸日佛協會長として常に内外人融
和親睦の爲めに盡す所多く往年日佛親善の功により佛
國政府より勳章せられたり家族は尙長女彌子(大七、
三、生)三男誠三(昭三、五、生)あり(神戸、元町通三ノ
六二電三ノ宮一、二五、一六)
參照柴田享一家錢高作太郎派日沖政吉の項

柴田嘉三郎 蒲團商
京都府在籍
妻 つき 明二〇、七、生、京都、今村延次郎
男 幸三郎 明四三、九、生

君は京都府人柴田幸治郎の長男にして明治十六年八月
を以て生れ大正十一年家督を相続す蒲團商を営む家族
は尙二男嘉治(明四五、七、生)七弟仙太郎(同三三
四、生)、滋賀、小杉かつ姉)及其一子あり長女幸子(同四
二、三、生)は京都府人山根宗太郎長男宗一に嫁せりA
一〇〇B一八七(京都、下京、東洞院松原上ノ燈籠
町五九八電下七九〇)
參照山根宗太郎の項

君は栃木縣人先代幸三郎の長男にして明治二十七年三
月を以て生れ大正二年家督を相続し前名榮一を改め襲
名す醬油商を営む家族は尙二男克巳(大八、一、生)
長女和子(昭二、七、生)弟慶三(明三三、一、生)同妻イッ
(同四一、九、生)栃木、岩野忠吉二女)及其二子並に亡
弟武平の一女あり姉テル(同二五、四、生)は栃木縣人神
原六平長男久藏に嫁せりA一四六四B四〇七(東京
小石川、大塚坂下町五七電大塚一五七七)

柴崎幸三郎 醬油商
栃木縣在籍
妻 タニ 明三〇、一、生、栃木、鹽澤角之丞
男 博光 大、六、八、生

君は栃木縣人先代幸三郎の長男にして明治二十七年三
月を以て生れ大正二年家督を相続し前名榮一を改め襲
名す醬油商を営む家族は尙二男克巳(大八、一、生)
長女和子(昭二、七、生)弟慶三(明三三、一、生)同妻イッ
(同四一、九、生)栃木、岩野忠吉二女)及其二子並に亡
弟武平の一女あり姉テル(同二五、四、生)は栃木縣人神
原六平長男久藏に嫁せりA一四六四B四〇七(東京
小石川、大塚坂下町五七電大塚一五七七)

柴崎三之助 東京府多額納税者、ふり圓、牛糞
商、東京府在籍
妻 てる 明一〇、一〇、生、京都、松村清七
男 吉太郎 明三七、二、生
男 澄子 明四一、一、生、長男吉太郎妻、東
京、小島亮一姉
女 慶次郎 明三八、一、生、東京商大出身
女 たか 明四四、四、生、跡見女學校出身
女 とく子 大元、一、生、跡見女學校出身

君は東京府人久保七郎右衛門の三男にして明治六年
十月を以て生れ後先代承人の養子となり同三十九年家
督を相続す先代承人はもと京都の人風に東京に出で小
間物及牛糞商を開業し刻苦精勵良く當家今日の基を築
く君其の後を繼承し牛糞商を営みふり圓と稱す現に東
京府多額納税者たり趣味に芝居あり家族は尙孫禮子
(昭四、三、生、長男吉太郎長女)あり長女せい(明三五
二、生、跡見女學校出身)は東京府人岡本芳二郎長男保に
二女まる(同四〇、一、生、出身校同上)は福島縣人坪井
永吉二男榮に三女そめ(同四二、一、生、出身校同上)は
東京府人松下岩雄に嫁せりA四六五〇B二二七〇(東
京、京橋、銀座四ノ一七電京橋八六〇)

柴崎忠太郎 柴忠、時計貴金屬商
兵庫縣在籍

參照山根宗太郎の項

柴田勝衛 讀賣新聞編輯局長
東京府在籍
妻 つや 明二、九、生、宮城、石村堀榮吉二
女 キセ 明一九、一〇、生、北海道、澤口健
造二女
男 早苗 明四四、四、生
女 早苗 大、二、六、生

君は東京府人柴田外記馬の長男にして明治二十一年六
月を以て生れ同四十四年家督を相続す同四十二年青山
學院高等學部を卒業し同四十五年時事新報社に入社し
大正六年讀賣新聞に轉じ現に同社編輯局長たり家族は
尙二女章子(大七、一、生)三女愛子(同九、七、生)あり
(東京市外濠谷町金王三七電濠谷山三〇〇)

柴田勝太郎 從五位勳六等、東京工業試驗所技
師兼特許局技師、兵庫縣在籍
父 定治郎 安政二、一、生、兵庫、掃部基三郎
母 まつ 文久二、一、生、現住
妻 壽 明二九、七、生、愛知、今澤義雄二
女 勝兄 大、四、一、生
女 文子 大、五、一〇、生

君は兵庫縣人柴田定治郎の二男にして明治二十二年二
月を以て生れ同四十四年東京高等工業學校電氣化學科
を大正四年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し東京
高等工業學校助教兼特許局技師兼特許局技師臨時監
査研究所技師等に歴任し現時東京工業試驗所技師兼特
許局技師たり家族は尙二女和子(大八、六、生)三女京子
(同二一、五、生)兄政治(明一九、六、生)同妻やよ(同
三九、六、生、兵庫、西村純一妹)及其子女あり(東京市
外目黒町中目黒七五六東京工業試驗所官舎)

柴田久一 地主
東京府在籍
妻 壽々 萬延元、三、生、祖父久左衛門長女
母 まつ 明二〇、七、生、東京、田丸銀三郎
女 富喜子 大、四、五、生

君は北海道人柴田久左衛門の五男にして明治二十一年
三月を以て生れ後分れて一家を創立す現時日本清酒
會社事務取締役たり家族は尙長女百合(大八、三、生)二
男厚衛(同二〇、一〇、生)あり(札幌、北一條東二ノ四)

シ之部 柴崎、等

柴田 衛治 日本清酒事務取締役
北海道在籍
妻 テル 明二七、一〇、生、北海道、村上榮
女 寛治 大、五、九、生

君は兵庫縣人柴田文治郎の長男にして明治八年八月を
以て生れ同四十五年家督を相続す同四十年早稲田大學
商科を卒業し現時前記各銀行の重役たり家族は尙三女
篤子(大七、二、生)四女幸子(同二二、九、生)五女孝子
(昭二、四、生)六女良子(同五、一、生)あり(埼玉、北足
立、浦和町電一四七)

柴田愛藏 武州銀行、武州貯蓄銀行各務常務
取締役、京都府在籍
妻 加代 明二四、二、生、京都、松代善二郎
女 文子 大、五、一、生

君は兵庫縣人神田森藏の庶子にして明治十二年八月を
以て生れ明治三十六年先代ての養子となり家督を相
續す現時前記會社の重役にして義に神戸信託會社重
役たり家族は尙長女美智子(大一一、三、六、生)あり養母て
る(天保五、五、生、兵庫、宮本吉五郎二女)は分家せり
(神戸、山本通四ノ一一三電基合二七五二)

柴崎利三郎 神戸取引土地、第一證券各務專務
取締役、柴田自動車取締役
兵庫縣在籍
妻 アサコ 明三九、四、生、奈良、福本喜造三
女 麗子 明四三、五、生

君は兵庫縣人角本卯之松の二男にして明治十三年一月
を以て生れ同三十九年養弟安藏方より分れて一家を創
立す現時柴忠と稱し時計貴金屬商を営む家族は尙三男
忠彦(大三、八、生)四男忠明(同八、二、生)五男忠久(同
一一、一、生)六男忠弘(同一一、五、八、生)あり(神戸、元町
通五ノ四五電元町二一八)

(※印は姻族關係)







以て生れ同三十七年柴田佐平の養子となる同年東京帝國大學法科大學を卒業し大學院に學び文官高等試験に合格し和歌山縣事務官愛媛縣警務部長北海道拓殖部長宮崎縣大阪府各内務部長朝鮮總督府警務局長三重縣知事等を経て昭和四年大阪府知事に任じ現在に至る家族は尙孫美代子(大一一、三、六、生、養子光三郎長女)同光子(昭三、四、生、同二女)あり(大阪、東、大、手前之町官舎東五)

柴田 丈夫

住友銀行藤濱支店長  
長崎縣士族  
明二五、一〇生、大阪、前田辰次

妻 利々 明二五、一〇生、大阪、前田辰次

君は長崎縣士族柴田道由の四男にして現戸主貞一の弟なり明治二十年十一月を以て生れる同四十二年東京高等商業學校を卒業し住友銀行に入り累進して倫敦支店長となり現時同銀行横濱支店長たり家族は尙長女明里(六七、一二生)二女千江里(同一〇、四生)ありA五〇二(横濱、神奈川、青木町廣臺一〇六六電本局三三)

柴田 武

從五位、造幣局長、東京出張所  
長兼作務部部長、新潟縣士族  
父 文久二、五生、新潟、土、今井昌  
母 ムメ 慶應二、一、生、祖父克己長女  
妻 コフシ 明二六、一、生、新潟、小川卯三  
男 敬 大一一、二、生

君は新潟縣士族柴田道由の長男にして明治二十五年七月を以て生れる大正六年帝國大學理科大學化學科を卒業し同八年造幣局長に任ぜられ後歐米各國に出張し昭和四年東京出張所長兼作務部部長となり今に至る家族は尙四女節子(同一三、二、生)あり妹あつ子(明三五七生)は福井縣人前田爲之助養子成次に嫁せり(東京市外大井町四〇九四)

柴田 武治

米田屋商店、日光織物店、柴田絨  
店各取締役社長、東京府士族  
慶應二、一、二、生、東京、林次郎  
繼母 まつ 二女  
妻 彌三〇、八、生、東京、土、岡崎橋  
男 武 俊 大四、一〇生

君は岐阜縣人村上寛の二男にして明治二十一年八月を以て生れ先代耕一の養子となり大正十二年家督を相続す同三年東京帝國大學醫學科を卒業し翌年大學院に入り三田教授の指導を受け同九年より同十年まで渡歐し同十一年醫學博士の學位を受く爾來産科婦人科の開業醫たり家族は尙二男健(六一五、一〇生)ありA九八八(名古屋、中、横三ツ藏町五ノ二電本局六二六)

柴田 保

醫學博士、醫師  
靜岡縣士族  
養母 春子 由澄二女  
妻 大 三、一、二、生、子爵戸田氏次妹

君は東京府士族柴田光之助の三男同三之助の兄にして明治二十一年十二月を以て生れる昭和三年家督を相続す米田屋商店柴田絨店並に日光織物店各取締役社長たり家族は尙二女節美(大九、二、生)三女豐子(同一一、九、生)あり弟美佐雄(明二三、七、生)同三之助(同三〇、三、生)は同妻孝(同三六、四、生、東京、榎本藤吉三女)及其一女を伴ひ弟益四郎(同三一、九、生)は各分家せり(東京、京橋、銀座二ノ二電本局六三三五)

柴田 辰之進

從五位、内務技師、大阪土木出張  
所勤務、大阪府在籍  
養父 寛三 明八、二、生、現戸主  
妻 ケイ 明三〇、一、生、養父寛三長女

君は奈良縣人森吉兵衛の四男にして明治二十五年三月を以て生れる大正七年柴田寛三の養子となる同年京都帝國大學工科大学機械工学科を卒業し内田商事會社大阪支店に勤務せしめ之を辭し同八年内務技師に任ぜられ現時大阪土木出張所勤務たり家族は尙長女夫佐子(昭二、一〇、生)三男三郎(同一六、一、生)あり養父作三(明一〇、一、二、生)は分家し同升(同一七、九、生)は大阪府人於勢直十郎の養子となり養叔母遊多(同一四、一、二、生)は同府人田中兼太郎に嫁せり(大阪、泉北、百舌鳥村電本局一〇二六)

柴田 敏

明四三、一、一、生  
女 歌 大三、二、生

君は三重縣士族柴田是の長男にして明治八年五月を以て生れる大正四年家督を相続す明治三十四年東京帝國大學工科大学を卒業し後海軍造機少將に任じ現時愛知時計電機會社技師長たり家族は尙三女智(六一五、四、生)あり二女文(同一六、八、生)は東京府士族長岡文之進の養子となれりA三九六(名古屋、中、御器所町北丸屋四一電本局四七四)

柴田 勉治郎

明石製氷、石山宇治通船、神姫日  
動車、神明自動車各取締役、大  
阪電機工業所監査役、宇治川電  
氣電機部長、福井縣在籍  
妻 千代 明二一、六、生、福岡、井上英太郎  
長女

君は福井縣人柴田庄太郎の長男にして明治十六年九月を以て生れる大正五年家督を相続す先是明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し實業界に入り現時宇治川電氣會社技師長たり外前記諸會社の重役たり家族は尙長女智子(大六、三、生)二女信子(同一〇、一、一、生)三女禮子(同一三、三、生)三男孝(昭五、一、生)あり(兵庫、武庫、精道村蘆屋走田九三三電本局三一三)

柴田 正雄

熊本縣多額納稅者、熊本市参事會  
員、肥後銀行、大同印刷各取締役  
役、地主、熊本縣士族  
養母 ミツ 元治元、七、生、松岡秀雄姉  
妻 正之 明一五、一、生、養父信之長女  
男 義之 明三三、一、一、生  
女 千鶴 明四二、三、生

君は熊本縣人水野辰彦の長男にして明治十三年八月を以て生れ先代信之の養子となり大正九年家督を相続す地主として知られ前記各會社の重役にして直接間接税四千五百二十圓を納め縣下の多額納稅者たり現時推されて熊本市参事會員の公職に在り(熊本市春日町四七〇)参照 水野辰彦の項

柴田 彌兵衛

住友伸銅管會社員  
京都府在籍  
母 明七、三、生、京都、酒井作吉養子

君は京都市人先代彌兵衛の長男にして明治二十三年八月を以て生れ昭和三年家督を相続し前名吉三郎を改め現時住友伸銅管會社員たり父彌兵衛は比叡登山京都瓦斯各會社取締役に就任す家族は尙三男恒夫(大一一、一、生)四男貞男(同一四、五、生)五男俊雄(昭三、九、生)六男昭(同一五、一、生)の外弟四郎(明三一、一、生、工學士、鐵道省勤務)同賀(同三一、一、二、生、經濟學士、臺灣銀行員)同勝雄(同三六、九、生)同治(同四〇、六、生)同良男(大一一、六、生)あり姉イタ(明一八、七、生、京都府立第一高女出身)は京都府人工學士奥田助七郎に妹つた(同一九、一、一、生、出身校同上)は愛知縣人工學士服部紀雄に同僚(同一三、四、七、生、出身校同上)は佐賀縣人伊丹彌太郎二男貞次郎に嫁せりA一〇七〇(京都、下京、河原町松原上ル清水町四四四ノ一(電下五〇七)参照 伊丹彌太郎、奥田助七郎の項)

柴田 安正

日本海上保險東京支店長  
東京府士族  
妻 晴子 明二六、一〇、生、東京、公平直靜  
庶子 大六、八、生

君は愛知縣人水野貞明の四男にして明治二十年二月を以て生れ先代青雲の養子となり前名道淳を改め大正六年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學社會學科を卒業し現時日本海上保險會社東京支店長たり家族は尙四男健三(大一一、三、生)五男貞次(同一三、一、二、生)六男忠男(昭二、一、一、生)長女滋子(同五、一、二、生)あり三男滿(大一一、〇、三、生)は宮城縣人長尾幸平姉としの養子となれり(東京市外品川町南品川宿七九二)

柴田 雄次

從四位勳三等、理學博士、東京帝  
國大學教授、理學部勤務  
東京府士族  
妻 ナミ 明二八、一〇、生、東京、杉村陽太  
郎妹、雙葉高女出身  
男 南雄 大五、九、生

君は東京府士族柴田承桂の二男にして現戸主桂太の弟なり明治十五年一月を以て生れる同四十年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し同四十三年化學研究の爲獨英

柴田 秀生

海軍造機少將、愛知時計電機技  
師長、三重縣士族  
父 是 嘉永六、一、一、生、三重、土、加藤  
末吾四男  
母 三女 安政三、一、生、三重、土、堀越簡  
妻 つね 明一九、三、生、三重、土、椿藤一  
郎四女

君は愛知縣士族柴田修知の長男にして明治三年四月を以て生れ同四十二年家督を相続すエスピー柴田商會と稱し經紗輸入商を營み務ら前記各會社の重役たり並に内外印刷會社社長たり事あり家族は尙孫あつ子(昭三、四、生、長男博長女)あり父修知(弘化四、九、生)は繼母ムラ(明四、四、生、愛媛、土、土居兵衛)を伴ひ弟廣(同七、五、生)同妻ツル(同一四、一、一、生、神奈川、山岸省吾妹)は其子女を伴ひ各分家せりA六七七(兵庫、武庫、西灘村上野一五九電本局三〇五八)参照 片岡久兵衛、寺村庄三郎の項

君は東京府士族柴田光之助の三男同三之助の兄にして明治二十一年十二月を以て生れる昭和三年家督を相続す米田屋商店柴田絨店並に日光織物店各取締役社長たり家族は尙二女節美(大九、二、生)三女豐子(同一一、九、生)あり弟美佐雄(明二三、七、生)同三之助(同三〇、三、生)は同妻孝(同三六、四、生、東京、榎本藤吉三女)及其一女を伴ひ弟益四郎(同三一、九、生)は各分家せり(東京、京橋、銀座二ノ二電本局六三三五)

柴田 辰之進

從五位、内務技師、大阪土木出張  
所勤務、大阪府在籍  
養父 寛三 明八、二、生、現戸主  
妻 ケイ 明三〇、一、生、養父寛三長女

君は奈良縣人森吉兵衛の四男にして明治二十五年三月を以て生れる大正七年柴田寛三の養子となる同年京都帝國大學工科大学機械工学科を卒業し内田商事會社大阪支店に勤務せしめ之を辭し同八年内務技師に任ぜられ現時大阪土木出張所勤務たり家族は尙長女夫佐子(昭二、一〇、生)三男三郎(同一六、一、生)あり養父作三(明一〇、一、二、生)は分家し同升(同一七、九、生)は大阪府人於勢直十郎の養子となり養叔母遊多(同一四、一、二、生)は同府人田中兼太郎に嫁せり(大阪、泉北、百舌鳥村電本局一〇二六)

柴田 保

醫學博士、醫師  
靜岡縣士族  
養母 春子 由澄二女  
妻 大 三、一、二、生、子爵戸田氏次妹

君は岐阜縣人村上寛の二男にして明治二十一年八月を以て生れ先代耕一の養子となり大正十二年家督を相続す同三年東京帝國大學醫學科を卒業し翌年大學院に入り三田教授の指導を受け同九年より同十年まで渡歐し同十一年醫學博士の學位を受く爾來産科婦人科の開業醫たり家族は尙二男健(六一五、一〇生)ありA九八八(名古屋、中、横三ツ藏町五ノ二電本局六二六)

柴田 敏

明四三、一、一、生  
女 歌 大三、二、生

君は三重縣士族柴田是の長男にして明治八年五月を以て生れる大正四年家督を相続す明治三十四年東京帝國大學工科大学を卒業し後海軍造機少將に任じ現時愛知時計電機會社技師長たり家族は尙三女智(六一五、四、生)あり二女文(同一六、八、生)は東京府士族長岡文之進の養子となれりA三九六(名古屋、中、御器所町北丸屋四一電本局四七四)

柴田 勉治郎

明石製氷、石山宇治通船、神姫日  
動車、神明自動車各取締役、大  
阪電機工業所監査役、宇治川電  
氣電機部長、福井縣在籍  
妻 千代 明二一、六、生、福岡、井上英太郎  
長女

君は福井縣人柴田庄太郎の長男にして明治十六年九月を以て生れる大正五年家督を相続す先是明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し實業界に入り現時宇治川電氣會社技師長たり外前記諸會社の重役たり家族は尙長女智子(大六、三、生)二女信子(同一〇、一、一、生)三女禮子(同一三、三、生)三男孝(昭五、一、生)あり(兵庫、武庫、精道村蘆屋走田九三三電本局三一三)

柴田 正雄

熊本縣多額納稅者、熊本市参事會  
員、肥後銀行、大同印刷各取締役  
役、地主、熊本縣士族  
養母 ミツ 元治元、七、生、松岡秀雄姉  
妻 正之 明一五、一、生、養父信之長女  
男 義之 明三三、一、一、生  
女 千鶴 明四二、三、生

君は熊本縣人水野辰彦の長男にして明治十三年八月を以て生れ先代信之の養子となり大正九年家督を相続す地主として知られ前記各會社の重役にして直接間接税四千五百二十圓を納め縣下の多額納稅者たり現時推されて熊本市参事會員の公職に在り(熊本市春日町四七〇)参照 水野辰彦の項

柴田 彌兵衛

住友伸銅管會社員  
京都府在籍  
母 明七、三、生、京都、酒井作吉養子

君は京都市人先代彌兵衛の長男にして明治二十三年八月を以て生れ昭和三年家督を相続し前名吉三郎を改め現時住友伸銅管會社員たり父彌兵衛は比叡登山京都瓦斯各會社取締役に就任す家族は尙三男恒夫(大一一、一、生)四男貞男(同一四、五、生)五男俊雄(昭三、九、生)六男昭(同一五、一、生)の外弟四郎(明三一、一、生、工學士、鐵道省勤務)同賀(同三一、一、二、生、經濟學士、臺灣銀行員)同勝雄(同三六、九、生)同治(同四〇、六、生)同良男(大一一、六、生)あり姉イタ(明一八、七、生、京都府立第一高女出身)は京都府人工學士奥田助七郎に妹つた(同一九、一、一、生、出身校同上)は愛知縣人工學士服部紀雄に同僚(同一三、四、七、生、出身校同上)は佐賀縣人伊丹彌太郎二男貞次郎に嫁せりA一〇七〇(京都、下京、河原町松原上ル清水町四四四ノ一(電下五〇七)参照 伊丹彌太郎、奥田助七郎の項)

柴田 安正

日本海上保險東京支店長  
東京府士族  
妻 晴子 明二六、一〇、生、東京、公平直靜  
庶子 大六、八、生

君は愛知縣人水野貞明の四男にして明治二十年二月を以て生れ先代青雲の養子となり前名道淳を改め大正六年家督を相続す同二年東京帝國大學文科大學社會學科を卒業し現時日本海上保險會社東京支店長たり家族は尙四男健三(大一一、三、生)五男貞次(同一三、一、二、生)六男忠男(昭二、一、一、生)長女滋子(同五、一、二、生)あり三男滿(大一一、〇、三、生)は宮城縣人長尾幸平姉としの養子となれり(東京市外品川町南品川宿七九二)

柴田 雄次

從四位勳三等、理學博士、東京帝  
國大學教授、理學部勤務  
東京府士族  
妻 ナミ 明二八、一〇、生、東京、杉村陽太  
郎妹、雙葉高女出身  
男 南雄 大五、九、生

君は東京府士族柴田承桂の二男にして現戸主桂太の弟なり明治十五年一月を以て生れる同四十年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し同四十三年化學研究の爲獨英

柴田 秀生

海軍造機少將、愛知時計電機技  
師長、三重縣士族  
父 是 嘉永六、一、一、生、三重、土、加藤  
末吾四男  
母 三女 安政三、一、生、三重、土、堀越簡  
妻 つね 明一九、三、生、三重、土、椿藤一  
郎四女

君は愛知縣士族柴田修知の長男にして明治三年四月を以て生れ同四十二年家督を相続すエスピー柴田商會と稱し經紗輸入商を營み務ら前記各會社の重役たり並に内外印刷會社社長たり事あり家族は尙孫あつ子(昭三、四、生、長男博長女)あり父修知(弘化四、九、生)は繼母ムラ(明四、四、生、愛媛、土、土居兵衛)を伴ひ弟廣(同七、五、生)同妻ツル(同一四、一、一、生、神奈川、山岸省吾妹)は其子女を伴ひ各分家せりA六七七(兵庫、武庫、西灘村上野一五九電本局三〇五八)参照 片岡久兵衛、寺村庄三郎の項

柴田 東作

富山紡績取締役、大丸商事、合  
同織物、野川水力電氣、北一營  
油各種監査役、富山縣在籍  
妻 みゆき 長二、一、生、富山、森田茂兵衛  
長女  
男 桂太郎 大七、八、生  
女 外美子 大二、九、生

君は富山縣人柴田磯太郎の長男にして明治十六年五月を以て生れる大正七年家督を相続す現時富山紡績會社取締役たる外前記諸會社の重役にして並に内外土地開拓興業北陸物産各會社取締役たり事あり長女俊子(明三、九、一、二、生)は富山縣人森田茂一郎に二女あつ子(同四、五、二、生)は同縣人小橋達治に嫁せり(富山、東郷波福野町)

柴田 知豫

西村食料品採取取締役、合同土地  
監査役、エスピー柴田商會、經  
輸入商、兵庫縣士族  
妻 はま 明一三、一、生、兵庫、土、鈴木八  
郎養母  
男 博 明三六、四、生  
女 知正 明四四、八、生  
片岡久兵衛四女

君は愛知縣士族柴田修知の長男にして明治三年四月を以て生れ同四十二年家督を相続すエスピー柴田商會と稱し經紗輸入商を營み務ら前記各會社の重役たり並に内外印刷會社社長たり事あり家族は尙孫あつ子(昭三、四、生、長男博長女)あり父修知(弘化四、九、生)は繼母ムラ(明四、四、生、愛媛、土、土居兵衛)を伴ひ弟廣(同七、五、生)同妻ツル(同一四、一、一、生、神奈川、山岸省吾妹)は其子女を伴ひ各分家せりA六七七(兵庫、武庫、西灘村上野一五九電本局三〇五八)参照 片岡久兵衛、寺村庄三郎の項

柴田 秀生

海軍造機少將、愛知時計電機技  
師長、三重縣士族  
父 是 嘉永六、一、一、生、三重、土、加藤  
末吾四男  
母 三女 安政三、一、生、三重、土、堀越簡  
妻 つね 明一九、三、生、三重、土、椿藤一  
郎四女

君は愛知縣士族柴田修知の長男にして明治三年四月を以て生れ同四十二年家督を相続すエスピー柴田商會と稱し經紗輸入商を營み務ら前記各會社の重役たり並に内外印刷會社社長たり事あり家族は尙孫あつ子(昭三、四、生、長男博長女)あり父修知(弘化四、九、生)は繼母ムラ(明四、四、生、愛媛、土、土居兵衛)を伴ひ弟廣(同七、五、生)同妻ツル(同一四、一、一、生、神奈川、山岸省吾妹)は其子女を伴ひ各分家せりA六七七(兵庫、武庫、西灘村上野一五九電本局三〇五八)参照 片岡久兵衛、寺村庄三郎の項

柴田 東作

富山紡績取締役、大丸商事、合  
同織物、野川水力電氣、北一營  
油各種監査役、富山縣在籍  
妻 みゆき 長二、一、生、富山、森田茂兵衛  
長女  
男 桂太郎 大七、八、生  
女 外美子 大二、九、生

君は富山縣人柴田磯太郎の長男にして明治十六年五月を以て生れる大正七年家督を相続す現時富山紡績會社取締役たる外前記諸會社の重役にして並に内外土地開拓興業北陸物産各會社取締役たり事あり長女俊子(明三、九、一、二、生)は富山縣人森田茂一郎に二女あつ子(同四、五、二、生)は同縣人小橋達治に嫁せり(富山、東郷波福野町)

柴田 知豫

西村食料品採取取締役、合同土地  
監査役、エスピー柴田商會、經  
輸入商、兵庫縣士族  
妻 はま 明一三、一、生、兵庫、土、鈴木八  
郎養母  
男 博 明三六、四、生  
女 知正 明四四、八、生  
片岡久兵衛四女

君は愛知縣士族柴田修知の長男にして明治三年四月を以て生れ同四十二年家督を相続すエスピー柴田商會と稱し經紗輸入商を營み務ら前記各會社の重役たり並に内外印刷會社社長たり事あり家族は尙孫あつ子(昭三、四、生、長男博長女)あり父修知(弘化四、九、生)は繼母ムラ(明四、四、生、愛媛、土、土居兵衛)を伴ひ弟廣(同七、五、生)同妻ツル(同一四、一、一、生、神奈川、山岸省吾妹)は其子女を伴ひ各分家せりA六七七(兵庫、武庫、西灘村上野一五九電本局三〇五八)参照 片岡久兵衛、寺村庄三郎の項

君は石川縣士族柴田道由の四男にして明治十四年三月を以て生れ先代勝尖の養子となり大正十二年家督を相続す明治四十一年東京帝國大學工科大学探査冶金科を卒業し住友別子鑛業所に入りしが大正四年三井鑛山會社に轉じ瑞理出張所長を経て現時本店鑛務一部探査技師たり家族は尙二女満子(大七、一、一、生)妹鶴(明三二、八、生)弟勝一(同四一、一、二、生)ありA八三四(東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇電本局三五三三)参照 永井好信、子爵加納久朝、服部勝雄の項

柴田 務

三井鑛山技師  
東京府士族  
養母 トモエ 慶應二、八、生、東京、土、永井好信妹  
妻 明二二、九、生、柴田勝尖長女  
男 勝 明四二、一、二、生  
女 壽子 大三、八、生

君は石川縣士族柴田道由の四男にして明治十四年三月を以て生れ先代勝尖の養子となり大正十二年家督を相続す明治四十一年東京帝國大學工科大学探査冶金科を卒業し住友別子鑛業所に入りしが大正四年三井鑛山會社に轉じ瑞理出張所長を経て現時本店鑛務一部探査技師たり家族は尙二女満子(大七、一、一、生)妹鶴(明三二、八、生)弟勝一(同四一、一、二、生)ありA八三四(東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇電本局三五三三)参照 永井好信、子爵加納久朝、服部勝雄の項

柴田 貞一

發動機製造監督取締役、日本エ  
ヤシダ製鐵廠  
長崎縣士族  
妻 安政二、五、生、長崎、土、荒木三  
衛長女

君は長崎縣士族柴田道由の長男同丈夫の兄にして明治十五年十月を以て生れる大正二年家督を相続す現時前記各會社の重役たり家族は尙弟清(明一七、二、二、生)同妻イリ(同二六、三、生、長崎、土、岡實悟三女)及其子女あり姉ヤチヨ(同二四、一、一、生)は東京府人百瀬信弘に嫁せりA四三三(大阪、豊能、豊中町櫻通四丁目電本局一六四)

柴田 眞一

從五位、造幣局長、東京出張所  
長兼作務部部長、新潟縣士族  
父 文久二、五、生、新潟、土、今井昌  
母 ムメ 慶應二、一、一、生、祖父克己長女  
妻 コフシ 明二六、一、一、生、新潟、小川卯三  
男 敬 大一一、二、一、生

君は新潟縣士族柴田道由の長男にして明治二十五年七月を以て生れる大正六年帝國大學理科大學化學科を卒業し同八年造幣局長に任ぜられ後歐米各國に出張し昭和四年東京出張所長兼作務部部長となり今に至る家族は尙四女節子(同一三、二、生)あり妹あつ子(明三五七生)は福井縣人前田爲之助養子成次に嫁せり(東京市外大井町四〇九四)

柴田 武治

米田屋商店、日光織物店、柴田絨  
店各取締役社長、東京府士族  
慶應二、一、二、生、東京、林次郎  
繼母 まつ 二女  
妻 彌三〇、八、生、東京、土、岡崎橋  
男 武 俊 大四、一〇生

君は岐阜縣人村上寛の二男にして明治二十一年八月を以て生れ先代耕一の養子となり大正十二年家督を相続す同三年東京帝國大學醫學科を卒業し翌年大學院に入り三田教授の指導を受け同九年より同十年まで渡歐し同十一年醫學博士の學位を受く爾來産科婦人科の開業醫たり家族は尙二男健(六一五、一〇生)ありA九八八(名古屋、中、横三ツ藏町五ノ二電本局六二六)

柴田 保

醫學博士、醫師  
靜岡縣士族  
養母 春子 由澄二女  
妻 大 三、一、二、生、子爵戸田氏次妹

君は岐阜縣人村上寛の二男にして明治二十一年八月を以て生れ先代耕一の養子となり大正十二年家督を相続す同三年東京帝國大學醫學科を卒業し翌年大學院に入り三田教授の指導を受け同九年より同十年まで渡歐し同十一年醫學博士の學位を受く爾來産科婦人科の開業醫たり家族は尙二男健(六一五、一〇生)ありA九八八(名古屋、中、横三ツ藏町五ノ二電本局六二六)

柴田 敏

明四三、一、一、生  
女 歌 大三、二、生

君は三重縣士族柴田是の長男にして明治八年五月を以て生れる大正四年家督を相続す明治三十四年東京帝國大學工科大学を卒業し後海軍造機少將に任じ現時愛知時計電機會社技師長たり家族は尙三女智(六一五、四、生)あり二女文(同一六、八、生)は東京府士族長岡文之進の養子となれりA三九六(名古屋、中、御器所町北丸屋四一電本局四七四)

柴田 勉治郎

明石製氷、石山宇治通船、神姫日  
動車、神明自動車各取締役、大  
阪電機工業所監査役、宇治川電  
氣電機部長、福井縣在籍  
妻 千代 明二一、六、生、福岡、井上英太郎  
長女

君は福井縣人柴田庄太郎の長男にして明治十六年九月を以て生れる大正五年家督を相続す先是明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し實業界に入り現時宇治川電氣會社技師長たり外前記諸會社の重役たり家族は尙長女智子(大六、三、生)二女信子(同一〇、一、一、生)三女禮子(同一三、三、生)三男孝(昭五、一、生)あり(兵庫、武庫、精道村蘆屋走田九三三電本局三一三)

柴田 正雄

熊本縣多額納稅者、熊本市参事會  
員、肥後銀行、大同印刷各取締役  
役、地主、熊本縣士族  
養母 ミツ 元治元、七、生、松岡秀雄姉  
妻 正之 明一五、一、一、生、養父信之長女  
男 義之 明三三、一、一、生  
女 千鶴 明四二、三、生

君は熊本縣人水野辰彦の長男にして明治十三年八月を以て生れ先代信之の養子となり大正九年家督を相続す地主として知られ前記各會社の重役にして直接間接税四千五百二十圓を納め縣下の多額納稅者たり現時推されて熊本市参事會員の公職に在り(熊本市春日町四七〇)参照 水野辰彦の項

柴田 彌兵衛

住友伸銅管會社員  
京都府在籍  
母 明七、三、生、京都、酒井作吉養子

君は京都市人先代彌兵衛の長男にして明治二十三年八月を以て生れ昭和三年家督を相続し前名吉三郎を改め現時住友伸



佛三國に留學し大正二年東京帝國大學理科大學助教授となり同六年特許局審査官を兼任し同年理學博士の學位を受く同七年特許局技師を兼任し同八年教授に任ぜられ今日に至る昭和二年學術研究會議員に擧げられ同五年歐米に出張す(東京市外大久保町百人町三一七電四谷三二)

柴田與之助 秋田縣多賀郡納稅者、湯澤銀行匯取締役、農業、秋田縣在籍  
妻 明一八、六生、秋田、佐々木多右衛門三女

柴田養助 西馬音内町長、秋田縣多賀郡納稅者、湯澤製材、西馬音内酒造各職取締役、秋田縣農會議員、農業  
妻 慶應四、八生、秋田、鹽田平兵衛長女

柴田養助 西馬音内町長、秋田縣多賀郡納稅者、湯澤製材、西馬音内酒造各職取締役、秋田縣農會議員、農業  
妻 慶應四、八生、秋田、鹽田平兵衛長女

柴田養助 西馬音内町長、秋田縣多賀郡納稅者、湯澤製材、西馬音内酒造各職取締役、秋田縣農會議員、農業  
妻 慶應四、八生、秋田、鹽田平兵衛長女

孫 忠藏 明四一、一〇生、長男政太郎二男  
孫 爲藏 明四四、三三、長男政太郎三男  
孫 爲藏 明四五、七三、長男政太郎長女  
君は秋田縣人先代養助の長男にして文久三年一月を以て生れ明治三十五年家督を相続し前名善太郎を改め豊名を農業を営み前記銀行會社の重役にして秋田縣多賀郡納稅者に列し直接國稅四千七百一圓を納む推されて西馬音内町長秋田縣農會議員たり家族は尙孫善藏(大正三、五生、長男政太郎四男)同正藏(同四、八生、同五男)同イソ(同六、一一生、同二女)同兵藏(同九、二生)同六男(同サキ)同二男(同二女)同友藏(同二、一四生)同七男(同二、一七生、同三女)同妻榮子(同三、二四生、秋田、最上謙吉長女)は其三男一女を伴ひ養弟源藏(安政四、五生、秋田、小西久兵衛六男)は其一子を得各分家し長女フサ(明二〇、五生)は秋田縣人間杉五郎八長男一郎に二女トシ(同二四、二五生)は同縣人高橋常藏養子安藏に三女セツ(同二六、二七生)は前記秋田縣農會議員に嫁サツ(同二七、二八生)は秋田縣人柴田與之助の長男にして同二〇、二九、九生、養弟源藏長女)は同縣人松橋支忠長男裕に嫁セリ(秋田、雄勝、西馬音内町)

柴谷兼三郎 堺大濱土地地社社長、福島紡績匯取締役、柴谷兼三郎代表社員、酒造業  
妻 トミ 明二九、五生、大阪、宮崎市松五

柴谷兼三郎 堺大濱土地地社社長、福島紡績匯取締役、柴谷兼三郎代表社員、酒造業  
妻 トミ 明二九、五生、大阪、宮崎市松五

柴谷兼三郎 堺大濱土地地社社長、福島紡績匯取締役、柴谷兼三郎代表社員、酒造業  
妻 トミ 明二九、五生、大阪、宮崎市松五

柴戸良五郎 從五位勳六等、農林技師、農務局勤務、福岡縣在籍  
妻 波子 明三二、六生、福岡、森山安泰六女

柴戸雅一 從五位勳五等、農林技師兼水産講習所技師、水産局勤務  
妻 イチ 明二七、一一生、長崎、内野助太郎從妹  
男 欣一 大五、一〇生

柴戸良五郎 從五位勳六等、農林技師、農務局勤務、福岡縣在籍  
妻 波子 明三二、六生、福岡、森山安泰六女

柴藤治兵衛 割烹業、大阪府在籍  
妻 博助 明三九、三三、大阪、松村芳助孫

柴藤精藏 福島縣多賀郡納稅者、千歳、醬油醸造業、福岡縣在籍  
妻 草月 明二四、六生、福岡、早川徳太郎長女

柴原琢 從五位勳五等、明石商工會議所理事、兵庫縣土族  
妻 明二、九生、兵庫、坊地定吉妹  
男 明三六、一四生、長男榮爾妻、岡山片岡静太長女

柴山吉治 蝶矢印シヤツ製造元、大阪府在籍  
妻 菊子 明三五、一一生、大阪、津垣宣一妹

柴山司馬 正五位勳三等功五級、海軍少將、佐世保海軍人事部長、佐世保鎮守府人事部長、愛知縣土族  
妻 正明 明四四、一一生

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女

柴山吉治 蝶矢印シヤツ製造元、大阪府在籍  
妻 菊子 明三五、一一生、大阪、津垣宣一妹

柴山司馬 正五位勳三等功五級、海軍少將、佐世保海軍人事部長、佐世保鎮守府人事部長、愛知縣土族  
妻 正明 明四四、一一生

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女

柴山雄三 正四位勳三等、前東京鐵道監督局長、愛知縣土族  
妻 幸三 明二〇、九生、養父重幸長女







